



ISSN 2189-9517

東北大学
高度教養教育・学生支援機構
要覧 2017



東北大学高度教養教育・学生支援機構要覧2017

目 次

I 高度教養教育・学生支援機構について

1. 高度教養教育・学生支援機構長挨拶	1
2. 高度教養教育・学生支援機構ビジョン	2
3. 高度教養教育・学生支援機構第3期中期目標・中期計画	4
4. 高度教養教育・学生支援機構の沿革	9
5. 高度教養教育・学生支援機構の組織	
(1) 組織構成図	10
(2) 運営部門	10

II 機構各組織の事業内容及び活動状況

1. 部門・院	
(1) 高等教育開発部門	11
(2) 教育内容開発部門	11
(3) 学生支援開発部門	12
(4) 教養教育院	13
2. 業務センター	
(1) 教育評価分析センター	14
(2) 大学教育支援センター	15
(3) 入試センター	17
(4) 言語・文化教育センター	19
(5) グローバルラーニングセンター	22
(6) 学際融合教育推進センター	24
(7) 学習支援センター	25
(8) キャリア支援センター	27
(9) 学生相談・特別支援センター	29
(10) 保健管理センター	31
(11) 課外・ボランティア活動支援センター	33

III 平成29年度の機構全体の活動

1. 機構主催のシンポジウム・研究会・セミナー等	37
2. 刊行物一覧	43
3. 教員の活動	44

IV 資料編

1. 統計データ	113
2. 外部資金獲得状況	123
3. 共同研究員受入状況	123
4. 研究業績による受賞	124
5. 規程類	
(1) 東北大学高度教養教育・学生支援機構規程	125
(2) 東北大学高度教養教育・学生支援機構業務センター内規	127
(3) 東北大学高度教養教育・学生支援機構教授会議内規	128
(4) 東北大学高度教養教育・学生支援機構運営会議内規	129
(5) 東北大学高度教養教育・学生支援機構高度教養教育諮問会議内規	130
(6) 高度教養教育・学生支援機構専門研究員内規	130
(7) 高度教養教育・学生支援機構共同研究員内規	131

I 高度教養教育・学生支援機構について

1. 高度教養教育・学生支援機構長挨拶

「東北大学高度教養教育・学生支援機構要覧 2017」をお届けします。

本学は、2014年4月、高等教育開発推進センター、国際交流センター、国際教育院、グローバルラーニングセンター、教養教育院、高度イノベーション博士人財育成センターを統合し、本高度教養教育・学生支援機構を設置しました。本学は本機構を、高度教養教育・学生支援に関する調査研究、開発、企画、提言、および実施を一体的に行い、本学の教育の質的向上に寄与するための中核と位置づけて、国内外を見ても他に例のない革新的でチャレンジングな組織として設計し創設しております。

本機構は、高大接続と入試、全学教育の開発と推進、高等教育国際化の推進、学生相談と学生支援、保健管理と健康指導、高等教育の研究と開発を行い、これらの成果を評価分析し、質的向上を図る各種の専門性開発活動を行う総合的な役割を果たすことがミッションです。また、高等教育推進の高いポテンシャルを有した組織とプログラムを統合し、新たな高等教育のモデル構築も目指しています。さらに、高等教育のモデル構築の核心は、卓越性と多様性の追求であり、教育における卓越性の柱として、高度教養教育の開発と提供、多様性の柱として多様な学生のニーズに応える学生支援の開発と実施も行うこととしています。

本要覧は、第Ⅰ部から第Ⅳ部の4部構成です。第Ⅰ部では、機構のビジョン、沿革、組織体制について記します。第Ⅱ部では、本機構は教員組織（3部門9室、1院）と11の業務センターのマトリクス構造をもつユニークな組織体制ですが、それぞれのミッション（使命）と事業内容や活動状況を記します。第Ⅲ部では、2017年度の機構全体の活動状況を示します。ここには、所属教員個々人の活動状況が記されています。第Ⅳ部は資料編で、統計的な資料、および本機構の規程類をまとめて示しました。

本機構も発足5年目を迎え、今年度中はこれまでの活動についての自己評価・外部評価の実施を計画しております。高等教育の在り方が声高に問われる中で、これまでの活動を振り返り、今後の機構運営の道標を得る機会になることを期待しています。

本要覧が、学内の方々はもちろんのこと、学外の方々にとって何がしかの参考になれば幸いです。さらには、本機構構成員のますますの活性化につなげるためにも、本要覧をご覧になられた皆様方からのご批判やご意見を賜ればと願っております。

平成30年8月

高度教養教育・学生支援機構長 滝澤博胤

2. 高度教養教育・学生支援機構ビジョン

【部局のミッション（基本理念・使命）】

- 高度教養教育・学生支援機構は、高度教養教育および学生支援に関する調査研究、企画および提言、並びにそれらの方法の開発および実施を関係部局との連携の下に一体的に行うことにより、東北大学の教育力を高め、世界をリードする研究を遂行しグローバル時代を切り開く指導的人材の育成に貢献することを使命としています。

【機能強化に向けた取組方針（～2017年度）】

- 私たちは、基本理念を更に発展させるため、機構教職員の協力・連携を強め、高大接続からキャリア支援に至る学生の修学・自己開発・進路選択のプロセスを一貫して支援するというコンセプトの下に、研究開発と実践を進めます。
- 私たちは、知識基盤社会に対応して世界をリードする教養教育のビジョンを打ち出し、基礎教養教育から専門教育・高度教養教育へと至る教育の体系化を進め、学部・研究科・研究所および教育研究支援組織と協力して、その実現に貢献します。
- 私たちは、留学生の戦略的受入れと海外研鑽プログラムの充実等に努め東北大学のグローバルな修学環境の整備・充実に中心的な役割を果たします。
- 私たちは、教育から学習へという大きな大学教育観の転換を踏まえ、高大連携、初年次教育、学習支援など多様な教育・学習のツール開発と、総合的にこれらを推進する教員個人、科目レベル、機関レベルの教育・学習マネジメントの研究開発を進め、東北大学における教育マネジメントの強化に寄与し、教職員個人の能力を高めることに貢献し、世界的な研究総合大学の教育拠点の形成に寄与します。

【重点戦略・展開施策】

1. グローバル時代における人材像と高度教養教育システムの総合的研究の推進

環境・安全保障・エネルギー・民族紛争など現代社会が抱えるグローバルな諸問題を解決する人材を育成するためには、高い専門性と分野を超えた全球的鳥瞰力を備え、生涯にわたって主体的に学び続ける人材像を明確にし、その能力を培う教育内容・方法およびシステムの全面的な改革と転換が必要です。正課教育のみならず、学習支援と学生支援を含むキャンパス全体の学習空間化が求められます。外部資金の獲得・活用も含め、世界的に進められている課題探究型学習をはじめとする高等教育の研究・開発・試行・実施を推進します。

2. 実践的英語能力を高める体系的英語教育プログラムの開発・推進

本機構（旧高等教育開発推進センター）が開発し、既に具体的な成果を上げつつある英語「多読」授業やe-learningの指導法と評価方法を更に進展させ、リーディング力やリスニング力養成とともに、発音指導やスピーキング指導をも視野に入れたCALL教育の教材と指導法を開発します。4技能を強化する実践的な英語教育への転換を推進します。

3. 現代社会の多様な「知」に対応した高度教養教育の開発・推進

幅広い教養や専門教育のための基礎教育としての全学教育に加え、ディシプリンにとらわれることのない意識を育み、多次元的な視野を育成するための科学教育を推進し、「自然科学総合実験」および「文科系のための自然科学総合実験」の充実・発展、専門分野や文系・理系の区別を超えて人類的問題に接近する学際融合教育、社会全体を支え、発展させてきたアスリート、芸術家、職人などによる多様な「実践知」を加え、これらの多様な「知」を大学教育の場面に導入し、学生の世界観と認識を深化させる新たな高度教養教育を開発・推進します。

4. 多様な価値観と文化を学ぶ国際共修・異文化理解プログラムの開発・推進

人種・宗教・慣習・文化の多様性を理解し、自国文化を見直し、国際社会において共生・共存する生き方を身に付けることとともに、人類社会を支える普遍的な価値観を育て、共有する学生を育てます。多様な国際共修の取組を基に、日本を近現代アジアの中に位置付けた歴史像の構築と教材化など内容開発を進め、英語による授業を提供するなど、各大学での共通の指針となるような取組を進めます。異文化理解、外国語能力の更なる涵養を目指して、本機構の外国語教員の専門性を活かした「外国語による教養科目の授業」の開講を全学教育開講科目類・群を対象として進めます。

5. 留学生の戦略的受入れの推進と海外研鑽プログラムの充実

国境を越えた学生交流を進めるため、本学の教育国際交流戦略を策定し、留学生の受入れの促進のため多様な魅力的な国際プログラムを開発するとともに留学生支援を充実させます。また、グローバル化した時代における教育カリキュラムと連動した質の高い海外研鑽プログラムを数多く開発し、学生の国際体験の機会を飛躍的に増大させます。

6. 自己発展力のある主体的学生を育成する総合的学生の支援の推進

社会における自分の役割を模索し、道徳的価値観を形成し、職業準備を行い、アイデンティティを確立する青年後期の課題に対応し、心身ともに豊かな個人としての学生の成長を支援する総合的学生の支援を推進します。そのために、①心身発達と自己像の形成支援（キャリア教育、メンタルヘルスケア、生活習慣の指導、課外・ボランティア活動）、②基本的健康管理（定期健康診断、特殊健康診断）、③グローバルな視点からの感染管理（結核、鳥インフルエンザ等）、④学生が対峙する危機への介入と支援（学生相談）、⑤特別支援を要する学生への援助（発達障害・身体障害、留学生等への支援）、⑥自分の将来像の構築への支援（キャリア支援）の諸支援を総合し、全学連携的な支援体制の構築と推進を行います。

7. 東北大学型 A0 入試の一層の深化と拡大のためのイニシアチブ

大学入試システムでは、①社会的に受容される選抜指標や合理的選抜方法の開発、②実施負担の抑制・軽減、③高等学校教育、入学後の専門分野、卒後の職業キャリアへと連なる合理的接続を保証するため、入学者の人物、能力の評価、試験方法の公平性、公正性、追跡調査による効果実証を進めます。また、青年前期の人間性、素質・能力、将来の可能性など「柔らかい」特徴把握を、理論と実践両面からの研究・試行によって進め、諸外国の多様な方法論の調査・検討、先端的な心理学的測定法の応用、人格の深いレベルでの評価を含む縦断的調査研究を実施し、高等学校や他大学との共同研究を行い、東北大学のコア・アイデンティティを担っている人々との協働の取組を、機構および各局（学部・大学院）との協力によって推進します。

8. 教職員個人の能力開発と高等教育機関のマネジメント開発支援

教育関係共同利用拠点として、研究・教育・社会サービス・管理運営など大学教員に求められる全体的な能力を、大学院生・新任教員・中堅教員・シニア教員など各ライフ・ステージに沿って発達させるための各種支援、および職員の能力開発を支援するプログラムを開発し推進します。

また、東北大学をはじめとする日本の大学における教育・学習マネジメントの強化を通じて、グローバル化に対応した日本の高等教育の構築に寄与します。特に、世界水準の大学教育を推進するために、アカデミック・リーダーの専門性を高めるプログラムを開発・試行します。

3. 高度教養教育・学生支援機構第3期中期目標・中期計画

中期目標	中期計画
<p>(前文) 部局の基本的な目標</p> <p>高度教養教育・学生支援機構は、高度教養教育および学生支援に関する調査研究、企画および提言、並びにそれらの方法の開発および実施を関係部局との連携の下に一体的に行うことにより、東北大学の教育力を高め、世界をリードする研究を遂行しグローバル時代を切り開く指導的人材の育成に貢献することを使命としており、その使命を遂行するために、以下の具体的目標を掲げている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グローバル時代における人材像と高度教養教育システムの総合的研究の推進 <p>世界的に進められている課題探究型学習をはじめとする高等教育の研究・開発・試行・実施を外部資金の獲得・活用も含めて推進する。</p> 2. 実践的英語能力を高める体系的英語教育プログラムの開発・推進 <p>英語「多読」授業やe-learningの指導法と評価方法を更に進展させ、「聞く・話す・読む・書く」の4技能を強化する実践的な英語教育への転換を推進する。</p> 3. 現代社会の多様な「知」に対応した高度教養教育の開発・推進 <p>「自然科学総合実験」および「文科系のための自然科学総合実験」の充実・発展とともに、専門分野や文系・理系の区別を超えて人類的問題に接近する学際融合教育などの新たな高度教養教育を開発・推進する。</p> 4. 多様な価値観と文化を学ぶ国際共修・異文化理解プログラムの開発・推進 <p>人種・宗教・慣習・文化の多様性を理解し、自国文化を見直し、国際社会において共生・共存する生き方を身に付ける国際共修の取組を進める。</p> 5. 留学生の戦略的受入れの推進と海外研鑽プログラムの充実 <p>留学生の受入れの促進のため多様で魅力的な国際プログラムを開発するとともに留学生支援を充実させる。また、質の高い海外研鑽プログラムを数多く開発し、学生の国際体験の機会を飛躍的に増大させる。</p> 6. 自己発展力のある主体的学生を育成する総合的學生支援の推進 <p>社会における自分の役割を模索し、道徳的価値観を形成し、職業準備を行い、アイデンティティを確立する青年後期の課題に対応し、心身ともに豊かな個人としての学生の成長を支援する総合的學生支援を推進する。</p> 7. 東北大学型A0入試の一層の深化と拡大のためのイニシアチブ <p>社会的に受容される選抜指標や合理的選抜方法の開発、実施負担の抑制・軽減、入学者の人物、能力の評価、試験方法の公平性、公正性、追跡調査による効果実証を進める。</p> 8. 教職員個人の能力開発と高等教育機関のマネジメント開発支援 <p>研究・教育・社会サービス・管理運営など大学教員に求められる全体的な能力を、各ライフ・ステージに沿って発達させるための各種支援、および職員の能力開発を支援するプログラムを開発し推進する。</p> 	

<p>◆ 中期目標の期間 平成28年4月1日から平成34年3月31日までの6年間とする。</p>	
<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 【I】は、対応する全学の中期計画</p>	<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p>
<p>1 教育に関する目標</p> <p>(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標</p> <p>1. 【1】学部・研究科及び教育・学習支援組織と連携し、学士課程・大学院教育を通じて高度教養教育を研究開発・実施し、学生を現代社会に対応したリテラシーとキィ・コンピテンシーを身に着け、教養ある専門性を備えた市民に成長させる。</p> <p>2. 【4】高度教養教育と専門教育との密接な連携の下で、学部・大学院の一貫した教育プログラムを実践し、多様なキャリアパス教育を進め、学生が主体的に自己決定し、社会に巣立つ基盤を作る。</p> <p>3. 【6】高度教養教育・学生支援機構各部門、センターの活動をエクステンションとして発信する。</p> <p>(2) 教育の実施体制等に関する目標</p> <p>1. 【8】部局及び教育・学習支援組織が一体となって、効果的な教育・学習を実施し、多様な学生の能力を引き出すために、教学 IR 機能を強化・確立する。</p> <p>2. 【9】教育・研究・実務の各種業務を遂行でき、高度教養教育・学生支援機構の使命を達成できる、国籍、年齢、ジェンダーなど多様でポテンシャルの高い教員集団を形成する。</p> <p>3. 【12】高度教養教育・学生支援機構の特質を活かし、教育関係共同利用拠点などを通じて、日本の大学全体の教育機能強化に貢献する。</p> <p>(3) 学生への支援に関する目標</p> <p>1. 【14】すべての学生が、心身ともに健康な学生生活を送れるように、多様な学生のニーズに応じた個別支援及び全学的支援連携体制を強化する。</p>	<p>1 教育に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 世界的な高等教育改革の研究を進め、部局、教育・学習支援組織と連携して、グローバル化社会にふさわしい高度教養教育の理念、カリキュラム、教育内容、アクティブ・ラーニングなど教育・学習方法の体系的な開発・提供を行う。</p> <p>2-1. 高度教養教育・学生支援機構が現在提供しているキャリア関係科目の評価点検を行い、内容の精査と高度化を図り、初年次から大学院博士課程まで視野に入れたキャリア教育関係科目の提供を行う。</p> <p>3-1. 拠点活動の成果を社会に還元するために、「アカデミック・リーダー育成プログラム」を継続して実施し、平成33年度までに全国の大学等からの修了者を拡大し、ワークショップ・成果報告会・出版などを行う。</p> <p>(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 学務審議会、IR室、評価分析室等との協働の下、学生の人格的発達を含む学習成果を測定し、教育・学習支援の効果と課題が明確になる全学的な教育・学習マネジメント体制を構築し、教育改革の推進を支援する。</p> <p>1-2. 高度教養教育・学生支援機構の部門・センターがそれぞれの特色を生かして授業科目の開発と提供を行い、体系的な高度教養教育を組織的に推進するために、機構内に高度教養教育推進の責任体制を確立する。</p> <p>2-1. 高度教養教育・学生支援機構の使命と目標に沿い、多様でモラルと能力の高い教員集団を形成するために、能力と業績を踏まえた昇任を進めるなど、採用・昇進・研修の人事政策と教育研究支援を体系的かつ戦略的に推進する。</p> <p>3-1. キャリアステージに対応して教員に必要な能力の育成を図るPDプログラムを持続的に開発・提供するとともに、国内外の大学・学術団体等と連携し、語学教育及び数理学教育の指導力を育成するプログラムを開発し、提供する。</p> <p>3-2. 日本の大学教育の水準向上に寄与するために、学内機関とも連携した教育関係共同利用拠点の新たな認定や、全国の拠点等、大学教職員の能力開発組織と連携して、全国的な大学教育開発のネットワークを形成し、プログラム等の共同開発・相互提供を進める。</p> <p>(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 多様な学生のニーズに応じた支援活動をより発展させるために、学生相談や特別支援等に関するピアサポートを含めた個別支援、及び各部局との連絡会議の強化を含めた全学的連</p>

<p>2. 【15】 総合的体系的なキャリア支援を進めることで、学生が広い視野と展望をもって東北大学で培った能力を活かし発展させ、社会で活躍し、意義のある進路を選択し、実現できることを目指す。</p>	<p>携体制を整備・充実させる。さらにバリアフリー化を含めた学生支援の質の向上、及びメンタルヘルスやハラスメント防止等に関する予防活動を推進する。</p> <p>2-1. キャリア開発室が、臨床教育開発室、臨床医学開発室、国際化教育開発室、部局及び教育・学習支援組織と連携し、日本人・留学生・社会人・女子学生・特別な支援を要する学生など多様な学生のニーズと生涯を通じたキャリア形成に効果的な支援を体系的に進める。</p> <p>2-2. イノベーション創発塾の規模を拡大し、知的財産、アントレプレナーシップなど大学院博士レベルの専門性を活かす科目を開発・提供する。</p>
--	--

(4) 入学者選抜に関する目標	(4) 入学者選抜に関する目標を達成するための措置
-----------------	---------------------------

<p>1. 【17】【18】 アドミッションポリシーに適合する、優秀で意欲的な学生が国内外から受験する入試戦略を展開し、より多面的・総合的な選抜を実施する。</p>	<p>1-1. 学部と連携し、A0 入試や特別入試などの多様な入試を拡大して全入学者に占める A0 入試等の募集人員・入学者の割合を30%程度に引き上げる。このために入試センターの体制を整備して機能を強化し、A0 入試等の実施主体である学部に対し全学的支援を強化するとともに、入試説明会、進学説明会をはじめとした入試広報活動を一層広範活発に実施し、オープンキャンパスや高校訪問など学部の広報活動を支援する。</p> <p>1-2. 学部と連携し、国内外から受験するグローバル人材育成のための入試を導入・拡大するとともに、優秀な受験者を獲得するための様々な広報活動、英語ウェブページの改善、海外拠点を利用したリクルート活動、海外の教育課程を踏まえた柔軟な入学者選抜方法の改善のための調査研究などを展開する。</p> <p>1-3. 平成 32 年度から実施予定とされる大学入試センター試験に代わる新テストに連動した「多面的・総合的な」個別選抜のあり方について、追跡調査をはじめとした入試データの分析、国内外調査、高校との連絡協議などによる調査研究を行い、その成果をもとに新たな選抜方式を企画・実施する。</p>
--	--

2 研究に関する目標	2 研究に関する目標を達成するための措置
------------	----------------------

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標	(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置
------------------------	----------------------------------

<p>1. 【19】【20】 高度教養教育及び学習・学生支援に関する先導的研究を推進し、実践を支える理論を国際的な水準で発展させる。</p>	<p>1-1. 高等教育研究、高等教育国際化論、専門分野の教育論、語学教育論、学生発達論、臨床医学、臨床心理など高度教養教育及び学習・学生支援を支える先導的研究を推進し、理論と実践双方を深化させ、国内外に発信する。</p>
--	---

(2) 研究実施体制等に関する目標	(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置
-------------------	-----------------------------

<p>1. 【31】 国際的なネットワークと連携し、国内の研究拠点を形成する。</p>	<p>1-1. 高等教育のグローバル化に対応した研究を国内外の高等教育研究者・機関と連携して推進し、日本における高度教養教育及び学習・学生支援を支える先導的研究拠点を形成する。</p> <p>1-2. 客員教授・研究員制度を活用し、高度教養教育・学生支援機構を支える先導的研究の国際的なネットワークの強化を図るとともに、サバティカル制度などによる若手教員の能力開発を支援する。</p>
---	--

<p>3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標</p> <p>1. 【35】高度教養教育・学生支援機構のポテンシャルを活かした社会連携と社会貢献活動を推進する。</p>	<p>3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 地方自治体、高校、高等教育機関、民間企業、NPO 法人などと連携し、高等教育フォーラム、理数科教育、英語教育など従来取り組んでいる高大連携事業やPDプログラムの開放を推進し、社会貢献活動を充実させる。</p>
<p>4 災害からの復興・新生に関する目標</p> <p>1. 【37】高度教養教育・学生支援機構のポテンシャルを活かし、東日本大震災からの復興・再生を支援する。</p>	<p>4 災害からの復興・新生に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 課外・ボランティア活動支援センターを通じて、東日本大震災からの復興・再生の支援を行うほか、心理学、言語学、歴史学、社会倫理学、自然科学等の各分野からの視座を通じて災害復興を目指す授業科目を開発・提供する。</p>
<p>5 その他の目標</p> <p>(1) グローバル化に関する目標</p> <p>1. 【42】【43】【44】【45】学生の流動性を促進する双方向の海外留学プログラムを拡充するとともに、グローバルな修学環境の整備や教育プログラムの充実を行い、東北大学グローバルイニシアティブ構想を積極的に推進し、グローバル社会における指導的人材の育成を進める。</p>	<p>5 その他の目標を達成するための措置</p> <p>(1) グローバル化に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 国際連携推進機構との協力の下、教育国際交流に資する海外拠点形成や海外有力大学との積極的な協定締結を行い、学生交流を活性化。数週間から1年にわたる多様な双方向の海外留学プログラムの開発・実施を主導し、学生の国際交流を促進する。また、多様な日本語能力を持つ外国人留学生の増加に対応するため、日本語教育体制を強化する。</p> <p>1-2. Future Global Leadership プログラムをさらに発展させ、外国人留学生に魅力的な学位取得プログラムの開発・実施・支援を行う。また、ダブルディグリーやジョイントディグリー等の国際共同教育の推進を支援するとともに、国際共同大学院プログラムの推進に協力する。</p> <p>1-3. 東北大学グローバルリーダー育成プログラムを継続的に実施し、さらに発展させる。国際共修授業等の異文化理解や実践的なコミュニケーション能力の養成に資する教育プログラムの開発・実施を主導し、学務審議会と連携しグローバルマインドを醸成する授業科目群を設置し、体系化したカリキュラムの構築を図る。また国際社会で活躍するために必要な英語を含む外国語の教育体制を強化する。</p> <p>1-4. 東北大学グローバルイニシアティブ構想を発展させ、グローバル化の更なる推進のため、業務センター間の連携を格段に進め、取り組みの組織的な強化を図る。</p>
<p>II 業務運営の改善及び効率化に関する目標</p> <p>(1) 組織運営の改善に関する目標</p> <p>1. 高度教養教育・学生支援機構の組織運営の不断の点検・評価を行い、高度教養教育と学生支援を高度化するのにふさわしい運営を目指す。</p>	<p>II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>(1) 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 運営の効率と効果を高めるため、機構長補佐会議、教授会議、人事委員会、総務委員会などの各種運営組織や支援業務の点検・評価を行い、改善を行う。</p> <p>1-2. 教育研究支援組織を確立し、教職員が協力し高度教養教育・学生支援活動に邁進できるよう組織の活性化を目指す。</p>

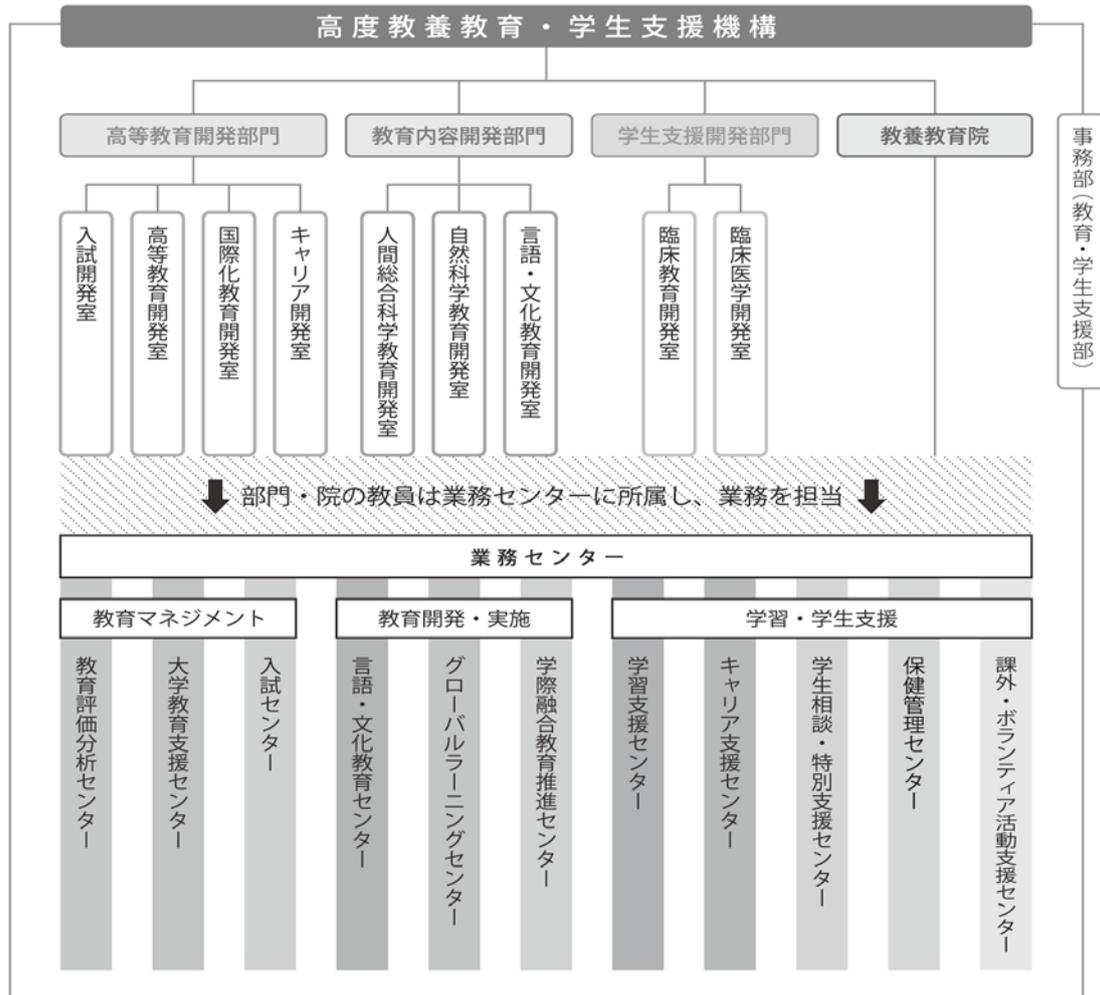
<p>(2) 教育研究組織の見直しに関する目標</p> <p>1. 教育研究組織の不断の点検・評価を行い、高度教養教育と学生支援を高度化するのにふさわしい組織の確立を目指す。</p>	<p>(2) 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 全学教育および高度教養教育の充実のための活動を継続的に進め、業務センター等の点検・評価を行い、機構の使命を達成するために、必要な内部組織の改革を行う。</p>
<p>III 財務内容の改善に関する目標</p> <p>1. 科学的合理的な予算を確立し、教育研究の質を向上させるために効果的効率的な運営を目指す。</p>	<p>III 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1-1. 業務センター等多様な組織に対応し、多面的な財源を統合した合理的予算を確立し、効果的効率的な運営を目指す。 1-2. 競争的資金の拡充を図り、機構内での申請支援や情報収集・分析・提供を行うなど外部資金獲得の支援体制を強化する。</p>
<p>IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標</p> <p>1. 点検・評価を通じた組織改善の組織文化を醸成する。</p>	<p>IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1-1. 組織と運営の改善を行い、教員個人及び機構を活性化させるために、個人評価、活動状況の公表、自己点検・評価、外部評価を定期的実施する。</p>
<p>V その他業務運営に関する重要目標</p> <p>1 施設設備の整備・活用等に関する目標</p> <p>1. 高度教養教育と学習・学生支援を深化・発展させるための施設環境を整備する。</p> <p>2 安全管理に関する目標</p> <p>1. 教職員・学生が安全で健康的な環境下で教育研究に取り組めるよう安全管理体制の充実を進める。</p> <p>3 法令遵守に関する目標</p> <p>1. 法令及び社会規範を守り、高い倫理規範を確立する。</p> <p>4 その他業務運営に関する重要目標</p>	<p>V その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 東北大学における教育の質の向上やグローバル人材育成を進めるため、機構内のセンター連携を促進させ、高度教養教育を効率的かつ効果的に進めるためのキャンパス施設整備の施策を策定し、課題探究型学習をはじめとする高等教育の研究・開発を推進し、学習支援と学生支援を含むキャンパス全体の学習空間化を進める。</p> <p>2 安全管理に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 学生の国際交流のための危機管理体制の強化、及び感染症や結核に対する感染管理対策を実施するとともに、全学的な環境保全・安全管理に関する計画に協力し、教育研究環境の安全向上に努める。</p> <p>3 法令遵守に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 本学のコンプライアンス活動を積極的に推進するとともに、多分野にわたる機構構成員が公正な研究活動・研究費の適切な使用を遂行するため、その環境整備を着実に実施する。</p> <p>4 その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置</p>

4. 高度教養教育・学生支援機構の沿革

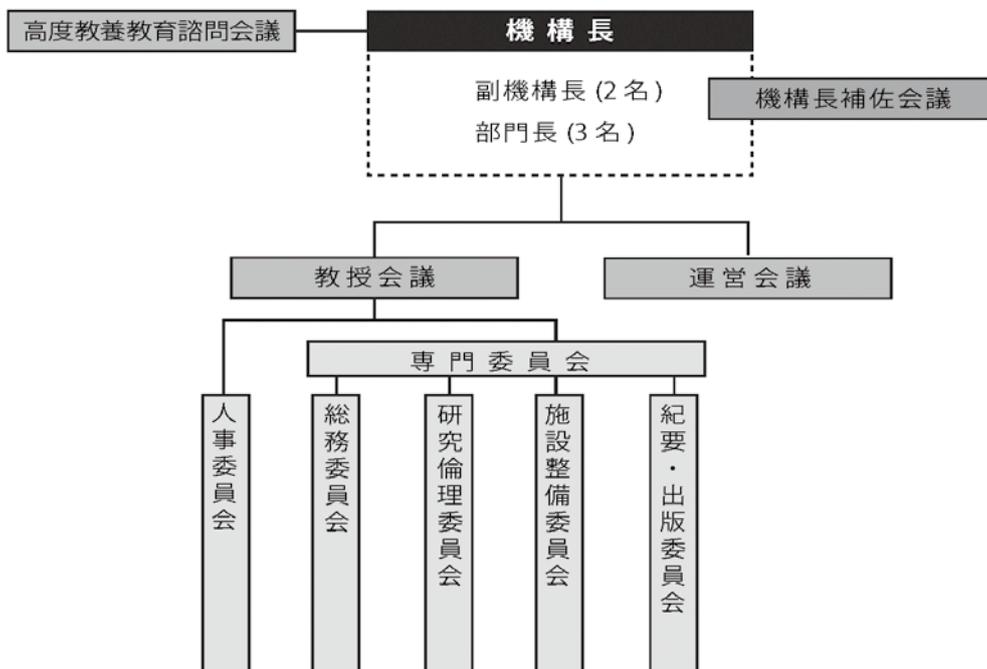
昭和 31 年 6 月	学生相談所設置。
昭和 44 年 6 月	保健管理センター設置。
平成 5 年 4 月	大学教育研究センター設置。 留学生センター設置。
平成 11 年 4 月	アドミッションセンター設置。
平成 13 年 4 月	情報シナジーセンター設置。
平成 16 年 10 月	高等教育開発推進センター設置。アドミッションセンター，大学教育研究センター，保健管理センター，学生相談所，情報シナジーセンター情報教育研究部，留学生センター（一部）を改組・統合。
平成 17 年 4 月	アドミッションセンターを入試センターに改称。
平成 17 年 4 月	留学生センターを国際交流センターに改組。
平成 20 年 4 月	教養教育院設置。
平成 21 年 7 月	高度イノベーション博士人財育成センター設置。
平成 21 年 11 月	国際教育院設置。
平成 26 年 4 月	高度教養教育・学生支援機構設置。 高等教育開発推進センター，国際交流センター，国際教育院，グローバルラーニングセンター，教養教育院，高度イノベーション博士人財育成センターを改組・統合。 花輪公雄理事（教育・学生支援・教育国際交流担当）が初代機構長に就任。
平成 26 年 7 月	機構発足記念シンポジウム「21 世紀グローバル世界が求める人間像と教養教育」開催。
平成 26 年 8 月	文部科学省より，「知識基盤社会を担う専門教育指導力育成拠点－大学教員のキャリア成長を支える日本版 S o T L の開発」が教育関係共同利用拠点（大学の教職員の組織的な研修等の実施機関）として認定（～平成 27 年度）。
平成 27 年 3 月	『高度教養教育・学生支援機構紀要』創刊。
平成 27 年 7 月	文部科学省より，「教職員の組織的な研修等の共同利用拠点」が教育関係共同利用拠点（大学の教職員の組織的な研修等の実施機関）として認定（～平成 32 年度）。
平成 30 年 4 月	滝澤博胤理事・副学長（教育・学生支援担当）が機構長に就任。

5. 高度教養教育・学生支援機構の組織

(1) 組織構成図



(2) 運営部門



Ⅱ 機構各組織の事業内容及び活動状況

1. 部門・院

(1) 高等教育開発部門

高等教育開発部門は、入試開発室、高等教育開発室、国際化教育開発室とキャリア開発室から成り、高大接続・入試の研究、教育・学習活動の研究、大学教員研究、国際化教育研究、キャリア開発研究などの高等教育に関する調査研究を行っている。これらの研究成果をもとに、各教員はそれぞれ業務センターに所属し、本学における教育の質の向上と国際化に資する多彩な活動を展開している。

入試開発室

入試開発室は、業務センターである入試センターと一体的に、東北大学の入試改善に関わる調査研究、入試全般に関する研究、入試広報および高大連携の企画・実施、A0 入試・一般入試の企画・コンサルテーションおよび実施などの活動を行っている。

高等教育開発室

高等教育開発室は、①高等教育に関する政策・実践等の調査・研究、②東北大学における教育内容・方法、教育マネジメント、学習支援等に関する調査・研究・提案、③教育改善に資する教職員専門性開発の企画・実施の3つを柱に活動を推進している。高等教育開発室所属の教員は、教育評価分析センター、大学教育支援センター、学際融合教育推進センター、学習支援センターに所属し、その専門や適性に応じて、各センターが取り組む各種の業務やプロジェクトを推進している。

国際化教育開発室

国際化教育開発室は、グローバルラーニングセンターと一体となり、国際教育、異文化間教育、高等教育の国際化施策、多文化共生、留学生支援、国際キャリア教育、異文化適応、言語教育等の、グローバル人材育成に関連した研究活動と、海外派遣・受入留学プログラムの開発・実践、国際教育カリキュラムと国際共修科目の開発・改善、日本人学生を含む国際学生への教育・支援の充実化などの教育活動を両輪とし、幅広い活動を展開している。

キャリア開発室

キャリア開発室は、キャリア支援センターと一体となり、キャリア、キャリア形成支援に関連する調査・研究、プログラム開発を推進している。教育面では、正課教育として全学教育や部局と連携したキャリア教育科目を開講するとともに、正課外で全学学生を対象とした各種の進路・就職支援プログラムや個別相談等も実施している。

(2) 教育内容開発部門

教育内容開発部門は、人間総合科学教育開発室、自然科学教育開発室、言語・文化教育開発室の3室から構成される組織であり、東北大学の教養教育の根幹を担う部門である。全学教育授業を実践するとともに、各室・部門間および業務センター等との連携により、教育プログラムやカリキュラムの調査、企画、開発、教育環境整備等を含む“高度教養教育の開発と実践”にあたる。

人間総合科学教育開発室

人間総合科学教育開発室は、歴史学を中心とした人文科学と運動生理学との観点から、以下のような研究・教育を行っている。

[1] 人文・社会科学系教養教育に関する調査・研究・実践

①ユーラシア大陸におけるヘレニズム文明の美術考古学的研究。中央アジアのウズベキスタン共和国におけるギリシア・クシアン系都市カンピール・テパの発掘調査。西洋中心史観、中華史観等に囚われないユーラシア大陸からみた相対的史観の研究と教育。

②国際的な現代社会における経済学・経営学の観点からの研究と教育。

- ③日本近世における儀礼・年中行事の政治文化史的研究。自校史教育の比較研究とその実践。
- ④日本近世における兵学に関する政治思想史的研究。日本思想史の視点を生かした、特に知識人と政治の関係を軸にした東北大学史の研究と教育。

[2] 人文・社会科学系教養教育に関する教育活動およびカリキュラム開発

全学教育科目「芸術の世界」「人間と文化」「歴史と人間社会」「歴史学」「基礎ゼミ」「展開ゼミ」等の授業を担当。

[3] 運動生理学の観点からの研究

東北大学におけるスポーツ科学の目標は人生の生活基盤を形成する一助となることである。近年はストレス社会であり、在学中も卒業後も身体の健康はもちろん精神の健康維持も重要な課題である。スポーツ科学教育室では身体の健康の維持増進と「こころ」の健康との関連に注目し研究を行っている。この研究は毎日少しでも、またできる範囲で運動を継続することの意味を検証するものである。東日本大震災において被災された方々の「こころ」の健康の維持にも役立てたい。

[4] 運動生理学の研究成果の授業への展開

全学教育科目「生命と自然」「基礎ゼミ」「展開ゼミ」「スポーツA」「スポーツB」「体と健康」等の授業を担当。

自然科学教育開発室

自然科学教育開発室は、全学教育科目において理科実験科目を担当するユニットと自然科学系科目（英語クラス）を担当するユニットからなる。

「自然科学総合実験」(平成16年度開講)は、理系初年次学生約1,700名を対象とした必修の理科実験科目であり、自然科学専門分野（物理、化学、生物、地学）を融合させたタイプ（融合型実験）の実験科目として、自然科学の学び方を知り、多角的な視点で物事を捉えることができるように設計された。平成19年度からは新たに文科系初年次学生を対象とした理科実験科目「文科系のための自然科学総合実験」を開講した。本室教員は、実験科目の企画、教材作成、実験機材や設備を含む教育環境の整備と保守管理、授業の実施・支援、レポート指導、履修指導、成績評価、セメスタごとの実践的FD活動および独自のアンケート調査など、中心的な役割を果たしている。また、出席・成績情報システムの開発により、受講者の出欠、レポート提出状況、成績状況等を容易に把握することができ、それを履修指導にフィードバックさせ、学生相談所、保健管理センター、教育・学生支援部や学部の教育支援室等との協力体制のもとに学生支援を行っていることも特徴である。

東北大学におけるグローバル教育推進のため、3つの学士課程の英語コース（全学教育科目を含む）が平成23年度に開設されたが、本室教員は、自然科学系ディシプリンに含まれる多種多数の基礎教育プログラムの企画、開発、実施、改善活動を行っている。また、諸外国における「留学生フェア」等にも参加して積極的な広報活動も務め、東北大学の教育研究の認知度アップにも貢献しながら、本学の教育の国際化に貢献している。

言語・文化教育開発室

言語・文化教育開発室は、全学教育や留学生特別課程等において外国語及び日本語科目を担当するとともに、言語教育に関する教授法の研究および実態調査を行う。あわせて、全学教育を中心に本学の語学授業に関わる学習環境を整備し、カリキュラムの開発・設計・実施、CALL語学演習施設を活用した語学学習支援、e-learningを利用した語学学習教材とシステムの開発等に関して各種提案を行うことを主たる使命・目標とする。外国語科目では、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語を担当し、「聞く・話す・読む・書く」の4技能の運用能力を高めるだけでなく、外国語圏の社会・文化・歴史の学習を通して多言語・多文化間の相互理解を深めることを目指した教育を実践する。日本語科目では、全学の各部署に在籍する留学生や外国人研究者を対象として、それぞれの専門課程において要求されるより高度な日本語運用能力を育成するとともに、日本人学生との共修授業等を通じて日本文化への理解を促進することを目指す。

(3) 学生支援開発部門

本部門は、臨床教育開発室と臨床医学開発室から構成され、所属する教員はそれぞれ学生相談・特別支援センター、保健管理センターでの業務を主に担当している。大学生活のなかで経験する身体的、精神的問題、種々の悩みなど問題を抱えている学生への個別カウンセリングや、ハラスメント等の問題解決に向けての支援、身体障害・発達障害を

持つ学生の支援の実践とともに、その環境整備を進め、臨床教育および臨床医学関係の教育・研究を行っていく部門である。

臨床教育開発室

臨床教育開発室は、主に学生相談・特別支援センターの業務を担当する教員によって構成され、「学生が本学での経験から最大限の利益をひきだすことができるよう、学生及び大学コミュニティへの支援を行うこと」を使命および目標として、学生相談及び特別支援の活動の充実に努め、大学生活の中で問題を抱えている学生へのカウンセリングや障害のある学生への支援活動の充実・開発、学生支援体制の整備に資する研究を行っている。

臨床医学開発室

臨床医学開発室は、保健管理センターと一体的に学生の心身の保健管理を行うことを使命として、健康相談、診療、定期健康診断・特殊健康診断とその事後処置、栄養相談に加え、健康科学セミナーの開催、健康に関するリーフレットの発行などを行っている。また保健管理センターで得られた健康情報を解析し、有効な保健対策を企画・立案するとともに、学生の健康を脅かす疾患の病因・病態の研究ならびに治療法の開発を行っている。

(4)教養教育院

教養教育院は、教養教育充実の方策の一つとして平成20年4月に設置され、平成26年4月に本機構に統合された。本院は、総長特命教授と教養教育特任教員で構成されている。教養教育の中でもとりわけ重要な初年次教育において、学生の学びへのモチベーションを高める授業を創り出し、教養教育改革の先導的な役割を果たしている。また、教養教育特別セミナーの共催、総長特命教授合同講義の実施を通じて、通常の授業とは違った機会を学生に提供している。主な活動・取組は以下のとおりである。

①基礎ゼミクラスの担当

高校までの「受験勉強中心の学び」から「自ら探究する大学での学び」への転換を目的に、初年次学生全員が受講する学部横断型少人数科目（基礎ゼミ）が毎年約160コマ開講されており、総長特命教授はそれぞれ2クラス（各クラス20～25名）を担当している。「研究をするには何が必要か」、「大学に入学した段階でまず何をしなければならないのか」、そうした疑問に対して、学生とのコミュニケーションを密にし、グループによる課題研究・調査、図書館・インターネットによる情報収集、現場の見学、レポート作成、発表、討論を通じて学生たちが自ら答えが出せるように支援している。

②全学教育（基幹科目・総合科目・語学教育）での新たな試み

初年次・2年次学生を対象にして行われる全学教育は、基幹科目（人間論、社会論、自然論）、展開科目（理科実験、カレントトピックス科目、総合科目等）、共通科目（基礎ゼミ、外国語科目、情報科目、保健体育科目）で構成されている。教養教育院の特命教授と特任教員は得意分野の科目を担当し、授業を活性化させるためのさまざまな試みを行っている。

③教養教育への理解を深める

毎年、教養教育をテーマにしたセミナーや合同講義を企画しており、「教養教育とは何か」について教員と学生が語り合うことにより、学生たちにとっては教養教育の中で自分自身の知性を高めることがいかに重要かを知る、また教員たちにとっては教養教育を考え深化させるよい機会となっている。

④小冊子『読書の年輪』の発行

初年次学生が「大学での学び」を始める上で一つのガイドブックとなる『読書の年輪～研究と講義への案内』を毎年刊行しており、教養教育院特命教授が、自らの教育・研究活動の経験を基に、大学での学びや生活に役立つ本を各自が6冊選び、内容を紹介している。

⑤教養教育への提言

教養教育院の院長（教育担当理事）が主催する教養教育院懇談会（年4回開催）や総長との懇談会の機会に、自らの教養教育での実践に基づいた意見を述べ、東北大学の教養教育改革に寄与している。

2. 業務センター

(1) 教育評価分析センター

使命

- (1) 国内外の高等教育動向および実践に関する調査研究を実施し、教育および学習に関する評価の理論を発展させ、その成果を国際的に発信する。
- (2) 本学の教育学習活動に係る意思決定に資するデータ収集・分析・提供のための効果的システムの開発・運用を通して、本学における持続的な教育改革・改善や学生の幅広い学習活動の実現を支援する。
- (3) 学務審議会、教育改革推進本部、高度教養教育・学生支援機構（業務センター）、各部局、事務組織の有機的連携に基づく一体的な教育マネジメント体制の確立に寄与する。

事業内容及び活動状況

- (1) 本学の教育学習活動・環境に関する基礎的データ収集システム（授業評価アンケート、成績評価・GPA実施状況、学務情報システムとの連動）を整備する。

平成 29 年度は、これまで構築を進めてきたデータベース・サーバに対して、これまで経年的に実施してきた各種調査や、授業評価アンケートデータを適切なデータセットに加工した上で格納し、必要に応じて柔軟に検索や抽出を行える体制を整え、ローデータ生成から格納、活用までの業務のルーチン化に取り組んだ。これにより、登録した情報を単に検索・抽出するだけでなく、データベース上の複数のデータを、共通の手がかりを用いて紐付けた上で、検索・抽出することもできるようになり、従来の CIR 業務をより高度かつ迅速に遂行することが可能となった。

- (2) 新入生調査、卒業時調査、学習経験調査（学士課程レベル、大学院課程レベル）、卒業生調査、学生生活調査、雇用者調査、教職員調査の体系的な設計・実施・分析を通して、東北大学における教育の効果点検・質向上を推進する。

①平成 29 年 2-3 月にかけて学務審議会と連携して実施した「第 3 回東北大学の教育と学修成果に関する調査」のデータ整理・分析を行い、「学修成果の経年変化」と「英語」に焦点を当てた詳細な分析内容と、結果に対する各部局からの所見をまとめた報告書を作成・発行し（平成 29 年 11 月）、広く学内配布を行った。
②学務審議会の下に設置された「東北大学卒業生・雇用者調査 WG」と協働して調査設計を行い、「第 3 回東北大学の教育に関する卒業・修了者調査」を平成 30 年 1-2 月（回収率：15.2%）に、キャリア・就職フェア参加企業 250 社を対象とした「雇用者調査」を 3 月（回収率 36.0%）に実施した。
③単位取得だけではない、目的を持った履修および学習行動の促進や各部局での教育活動の改善につなげてもらうことを目的として平成 28 年度に創刊した季刊誌 CIR Insights を 5 月、7 月、11 月、1 月にそれぞれ発行（各号 500 部印刷）し、学内関連部局への配付・設置を行うとともに、学生・教職員への取組成果の還元を目標に、川内の杜ダイニングにおけるトレイ広告（500 枚/2 週間）を展開した。

- (3) 本学の教育学習活動に係るデータの収集・分析・提供を行うシステムの開発・運用を通して、本学における効果的な意思決定および教育マネジメントを支援する。

①本学における意思決定や教育マネジメントの支援に向けて、「第 3 回東北大学の教育と学修成果に関する調査」の結果に基づいて第 3 回東北大学教育調査研究会を開催し（平成 29 年 7 月 3 日学務審議会後）、調査結果に基づいて本学の卒業・修了生の学習成果に関する自己評価の経年変化について報告するとともに、調査開始当初から一貫して厳しい自己評価を示す「英語運用能力」について英語科目 GPA、TOEFL ITP® 得点、短期留学（SAP）経験の 3 つの指標と紐づけた分析を行い、報告・議論を行った。さらに、平成 29 年 12 月 20 日には英語教科部会 FD において同様の報告を行い、本学の英語教育の改善について議論する機会を得た。また、平成 30 年 2 月には花輪理事を通じて運営企画会議および部局長連絡会議、教育研究評議会において概要の報告を行った。本報告後、複数の部局より調査結果に関しての照会を得た。
②CIR セミナー/ワークショップとして、(1) 平成 29 年 8 月 6 日に CIR ワークショップ「IR データの収集と分析の技法」、(2) 平成 30 年 2 月 14 日に CIR セミナー「教育ビッグデータで教育・学習活動を検証する—大学教育におけるラーニングアナリティクスの可能性—」を開催し、CIR による知見の獲得とその活用・普及を進めるとともに、学内部局との連携を深めた。

(2) 大学教育支援センター

使命

- (1) 国際的な連携を基盤に、大学教育内容・方法開発及び教職員の能力開発を推進するための調査研究を行い、その成果に基づくプログラムを開発し、教育関係共同利用拠点として成果を積極的に学内外へ発信し、日本全体の大学教育改革の推進に寄与する。
- (2) 学際融合教育センターと協働した探求型学習や学際融合プログラムの開発、言語・文化教育センター、グローバルラーニングセンターはじめ、各業務センター及び学内部局・教職員と連携した各種専門性開発活動を行い、全学的な教育改革の推進に寄与する。
- (3) 教育マネジメントを担う教職員の職能開発プログラムを開発・提供し、教育マネジメントの向上に寄与する。

事業内容及び活動状況

- (1) 学習効果高め、教養ある専門人材を育成する大学教育内容・方法の開発、及び大学教職員のキャリア開発のための調査研究の推進

「グローバル社会におけるコンピテンシーを具体化する高度教養教育の開発研究」(代表者羽田貴史, 科学研究費基盤研究 A, 平成 26~29 年度), 「博士課程出身の大学非正規職員に関する探索的研究: 高学歴ワーキングプアか新専門職か」(代表者大森不二雄, 科学研究費挑戦的萌芽研究, 平成 28~30 年度), 「教員のキャリアステージに対応したリフレクションによる教授設計研修プログラムの開発」(代表者今野文子, 科学研究費若手研究 B, 平成 27~29 年度) を獲得, 学内外の研究者と連携し研究及びプログラム開発を行っている。

- (2) 大学教職員のキャリアステージに対応した専門性開発プログラム (PDP) の開発・提供

平成 29 年度の専門性開発プログラムとして, 「高等教育のリテラシー」「専門教育の指導力」「学生支援力」「マネジメント力」の 4 領域において, 計 59 のセミナー・ワークショップを国内外の講師を招聘して企画・実施し, 計 2,742 名の参加を得た。受講者満足度は 4 点中 3.65 であり, 高い評価が得られた。

- (3) 大学教員準備プログラム (PFFP) 及び新任教員プログラム (NFP) の開発・実施

大学教員準備プログラム (PFFP) と新任教員プログラム (NFP) を合同で実施し, 学内外の大学院生・ポストドク・大学教員計 21 名の参加を得た。本プログラムは, 大学教育に関する知識, 実践的スキル, 大学教員の役割及びキャリアについて総合的に学べる内容となっている。具体的には, 各種セミナー・ワークショップのほか, 授業参観, マイクロティーチング, 先達コンサルテーション, 国内他大学訪問調査 (オブション), リフレクティブジャーナルの執筆等, 計 30 時間程度の研修を実施した。また, 平成 22 年度以降の PFFP/NFP 修了生を対象に平成 28 年度に実施した「ユーザー会議」において中長期的視点でのプログラムの有効性を確認できた結果を踏まえ, こうした遅効性の効果を更に検証するためのアンケート調査の開発に着手した。

- (4) アカデミック・リーダー育成プログラム (LAD) の開発・実施

履修証明プログラム「アカデミック・リーダー育成プログラム (LAD: 第一期)」(平成 27~28 年度) に引き続き, LAD 第二期 (平成 29~30 年度) の 1 年目を実施し, 7 大学から 8 名が参加している。本学で集中セミナー (2~3 日間) を 2 回開催し, 9~10 月に国内他大学 3 機関の調査を実施した。集中セミナーでは 10 セミナー・ワークショップを開催し, 高等教育に関する最新の動向・知識を学ぶ機会を提供するとともに, プレゼンテーション/コンサルテーションを通して各参加者の所属組織における課題に取り組む改革案の構造化を支援する機会とした。また, 平成 29 年 4 月 1 日に, 「大学教育人材育成プログラム (EMLP)」(平成 25~26 年度) 及び LAD 第一期の修了者計 14 名の参加を得て, 東北大学東京分室にて全国プログラムユーズ会議を開催した。同会議でのグループディスカッションやインタビューの結果を分析したところ, 特に EMLP/LAD における参加者同士の学び合い, アドバイザーの助言, スタッフによる支援等により, 意識・行動変容が生じている可能性が高いことが明らかとなるなど, 修了後の中期的効果が確認された。

- (5) 専門教育指導力育成プログラム (DTP) の開発・提供

専門教育指導力育成プログラムの一環として, 東京で第 3 回シンポジウム「数理学教育の現代的展開」を開催し, 大学における数学教育の実際に焦点を当て, 先駆的に取り組む 4 機関の実践的報告を行った。ま

た、コロラド大学の全米ベストティーチャー賞受賞教員を招聘し、STEM分野における分野固有の専門性習得に向けた教育研究(DBER)に関するセミナーを提供した。言語教育に関しては、中国語は昨年度に引き続き、北京語言大学への派遣プログラムを実施した。ドイツ語、スペイン語、フランス語及び韓国語についてはセミナー・ワークショップを開催し、学習者はどのように外国語授業を捉えているか、教授法の在り方等について議論を行った。

(6) 大学マネジメント力開発プログラム (SDP) の開発・提供

SDの義務化を踏まえ、「大学マネジメント力開発プログラム」として新たなSDPを開発・提供した。具体的には、新しいSDPシリーズとして第1回「大学の質保証のためのIR/評価マネジメント」及び第2回「大学の研究戦略マネジメント」セミナーを開催した。また、「若手職員のための大学職員論」を計2回開催し、学都仙台コンソーシアムの後援・共催を得て、全国の大学より参加者を得た。

(7) 「PDPonline」におけるPDセミナーの動画配信

開催したセミナーの中から厳選して動画化し、「PDPonline」にてオンデマンド配信を行った。提供動画数は76と前年比1.5倍近くにのぼり、閲覧数も2万1千件を超え、前年度より大幅に増加した。また、各キャリア別プログラムに動画学習を組み込み提供した。

(8) 国際連携を通じた教育関係共同利用拠点事業の高度化

メルボルン大学と東北大学でアカデミック・リーダーに関する共同セミナーを開催するとともに、メルボルン大学副学長及び高等教育専門家による外部評価を実施し、拠点事業全般及び各プログラムに関する意見交換を行い、成果と課題に関する知見を得た。また、カナダ・クィーンズ大学より共同研究員、メルボルン大学より客員研究員、コロラド大学より全米ベストティーチャー賞受賞教員を招聘し、それぞれ大学教育改善に関するセミナーを実施した。

(9) 各業務センター並びに学内部局及び教職員と連携した専門性開発のための諸活動と組織文化の醸成

教育評価分析センターとの共催セミナー2回、グローバルラーニングセンターとの共催セミナー2回、学際融合教育推進センターとの共催セミナー1回、言語・文化教育センターとの共催セミナー6回、保健管理センターとの共催セミナー5回を開催した。また、部局との連携として、教育情報基盤センターとの共催セミナー1回を開催した。

(10) 高度教養教育・学生支援機構の教育関係共同利用に関する業務

教育関係共同利用拠点として、分野別に提供するPDセミナー及びPDPonline、キャリア別に構成されたPFFP・NFP・LAD・SDP、専門教育指導力向上のためのDTP等を体系的に企画・実施している。全てのプログラムは、学内だけでなく全国に開かれており、日本の大学教職員の専門性開発に寄与している。拠点事業の実施に当たっては、学内外の関係者・専門家から成る共同利用運営委員会を組織し、拠点事業のモニタリングと改善を図っている。

また、教職員の能力開発や組織開発など大学教育開発に関するグッドプラクティスの普及や提言を行うべく、平成28年度に設立された「大学教育イノベーション日本(HEIJ)」の代表に大森センター長が就任し、当センターが事務局を務めている。HEIJには平成30年3月時点で、教育関係共同利用拠点15組織、FD関連ネットワーク1組織及び大学の教育開発を担う1組織の計17組織が加盟している。全加盟組織による団体パンフレットを作成し、全国に配布した。HEIJは、第2回大学教育イノベーションフォーラム「大学教育開発の専門性を探る」(平成29年12月11日)を開催し、86名の参加を得た。

(3)入試センター

使命

全学的な各種入試関係委員会との連携のもとに、本学入試の中長期的な企画や改善検討を行うとともに、大学入試センター試験や一般入試をはじめとする入試業務を中核的に担い、また入試広報活動や高大接続・連携事業を企画実施する。これらの活動を通じて、本学アドミッション・ポリシーに合致した優秀な学生の獲得に貢献する。

事業内容及び活動状況

- (1) 本学入試の中長期的な企画・改善検討（入試企画・広報委員会における検討、本学入試・国内外入試の調査研究、追跡調査、受験者・入学者へのアンケート、入試情報の提供、部局への助言・コンサルテーション、国大協・入研協等の外部組織・他大学・高等学校との連携・情報交換）

- ・入試企画・広報委員会にワーキング・グループを置き、広報関連（『大学案内』編集・オープンキャンパス企画等）、AO入試拡大および全学支援体制構築（AO入試Ⅱ期新規参入学部への実施支援）、入学前教育の拡充（英語共通プログラムの導入、学部ごとの教育内容見直し）、平成33年度入試（新共通テスト導入）への対応等の検討を行った。
- ・入学者へのアンケートを例年どおり行い、入学者の動向を分析。回収率は99%
- ・全国大学入学者選抜研究連絡協議会（入研協）、国立大学アドミッションセンター連絡会議等の外部組織開催の会議に参加し、他大学との連携・情報交換を行った。
- ・県内高等学校との連絡協議会を開催し、入試に関する情報交換を行った。
- ・工学部入試検討委員会の委員・オブザーバーとなり、AO入試実施に関わる助言・実施協力を行うほか、文学部や医学部（医学科、保健学科）、歯学部、農学部など各学部のAO入試に関し相談対応・助言、また国際学士コースの入試に関してFGL実施委員会などを通じて助言を行った。
- ・国の高大接続会改革における多面的・総合的評価による入学者選抜を本学においても取り組み、AO入試を定員の30%に拡大する方針に基づき、同拡大戦略に関し入試企画・広報委員会やAO入試懇談会等で各学部と協議、全学支援体制の強化、広報活動の強化等を進めた。
- ・上記入試改革に関する調査研究を実施。シンポジウム（東北大学高等教育フォーラム）を開催し、その成果を本機構「高等教育ライブラリ」として刊行した。文科省委託事業「大学入学者選抜改革推進」および科研費基盤A「高大接続改革の下での新しい選抜方法に対する教育測定論・認知科学・比較教育学的評価」を継続して実施。これらと連動して、国立大学入試問題の分析、記述式問題の高校モニター調査、平成33年度入試に関する高校アンケート調査、外国調査（台湾）等の調査研究を行った。

- (2) 入学者選抜の実施（入試実施本部、入試企画・広報委員会、入試実施委員会構成員）

- ・入試実施本部（センター試験、一般入試前期・後期日程）、センター試験監督、作題班支援
- ・入学試験審議会、入試実施委員会各委員
- ・AO入試Ⅱ期実施(志願者856人、合格者224人) 前年比志願者236人増
- ・科学オリンピック入試実施(志願者1人、合格者1人)
- ・AO入試Ⅲ期実施(志願者904人、合格者282人) 志願者104人増
- ・国際バカロレア入試実施(志願者2人、合格者2人)
- ・グローバル入試Ⅰ期実施(志願者0人、合格者0人)
- ・帰国生徒入試実施(志願者9人、合格者3人)
- ・私費外国人留学生入試実施(志願者92人、合格者19人) 志願者13人増
- ・一般入試(前期日程)実施(志願者5,242人、合格者1,880人) 志願者315人増
- ・一般入試(後期日程)実施(志願者1,398人、合格者113人) 志願者242人増

- (3) 入試広報活動（高校生・高校教員・保護者対象の説明会開催、高校等主催の説明会・相談会への参加、高校訪問・高校教員との懇談会、冊子・ウェブサイト等による入試情報の提供、学内への情報提供）

- ・入試説明会(高校教員対象)を全国21会場にて実施 参加者552人(前年比54人増)
- ・進学説明会(受験生・父兄対象)を4会場(札幌、静岡、東京、大阪)にて実施 参加者1,733人(前年比193人増)
- ・高校の大学見学の対応 72件

- ・民間業者等開催の説明会（高校教員との懇談会含む） 17 件
- ・高校訪問 106 校（入試センター教員 93 校，学部教員 13 校）
- ・東北大学案内の作成 80,000 部発行
- ・AO 入試パンフレットの作成 12,000 部発行
- ・入試センターウェブサイトによる情報の発信

(4) 高大接続・連携事業（フォーラム開催，アウトリーチプログラム，出前事業等の企画・学部支援，オープンキャンパスの企画開催・全学支援）

- ・第 26 回高等教育フォーラム（5 月 12 日）「個別大学の入試改革」参加者 427 人（前年比 72 人増）
- ・オープンキャンパス（7 月 25，26 日）参加者 65,958 人（前年比 1,510 人増）
* H29 年度入学者参加率 54%
- ・高校等主催の模擬授業，入試説明会・相談会に講師を派遣 167 件

(4)言語・文化教育センター

使命

大学教養教育の基盤として広義のコミュニケーション能力獲得と多文化理解は重要な使命であり、自分の母語のみに限定されない総合的な言語運用能力を基盤として、幅広い価値観と世界観を涵養することは国際的なリーダーシップ力の育成にとって不可欠である。豊かな言語活動を実質化させるためには、言語4技能「聞く・話す・読む・書く」の総合力を備えた実践的運用能力の養成が不可欠であり、本センターは、国内外の高等教育機関における言語教授法と言語文化教育カリキュラム編成の在り方に関する調査研究を推進し実践するとともに、具体的かつ実行可能な言語文化教育改善のための提言を行い学生教育に反映することによって、言語文化に関わる教養教育の高度化と更なる発展に寄与することを使命とする。

事業内容及び活動状況

(1) 全学教育「外国語科目」・「日本語科目」および高年次用英語教育カリキュラムを学務審議会との連携のもと企画・開発し、運営する。

- 全学教育「外国語科目」および「日本語科目」においては、学務審議会科目委員会とも連携し、実施方法やシラバスの見直しを進めている。また一部外国語において展開科目として高年次教育への継続を図っている。
- 英語教育では「多読」や e-learning の活用、4技能を伸ばす PDR メソッドの開発、またアカデミック・イングリッシュの指導法について開発を進めている。
- 英語教育では、学生の英語運用能力が多様化してきている現状、特に留学生、帰国子女、英語圏への留学経験者などが増加していることに鑑み、将来的な能力別クラス編成をも見据え、英語教科部会と連携して「上級者用クラス」を設置した。
- 高年次用英語教育カリキュラムの橋渡しとして、Practical English Skills (PES) においてプレゼンテーションスキルやライティング力を高めるための教材、教授法の開発、また実用的な環境で英語力を向上させるために IPLA の留学生との統合的英語クラスの運営を進めている。
- 全学部の1年次学生を対象に実施されている TOEFL ITP テスト[®]について、英語教科部会と協力し、スコアの変化や英語の授業内容との相関性などについての分析を行っている。
- 平成30年度入学生に配布する英語学習ハンドブック「Pathways to Academic English」を作成した。
- 初修語教育では、検定試験対策を目的とした授業の開設（スペイン語、DELE 対策）や実践練習を目的とした夏季・春季集中講座（実践ドイツ語 I・II）の開設、外国人留学生との定期的な交流の実施（中国語、韓国語）など、学生の海外留学などへの対応、実践的言語運用能力の強化や異文化理解の促進などについて幅広い事業を展開しつつある。その一環として、学生および社会人を対象として、定期的に「仏検・DELFL 勉強会」、「韓国語と韓国文化に関する勉強会」および「中国語と中国文化に関する勉強会」を実施した。
- 今後も引き続き、全学教育から高年次教育につながる語学教育の中心的な役割を担っていく体制を構築する。具体的には、スペイン語圏文化の理解のための映画上映、韓国文化講演会などを行っている。
- 高度教養教育開発推進事業の一環として、初年次生向けのライティング教材『東北大学レポート指南書』第2版を開発した。
- 「スペイン語圏文化入門」のリーフレットを作成し、学生のスペイン語学習への動機づけを強化している。
- 東北大学のフランス語を統一するホームページ「東北大学とフランス語」を作成した。

(2) 全学留学生対象「日本語教育プログラム」をグローバルラーニングセンターと連携して企画・開発し、運営する。

- 外国人留学生等特別課程を企画・運営し、のべ約 880 名が受講している。
- 外国人留学生日本語研修コースおよび日韓共同理工学部留学生プログラム（定員：各学期合わせて 30 名）を企画・運営し、研修生の教育指導を担当している。
- 短期留学受入プログラム JYPE（理系）、COLABS（理系大学院）、IPLA（文系）の日本語コースを企画・運営している。
- 平成 28 年度に開始した日本語教育と専門教育のハイブリッド型プログラム「DEEP-Bridge」を企画・

運営している。平成 29 年度の受入数は 53 名（学部生 35，大学院生 18）となり，初年度（40 名）より着実に増加している。

(3) e-learning 環境を改善し，コミュニケーション能力育成のための学習コンテンツを開発する。

- 平成 26 年度に CALL システムの大幅な機種変更が行われ，機能強化が図られたところである。英語だけでなく，初修語における e-learning 環境整備についても検討を開始している。
- 英語 CALL 教育においては，学習者の興味や関心，専門性を図るために，内容重視の英語教育を目的とする，Web 上のオープンソースコンテンツを活用した Authentic メディア教材の開発を進めている。

(4) 外国語教育研究の成果に基づいて，多読，多聴，速読，CALL 教育等の外国語教授法を改善・開発し，実践する。

- 「多読」については，平成 27 年度から補助金を得て，附属図書館本館のグローバル学習室における蔵書の強化を図っているところである。平成 29 年度は多様な学問領域における入門書にあたる図書を精選して整備することで，専門科目の内容を英語で学ぶ環境を作った。
- オンライン学習支援システムを用いて，反転授業を展開し，十分な課外学習時間の確保と 4 技能を伸ばす英語教育の実践（PDR メソッド）を進めている。
- 海外，特に日本と同じ非（または準）英語圏における英語教育の先進的事例についての調査を平成 27 年度から開始したが，平成 27 年度の韓国ソウル大学及び高麗大学への訪問調査，平成 28 年度の香港理工大学，香港中文大学，香港城市大学，香港科技大学への訪問調査に続き，平成 29 年度も香港理工大学，香港科技大学の訪問調査を行った。
- 中国語ブレンディッドラーニング用教科書・指導法，及びスマートフォン利用の復習教材の開発に取り組んだ。具体的には，ブレンディッドラーニング用教科書及び指導法と評価法の具体的な設計手法を明らかにするとともに，東北大学の初修中国語ブレンディッドラーニング用教科書，指導用映像 DVD 教材，評価用各課小テスト及び平成 29 年度から実施されたクォーター制への対応が可能な試験問題を開発した。さらに，これら教材はいずれも，別途課題として新たに開発したスマートフォン利用復習用 e ラーニングシステムと連携するようにした。

(5) 教育評価分析センターおよび大学教育支援センターと連携し，言語文化教育に携わる教員の教育能力を向上させるためのプログラム開発を推進する。

- 平成 29 年度は，各センターと連携して語学教育に関するセミナーを開催した。
- 大学教育支援センターと連携し，英語で実施される授業について，11 月には「効果的な授業運営方法」について，12 月には「発音指導のコツ」について，それぞれセミナーを開催した。
- セミナー「CLIL の理論と実践：ヨーロッパから日本へ発展する新しい学び」を 10 月に開催した。
- セミナー「Professional Development for English Language Teachers」を 3 月に開催した。
- グローバルラーニングセンターとの連携のもとに，学習者が日本語の文法を再構築する過程に関する日本語教育研修会，専門語彙の学習支援に関する日本語教育研修会を開催した。
- 大学教育支援センターと連携し，東北大学専門教育指導力育成プログラムの一環として，外国語教育指導能力の開発支援を目的に，平成 29 年 9 月に「大学フランス語教授法強化講座」を，平成 30 年 1 月に「大学ドイツ語教授法強化講座」及び「大学スペイン語教授法強化講座」を，それぞれ開催した。
- 大学教育支援センターと連携し，東北大学専門教育指導力育成プログラム「中国語を教える大学教員のためのスキルアップコース」の一環として，全国 134 の大学の 15 名の大学中国語教員に対し北京語言大学での中国語教育指導能力の開発支援研修を実施した。

(6) グローバルラーニングセンターと連携し，海外派遣留学プログラム，外国語・コミュニケーション能力教育プログラムの充実化を図る。

- グローバルラーニングセンターと協力し，平成 26 年度の夏から韓国のソウル大学と短期海外研修スタディアブロードプログラム（SAP）を実施するなど Native 教員を通じた海外留学先との連携やプログラム開発への協力を進めている。また，SAP プログラムの支援活動として，グローバルラーニングセンターと米カリフォルニア大学リバーサイド校との共同開発で，「留学準備実践」を開講実施した。
- グローバルラーニングセンターと協力し，教員引率留学プログラム（FL）を実施するなど Native 教員

を通じた海外留学先との連携やプログラム開発への協力を進めている。

- 全学教育と、**Practical English Skills**、グローバルラーニングセンターでの特別講座など英語教育活動への協力と推進を図っている。
- グローバルラーニングセンター及びマンスフィールド財団と連携し、米国モンタナ大学の訪問・調査を行い、大学間協定の締結、共同研究の推進、学生・教職員の交流、単位取得を伴うグローバル・イニシアティブプログラムの開発及び実施を進めている。
- グローバルラーニングセンターと連携して外国人留学生等特別課程（日本語）の授業と合同の形で国際共修ゼミを開講し、国際理解教育を推進している。平成 29 年度は、32 クラスの国際共修ゼミを開講し、受講者のコミュニケーション能力、情報発信力、異文化理解能力等の向上を図った。

(5)グローバルラーニングセンター

使命

東北大学の教育国際化戦略の策定・実行と国際交流活動の推進に中心的な役割を果たす。優秀な留学生の戦略的受け入れ推進と教育・支援プログラムの開発・充実及び多様な海外派遣プログラムの開発・実施，教育の国際化の推進等の実践的活動を通じて，国際的な視野を持ち指導的な役割を果たすグローバル人材の育成に大きく貢献する。また，学内外の連携を強化し，グローバルキャンパス構築に寄与するとともに，広報活動や社会連携を推し進める。

事業内容及び活動状況

- (1) 教育国際戦略の策定・実行のために，国内外における高等教育関連の情報収集，本学の国際競争力やネットワークの拡大を目指した発展的な戦略の策定および大学執行部・他部局への情報提供・提言を行う。学術間交流協定校をはじめとする世界各国の有力校との関係構築・強化・連携を強め，国際戦略に基づいた国際交流活動を実施する。

「東北大学グローバルイニシアティブ」構想の中核の一つをなすグローバル教育基盤整備に関して，グローバルラーニングセンターが開発・実施にあたり中心的な役割を果たしている。

学生の留学希望が多い欧米の大学を中心に協定締結のための大学訪問等を積極的に実施した。

海外拠点の整備について，バンコクの海外代表事務所，ベトナム貿易大学の共同事務所及びカリフォルニア大学リバーサイド校東北大学センターにおいて，短期海外派遣プログラムの実施や留学生のリクルート，同窓会設立補助等，多様な取組みを実施した。研究，教育，管理のそれぞれの分野で，ワシントン大学と東北大学間の国際連携および産学官連携の構築・発展の拠点となる，ワシントン大学東北大学代表事務所 (University of Washington-Tohoku University: Academic Open Space (UW-TU:AOS)) の設置に中核的な役割を果たした。

- (2) 優秀な留学生を獲得するため，多様で魅力的な国際プログラムを開発し，支援を行う。また，留学生支援 (学業・生活支援，就職支援，危機管理，相談等) を充実する。

国際教育院がこれまで担当してきた英語による学士課程留学生プログラム「国際学士コース」の運営や全学教育の実施等を改組後引き続きグローバルラーニングセンターが行ってきた。特に，10名の国費留学生配置枠を得，3コースの協力のもと「理・工・農協働プログラム」を継続実施した。また，ウェブや現地高校訪問等を通じた国際学士コースの広報の結果，優秀な志願者・入学者を確保することができた。英語コースに関する教員に対するアンケートを基に，英語での教育力の向上を支援するPDプログラムを開発し，教育指導に関する改善を図った。

また，JYPEやIPLAプログラム等の英語で教授する交換留学生の受入プログラムについて，留学生課と協力してグローバルラーニングセンターが運営の中核的役割を果たしている。人文社会科学系の受入プログラムにおいて，高度な専門教育に加え日本語・日本文化を集中的に教授するプログラム (DEEP-Bridge) を開発・実施した。大学院生を対象にしてCOLABSプログラムを実施し，世界各地から優秀な大学院生を本学の先進的な研究環境に交換留学生として受け入れている。グローバルラーニングセンターはこのプログラムのとりまとめを行うと同時にこれらの留学生に対しフィールドトリップや各種イベントを実施し，日本および大学への適応を支援している。また，理系・文系それぞれにおいて協定校からの学生を受け入れるサマープログラムを実施している。

これらのプログラムにおいて，グローバルラーニングセンターの教員が留学生に対する学業や生活上での支援や相談業務を行っている。また，本学学生による支援団体を統括し，学生による留学生支援の拡大を図っている。留学生支援は学生相談所やキャリア支援センターなど機構内の組織との連携も図っている。経済支援については，グローバルラーニングセンターが中心となってJASSOへの奨学金の申請を行い，それを留学生の経済支援に充てている。平成29年度通年で外国人留学生数は3,271人に達し，平成32年(2020年)度の達成目標である3,000人を突破した。

- (3) 国際戦略に基づき，質の高い海外研鑽プログラムを開発し，派遣留学者支援，派遣留学促進のための教育・支援を充実させる。

3～5週間の短期海外派遣プログラムである「Study Abroad Program (SAP)」を開発し実施した。今年度は夏休み・春休み合わせ，約290名の学部学生がSAPに参加している。SAPにおいては，語学研修だけ

でなく様々なテーマを設定してのアクティブラーニングや現地の大学生や地域住民などとの交流の場を設けており、質の高い国際経験ができるプログラムとしている。昨年度に引き続き海外体験プログラムを単位化し事前・事後研究の充実を図るとともに、教員引率型の海外研修プログラム(FL)を開発・実施し、79名の学生を派遣した。さらに、ワシントン大学において理工系の大学院生向けの短期海外派遣プログラムを実施した。

交換留学を希望する学生に対して、グローバルラーニングセンターの教員が留学アドバイジングを行っている。交換留学を希望する学生並びに交換留学が決まった学生に対して、留学準備教育を行っている。

SAP,FL や交換留学に対する JASSO の奨学金を獲得する努力を行い、派遣留学参加者の経済的支援に貢献している。また、交換留学における単位認定・単位互換に関するラーニングアグリーメントについて、全学的な導入にも寄与した。

国際共同教育、ダブルディグリープログラムなどの学位取得を目指す学生に対する留学オリエンテーションを行うとともに JASSO の奨学金の獲得による経済的な支援を実施した。

昨年度に引き続き5月及び10月を留学強化月間として留学に興味を持ってもらう様々なイベントを催し、同時に留学に関する情報提供を行った。

本学は平成26年3月にAOII期・推薦入試合格者を対象に国立大学では初めてとなる「入学前海外派遣プログラム」を実施したが、今年度は平成30年3月にカリフォルニア大学リバーサイド校(アメリカ)での派遣プログラムを実施するとともに、工学部と協力してワイオミング大学(アメリカ)でも同様のプログラムを実施した。

- (4) 国際社会でリーダーとして活躍する人材を育成するために、国際教養力、行動力、語学・コミュニケーション力等を育む多様な教育プログラムを開発・実施する。

東北大学グローバルリーダー育成プログラムの責任部署として、プログラムの策定・実施にあたっている。このプログラムは、本学学部生を対象として、語学・コミュニケーション力、国際教養力、行動力を養成する3つのサブプログラムと、海外研鑽サブプログラムからなり、グローバルラーニングセンターは、これらプログラムの方針の決定、指定科目の選別、ポイントの認定、学習アドバイジング、プログラム修了やリーダー認定の判断等多くの事を行っている。平成28年度の登録学生数は2,562名に増加した。また、本プログラムに提供する正課・課外の授業の一部を実施している。特に、外国人留学生と日本人学生が共に学ぶ課題解決型授業「国際共修ゼミ」や、グローバルに活躍する個人や企業人等を招いての「グローバルキャリアセミナー」、グローバルリーダー認定コースの必修科目である「グローバルゼミ」等を実施し、グローバル人材の育成に貢献している。

課外での英語学習の強化のため、平成27年に開設した東北大学イングリッシュアカデミー(TEA)において、課外英語学習講座、英語アドバイジング、TOEFL-iBT、TOEFL-ITPの試験実施などを引き続き行った。特に課外英語学習講座であるTEA's Englishには平成28年度延べ432名の学生が参加した。

- (5) 学内外との連携を強化し、グローバルキャンパスの実現に寄与する。また、本学の教育国際化について積極的な広報活動を行い、広く社会との連携を図る。

各部局の国際交流担当教職員や、東北大学留学生協会(TUFSA)等の学生団体等との学内諸団体との連携を強化している。

世界各国の国際教育・交流教職員が一堂に会す国際学会や協議会(NAFSA, EAIE, APAIE)等に教職員を派遣し、本学の取り組みや調査結果を積極的に情報発信するとともに国際ネットワークの拡大に努めている。

グローバルラーニングセンターのホームページを抜本的に改修し、国内外への訴求力を高めた。また、本学の教育国際化の取組についてリーフレットを作成し、民間企業、保護者等を含む一般の方々への広報活動を行っている。

(6)学際融合教育推進センター

使命

- (1) 世界的な視点で、大学における教養教育のありかたを調査研究し、東北大学の学士課程教育、大学院教育の発展に資する提言を行う。
- (2) 全学教育の分野別教育を開発・提供するとともに、学士課程教育、大学院教育を視野に入れ、各分野内の総合科目（自然科学，人文科学，社会科学，スポーツ），分野を超えて人類社会の課題に応える学際融合型教育科目の開発・実施を行う。
- (3) 学際融合型教育を英語など多言語で提供し、東北大学の教育を国際的視野で推進する。

事業内容及び活動状況

- (1) 人類社会の課題に応える部局横断的な学際融合教育課題・教育プログラムに関わる調査研究とカリキュラムの策定

1. 九州大学基幹教育院で実施されている数理科学教育の実施状況調査および「共創学部」の設立経緯およびカリキュラムの調査を実施した。
2. 教養教育実施組織会議に参加し、第2分科会「学士課程教育の教養教育の在り方・高大接続から専門教育へつながる教養教育の体系化」に参加し、意見交換をおこなった。
3. 鹿児島大学における英語教育および全学教育改革の経緯と現状調査を実施した。
4. 香港大学・香港科学技術大学・嶺南大学を訪問し、2014年から始まる香港の高等教育における4年制への移行期に実施されたコアカリキュラムを中心とする教養教育カリキュラム改革の現状に関する訪問調査を実施した。
5. 国際研究集会「高水準の数学的リテラシーのための大学数学教育」に参加し、国内外の数理科学教育の現状を調査した。
6. 東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会において、第3分科会「授業開発・学習支援の新たな取組と可能性」を担当した。

- (2) 学部から大学院にいたる学際融合型授業の開発推進

1. 部局横断型の自然科学総合実験，文科系のための自然科学総合実験，英語による自然科学総合実験（国際学士コース）を実施している。受講者はそれぞれ1700名，54名，31名を受け入れた。
2. 学際連続セミナー「インフォグラフィックス」を3回開講し、のべ90名の参加者を受け入れた※コーディネーター：中村教博（代表，高教機構）・山内保典（同機構）・中川学（同機構）
3. 平成29年度の開講科目として、「ビッグヒストリーで紡ぐ社会と自然科学（基幹科目）」、「遊学：ためしで、つないで、ふりかえる（カレントトピックス科目）」、「スポーツとコーチングの融合（カレントトピックス科目）」、「アジアを知ろう，感じよう（カレントトピックス科目）」を開講し、受講者はそれぞれ78名，10名，60名，30名を受け入れた。さらに、学部3・4年生対象の高度教養教育科目としては「みせる，学び：大学で何を学んだの？」を開講し、受講者8名を受け入れた。
4. 全学教育の基礎ゼミにて「フィクションで正義を考える」，「フィールドワークの日本史」を開講した。
5. 全学教育の基幹科目にて科学技術社会論を扱う「社会の中の科学技術」，研究倫理を扱う学際融合教育科目「あなたの選択：事例で考える研究倫理」，展開ゼミ「汎用的技能ワークショップ：認知的能力」を開講した。

- (3) 教育プログラムの実施に必要な実装組織の構築

平成27年度から学務審議会に設置された「高度教養教育開発検討ワーキング・グループ」において、3名の所属教員がグループメンバーとして改革に従事し、提言書を学務審議会に提出した。

(7)学習支援センター

使命

- (1) 学生の主体的・自律的な学習を実践的に促進・支援し、研究大学で学ぶ学生が習得すべきコンピテンシーを育成する。
- (2) 初年次教育や学習支援に関する国内外の動向を調査研究し、大学における学習支援の質的向上に寄与する。
- (3) 教職員・学生の中に「学び合い」文化を醸成し、学習共同体（ラーニング・コミュニティ）の形成に寄与する。

事業内容及び活動状況

- (1) スチューデント・ラーニング・アドバイザー（SLA, Student Learning Adviser）制度の運用を基盤とした学習支援の開発・実施

本センターの提供する学習支援の主要事業が、SLA, Student Learning Adviser による学習支援である。SLA とは本学学生による学生のための学習支援スタッフを指し、主に学部生の授業時間外の学習に対する支援を行っている。2017年度のSLA数は、前期51名、後期は45名であった。うち2016年度中に新規採用したSLAは17名である。

このSLAによる学習支援は大きく、①理系科目の学習支援、②英会話支援、③ライティング支援、④科目を超えた学習企画の実施に分けられる。2017年度の利用者数は延べ1620名、1活動日あたりの利用者数は11.2名であった。

①理系科目の学習支援は、質問受付カウンターでSLAが学生への学習支援にあたる個別対応型を中心としている。平日2限から5限の一部の時間帯に、ドロップイン（予約不要）の形態で、個別もしくはグループでの質問を受けるという窓口対応を行っている。また、OJTやOff-JT、学生対応の標準化と研修機会の拡充を通して学習支援の質向上を推進した。2017年度の利用者数は延べ800名、実数では240名で、利用者アンケートの総合満足度は平均96.6点（回答者447名）であった。

②英会話は「英会話カフェ」を通して、利用学生の多様なニーズに応じた学習支援を行った。SLAの学生対応力の向上を図り、学習支援の質保証を図った。英会話支援の2017年度の利用者数は延べ472名、実数で108名、利用者アンケートにおける総合満足度は平均97.2点（回答者357名）であった。

③ライティング支援としては、個別対応型の支援のほか、『東北大学レポート指南書』に準じたアカデミックスキルセミナー「レポート指南書入門ゼミ」を実施した。また、留学生への日本語ライティング支援の拡充を図った。ライティング支援の2017年度の窓口利用者は延べ103名、セミナー参加者延べ88名であった。

④学習企画実施については、2016年度に新設した「企画担当SLA」により運営体制を強化し、新入生を対象とした企画「SLA雑談会」、哲学カフェ「考えるソファ」、留学生を対象とした日本語カフェのほか、「チャレンジボード」、「コタエテ！SLA」など掲示・常設型の学習支援を開発・実施した。（※実績値は（4）に後掲する。）

- (2) 学習支援の組織開発および支援者育成システムの開発・実践

2017年度は、SLA制度を基盤とした学習支援事業の運営体制の確立を図った。SLAの日常的な業務や実践の中で蓄積されていく知見をセンタースタッフの間で効果的に共有する環境を整備し、学習支援の質の向上に資する教育プログラムの開発・実践と組織体制を構築した。

「シニアSLA」制度の運用を定着させ、部会活動やメンター制度、その他のOJTの仕組みも合わせて、SLA同士の自律的な研修・育成システムを運用してきた。特に理系科目支援を中心として、SLAによる学生対応方法を標準化すると共に、日常的な学生対応についてSLAが相互に検討し合う雰囲気醸成できた。

また、当該年度には、科目の枠組みを超える学習支援体制の強化を図る目的で前年度に新設した「企画担当SLA」の活動の基盤を整備することができた。多様な学習情報の発信や企画の実施を通して、学生の各種コンピテンシーの向上や学問に対する興味を喚起すると同時に、他の担当SLAとも交流・連携することにより、SLA同士の自己研鑽や企画発信の新しいアイデア創出に好影響をもたらすことができた。

- (3) 情報還元による正課カリキュラムの改善・充実への貢献

前年度に引き続き、学務審議会において、センターの利用状況・活動報告を行った。

その他、理系の初年次基礎科目を中心として、学習支援センターに集まる学生の学修情報を担当教員に効果的かつ効率的にフィードバックするシステムを設計・試行し、データを学内限定でホームページ上に公開した。担当教員・担当委員会との密な連携を前提としたフィードバックの方法には、業務の効率性の観点から多くの課題がある点が明らかとなり、本年度は全理系科目において、センターにおける質問事例の蓄積方法および活用方法の見直しを図ると同時に、データのフィードバック方法についての見直しを図った。

(4) 正課カリキュラム外における学生の自主的な学習の支援・促進

学生の学習意欲の向上や教養への興味喚起、正課カリキュラム外での学習活動推進を図るため、SLA による学習支援活動を中心に、様々な学習企画や学習支援活動を実施した。

学習企画実施については、2016 年度に新設した「企画担当 SLA」により運営体制を強化し、2017 年度は、新入生を対象とした企画「SLA 雑談会」（4 月計 6 回開催、参加者延べ 16 名）、哲学カフェ「考えるソファ」（前期 2 回、後期 5 回開催、参加者延べ 29 名）、留学生を対象とした日本語カフェ（11 月以降、計 17 回開催、参加者延べ 17 名）のほか、「チャレンジボード」、「コタエテ！SLA」など掲示・常設型の学習支援を開発・実施した。

また、ライティング支援として、『東北大学レポート指南書』に準じたアカデミックスキルセミナー「レポート指南書入門ゼミ」を企画し、定期開催した。この「レポート指南書入門ゼミ」は、『東北大学レポート指南書』の章立てに概ね対応した全 5 回で構成される。同一週内で同一回を複数実施し、各クォータ期間内に全 5 回が完結するように開催した。実施回数は合計で 47 回となった。参加者は延べ 88 名、参加者アンケートの総合満足度は平均 89.5 点（回答者 58 名）だった。

他には、前年度同様、教務課と連携して正課外で自主的に学習活動を行う「自主ゼミ」に対して活動場所を提供した。

(5) 学内外における学習支援ネットワークの構築

学内では、機構内の教員の協力を得て SLA 研修を実施したほか、附属図書館からは各種イベントの広報に協力・支援を得た。また、留学生への学習支援に関して、グローバルラーニングセンターとの協議の場を設けた。

学外との学習支援ネットワークとしては、企画担当 SLA の研修として関西大学主催のワークショップ・活動報告会に参加したほか、本学、福島大学、北海道大学の 3 大学合同で、学生学習支援スタッフ研修を開催した。その他、学外講師を招聘して「CLS 学びの転換セミナー」を開催した。これは SLA 研修を兼ねた一般公開型のセミナーで、年間に計 2 回開催し、参加者は延べ 95 名だった。

(8)キャリア支援センター

使命

- (1) 学部・大学院全体に対するキャリア支援を充実し、東北大学の学生が大学での学びを基盤に社会に巣立ち、生涯にわたって発達し、社会に貢献できるように支援する。
- (2) 就職動向や就業実態、大卒者のキャリア発達など進路選択に関する情報収集・調査研究を行い、各種のキャリア支援・就職支援に活用する。
- (3) 学生個人に対する相談業務を通じて、学生が進路選択を適切に行えるよう支援する。
- (4) 学生相談・特別支援センター、グローバルラーニングセンター及び部局等との連携を強化し、情報共有を進め、東北大学全体のキャリア支援力を向上させる。

事業内容及び活動状況

- (1) キャリア教育としての正課教育の改善・充実に努める。学士課程教育から大学院教育にわたり、学生の成長・発達の節目に対応し、自らのキャリア・デザインを構築する機会を提供するために正課教育を充実させていく。

平成 29 年度はキャリア教育科目として全学教育で 7 科目を開講した。フィールドワークを取り入れた PBL 科目「フィールドワーク実践：地域とビジネス」の平成 28 年度新規開講に続き、平成 29 年度には授業時間外の活動を組み込んだ「ライフ・キャリアデザイン D」を新たに開設するなど、体系的整備を進めている。

また、経済学研究科でのキャリア教育科目実施に引き続き協力するとともに、学部・大学院と連携したキャリア教育科目の開講に向けた取り組みを継続し、29 年度には文学部と生命科学研究所で授業科目やその一部として新たにキャリア教育科目を実施した。

- (2) 部局と連携し、正課外としてのキャリア支援の改善・充実に努める。学生個人の発達課題に対応したキャリア相談、就職相談等個別対応を重視し、進路・就職ガイダンス、キャリア支援セミナー、業界仕事研究講座、キャリア・就職フェアなどを企画・実施し、学生の出口支援の充実に努める。

学部 1・2 年次学生から大学院学生までを対象とした「キャリア支援プログラム」を実施している。大人数のセミナーから少人数のワークショップ、個別相談まで、幅広いテーマのプログラムを多様な実施形態で提供している。29 年度は、セミナー 32 回（参加学生数延べ 2,115 名）、ワークショップ 15 回（同 188 名）、キャリア就職フェア 6 日間（同 7,032 名、参加企業数 250 社）など。また個別相談では、3,237 件（川内）、51 件（新宿）に対応した。首都圏で就職活動やインターンシップを行う拠点として新宿ラウンジを本学学生の利用に供し、延べ 2,434 名の利用があった。また、部局等で開催されるセミナーや F D 等に講師を派遣するなどの協力も行っており、部局との連携強化を図っている。

- (3) 研究科と連携・協力し、学部から大学院への選択・移行・適応を適切に行えるプログラムを開発し、実施する。

大学院進学は進路形成における主要な選択肢の一つであり、大学院生や大学院進学希望者を対象としたセミナー等を主催した。また、各学部・研究科におけるセミナー・ガイダンス等への講師派遣や、キャリア教育科目の実施協力などを通じて大学院進学希望者や大学院からの就職希望者への支援充実に取り組んでいる。生命科学研究所では、高度教養教育開発推進事業を活用して「キャリアデザインセミナー」を新規開講した。テーマごとに個別の単位認定セミナーとして自由な選択を可能にすることや、講義動画を ISTU 上で視聴可能にすることなどにより、大学院生が研究と進路選択への準備を両立できるよう新たな形態で実施したプログラムとなっている。

- (4) 大学院後期課程を主な対象としたイノベーション創発塾を拡大・推進し、社会が求める博士課程修了者の幅広いキャリア支援プログラムを開発・実施する。

「イノベーション創発塾」を開講し、様々な問題を俯瞰した上で自ら課題を設定・解決できる人材の育成に取り組んだ。イノベーションスキルやマネジメントスキル、社会人基礎力、グローバルコミュニケーション力等の効果的向上を図るためのプログラムを展開した。平成 29 年度の卒塾者は 36 名（リーディング大学院 9 名、他大学 1 名を含む）。

また、中長期インターンシップの推進や、専門スタッフによる個別面談、博士・ポスドクのための Job Fair

の開催等のキャリアパス支援を通じて、博士人財の産業界への輩出を推進するとともに、安心して博士後期課程に進学できるよう出口支援の充実を図っている。平成 29 年度は、中長期インターンシップへの参加学生数 13 名、個別面談 312 回実施（青葉山）、Job Fair への参加学生数 77 名（他大学 6 名）および参加企業数 40 社、インターンシップ交流会への参加学生数 70 名、企業数 13 社であった。

さらに、文部科学省「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業 連携型博士研究人材総合育成システムの構築事業」において北海道大学や名古屋大学と連携して「イノベーション創出人材連携育成プログラム」にも継続して取り組んでおり、博士後期課程学生やポスドクを対象としたキャリア支援の充実を進めている。

- (5) 進路選択に関する情報提供の充実を図る。全学の学生がすべてのキャンパスで等しく進路・就職に関する情報が得られる、ワンストップの支援体制（支援環境）を整備する。

多様な学生の多岐にわたるニーズに対し、進路選択に関する情報を各学生のメインキャンパスにかかわらず均等かつ速やかに提供するため、電子メールや SNS、ホームページを活用した情報提供の充実を進めている。キャリア支援センターホームページは、ワンストップの支援体制を支える重要な柱のひとつとして位置づけており、川内と青葉山のスタッフが連携して運用している。キャリア支援プログラムの開催案内や学内アルバイト情報を配信しているメーリングリストへの平成 29 年度の受信登録アドレス数は 1,058、Twitter フォロワー数は 2,807 名であった。また、キャリア支援センターの PC 利用学生数は 297 名、書籍貸出件数は 919 件であった。

- (6) キャリア支援に関する専門的知見を高め、特にキャリア支援担当者としての資質を高める専門性開発を重視する。

キャリア支援に関係する教職員のスキル向上を目的とする研修を実施し、13 の部局等から 43 名の教職員が参加した。

また、『教職員用キャリア支援ガイド』を制作し、全部局に配布した。

- (7) 学内外の組織・機関と連携し、日本での就業を希望する外国人留学生に対する進路・就職支援を進める。日本語や就業に必要とされるスキル・能力の形成支援を強化する。

平成 29 年度に採択された文部科学省委託事業「留学生就職促進プログラム」の実施計画に従い、プログラムの遂行にあたった。キャリア支援センターでは、本プログラムのために構築された東北イノベーション人材育成コンソーシアムの事務局を務めるとともに、学内外の組織・機関と連携しながらプログラムの実施を進めている。平成 29 年度後期には第 1 期生として 4 大学（東北大学・東北学院大学・東北工業大学・宮城学院女子大学）の 45 名の学生が受講を開始した。

(9)学生相談・特別支援センター

使命

「すべての学生がその学びと成長のプロセスにおいて、本学での経験から最大限の利益を引き出すことができるように、学生および大学コミュニティへの支援を行う」ことを目指して、大学教育の一環としての学生支援において核となる役割を担い、学生の人間形成の促進および大学の学生支援力の向上に寄与する。

事業内容及び活動状況

(1) 相談援助活動

学生相談所及び特別支援室への来談学生(留学生を含む)への個別支援,教職員および家族へのコンサルテーション,来談者間の交流支援等

<学生相談所>

- 学生相談所への来談学生に対して個別面接を通しての支援を行っており,必要に応じて指導教員や事務職員と連携している。また,学生の生活指導に関連して教職員や学生の家族からの相談にも応じている。平成 29 年度の学生相談に対する個別支援:来談者数 744 名,対応回数 5,415 回(星陵キャンパスでの出張相談も含む)。
- 受付兼インターカーの職員が,待合室兼グループ室を居場所として利用している学生に対する働きかけや学生間の交流支援を行っている。こういった活動も学生が相談しやすい環境整備に有用であり,また相談業務の大きな支えになっている(平成 29 年度:利用者数延べ 237 名)。
- 平成 26 年 12 月から星陵地区での相談対応を開始しており,他キャンパスとの相談業務の連携を図っている。星陵キャンパスでの出張相談:来談者数 11 名,相談回数 49 回。
- 平成 28 年度より留学生に対する英語でのカウンセリングを開始しており,平成 29 年度は 44 名の留学生からの相談があった。

<特別支援室>

- 入試時における特別措置申請のあった学生や,修学上のつまずき等を契機に来談した学生について,特別な支援が必要と判断された場合,個別面接を行うと同時に,授業担当教員や教務担当事務職員と連携しつつ支援を行っている。また,学生への関わりや支援等に関する教職員・家族からの相談にも対応している。平成 29 年度:来談者 100 名,対応回数 2,265 回。
- 障害のある学生への個別支援,オープンキャンパス来場者のための情報保障や移動支援,キャンパスバリアフリーマップの作成等のために,学生ピアサポーターの募集・養成を行っている。新規・継続を含む平成 29 年度のサポーター登録者数:29 名。
- 障害のある学生 18 名について,部局と特別支援室との協働により合理的配慮の提供を行い,その打ち合わせや協議等において合理的配慮の考え方や合理的配慮提供の流れを部局教職員に説明し,平成 28 年度に策定された合理的配慮の手順に関する理解の促進を図った。

(2) 予防・教育・広報活動

授業の担当,全学 FD・部局 FD の担当,部局オリエンテーション・パンフレット等での広報活動等

- 学生相談・特別支援センターのスタッフ全員の担当で,全学教育科目「学生生活概論ー学生が会う学生生活の危機と予防」(第 1 クォーター)を開講した。
- 特別支援室のスタッフを中心に,障害学生支援に関する啓発及び学生ピアサポーターの養成を目的に,全学教育科目の授業(「障害と社会・大学」(第 2, 第 4 クォーター)を開講し,計 26 名が受講した。
- 全学 FD として,学生生活支援審議会 FD を年 4 回実施している。平成 29 年度は,ハラスメントに関するテーマ 1 回,学務審議会との共催での障害学生支援に関するテーマ 1 回,留学生支援に関するテーマ 1 回,セクシャルマイノリティや薬物問題に関するテーマ 1 回を実施した。加えて,SD(教務系職員実務研修),部局 FD において,学生支援やハラスメント,障害学生支援に関するテーマでの講演を実施している(平成 29 年度:合計 13 回)。
- 全新入生に対して学生相談・特別支援センターのリーフレットを配付して広報に努めると同時に,新入生特別セミナーや部局オリエンテーションにて学生相談・特別支援センターの利用案内等を行っている(平成 29 年度:合計 21 回)。また,メンタルヘルスやハラスメント防止に関するテーマで,部局と連携した学生対象の講演会を実施している(平成 29 年度:8 回)。

○ 工学部・工学研究科の学生支援連絡会議への出席，理学部・理学研究科のキャンパスライフ支援室との随時の連絡・情報共有により，部局の学生相談・学生支援担当部署との連携を図った。

(3) 調査・研究活動教育活動

学生相談および特別支援の実践法および学生支援活動に関わる研究

○ 学生の心身の健康状態や大学生活への適応の把握を目的とした全学生対象調査を実施し，結果に応じて個別支援につなげた。平成 29 年度：調査の回答者数 11,108 名（回収率 61.7%），そのうち，大学生活への不適応ハイリスク群が学部新生で 168 名，学部 2 年生以上で 376 名おり，PTSD ハイリスク群は 315 名であった。

○ 学生相談及び特別支援の実践に基づき，以下のようなテーマでの研究を行った。

- ・休学者・復学者への支援に関する研究
- ・学生相談における親・家族からの相談の特徴に関する研究
- ・学生相談カウンセラーの成長支援としての OJT に関する研究

(4) 大学としての学生支援施策および危機管理への貢献

学内委員会等を通じた提案，特別支援を含む学生支援に関する貢献，ハラスメント全学学生相談窓口における相談対応

○ センター教員は，学生生活支援審議会，男女共同参画委員会，東日本大震災学生ボランティア活動支援運営委員会，ハラスメント全学防止対策委員会専門委員会の委員を務めている。

○ ハラスメント全学学生相談窓口相談員として，来談者への個別支援等を行っている。平成 29 年度：相談件数 13 件，対応回数 36 回。

○ 聴覚障害や視覚障害，肢体不自由の学生等の支援に関して，支援機器の整備・活用，設備・施設の改善等に部局と連携しつつ取り組んでいる。平成 29 年度は，川内北キャンパスのアクセシビリティ調査，地下鉄川内駅から UH 片平まで及び地下鉄青葉山駅から薬学部までのアクセシビリティ及び安全な動線の調査を行ったほか，学生ピアサポーターの協力を得て，片平キャンパスのバリアフリーマップを完成させた。

(5) 他大学の学生支援活動との連携および地域連携

他大学等における講演，学生相談・特別支援担当者間の研究会の実施

○ 他大学等の依頼を受け，FD 等においてハラスメントや障害学生支援に関する講演を実施した（平成 29 年度：7 回）。また，第 55 回全国学生相談研修会の講師を務めた。

○ 九州大学，長崎大学と医療系の学部で学ぶ障害学生への支援体制についての情報共有・協議を行った。

○ 仙台学生相談事例研究会，全国高等教育障害学生支援協議会第 3 回大会，第 8 回発達障害学生修学支援体制構築に関する合同研究協議会，みやぎ学生相談連絡協議会に出席した。

(10)保健管理センター

使命

保健管理に関する専門的業務及び専門的調査，研究を行い，本学における学生の健康教育及び健康の保持，増進を図ることを目的とする。

事業内容及び活動状況

(1) 保健業務の実行についての企画，立案

- 1) 定期健康診断を企画・実施した。
- 2) 特殊健康診断（放射線取扱学生特殊健康診断，有機溶剤特定化学物質取扱学生特殊健康診断，VDT 作業従事学生特殊健康診断，結核検診）の企画・実施。一昨年度から医学的な理由により，ツベルクリン反応を用いた結核検診を廃止し，秋胸部X線検診を導入した。
- 3) 健康科学セミナーを企画・実施した。（年5回開催）
- 4) 健康科学講演会を企画・実施した。（年1回開催）
- 5) 禁煙外来を企画・実施した。

(2) 保健管理についての専門的調査，研究

- 1) 学生の尿検査異常からみた改善すべき生活習慣について調査を実施した。
- 2) 若年化の進む心血管病発症年齢の新しい機序解明と予防法の開発を継続して行った。
- 3) ライフスタイルと肥満・高血圧・喫煙習慣の関連について調査・解析を行った。
- 4) 学生の難病に関する病因・病態・治療に関する研究について継続して行った。

(3) 健康教育に関する専門的業務

- 1) 宮城県内の大学保健施設教職員を対象とした「健康科学セミナー」を5回実施。（第1回：保健管理に関わる最近の話題（木内），第2回：適応障害について（伊藤），第3回：糖新生臓器としての腎臓の役割（小川），第4回：頭蓋顎顔面の形態異常と歯科矯正治療（北），第5回：心臓と血管の老化（佐藤）。
- 2) 全学教育「体と健康 I X」を担当した。
- 3) 健康科学講演会にて「ストレスとの上手なつきあい方」（伊藤）を講演した。

(4) 健康診断及びその事後措置

- 1) 定期健康診断を4～5月に実施（受診率75.5%），事後処置を必要とした学生は1,799名であった。事後処置として精密検査及び健康教育，さらに必要に応じて大学病院などへ紹介を行った。（1次受診者数13,769人）
- 2) 6・12月に放射線取扱学生特殊健康診断，7・11月に有機溶剤・特定化学物質取扱学生特殊健康診断，10月にVDT作業従事学生特殊健康診断，11月に秋季胸部X線検診を実施した。（特殊健康診断受診者数総計6,823人）
- 3) 健康診断証明書の発行（2,147通）

(5) 5保健室（川内地区，片平地区，星陵地区，青葉山地区，雨宮地区）における健康相談，メンタルヘルスケア及び救急措置

- 1) 川内地区では，月～金の午前・午後に医師による健康相談，救急措置を実施し，火・木・金の午前・午後に精神科医師によるメンタルヘルスケア，火・金の午前と月の午後に歯科医師による健康相談，月～金の午前・午後に管理栄養士による栄養相談を実施した。また，片平地区では金の午後，星陵地区では木の午後，青葉山地区では火の午後，新青葉山地区では月・水の午後に医師による健康相談，救急措置を実施した。（総健康相談回数は4,721回）

(6) 学内の環境衛生及び感染症予防の措置についての指導援助

- 1) 鳥インフルエンザ，インフルエンザ，感染性胃腸炎に関する注意喚起の掲示を行った。
- 2) 大学寮におけるインフルエンザ対策，ウイルス性胃腸炎対策を行った。
- 3) 輸入感染症の対応を2件行った。

(7) その他健康の保持，増進についての必要な専門的業務

- 1) 東北大学の結核対策について検討し，研究生を対象とした期間外検診システムを構築し，試験的に実施した。
- 2) 各種大学行事への医師・看護師の派遣・対応を行った。(各種入学試験，入学式，新入生オリエンテーション，北雄杯駅伝大会，オープンキャンパス，キャリア就職フェア，学位授与式，大学祭，深夜マラソンなど)
- 3) 学生定期健康診断の IT 化を継続的に検討し，定期健康診断システムに改良を加えた。

(11) 課外・ボランティア活動支援センター

使命

本学学生の社会性を涵養し、主体的な問題解決能力を備えた指導的人材を育成するために、学生の自主的な課外・ボランティア活動を総合的に支援するとともに、社会貢献型の体験学習を実施し、学生の心身の健康増進に寄与する。

事業内容及び活動状況

(1) 本学学生の自主的な課外活動、文化やスポーツ・ボランティア活動の総合的な支援

平成 29 年度に本学学生の自主的なボランティア活動や課外活動の支援として、以下を実施した。

1. 東北大学生に対するボランティア活動への参加や震災学習の機会の提供

(1) ボランティア・フェアの開催

学生ボランティア団体や NPO 等がブース形式で出展し、東北大学生にボランティア活動の紹介を行うボランティア・フェアを開催した。本年度は、例年参加者の少ない 2 月の開催は中止し、4 月・7 月・11 月の 3 シーズン開催としたが、参加者総数は例年並みであった。

4 月：7 日間 (194 名参加)、7 月：3 日間 (51 名参加)、11 月：3 日間 (37 名参加)

計 13 日間：のべ 282 名参加

(参考：これまでの実績)

①平成 24 年度：11 日間 (222 名)、②平成 25 年度：11 日間 (175 名)、③平成 26 年度：13 日間 (297 名)、

④平成 27 年度：11 日間 (297 名)、⑤平成 28 年度：16 日間 (290 名)

(2) 広報誌 Volunteer Seminar Journal の発行

東北大学生を対象として、ボランティア活動に関心を持ってもらうため Volunteer Seminar Journal Vol.12 (3000 部) を 4 月 1 日に発刊した。

(3) 東日本大震災関係のボランティアツアー・スタディツアー等の開催

学内で被災地やボランティア活動に関心を持つ学生を募集して行うボランティアツアー等を、センター主催・共催の形式で 41 回開催し、のべ 433 名の学生が参加した。これは、学生ボランティア団体が定期的に行う被災地での活動以外に、「初めて被災地に行ってみたい」、「ボランティア活動に挑戦してみたい」という学生のニーズに応えるものである。

ここに以下で紹介する学生ボランティア団体独自の活動 (計 62 回、のべ 518 名参加) および留学生対象の被災地ツアー (計 5 回、のべ 111 名参加) を合算すると、計 108 回、のべ 1,062 名の東北大学生がボランティア活動に参加しており、年々、ボランティア活動に参加する学生数は増加している。

(4) 震災以外のボランティア体験プログラムの開発・実施

震災関係以外のボランティア活動を推進するため、学生スタッフ対象の見学や学習会を定期的で開催した (見学先：さっと日本語クラブ、仙台自主夜間中学、仙台夜まわりグループ等)。

また、8 月には初めての試みとして「子どもの貧困問題解決に向けた取組に学ぶボランティア体験プログラム」(TGL ポイント対象、20 名参加) を実施し、日常の多様なボランティア活動への参加機会の提供を行った。

さらに 2 月には、義務教育段階の学びなおし支援を行う団体に参加する「仙台自主夜間中学ボランティア体験プログラム」(10 名参加)、3 月には、「障がい児・者との共生に向けたボランティア体験プログラム」(8 名参加) を実施した。

(5) 熊本地震被災地および秋田豪雨被災地支援

前年度に引続き、ボランティア支援学生スタッフ SCRUM の学生及びセンター教員を中心に、計 4 回 (6 月 8 日～11 日、8 月 20 日～24 日、12 月 7 日～10 日、2 月 25 日～3 月 1 日) の熊本現地派遣を行い、熊本大学や熊本県立大学の学生と連携しながら仮設住宅等での被災者支援活動を行った (のべ 23 名参加)。

また、隣県での緊急災害時に被災状況やボランティア情報の収集を行い、本年度は 7 月 22 日に発生した秋田豪雨災害被災地への学生ボランティア派遣を行った (2 名参加)。

(6) 学内にて東日本大震災の経験や教訓を学ぶ機会の提供

本学内において東北大学生が東日本大震災の経験や教訓を学ぶ機会を提供するため、4 月 13 日に東日本大震災語り部講演会「陸前高田市 3.11、そしてこれから」(釘子明氏) を開催した。

また、11月、1月、3月の3回、学生スタッフと震災遺構に関する視察を行うフィールドワークを行った。
さらに、1月23日～2月20日まで附属図書館の展示スペースにて「東日本大震災後の学生ボランティア活動」と題したパネル展を開催した。

(7) 留学生と国内学生が被災地で共に学ぶボランティアツアーの実施

留学生と国内学生が被災地で共に学ぶボランティアツアー等を開催した。SCRUM 国際部の学生を中心に留学生団体とも連携しながら、6月に1回（留学生11名、国内学生8名参加）、11月に2回（留学生17名、国内学生13名および留学生15名、国内学生9名参加）、12月に1回（留学生13名、国内学生8名参加）、2月に1回（留学生14名、国内学生3名）、宮城県内の被災地でボランティア活動を行うツアーを開催した。

また、5月に留学生に被災地の状況を伝えるワークショップを開催し、10月には留学生オリエンテーションに参加する等、留学生が被災地の課題を学びボランティア活動に参加する多様な機会の提供を行った。

(8) ボランティア支援学生スタッフの育成、研修の実施

東北大学における学生の自発的なボランティア活動の活性化を推進するために、ボランティア支援学生スタッフ（愛称 SCRUM）を育成した。4月に3回のスタッフ説明会を開催し、継続も含めて64名がスタッフ登録し、センターの業務に参画した。

学生スタッフのボランティア・コーディネーターとしての力量形成のため、研修合宿及び集中会議を5月・10月・3月の計3回開催し、被災地ボランティアの課題やボランティア・リーダーとして必要な知識を学ぶ機会を提供した。また、センターの実施事業や学生のボランティア活動に関する連絡・相談を行うミーティングを計29回開催した。さらに、震災伝承に関わる学習会を計18回、人権課題に関わる学習会を計19回開催し、震災及び人権に関わる知識の提供を行った。

(9) 学生スタッフ及びボランティア団体の学生が成果報告を行う機会を提供する。

- ①11月の世界防災フォーラムにて学生ボランティア団体から4名の学生が英語で報告した。
- ②防災推進国民大会2017においてセンター主催のセッション「震災の記憶を伝え、災害を防ぐための大学生と地域の連繋」を開催し、学生2名が報告し、約40名が来場した。
- ③12月に本学教育学研究科の震災子ども支援室主催のシンポジウムで6つの学生ボランティア団体が報告した。
- ④2月に復興庁主催の「NPOと学生がつながろう！～持続可能なコミュニティ支援活動のために～」に学生6名が参加し、報告を行った。
- ⑤3月に東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）が主催する「第2回JCN復興サロン～震災から7年、東北で活動をする学生と社会人に聞く～」にて3名の学生が報告を行った。

2. 学生ボランティア団体の支援

(1) ボランティア登録団体への支援

ボランティア団体登録制度を設け、本年度は9つの学生ボランティア団体が登録を行った（昨年度は5団体）。このうち、本年は8団体がこれまでの活動実績を評価され、学友会にも登録した。これらの団体に対しては、より良い活動を行えるよう、倉庫の提供、会議室の貸し出し、備品の貸し出し等を行った。また、学生ボランティア団体が利用できる助成金や学内外の関連イベント等の情報を随時提供した。

なお、本年度は学生ボランティア団体が自立性を高め、自主的な活動が増加した。本センター主催・共催以外に学生ボランティア団体が独自に行なった活動（学生支援課に届け出のあったもののみ）は計62回であり、のべ518名の学生が東日本大震災関係のボランティア活動に参加した。

(2) 学生ボランティア団体連絡会議（井戸端会議）の開催

学生ボランティア団体の連絡会議（通称・井戸端会議）を計10回開催し、情報交換や課題の共有、コラボ企画の発案、助成金情報の提供等を行った。本年度は、3月27日に拡大版井戸端会議として、ボランティア団体間の交流会を開催した。

(3) 課外・ボランティア活動研修会の開催

本年度より新たに、学生ボランティア団体および学生スタッフが安心・安全により良い活動を行うことを支援するために、課外・ボランティア活動研修会を計4回開催した。テーマとしては、課外・ボランティア活動上の危機管理（5月30日）、セクハラ・性暴力防止（6月20日、講師：八幡悦子氏）、メンタルヘルス（10月17日、講師：高橋由佳氏）、会議のファシリテーション（12月5日）を取り上げた。

(4) 新たなボランティア支援に関する内規の制定

12月に、高度教養教育・学生支援機構教授会議にて「東北大学学生ボランティア支援に関する内規」が

制定され、課外・ボランティア活動支援センターが震災復興に限らないボランティア活動の総合的支援の窓口となった。2月には、内規に基づいてボランティア活動支援委員会を開催した。

3. 学生ボランティア活動の成果の社会への発信

(1) オープンキャンパス・東北大学祭等での活動紹介

7月のオープンキャンパスおよび11月の東北大学祭に学生スタッフの助力を得ながらパネル展示を行い、活動成果を広く高校生や本学学生の保護者、地域住民等に公開した。

(2) 『課外・ボランティア活動支援センター紀要』の発刊

2016年度末に刊行した『課外・ボランティア活動支援センター紀要』をHP上で公開した。また、2017年度版を2018年3月に発刊し、関係各所に配布した。

(3) 助成金の取得と社会的評価

本年度は、ユニバーサル財団、世界宗教者平和会議、みやぎ生協、宮城県共同募金会、日本財団学生ボランティアセンターの活動助成に本学の学生ボランティア団体が選定された。

また、Yahoo!基金事務局が行う「被災地復興支援活動学生ボランティアプログラム」の支援対象に本学が選定され、8つの事業が助成を受けた。

4. 課外活動の支援

(1) 課外活動団体リーダー層対象の合同研修会実施

学友会文化部常任委員会、生協学生委員会、大学祭実行委員会及びセンターの学生スタッフ組織 SCRUM の学生が参加する課外活動団体合同研修会を12月に開催し(学生13名参加)、そこで挙げられた要望に関して学生団体が花輪理事と意見交換をする会合(学生6名参加)をセッティングした。

(2) 学友会等と連携した課外活動支援

学友会体育部、文化部、課外活動支援係等の教職員が参加する定例会議を毎月1回開催し、適宜情報交換を行った。さらに、学友会全学協議会や学友会運営委員会の会議にオブザーバー参加し、情報交換に努めた。課外活動支援に関しては、活動支援係を中心に以下の支援を行った。

① 学生団体の登録ならびに説明会の開催

今年度は、全187団体、約10,000名の総数の学生から、学生団体登録継続届・登録申請書を受け付け、これらの団体の自主的な活動支援を行った。また、10月20日には、全ての届け出のなされた団体の代表者に対する説明会を開催し、当日、149団体の代表者ならびに顧問教員が参加し、課外活動時における様々な注意喚起を行った。

② 新歓および大学祭の支援

平成29年度の新入生歓迎行事ならびに大学祭においては、それぞれ学生の自主的な実行委員会が組織され運営は全て学生に任されているが、それら運営を指導・サポートする教職員による体制を構築し支援を行ってきた。

また、大学祭は11月3日から11月5日の3日間にわたり、川内北キャンパスを主会場として開催され、約33,000名の来場者(大学祭実行委員会報告)で賑わった。今年のテーマ「もどれ童心、おどれ若人」のもと作品展示や野外ステージ等が繰り広げられた。

以上、学生の課外活動の支援を通して、主体的に活動できる人材の育成にも貢献している。

(2) 東日本大震災被災地復興および地域社会・国際社会に貢献し得る人材の育成を目的とした、社会貢献型の体験学習(サービ斯拉ーニング)の企画・実施

平成29年度には、センター開講のサービス・ラーニング科目の提供を大幅に増やし、下記の通り計9コマ(18単位)の授業を提供した。

これは、高度教養教育開発推進事業に採択された「学内外連携による、東日本大震災被災地復興および地域社会・国際社会に貢献し得る人材の育成を目的とした社会貢献型の体験学習(サービ斯拉ーニング)科目の開発事業」(藤室玲治、H27年度採択)、「多様な他者との共生に向けた現代的教養の育成に資する人権教育プログラムの開発事業」(江口怜、H28年度採択)の成果を生かしたものである。なお、東北大学グローバル人材育成プログラム(TGL)と連携し、開講した授業をTGLポイントの対象とした。

科目群	科目名	授業題目	担当教員	開講時期, 受講生数
基幹科目	社会の構造◎	東日本大震災から見る現代日本社会	藤室玲治, 西出優子, 江口怜	1S・火1, 36名 2S・月4, 15名
基礎ゼミ	基礎ゼミ	ボランティア活動を通して, 被災者の生活再建・コミュニティ形成の課題を知る	藤室玲治	1S・月3・4, 14名
	基礎ゼミ◎	仙台市の地域課題を解決するアイデアを考えよう	藤室玲治	1S・木5, 18名
	基礎ゼミ◎	共生社会に向けたボランティア活動—人権・多様性・エンパワメント	藤室玲治, 江口怜	1S・月5, 11名
	基礎ゼミ◎	震災をどう伝えるか—震災遺構の保存・活用と, 震災の記憶の伝承の課題を学ぶ	藤室玲治	1S・月5, 10名
展開ゼミ	ボランティア活動と地域課題	ボランティア活動を通して, 被災者の生活再建・コミュニティ形成の課題を学ぶ	藤室玲治	2S・4S・木5, 6名
	三陸復興の地域課題◎	三陸復興の地域課題と日本の未来	藤室玲治	2S・4S・月4, 9名
	福島における人権保障と共生の課題◎	福島における人権保障と共生の課題—原発事故以降を生きる人々に寄り添う	藤室玲治, 江口怜	2S・金5, 6名

註：◎は新規開講科目

(3) 国内外の大学との課外・ボランティア活動における交流・連携の促進

平成29年度に, 国内外の大学・高校との課外・ボランティア活動における交流・連携の促進として, 以下を実施した。

(1) グローバルラーニングセンターと連携した国外学生の受け入れ

グローバルラーニングセンターと連携し, 7月にバイラー大学の学生7名を特別訪問研修生として受け入れ, 本学学生(7名)と共同で被災地視察等を行った。3月には, モンタナ大学, メリーランド大学の学生を受け入れた。

また, 7月と9月の2回, あしなが育英会の主催する「あしながインターンシップ東北プログラム」の実施に協力し, 海外インターン生15名と東北大学生計19名が被災地で交流を行った。これらはグローバルラーニングセンターと連携して実施した。

(2) 国内の大学生・高校生との交流

国内の大学生との交流としては, 3月に東京大学復興ボランティア会議(UTVC)主催の被災地ツアーの一環で東北大学生5名と東京大学生の交流を行った。また, 3月に岩手県の被災地で活動する神戸大学生の受け入れを行い, 東北大学生3名と交流した。この他, 本学のボランティア団体の学生が, 被災地での活動に際して熊本大学, 熊本県立大学, 立教大学, いわき明星大学, 岩手大学, 福島大学, 千葉大学等の様々な大学生と交流を行った。

国内の高校生との交流としては, オープンキャンパスにて, 東日本大震災の復興に取り組む学生ボランティアの活動を紹介するパネル展示(2日間で167名参加)及び兵庫県の4高校(神戸高校・東灘高校・御影高校・葺合高校)を対象とした大学生との交流ワークショップを開催した(高校生33名参加)。

また, 3月12日に近畿大学附属高校と石巻市の被災地でのスタディツアー及びワークショップを開催(東北大学生10名, 高校生30名参加), 3月14日に神戸大学附属中等教育学校との交流ワークショップを開催(東北大学生4名, 高校生40名が参加), 3月28日・29日に静岡市立高校と石巻市の被災地スタディツアー及びワークショップを開催(東北大学生3名, 高校生10名が参加)した。これは「震災学習を通じた高大連携」のモデル事業になり得ると考えられる。

Ⅲ 平成 29 年度の機構全体の活動

1. 機構主催のシンポジウム・研究会・セミナー等

No.	開催日	事業名	参加者数
高等教育のリテラシー形成関連			
1	2017 5.12	第25回東北大学高等教育フォーラム（新時代の大学教育を考える [14]） 個別大学の入試改革 —東北大学の入試設計を事例として— 基調講演「新共通テストの下における東北大学学部入試の展望」 講師：倉元 直樹（東北大学高度教養教育・学生支援機構 教授） 現状報告1「京都から見える東北大学AO入試」 講師：木南 敦（京都大学大学院法学研究科 教授） 現状報告2「新しい入試制度に向けた高校の取組」 講師：阿部 淳（秋田県立湯沢高等学校 校長） 現状報告3「多様化する大学入試と高校現場 —主に国語教師の立場から—」 講師：清水 和弘（福岡大学附属大濠中学校・高等学校 副校長） 現状報告4「センター試験・新テスト・高大接続」 講師：山地 弘起（大学入試センター 試験・研究副統括官）	427
2	2017 5.27	日本高等教育学会公開シンポジウム 世界的視座から改めて国立大学法人化を問う— 外部ガバナンスとしての政府統制の変遷— 報告1「国立大学法人化を含む高等教育改革による政府・大学間関係としての外部ガバナンスの 変化、その評価、及び今後の課題」 講師：大森 不二雄（東北大学高度教養教育・学生支援機構 教授） 報告2「国際的視点から見た米国の高等教育政策と大学ガバナンス」 講師：David D. Dill（ノースカロライナ州立大学チャペルヒル校 教授） 報告3「高等教育のガバナンス変容に関する国際比較：欧州諸国の場合」 講師：Michael Dobbins（ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学フランクフルト・アム・マイン 教授） 報告4「東アジア諸国における高等教育：制度と市場の多様性とその文化的背景」 講師：William Yat Wai Lo（香港教育大学 助教）	214
3	2017 6.29	「しまった!!」とならないために —ICT時代の教育で押さえておきたい法— 講師：三石 大（東北大学教育情報基盤センター 准教授） 金谷 吉成（東北大学大学院法学研究科 講師）	18
4	2017 8.21	授業デザインとシラバス作成 講師：串本 剛（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授）	29
5	2017 9.23	大学生のクリティカルシンキングの育成 講師：楠見 孝（京都大学 教授）	72
6	2017 9.26	授業づくり：準備と運営 講師：呂本 俊亮（東北大学 災害科学国際研究所 教授）	40
7	2017 12.25	シンポジウム「世界の高等教育改革と危機に立つ教養教育」 講演1「世界の高等教育の改革と教養教育」 講師：青木 利夫（広島大学 教授） 平手 友彦（広島大学 教授） 講演2「教養の揺らぎとフランス近代一知の教育をめぐる思想の変化」 講師：綾井 桜子（十文字学園大学 准教授） 講演3「崩壊するアメリカの公教育—アカウントビリティという新自由主義的な『責任』の形」 講師：鈴木 大裕（NPO 法人 SOMA 副代表理事，コロンビア大学大学院）	51
8	2018 2.17	日本の高等教育政策 講師：羽田 貴史（東北大学高度教養教育・学生支援機構 教授）	58
9	2018 3.27	Creating Innovative Higher Education for the 21st Century (21世紀に求められる「革新的な高等教育」の創出に向けて) 講師：Andy Leger（クィーンズ大学 准教授） Angelito Calma（メルボルン大学 上級講師）	15

No.	開催日	事業名	参加者数
専門教育での指導力形成関連（各専門分野）			
10	2017 6.23	学生の思考力を高めるレポート課題の設計 講師：成瀬 尚志（長崎大学大学教育イノベーションセンター 准教授）	31
11	2017 7.31	研究倫理シリーズ 第5回 責任ある研究活動の担い手を育てる —院生の研究指導と研究倫理— *学内限定 講演「責任ある研究活動の担い手を育てる研究指導における原理原則と生命科学分野における事例」 講師：大隅 典子（東北大学大学院医学系研究科 教授） 事例報告1 講師：工藤 成史（東北大学キャリア支援センター高度イノベーション博士人財育成ユニット 特任教授（客員）） 事例報告2 講師：佐々木 孝彦（東北大学金属材料研究所 教授） 事例報告3 講師：原 望（東北大学文学研究科 准教授）	47
12	2017 8.10	科学教育を科学的に変革する：学生が学習する授業は人気教授の名講義に勝る 講師：スティーヴン・ボラック（コロラド大学ボルダー校 教授）	26
13	2017 9.1～9	大学中国語教育法強化講座：中国語を教える大学教員のためのスキルアップコース（海外集中コース，1週間）	22
14	2017 9.25	大学における外国語教授法強化講座（フランス語） 「いま、外国語をどう教えるか？—フランス語を例に—」 講演「文法のパラドックスと神経言語学アプローチ(ANL)」 講師：クロード・ジェルマン（ケベック大学教育学部言語教育学科 名誉教授） 発表「ANL教授法による日本の大学でのフランス語教授 600時間を振り返って」 講師：ロマン・ジョルダン（京都外国語大学フランス語学科 講師） 発表「フランス語教育と可視化」 講師：杉山 香織（西南学院大学文学部外国語学科 准教授） 発表「目標言語の自然な習得のための発音の授業の重要性」 講師：ベルトラン・ソゼド（東北大学高度教養教育・学生支援機構 講師）	31
15	2017 9.27	Teaching in English (TiE): Course Design and Classroom Management Teaching to Improve Learning *学内限定（工学研究科機械系） 講師：Todd Enslen（東北大学高度教養教育・学生支援機構 講師）	60
16	2017 10.13	SDP シリーズ 第2回 大学の研究戦略マネジメント 講演1「現代社会における科学技術イノベーション政策の動向と課題」 講師：小林 信一（放送大学 客員教授） 講演2「研究評価の現状と課題」 講師：林 隆之（大学改革支援・学位授与機構 教授） 講演3「リスクマネジメントとしての研究倫理の取り組み」 講師：羽田 貴史（東北大学高度教養教育・学生支援機構 教授）	27
17	2017 10.16	CLILの理論と実践 —ヨーロッパから日本へ発展する新しい学び— 講演「CLILの理論と実践」 講師：笹島 茂（東洋英和女学院大学 教授） 事例報告「東北大学で行う留学生・日本人学生の空手と文化合同授業について」 講師：バリー・カヴァナ（東北大学高度教養教育・学生支援機構 講師）	25
18	2017 11.13	数理科学教育シンポジウム「数理科学教育の現代的展開」 報告1「歴史から見る—日本における統計学の制度化は何をもたらしたか」 講師：上藤 一郎（静岡大学大学院人文社会科学研究科 教授） 報告2「実践から語る—大学数学教育の現状と未来へのデザイン」 講師：水町 龍一（湘南工科大学工学部 准教授） 報告3「課題を考える—大学教育の課題とデータサイエンス学部の挑戦」 講師：竹村 彰通（滋賀大学データサイエンス学部長） 報告4「展望を語る—九州大学基幹教育における数学教育」 講師：谷口 説男（九州大学基幹教育院 副院長）	39

No.	開催日	事業名	参加者数
19	2017 11.27	Classroom management techniques for classes conducted in English 講師：Todd Enslen（東北大学高度教養教育・学生支援機構 講師） Barry Kavanagh（東北大学高度教養教育・学生支援機構 講師）	23
20	2017 12.1	大学における外国語教授法強化講座（韓国語） 講師：金 昌佑（SBS 放送 芸能部長）	92
21	2017 12.12	コーチング技能を活用した院生指導 講師：出江 紳一（東北大学医工学研究科 教授） 倉重 知也（株式会社イグニタス 代表取締役）	35
22	2017 12.15	Classroom English : Pronunciation 講師：Vincent Scura（東北大学高度教養教育・学生支援機構 講師）	25
23	2018 1.20	大学における外国語教授法強化講座（スペイン語） Del Marco Común Europeo de Referencia para las Lenguas y el Plan Curricular del Instituto Cervantes al aula / Implicaciones del MCER y el PCIC en el diseño de pruebas evaluativas Tema : El MCER y el PCIC: dos herramientas imprescindibles para los cursos de ELE Ponente : Francisco Javier Rodríguez Campos, Jefe de estudios del Instituto Cervantes Tokio Tema : Cómo podemos diseñar pruebas evaluativas coherentes y válidas para nuestros cursos de ELE Ponente : Esther Domínguez Marín, Coordinadora del examen DELE en Japón.	18
24	2018 1.20	高大連携英語教育セミナー2017「大学入学共通テストにおける 英語 4 技能評価の推進—新しい時代 にふさわしい高大接続の実現に向けた英語教育—」 基調講演・公開授業：「変わる大学入試、変わる英語教育」 講師：安河内 哲也 公開授業：『英語 4 技能と発話の「瞬発力」を手に入れる！～主人公は自分自身！～』 講師：横山 カズ 授業報告 1『自律した英語学習を育てる「教えない英語」』 講師：山本 崇雄（東京都立武蔵高等学校 英語科主任教諭） 授業報告 2「大学に期待する英語教育：東北大学における 4 技能習得実践授業」 講師：橘 由加（東北大学高度教養教育・学生支援機構 教授）	120
25	2018 1.27	大学における外国語教授法強化講座（ドイツ語）ドイツ語教育とアクティブラーニング —どのような教材を用いるか— 講演「言語教育パラダイムの変遷とドイツ語教材の変化」 講師：杉浦 謙介（東北大学国際文化研究科 教授） 事例報告 1「ドイツ語の「壁」を破るには —山形大学ドイツ語教室の取り組みを例に—」 講師：摂津 隆信（山形大学人文社会科学部 准教授） 事例報告 2「大学教育でのドイツ語教科書」 講師：高橋 美穂（東北大学高度教養教育・学生支援機構 講師）	15
26	2018 2.21	Teaching in English (TiE): Course Design and Classroom Management Teaching to Improve Learning *学内限定（理学研究科） 講師：Todd Enslen（東北大学高度教養教育・学生支援機構 講師）	52
27	2018 3.2	東北大学高度教養教育開発推進事業「初年次のレポート作成とその指導を支援する共通教材の開発」 報告会 「大学図書館と教員の協働によるライティング支援」 第 1 部：東北大学におけるライティング支援事業 講師：菅谷 奈津恵（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授） 講師：串本 剛（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授） 講師：吉植 庄栄（東北大学附属図書館情報サービス課参考調査係長） 第 2 部：ライティング支援事業における先進事例 講師：上田 大輔（広島大学図書館図書学術情報企画グループ主査・ライティングセンター） 講師：尾崎 文代（鳥取大学学術情報部図書館情報課長）	54

No.	開催日	事業名	参加者数
学生支援力形成関連			
28	2017 9.23	学生理解と学生発達 講師：岡田 有司（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授）	62
29	2017 11.22	発達障害学生の実態の理解と支援の取り組み 講義 1「大学における発達障害学生の実態と一般教員に求められる対応」 講師：篠田 直子（信州大学学生相談センター障害学生支援室 助教） 講義 2「発達障害学生把握の取り組みとキャンパスソーシャルワーカーによる支援」 講師：都筑 学（中央大学文学部 教授）	54
マネジメント力			
30	2017 7.1	若手職員のための大学職員論(8) —大学職員による自発的 SD 実践のイマを知る：中堅職員 Meetup からの示唆— 話題提供・ワークショップ 講師：寺尾健志（京都文教大学）、三島卓也（金沢大学）	19
31	2017 7.14	SDP シリーズ第 1 回「大学の質保証のための IR・評価マネジメント」 講演 1「経営支援に向けた IR 情報のマネジメント」 講師：森 雅生（東京工業大学情報活用 IR 室 教授） 講演 2「内部質保証を学習成果につなげる道標」 講師：大森 不二雄（東北大学高度教養教育・学生支援機構 教授） 講演 3「教学ガバナンスのあり方とそれを支えるアカデミック・リーダーの育成」 講師：杉本 和弘（東北大学高度教養教育・学生支援機構 教授）	51
32	2017 8.4	私立大学のガバナンス～事例にみるその多様性と可能性～ 講師：大森 昭夫（共愛学園前橋国際大学 学長）	44
33	2017 8.4	公立大学のガバナンスと教学改革 講師：清水 一彦（山梨県立大学 理事長・学長）	38
34	2017 8.6	IR データの収集と分析の技法 講師：串本 剛（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授） 松河 秀哉（東北大学高度教養教育・学生支援機構 講師）	32
35	2017 9.8	大学組織を創造的・革新的にするための科学的知見の探究 —組織論とリーダーシップ論から大学ガバナンスを再考する— 講演 1「組織論から見た大学ガバナンス」 講師：青島 矢一（一橋大イノベーション研究センター 教授） 講演 2「リーダーシップ論から見た大学のガバナンス」 講師：高橋 潔（立命館大学 総合心理学部 教授）	34
36	2017 11.7	大学におけるアカデミック・リーダーの育成 講演 1「オーストラリアの大学におけるアカデミック・リーダーシップの育成」 講師：Heather Davis（メルボルン大学 LH Martin Institute プログラムディレクター） 講演 2「日本の大学におけるアカデミック・リーダーシップの育成」 講師：杉本 和弘（東北大学高度教養教育・学生支援機構 教授） 講演 3「メルボルン大学におけるアカデミック・リーダーシップ」 講師：Richard James（メルボルン大学 副学長） 講演 4「東北大学におけるアカデミック・リーダーシップ」 講師：山口 昌弘（東北大学グローバルラーニングセンター長 教授） 講師：米澤 由香子（東北大学国際連携推進機構 助教） 将来構想 末松 和子（東北大学高度教養教育・学生支援機構 教授）	35
37	2017 11.29	IDE 大学セミナー「大学生と言語 —変容する思索と文化の礎—」 基調講演「脳科学から見た現代の大学生と言語」 講師：酒井 邦嘉（東京大学大学院総合文化研究科 教授） 講演 1「大学教育の英語化と留学・アイデンティティ・相互理解」 講師：嶋内 佐絵（早稲田大学アジア太平洋研究センター 助手）	84

No.	開催日	事業名	参加者数
		講演2「国語教育が育てる大学生の言葉の力」 講師：島田 康行（筑波大学人文社会系 教授／アドミッションセンター長） 講演3「アカデミック・ライティング指導／支援から見る、大学生の言葉と思考」 講師：佐渡島 紗織（早稲田大学国際学院 教授）	
38	2017 12.22	組織のパフォーマンスを向上させるマネジメント 講師：藤本 雅彦（東北大学大学院経済学研究科 教授）	33
39	2017 12.23	IRによる教学データの活用手法 講師：浅野 茂（山形大学学術研究院 教授）	53
40	2017 12.23	世界における高等教育の質保障の到達点と課題 講師：深堀 聡子（国立教育政策研究所高等教育研究部 高等教育研究部長）	58
41	2018 2.14	教育ビッグデータで教育・学習活動を検証する —大学教育におけるラーニングアナリティクスの可能性— 講演1「ラーニングアナリティクスの理論と実践（仮）」 講師：村上 正行（京都外国語大学 教授） 講演2「教育ビッグデータの活用事例：東北大学附属図書館における学生の学習活動分析（仮）」 講師：金子 智一、他（東北大学大学院理学研究科 博士後期課程、イノベーション創発塾 修了生）	53
42	2018 2.17	研究政策と知的財産戦略 —大学における研究成果の取扱い— 講師：玉井 克哉（東京大学先端科学技術研究センター 教授）	31
43	2018 3.18	若手職員のための大学職員論（9）～「一皮むけた経験」に学ぶ（3）～ 講師：大津 正和（中京大学学術情報システム部） 坂倉 みどり（早稲田大学理工センター事務部教学支援課長）	21
正午 PD 会			
44	2017 4.12	第40回正午PD会「データを意味ある情報に変換し、教育改善につなげるには ～教育評価分析センターの取組～」 講師：川面 きよ（東北大学高度教養教育・学生支援機構 特任講師）	24
45	2017 5.10	第41回正午PD会「児童期における学力の発達の变化と規定要因に関する縦断的研究」 講師：宮本 友弘（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授）	20
46	2017 5.30	第42回正午PD会「コーパスに基づくコロケーション分析と語義記述」 講師：カン・ミンギョン（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授）	19
47	2017 6.15	第43回正午PD会「グローバル人材育成事業におけるアクティブラーニング形式の授業の導入による学習効果の検証 —東北大学グローバルゼミを事例として— 講師：富田 真紀（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授）	22
48	2017 6.30	第44回正午PD会「教育における個の自由と社会的公正 —マイクロとマクロのリンクを求めて— 講師：大森 不二雄（東北大学高度教養教育・学生支援機構 教授）	16
49	2017 7.12	第45回正午PD会「スペイン語の与格の振る舞いに対する「意図性」 ～se le V構文の考察～ 講師：田林 洋一（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授）	14
50	2017 10.26	第46回正午PD会「東日本大震災後の大学生の心身の健康状態」 講師：松川 春樹（東北大学高度教養教育・学生支援機構 助教）	11

No.	開催日	事業名	参加者数
51	2017 11.24	第47回正午PD会「東北大学の肥満学生健診から学んだこと」 講師：小川 晋（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授）	9
52	2017 11.24	第48回正午PD会「高等教育における課外・ボランティア活動支援の目的」 講師：藤室 玲治（東北大学高度教養教育・学生支援機構 特任准教授）	4
53	2017 12.8	第49回正午PD会「日本における教職員人事評価制度に関する研究紹介 ―目標管理手法による能力開発型の評価手法の現状と課題を中心に―」 講師：頼 羿廷（東北大学高度教養教育・学生支援機構 助教）	14
54	2017 12.18	第50回正午PD会「「死」の教育 ―MOOC (Massive Open Online Course) から全学教育―」 講師：鈴木 岩弓（東北大学教養教育院 総長特命教授）	20
55	2018 2.6	第51回正午PD会「日本語の副詞研究と教育における現状と課題 ―「急いで」は副詞か動詞か形容詞か？―」 講師：林 雅子（東北大学高度教養教育・学生支援機構 講師）	22
56	2018 2.20	第52回正午PD会「学生グループ活動において「チームワーク」をどう促し、評価するか」 講師：Andy Leger（クイーンズ大学 准教授）	24
健康科学セミナー			
57	2017 10.7	健康科学セミナー第1回 「保健管理最近の話題 2017」 講師：木内 喜孝（東北大学高度教養教育・学生支援機構 教授）	16
58	2017 11.21	健康科学セミナー第2回 「適応障害について」 講師：伊藤 千裕（東北大学高度教養教育・学生支援機構 教授）	12
59	2017 12.12	健康科学セミナー第3回 「糖新生臓器としての腎臓の役割」 講師：小川 晋（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授）	13
60	2018 1.16	健康科学セミナー第4回 「頭蓋顎顔面の形態異常と歯科矯正治療」 講師：北 浩樹（東北大学高度教養教育・学生支援機構 助教）	10
61	2018 2.20	健康科学セミナー第5回 「心臓と血管の老化」 講師：佐藤 公雄（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授）	12
その他			
62	2017 10.24	学際連続セミナー “これからどうする？” 実践編「イラスト1枚で伝える技法」第1回「インフォグラフィックス」を学ぶ 講師：木村 博之 氏（チューブグラフィックス代表取締役）	50
63	2017 11.7	学際連続セミナー “これからどうする？” 実践編「イラスト1枚で伝える技法」第2回「インフォグラフィックス」ワークショップI 講師：木村 博之 氏（チューブグラフィックス代表取締役）	32
64	2017 11.21	学際連続セミナー “これからどうする？” 実践編「イラスト1枚で伝える技法」第3回「インフォグラフィックス」ワークショップII 講師：木村 博之 氏（チューブグラフィックス代表取締役）	16

2. 刊行物一覧

発行年月	発行	刊行物名
2017.3	高度教養教育・学生支援機構	東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要 第3号 2017
2017.7	高度教養教育・学生支援機構	電子ジャーナル:高等教育クリティカルレビュー 第1号 「Academic Governance: A US Perspective on External, Internal, and Collegial Models」
2017.9	学務審議会 高度教養教育・学生支援機構	IEHE Report 72 「第11回東北大学全学教育FD」報告書
2017.9	高度教養教育・学生支援機構	IEHE Report 73 第26回東北大学高等教育フォーラム／新時代の大学教育を考える [14]報告書 個別大学の入試改革－東北大学の入試設計を事例として－
2018.2	学務審議会 高度教養教育・学生支援機構	IEHE Report 74 「第11回東北大学基礎ゼミFD・ワークショップ」報告書
2018.3	IDE 大学協会東北支部 高度教養教育・学生支援機構	IEHE Report 75 平成29年度IDE東北支部 IDE大学セミナー／第27回東北大学高等教育フォーラム 報告書 平成29年度IDE大学セミナー「大学生と言語－変容する思索と文化の礎－」
2018.3	高度教養教育・学生支援機構	高等教育ライブラリ13 「数理科学教育の現代的展開」
2018.3	高度教養教育・学生支援機構	高等教育ライブラリ14 「個別大学の入試改革」
2018.3	高度教養教育・学生支援機構	PDブックレット Vol.9 「英語による授業実践ハンドブック」
2018.3	高度教養教育・学生支援機構	PDブックレット Vol.10 「研究倫理マネジメントの手引き」
2018.3	高度教養教育・学生支援機構	PDブックレット Vol.11 「国際共修クラス的设计と運営」

3. 教員の活動（平成29年4月～平成30年3月の主な活動）

所 属	職 名	氏 名	掲載ページ
機構長	東北大学理事	花 輪 公 雄	-
副機構長	教 授	関 根 勉	47
副機構長	工学研究科教授	安 藤 晃	-
副機構長の補佐	特任教授	関 内 隆	47
教育評価分析 センター (Center for Institutional Research)	センター長/教授	杉 本 和 弘	48
	副センター長/准教授	串 本 剛	49
	講 師	松 河 秀 哉	49
	特任講師	川 面 きよ	50
大学教育支援 センター (Center for Professional Development)	センター長/教授	大 森 不二雄	50
	副センター長/准教授	岡 田 有 司	52
	教 授	羽 田 貴 史	52
	教 授	杉 本 和 弘 (兼)	(48)
入試センター (Admission Center)	センター長/理学研究科教授	長 濱 裕 幸	-
	副センター長/教授	石 井 光 夫	52
	教 授	倉 元 直 樹	53
	特任教授	石 上 正 敏	54
	特任教授	庄 司 強	54
	特任教授	檜 田 豪 利	54
	特任教授	秦 野 進 一	54
	准教授	宮 本 友 弘	55
言語・文化教育 センター (Center for Culture and Language Education)	講 師	田 中 光 晴	55
	センター長/副機構長/工学研究科教授	安 藤 晃	-
	副センター長/教授	吉 本 啓	55
	教 授	北 原 良 夫	56
	教 授	上 原 聡	57
	教 授	佐 藤 勢 紀子	57
	教 授	橋 由 加	58
	准教授	竹 林 修 一	58
	准教授	平 塚 貴 晶	59
	准教授	カン・ミンギョン (Minkyong KANG)	59
	准教授	深 井 陽 介	60
	准教授	田 林 洋 一	60
	准教授	西 田 文 信	61
	准教授	菅 谷 奈 津 恵	61
	准教授	副 島 健 作	62
	准教授	中 村 渉	63
	講 師	ダニエル・アイコースト (Daniel EICHHORST)	63
	講 師	トッド・エンズレン (Todd ENSLEN)	64
	講 師	ベン・シャーロン (Ben SHEARON)	65
	講 師	ビンセント・スクラ (Vincent SCURA)	65
	講 師	ジョセフ・スタヴォイ (Joseph STAVOY)	66
	講 師	ライアン・スプリング (Ryan SPRING)	66
	講 師	リチャード・メレス (Richard MERES)	67
	講 師	バリー・カヴァナ (Barry KAVANAGH)	69
講 師	三 上 傑	71	
講 師	ベルント・シャハト (Bernd SCHACHT)	71	
講 師	遠 藤 スサンネ (Susanne ENDO)	72	
講 師	高 橋 美 穂	72	

所 属	職 名	氏 名	掲載ページ
	講 師	ベルトラン・ソゼド (Bertrand SAUZEDDE)	72
	講 師	セシリア・シルバ (Cecilia SILVA)	73
	講 師	張 立 波 (チョウ・リツハ)	73
	講 師	趙 秀 敏 (チョウ・シュウビン)	74
	講 師	王 其 莉 (オウ・キリ)	75
	講 師	金 鉉 哲 (キム・ヒョン Chol)	75
	講 師	林 雅 子	76
グローバルラーニング センター (Global Learning Center)	センター長/理学研究科教授	山 口 昌 弘	-
	副センター長/教授	粕 壁 善 隆	76
	副センター長/教授	末 松 和 子	77
	教 授	渡 邊 由 美 子	79
	特任教授	フランク・ハンセン (Frank HANSEN)	79
	准教授	高 橋 美 能	80
	准教授	富 田 真 紀	80
	准教授	渡部(わたなべ) 留美	80
	准教授	渡部(わたなべ) 由紀	81
	准教授	ノルボシン・ザンペイソフ (Nurbosyn ZHANPEISOV)	81
	准教授	イゴール・トルシン (Igor TRUSHIN)	82
	准教授	マルタン・ロベール (Martin ROBERT)	83
	准教授	小 池 武 志	84
	特任准教授	坂 本 友 香	85
	特任准教授	中 島 美 奈 子	85
	講 師	島 崎 薫	86
特任助教	水 松 巳 奈	86	
学際融合教育推進 センター (Center for Interdisciplinary Studies and Education)	センター長/教授	中 村 教 博	87
	副センター長/准教授	中 川 学	88
	副センター長/准教授	山 内 保 典	88
	総長特命教授	野 家 啓 一	89
	総長特命教授	吉 野 博	90
	総長特命教授	座小田 豊	90
	総長特命教授/医工学研究科特任教授	山 口 隆 美	-
	総長特命教授	宮 岡 礼 子	91
	総長特命教授	米 倉 等	91
	総長特命教授	鈴 木 岩 弓	92
	総長特命教授/学際高等研究教育院	山 谷 知 行	-
	総長特命教授	高 木 泉	93
	副機構長/教授	関 根 勉	(47)
	教 授	芳 賀 満	93
	教 授	羽 田 貴 史 (兼)	(52)
	准教授	葛 生 政 則	94
	准教授	田 嶋 玄 一	95
	准教授	藤 本 敏 彦	95
	助 教	高 橋 禎 雄	96
	助 教	太 田 宏	96
	助 教	岡 壽 崇	96
助 教	小 俣 乾 二	97	
助 教	永 尾 翔	97	
助 教	石 田 章 純	98	
助 教	長 嶺 忠	98	
助 教	中 野 元 善	98	

所 属	職 名	氏 名	掲載ページ
学習支援センター (Center for Learning Support)	センター長/教授	芳 賀 満	(93)
	副センター長/准教授	佐 藤 智 子	99
	助 教	小 俣 乾 二 (兼)	(97)
	助 教	頼 羽 廷	99
	助 手	足 立 佳 菜	99
キャリア支援センター (Center for Career Support)	センター長/教授	羽 田 貴 史	(52)
	副センター長/理学研究科教授	松 澤 暢	-
	副センター長/准教授	猪 股 歳 之	100
	特任教授	田 中 泰 光	100
	准教授	高 橋 修	100
	特任准教授	富 田 京 子	101
学生相談・特別支援 センター (Center for Counseling and Disability Services)	センター長/歯学研究科教授	菅 原 俊 二	-
	副センター長/副機構長/工学研究科教授	安 藤 晃	-
	副センター長/教授	池 田 忠 義	101
	特任教授	吉 武 清 實	102
	准教授	中 島 正 雄	103
	講 師	小 島 奈々恵	103
	講 師	中 岡 千 幸	104
	助 手	佐 藤 静 香	104
	助 教	松 川 春 樹	105
	講 師	長 友 周 悟	105
	特任講師	榑 原 佐和子	106
	助 手	高 橋 真 理	106
保健管理センター (Student Health Care Center)	センター長/教授	木 内 喜 孝	107
	副センター長/教授	伊 藤 千 裕	107
	准教授	小 川 晋	108
	准教授	佐 藤 公 雄	108
	助 教	二 宮 匡 史	109
	助 教	高 館 達 之	109
	助 教	北 浩 樹	110
	助 教	玉 井 ときわ	110
	助 教	原 康 之	110
課外・ボランティア 活動支援センター (Center for Service Learning and Extracurricular Activities)	センター長/経済学研究科教授	小田中 直 樹	-
	副センター長/医工学研究科教授	永 富 良 一	-
	特任准教授	藤 室 玲 治	111
	特任助教	江 口 怜	111

関根 勉 教授

【専門分野】放射化学

【教育活動】

授業担当：全学教育：自然科学総合実験（代表）、文科系のための自然科学総合実験、化学B（工 2）、大学院教育：先端理化学特論（理学研究科化学専攻）

学位論文指導・審査：博士 2 名（副査）／修士 9 名（主査 1 名、副査 8 名）

留学生等受け入れ：学振特別研究員 1 名（DC2）

指導学生の受賞：1) The Best Student Oral Presentation, 4th International Conference on Environmental Radioactivity (ENVIRA2017), Vilnius, Lithuania, 2017/6/2) (DC2) 2) 若手優秀発表賞（2017 日本放射化学会年会・第 61 回放射化学討論会、つくば、2017/9/8）(DC2)

【研究活動】

研究業績：1) (分担執筆)「教養教育への東北大学の挑戦—実験を通して学ぶ科学の営み」本堂毅ほか編『科学の不定性と社会—現代の科学リテラシー』信山社、2017、136-143（第 9 章）。2) (共著) Degradation of electron-irradiated polyethylene studied by positron annihilation lifetime spectroscopy, Journal of Physics: Conf. Series, 791 (2017) 012026. 3) (共著) Gene expression analyses of the small intestine of pigs in the ex-evacuation zone of the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant, MC Veterinary Research (2017) 13. 4) (共著) Sr-90 specific activity of teeth of abandoned cattle after the Fukushima accident – teeth as an indicator of environmental pollution, Journal of Environmental Radioactivity, 183 (2018) 1. 5) (共著)「東北大学川内北キャンパスグラウンドにおける環境放射能調査 — 福島第一原発事故後の 6 年間の変化 —」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第 4 号、2018、407-414.

外部資金：1) 基盤研究(A)「科学の多様な不定性と意思決定：当事者性から考えるトランスサイエンス」(分担) 2) 挑戦的萌芽研究「バイオフィームによる放射性セシウムを生体除染」(分担) 3) [環境省：放射線の健康影響に係る調査] 乳歯を用いた福島県在住小児の被曝線量評価 (分担)

【大学運営】

大学運営：教育研究評議員

全学委員会：学務審議会副委員長、学務審議会教務委員会委員、実験科目委員会委員、同 実施委員会委員長、同 計画委員会委員、サイクロトロン RI センター 予算委員会委員、同 課題採択委員会委員

部局内委員会：副機構長、総務委員会委員長、自然科学教育開発室長

【業務活動】

学生支援業務：自然科学総合実験における連携支援（自然科学教育開発室、学生相談・特別支援センター、工学教育院、教育・学生支援部）

機構業務：機構運営（補佐会議、総務委員会等）

室業務：自然科学教育開発室の運営（定例ミーティング、学生実験棟及び理科実験のための維持管理等）、理系・文系向けの自然科学総合実験の実施・運営

【社会貢献】

各種委員等：(1) 宮城県女川原子力発電所環境調査測定技術会委員 (2) 宮城県環境放射能監視検討委員会委員 (3) 女川原子力発電所 2 号機の安全性に関する検討会構成員

学会活動に対する貢献：1) 第 67 回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会実行委員会委員長 2) 第 9 回国際マイクロスケール実験シンポジウム、実行委員

社会教育活動：1) 出前授業 サイエンス・コラボ（仙台育英高校） 2) 放送大学講師

関内 隆 特任教授

【専門分野】西洋史 経済史 高等教育

【教育活動】

授業担当状況：全学教育科目の「転換少人数科目・基礎ゼミ」を授業題目『東日本大震災から復興へ—感じ、考え、議論する—』として、また「基幹科目・人間と文化」を授業題目『【展開ゼミ】自らの眼で確かめ、議論し、発表しよう—「復興」を学際的に考えよう—』を開講した。関内（高教機構）、芳賀（高教機構）、邑本（災害科学国際研究所）、窪（情報科学研究科）の教員 4 名で担当し、代表者を務めた。

教育支援活動：大学教育支援センターが実施する PFFP、NFP 等の大学院生や新任教員の教育支援活動において「先達教員」として、模擬授業へのアドバイス等の教育活動支援業務を行った。

【研究活動】

研究業績：関内隆「西洋近代をめぐる歴史認識と教養教育」羽田貴史編著『グローバル社会における高度教養教育を求めて』（東北大学出版会、2018 年 3 月）147-160 頁。

その他：1) 関内隆、藤室玲治、江口怜編著『東日本大震災から学び、ポスト 3.11 の社会を構想する科目群開発事業報告書』（東北大学高度教養教育開発推進機構、2018年3月）2) 学務審議会が所掌する高度教養教育開発推進事業に応募採択された「被災地の復興を考える学際的アクティブ・ラーニングの開発研究」の代表者として活動した。

【大学運営】

大学運営に関わる役職：総長特別補佐（評価担当）および評価分析室副室長として、第2期中期目標期間評価結果への対応作業を担った。また、部局評価に関わる業務では、評価分析室員による評価作業を全体的に取りまとめる任務を行った。

部局内委員会の委員等：副機構長補佐として、随時副機構長と打ち合わせを行い、機構全体の運営が円滑に進展するよう機構内の状況を点検しつつ意見交換を行った。また、機構長補佐会議、事務連絡会議、総務委員会、出版・図書・資料委員会などの諸会議に出席した。さらに、『機構教養教育推進ワーキンググループ』のヘッドとしてWGを開催し、高度教養教育科目構築と全学教育カリキュラムの改革に向けた提案を取りまとめ、機構長に提出した。

各種支援活動：機構教養教育推進ワーキンググループにおいて、年度末には平成30年度「学びのストーリー」ウェブ版を立ち上げ、初年次学生の履修選択等の支援活動充実化を図った。また、『IEHE教育開発セミナー』を企画開催し、機構内の業務センターの活動状況と取り組んでいる課題等をめぐって意見交換を行い、機構全体のミッションの共有化を図る取組を推進した。

【業務活動】

教育評価分析センターの活動をより一層推進するために、毎週開催されるセンター教員会議に出席し、センターの業務計画に関する意見交換に参加した。また、全学的な視点から他部局や各種委員会との連携を進めるための情報交換を行い、当センターの業務充実化に向けた助言・支援を行った。

【社会貢献】

公益財団法人大学基準協会の大学基準委員会委員および大学評価委員会委員、岩手県地方行政評価委員会専門委員、東北学院大学外部評価委員会委員長、東北大学出版会副理事長などの各種委員、そして学会活動では社会経済史学会評議員、東北史学会理事、岩手史学会評議員に従事し、評価活動やFD活動、学界において社会貢献を行った。

杉本 和弘 教授

【専門分野】 比較教育学, 高等教育論

【教育活動】

授業担当：1) 全学教育基礎ゼミ「多文化共生社会へのアプローチを探る」担当（受講者数21名）、2) 全学教育展開科目（社会学）「現代大学論」担当（受講者数78名）

【研究活動】

研究業績：1) (単著)「第15章 豪州における学士課程教育の変容—メルボルン・モデルにおける『広域学習』の導入と意義—」、羽田貴史編『グローバル社会における高度教養教育を求めて』東北大学出版会、261-276頁、2) (共編)『高等教育における戦略的データ活用とリーダーシップ：国際シンポジウムの記録を基礎に』高等教育研究叢書142、3)「第三段階教育の質保証にかかる国際的な政策学習過程の分析—豪・韓・日の学位・資格枠組みの開発に焦点をあてて—」（日本教育社会学会第69回大会、共同発表、2017年10月22日）

招待講演：1)「大学教員の専門性を育むために—SoTLの可能性—」（帝京大学FD講演会、2017年5月22日、東京）、2)「オーストラリアにおける第三段階教育の展開と職業への移行」（龍谷大学政策学部LORC研究会、2017年11月21日、京都）、3)「Academic Leadership Development for Educational Management in University」, The Project for Establishing Foundation for Teacher Education Reform (E-TEC)=教員養成大学設立のための基盤構築プロジェクト(広島大学、2017年12月12日、広島)、4)「東北大学における卒業生・修了生調査の概要—他大学との共同実施の可能性に向けて—」（筑波大学FD研修会、2018年3月8日、茨城）。

外部資金：1) 基盤研究(A)「グローバル社会におけるコンピテンシーを育成する高度教養教育カリキュラムの開発研究」(分担)、2014~17年、2) 基盤研究(B)「外国人大学教員の採用に関する国際比較研究」(分担)、2015~18年、3) 基盤研究(B)「教養教育の導入・改革と高等教育システムの変容—日・英・豪・中・香港の比較」(分担)、2016~18年、4) 挑戦的萌芽研究「博士課程出身の大学非正規職員に関する探索的研究：高学歴ワーキングプアか新専門職か」(分担)、2016~18年。

【大学運営】

全学委員会：1) 学務審議会委員、2) 同教育情報・評価改善委員会委員、3) グローバル人材育成推進事業実施委員会委員、4) 評価分析室員、5) 学生生活支援審議会 学生生活調査WG委員

部局内委員会：1) 教育評価分析センター長、2) 総務委員会委員、3) 人事委員会委員、4) 教養教育改革WG委員、5) 自己評価検討準備WG委員

【業務活動】

機構業務：1) 教養教育推進WGメンバーとして「東北大学全学教育の改革提案報告書」(2017.11.26)を作成、2) 自己評価検討準備WGメンバーとして、2018年度外部評価に向けた準備を推進。

センター業務：1) 教育評価分析センター長として、「第3回 東北大学の教育に関する卒業・修了者調査」及び「東北大学の教育

に関する雇用者調査」の企画・実施（学務審東北大学卒業生・雇用者調査 WG 座長）、CIR セミナー・ワークショップの企画・提供、CIR Insights 等による学習・教育データの分析・広報を推進、2) 大学教育支援センターの兼務教員として、履修証明プログラム「アカデミック・リーダー育成プログラム (LAD)」の開発・提供、大学職員能力開発プログラム (SDP) の開発・提供、その他各種 PD プログラムの企画・提供を担当。

〔社会貢献〕

各種委員等：文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業委員会」委員、文部科学省生涯学習政策局外国調査アドバイザー（大洋州）

学会活動：日本比較教育学会全国理事、オセアニア教育学会理事・編集委員、大学教育学会国際委員、日本高等教育学会第 20 回大会実行委員会副委員長（第 20 回大会 2017 年 5 月 27・28 日に東北大学で開催）

国際交流活動：Melbourne-Tohoku Day in Tohoku Higher Education Research Workshop（2017.11.7 開催）の企画・運営・発表
社会教育活動：帝京大学 FD 講演会講師、筑波大学 FD 研修会講師、リクルート『カレッジマネジメント』記事執筆担当

串本 剛 准教授

〔専門分野〕 高等教育論

〔教育活動〕

授業担当：1)基礎ゼミ「社会調査入門」、2)言語表現の世界「身近なテーマを使って学ぶレポートの種類と書き方」、3)カレント「文章による議論の方法」、4)カレント「大学生のレポート作成入門」（オムニバス）、5)カレント「みせる、学び」（上級生向け、オムニバス）

教育支援活動：1)レポート WG の一員として『東北大学レポート指南書』（第 2 版）を分担執筆

〔研究活動〕

研究業績：1)串本剛（2017）「学士課程教育における成績評価の革新：3 つの論点に係る動向と課題」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第 3 号、9-12. [依頼論文]、2)Takeshi Kushimoto, Yuki Watanabe（2017）Paths from formative assessment to learning outcomes. Higher Education Theory and Practice, 17(3), . 113-122.[査読あり]、3)串本剛（2018）「第 21 章 高度教養教育の評価：高年次共通科目と卒業研究に見る可能性」羽田貴史編『グローバル社会における高度教養教育を求めて』東北大学出版会、357-370. 4)須藤彰三・串本剛（2017）「学生による授業評価アンケートと小テスト成績の相関：中間・期末テスト及び成績評価も加えた授業改善の鍵」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第 3 号、369-378. [報告]

外部研究資金：1)科学研究費補助金（挑戦的研究（萌芽））：文系学部における卒業研究の成績評価方法：学士課程教育の総括的評価の可能性を探る、2017～2018 年度（代表）、2)科学研究費補助金（挑戦的研究（萌芽））：自由記述の自動分類に基づいた授業評価の分析と大学における教育改善への包括的活用、2017～2018 年度（分担）

〔大学運営〕

全学委員会：1)学務審議会委員、2)同教務委員、3)同教育情報・評価改善委員、4)基礎ゼミ委員、5)基幹科目委員、6)評価分析室員、7)附属図書館学習支援委員会委員

部局内委員会：1)教育評価分析センター副センター長、2)出版・図書・資料委員会委員、3)教養教育改革 WG メンバー、4)レポート WG メンバー

各種支援活動：1)「授業デザインとシラバス作成」教育関係共同利用拠点提供プログラム『PDP/PFFP/NFP』東北大学（仙台市、8 月 21 日）講師

〔業務活動〕

機構業務：1)全国大学教育センター等協議会において「東北大学における教育の質保証」と題した報告を行った（徳島市、9 月 14 日）、2)教養教育推進 WG の一員として「東北大学全学教育の改革提案報告書」の作成に携わった

センター業務：1)東北大学教育調査研究会において「卒業・修了生の学修成果に関する認識：所属部局別の特徴」と題した報告を行った（仙台市、7 月 3 日）、2)ワークショップ「IR データの収集と分析の技法」企画・運営・実施、3)セミナー「教育ビッグデータで教育・学習活動を検証する」企画・運営、4)卒業生調査および雇用者調査の企画・実施

〔社会貢献〕

各種委員：1)国立教育政策研究所「学生の成長を支える教育学習環境に関する調査研究」委員

学会活動：1)大学教育学会編集委員会幹事

社会教育活動：1)会津高校東北大学研修講師、2)福島県立医科大学看護学部 FD 研修会講師、3)岩手県立大学 FD 研修会講師

松河 秀哉 講師

〔専門分野〕 教育工学

〔教育活動〕

授業担当：基幹科目 人間と文化(情報社会と教育)（前期、後期）、基礎ゼミ(大学で学ぶ意味を考える)（前期）、展開ゼミ(テクノロジー社会で学ぶ意味を考える)（後期）

〔研究活動〕

研究業績：1) (共著)「トピックモデルを用いた授業評価アンケートの自由記述の分析」、松河秀哉・大山牧子・根岸千悠・新居佳子・岩崎千晶・堀田博史、日本教育工学会論文誌、vol.41, no.3. 233-244 2017年12月

招待講演：「3つの指標から見る東北大生の英語力」、松河秀哉、筑波大学第19回筑波大学FD研修会、12月8日

講演：「ツールに頼りすぎないテキストマイニング」、松河秀哉、JSET-SIG01 高等教育・FD 第4回セミナー・ツールに頼りすぎないテキストデータの分析—もう一工夫して論文を書こう、2017年9月8日

外部研究資金：1) (科研費)(挑戦的研究(萌芽))(代表)「自由記述の自動分類に基づいた授業評価の分析と大学における教育改善への包括的活用」平成29-31年度、2) (科研費)(基盤研究(B))(分担)「教育目標の達成に重要な教学データを自動選択するASモデル生成システム」平成29年-31年度

〔大学運営〕

部局内委員会：1)機構教養教育推進WG、2)総務委員会委員(広報小委員会委員)、3)学生生活調査WG

各種支援活動：CIRワークショップ講師、英語教科部会FD講師、第3回教育調査研究会講師、CIRセミナー司会

〔業務活動〕

機構業務：「学生による授業評価アンケート実施結果報告書」の概要に関してCIRの業務として分析・執筆をおこなった。学生生活調査報告書の執筆にWGのメンバーとして関わった。

センター業務：第3回東北大学の教育と学修成果に関する調査報告書に「3つの指標から見る東北大生の英語力」を執筆した。学修成果調査・卒業生調査の実施に協力した。学習支援センターのデータ分析に関して助言を行った。

〔社会貢献〕

学会活動：日本教育工学会大会実行委員、日本教育工学会特任編集委員、日本乳幼児教育学会広報・企画委員

社会教育活動：筑波大学第19回筑波大学FD研修会講師、第21回視聴覚教育総合全国大会第68回放送教育研究会全国大会合同大会(宮城大会)指導講師

川面 きよ 特任講師

〔専門分野〕 高等教育における組織開発・職能開発

〔研究活動〕

分科会発表：「東北大学における教育・学習活動に関するIRの取組～「教育と学修成果に関する調査」とその結果の組織的な活用を目指して～」、第67回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会、2017年8月。

〔業務活動〕

センター業務：教育評価分析センターの業務として主に以下の業務に従事

- ・第3回東北大学教員の教育と学修成果に関する調査報告書データ集計・分析、原稿執筆および編集
- ・第3回東北大学の教育に関する卒業・修了者調査の企画・実施
- ・雇用者調査の企画・実施
- ・季刊広報誌「IR Insights」企画・発行
- ・CIRデータベースの開発
- ・過去5年の卒業・修了生の学習関連データの学務情報システムからの抽出およびデータクリーニング
- ・部局、業務センターからの要望に合わせた分析基礎データのDBからの抽出・提供
- ・CIRセミナーの企画・運営
- ・CIR関連経費の予算管理

高等教育開発部門の業務として以下の業務に従事：

- ・教育関係共同利用拠点におけるSD事業「若手職員のための大学職員論」7月および3月の企画、運営、講師

〔社会貢献〕

学会活動：日本教育工学会第33回大会企画委員会委員、同第34回大会企画委員会および実行委員会委員

その他：関西の大学における学習支援担当者が実践知を共有し、交流するための場(関西ラーニングコモンズ担当者ネットワーク)の定期的なミーティング実施(計3回)をコーディネート

大森 不二雄 教授

〔専門分野〕 教育社会学、教育政策、高等教育

〔教育活動〕

授業担当：前年度(本学着任初年度)に開発した授業科目を改善して実施した。

- 1) 全学教育・基礎ゼミ・「あなたの専門分野の面白さを伝えてください」(授業題目)
- 2) 全学教育・基幹科目・「社会の構造」(科目名)・「社会人になるための社会分析」(授業題目)

その他：熊本大学大学院社会文化科学研究科客員教授として、同研究科教授システム学専攻の公開学位審査会等において、博士前

期課程及び後期課程の学生に対する指導等並びに専任教員に対する助言等を行った。

【研究活動】

研究業績：1) 論文(単著)「英国の大学授業料・ローン制度の成功から学ぶ教訓～高等教育の無償化論に潜む落とし穴～」『大学マネジメント』第153号(2018年3月号), 2018, 24-34頁。 2) 論文(共著)「高等教育研究と経営学理論の対話から見えてくる新視点—革新的な大学組織の在り方を探索する学際的研究の試み—」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第4号, 2018, 227-237頁。【査読あり】 3) 論文(共著)「米国STEM教育におけるDBER (discipline-based education research) の勃興—日本の大学教育への示唆を求めて—」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第4号, 2018, 239-246頁。【査読あり】 4) 書評「楠見孝・道田泰司編『批判的思考と市民リテラシー—教育, メディア, 社会を変える21世紀型スキル—』」『大学教育学会誌』第39巻, 1号, 2017, 144-146頁。 5) 報告(単著)「第1回大学教育イノベーションフォーラム「SD義務化と大学の未来～全教職員の能力開発を組織開発につなげるために～」について」大学基準協会『大学職員論叢』第6号, 2018, 221-224頁。

招待講演：1)「国際的に通用する大学教育の質保証のための課題と数学教育への期待」第25回『工学系数学基礎教育研究会』, 2017年9月12日(於：山形大学)。 2)“Back to the Past?: Weakened autonomy of national university corporations in Japan”, Presented at 14th International Workshop on Higher Education Reform (HER 2017), 27 September 2017, Hiroshima University, Higashi Hiroshima, Japan. 3)「Discipline-Based Education Research (DBER)」, 『2018 Transforming Undergraduate STEM Education in Japan』, 2018年2月10日(於：北海道大学)。 4)“Japanese University Management and Managers in the Context of External and Internal Governance”, Presented at International Workshop: A Comparative Study of University Governance, Institutional Leaders and Leadership in East Asia and the Pacific, 24 February 2018, Hiroshima, Japan. 5)“Higher Education Reform in Japan: Why are Japanese universities still conventional after decades of reform?”, Presented at Research Workshop on the theme of International and Regional Dimensions in Higher Education, 8 March 2018, University of Tokyo, Tokyo, Japan.

基調講演：1)“Why is the Japanese higher education still conventional after decades of reform?: Removing the mask of marketization reveals the dated state-driven system”, Keynote Speech at Japan Association of Higher Education Research Symposium 2017, 27 May 2017, Tohoku University, Sendai, Japan. 2)「内部質保証を学習成果につなげる道標～インセンティブをデザインする～」SDPシリーズ第1回『大学の質保証のためのIR・評価マネジメント』, 2017年7月14日(於：東北大学)。

外部研究資金：科研費・挑戦的萌芽研究「博士課程出身の大学非正規職員に関する探索的研究：高学歴ワーキングブアか新専門職か」(平成28年度～平成30年度) 研究代表者

【大学運営】

全学委員会：学務審議会委員、同審議会教育情報・評価改善委員会委員、同学務情報システム運営委員会委員、同社会科学委員会委員、附属図書館商議員及び学術情報整備検討委員会委員

部局内委員会：高度教養教育・学生支援機構大学教育支援センター長(平成29年10月より)、同センター共同利用運営委員会委員長(平成29年10月より)、同機構高等教育開発部門長(平成29年10月より)、同機構機構長補佐会議メンバー、同機構人事委員会委員、同機構教養教育推進ワーキンググループメンバー

【業務活動】

機構業務及びセンター業務：大学教育支援センター長、同センター共同利用運営委員会委員長等として、教育関係共同利用拠点事業の推進等を通じ、大学教員・職員の職能開発等に貢献した。

部門業務：高等教育開発部門長及び同部門高等教育開発室の一員として、高等教育に関する研究成果から得られた知見を基に、所属委員会等における審議・検討を通じ、全学教育など大学教育の改善・改革に貢献した。また、部門長として、部門教員会議等を通じ、連携協力の強化と研究・教育の質の向上を図った。

【社会貢献】

各種委員等：1) 大学教育イノベーション日本代表 2) 日本私立大学協会附置私学高等教育研究所研究員 3) 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用運営委員会委員 4) IDE大学協会東北支部セミナー実行委員 5) 大学マネジメント研究会編集委員 6) 大阪市特別顧問：大阪市総合教育会議における施策の検討・企画等に貢献した。

学会活動：1) 大学教育学会代議員 2) 国際教育学会副会長 3) 日本高等教育学会第20回大会実行委員会副委員長

国際交流活動：英国へ渡航し、次の英国高等教育リーダー育成関係機関の幹部と面談(2018年2月28日)し、連携協力に関する協議を行った。

・ Mr. Andy Shenstone, Interim Deputy Chief Executive, Leadership Foundation for Higher Education

社会教育活動：

・ 第67回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会「21世紀における高等教育のイノベーションを求めて」(2017年8月24日・25日、於：東北大学)：準備委員会委員として企画・運営および全体会II司会

・ 平成29年度IDE大学セミナー／第27回東北大学高等教育フォーラム(2017年11月29日、於：仙台ガーデンパレス)：開講式および閉講式の司会

・ 第2回大学教育イノベーションフォーラム「大学教育開発の専門性を探る」(主催：大学教育イノベーション日本、2017年12

月 11 日、於： Conference Branch 銀座))：主催者として企画・運営および閉会挨拶

岡田 有司 准教授

〔専門分野〕 教育心理学・発達心理学

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「基礎ゼミ（自分探しの旅に出よう：心理学的自己理解）」、全学教育「基幹科目：人間と文化(現代青年と心理)」、全学教育「基幹科目：人間と文化(【展開ゼミ】現代青年の心理・社会的問題を掘り下げる)」(基幹科目)。

29 年度は、28 年度の経験を踏まえ「基礎ゼミ」と「基幹科目：人間と文化【展開ゼミ】」の内容を全面的に見直し、より学生がアクティブに学べる工夫を行った。その結果、授業評価アンケートでは良好な結果が得られた。「基幹科目：人間と文化(現代青年と心理)」については、発達障害に関する授業回において、授業の効果を心理学実験的な方法を用いて検証する試みを開始した。分析結果に基づき授業内容を改善していく予定である。

教科書：『よくわかる心理学実験実習』2018(分担執筆)

〔研究活動〕

研究業績：1) (分担執筆)「日本の大学における教育情報マネジメントの現状と課題『高等教育における戦略的データ活用とリーダーシップ』」、(広島大学高等教育研究開発センター高等教育研究叢書、2018 年 3 月、pp5-15)、2) (分担執筆)「心理学研究の流れ、心理学実験への挑戦—卒業研究『よくわかる心理学実験実習』」(ミネルヴァ書房、2018 年 3 月、pp6-9、pp156-163)

ラウンドテーブル話題提供：1) 「学習成果の可視化とそこに潜む問題」、ラウンドテーブル：大学生の学びを支える時間的展望、日本発達心理学会第 29 回大会、2018 年 3 月、2) 「アニメ・マンガオタクの 4 分類とその特徴」、ラウンドテーブル：オタクの心理学(2)、日本発達心理学会第 29 回大会、2018 年 3 月

外部資金：1) 科研費：基盤研究 (B)「小中一貫校の総合的な研究」(分担)

〔大学運営〕

部局内委員会：1) 大学教育支援センター副センター長、2) 施設整備委員会委員、3) 高度教養教育・学生支援機構教養教育推進 WG
各種支援活動：教育関係共同利用拠点セミナー講師 1 件、企画・司会 5 件

〔業務活動〕

機構業務：講義棟 A 棟の A204 教室を改修し、副機構長、施設整備委員長、工学研究科の教員らと協同し、アクティブラーニングを促進するためのグループ学習室を設置した。

センター業務：大学教育支援センターにおける大学教員準備プログラム(PFFP)、新任教員プログラム(NFP)の運営・実施を担当した。その他、大学教員の能力開発のためのセミナーの運営、大学教育イノベーション日本のシンポジウムの運営等も行った。

〔社会貢献〕

学会活動：1) 日本発達心理学会学会誌編集委員、国内研究交流委員会副委員長、2) パーソナリティ心理学会学会誌常任編集委員、3) 大学教育学会学会誌編集委員、4) 日本高等教育学会第 20 回大会実行委員会事務局員

FD 研修会講師：1) 岩手大学 FD 研修会講師、2) 岩手医科大学 FD 研修会講師

羽田 貴史 教授

〔専門分野〕 高等教育論

石井 光夫 教授

〔専門分野〕 入試制度論／比較教育学

〔教育活動〕

授業担当：大学院教育（教育学研究科 比較教育システム論・講義及び演習各 2 単位）

留学生等受け入れ：受け入れ留学生は持っていないが、授業を受講した中国人留学生に対し、個別に論文指導をしている。

〔研究活動〕

研究業績：1) (単著)「中国の大学入試個別選抜改革-調査書活用や AO 入試の試み-」『東北大学高等教育ライブラリ』第 14 号 227-246 頁(2018.3)、2) (単著)「中国における教養教育の挑戦-北京大学、復旦大学-」『グローバル社会における高度教養教育を求めて』東北大学出版会 277-290 頁 (2018.3)

講演等：東北教育学会第 75 回公開シンポジウム招待講演 (2018.3.3)

外部資金：1) 科研費基盤研究 (A)「グローバル社会におけるコンピテンシーを具体化する高度教養教育の開発研究」(課題番号 26245074 代表・羽田貴史)、研究分担者、平成 24-28 年度、2) 科研費基盤研究 (A)「高大接続改革の下での新しい選抜方法に対する教育測定論・認知科学・比較教育学的評価」(代表・倉元直樹)、研究分担者、平成 28-32 年度

〔大学運営〕

全学委員会：1) 入学試験審議会委員、2) 入試企画・広報委員会副委員長、3) 入試実施委員会委員、4) 広報戦略室委員、5) FGL

実施委員会委員, 6) 国際交流委員会委員

各種支援活動: 中国代表事務所所長補佐

〔業務活動〕

センター業務: 入試センター: 工学部入試検討委員会委員 (AO 入試実施業務 (作題, 選抜審査等) を含む), 他学部の AO 入試への情報提供・助言 入試広報活動 (大学案内編集, 各種説明会の主催, 高校訪問等), センター試験および一般入試の実施 (入試実施本部員) その他関連入試業務

部門業務: 東北大学高等教育フォーラムの企画・運営

〔社会貢献〕

各種委員等: 1) IDE 大学協会 東北支部のセミナー開催 (実行委員) 2) 国立大学アドミッションセンター連絡会議 (幹事)

国際交流活動: 北京事務所所長補佐として 1) 希平会 (中国に事務所を置く大学の連絡団体) への出席, 2) 中国校友会(同窓会)活動支援 (12月北京で校友会総会を開催)

社会教育活動: 1) 入試説明会 (高校教員対象) 20 会場のうち 6 会場担当 2) 進学説明会 (札幌会場 6 月・静岡会場 6 月・東京会場 7 月・大阪会場 7 月) を担当 3) 高校訪問 (1 校)・進学講演会講師 (2 会場) 4) 各種入試説明会・ガイダンスへの参加 (3 会場) 5) 河合塾高大接続改革シンポジウム講演(8 月)

倉元 直樹 教授

〔専門分野〕 教育心理学・教育測定論 (大学入試)

〔教育活動〕

授業担当: 大学院文学研究科「心理学特論 I」, 「心理学研究演習 VI」, 大学院教育情報学教育部「IT 教育基礎論特論 C」, 「研究方法入門セミナー (1 コマ)」 大学院医学系研究科「医療教育論 (1 コマ)」, 文学部 2 科目 (大学院科目読替)

教育支援活動: 東北大学入試センター新任教員対象 FD 担当 2 回, 学内入試関連 FD 企画運営・講演・講演会講師等担当 4 回

その他: 学内 FD 受講 7 回

〔研究活動〕

研究業績の公表状況:

図書: (分担執筆) 「個別大学の入試設計から見た高大接続改革の展望」, 高度教養教育・学生支援機構編『個別大学の入試改革』東北大学出版会, 2018, 43-86.

論文: (共著) 「国立大学における個別学力試験の解答形式の分類」『日本テスト学会誌』, 13, 2017, 70-84. 「新共通テスト (イメージ例) が測定する資質・能力の分析—高校生対象のモニター調査から—」『大学入試研究ジャーナル』 28, 2018, 1-6. 他 5 編; (単著) 「大学入試の諸原則から見た東北大学の入試改革」『大学入試研究ジャーナル』 28, 2018, 119-125.

学会発表: 単独発表 1 件, 共同発表 5 件.

招待講演: 3 件.

外部資金: 科学研究費補助金 (基盤研究 A) 「高大接続改革の下での新しい選抜方法に対する教育測定論・認知科学・比較教育的評価」 (代表)(2016~2021), 分担 2 件.

大学入学者選抜改革推進委託事業 (文部科学省) 「個別学力試験「国語」が測定する資質・能力の分析・評価手法に関する研究 ~ 記述式問題を中心に~」 (連携)(代表: 北海道大学)(2016~2019)

〔大学運営〕

全学委員会: 入試関連全学委員会委員等

各種支援活動: 学部内入試関連部会協力者 2 件, 学部主催の FD 講師 2 件等

〔業務活動〕

高度教養教育・学生支援機構の業務: 第 26 回東北大学高等教育フォーラム「個別大学の入試改革—東北大学の入試設計を事例として—」の企画立案, 基調講演, 運営. 参加者 427 名: 大学入試設計の諸原則と高大接続改革における東北大学の入試に対する矛盾した状況について講演を行った。

入試センターの業務: 1) 本学主催教員対象入試説明会 8 回 (講演担当 7 回), 2) 高校主催教員対象研修会 1 回, 3) 本学主催進学説明会 3 回 (講演担当 2 回), 4) 高校別東北大学入試説明会・相談会 (含, 教員との意見交換) 11 回, 5) 業者等主催合同進学相談会等 4 回 (うち講演 4 回), 6) 高校訪問 (意見交換) 25 回, 7) 学部主催高校教員との意見交換会 1 回。

〔社会貢献〕

各種委員等: 全国大学入学者選抜研究連絡協議会企画委員会委員, お茶の水女子大学新フンボルト入試外部評価委員, 国立教育政策研究所フェロー (eTIMSS 検討・準備委員会委員), 日本英語検定協会理事 (~平成 29 年 6 月 12 日まで)。

学会活動: 日本テスト学会理事, 同編集出版委員会委員長, 日本テスト学会第 15 回大会実行委員長, 国際教育学会 (ISE) 理事, 同学会誌編集委員, 同学会賞選考委員

国際交流活動: 外国人研究者招聘 1 件。

社会教育活動: 業者主催講演会講師 3 回, 他大学主催シンポジウム基調講演等 5 回, 新聞・雑誌取材 5 件。

石上 正敏 特任教授

〔専門分野〕 理科教育(物理分野)

〔研究活動〕

- <1> 「センター試験（化学領域）に求められる「学力」について」学会発表（共同研究），大学入試研究ジャーナル，28，13-19.
- <2> 「国公立大学における大学入試センター試験の選抜機能」，全国大学入学者選抜連絡協議会第13回大会発表論文
- <3> その他 文部科学省科学研究費助成事業「高大接続改革の下での新しい選抜方法に対する教育測定論・認知科学・比較教育学的評価」に関する研究の支援・補助（全国の高等学校におけるモニター調査の企画・立案・準備・実施等）

〔業務活動〕

入試センター業務

- <1> 東北大学の入試改善に関わる調査研究
- <2> 入試広報活動：「大学案内」の作成，入試説明会・進学説明会の実施，高等学校訪問，民間団体主催の入試説明会への参加，オープンキャンパスの企画・立案と視察・報告
- <3> 高大接続事業：第26回東北大学高等教育フォーラム「個別大学の入試改革」の実施
- <4> 入試実務：主としてAO入試に係る各学部（工学部，医学部，歯学部，文学部，経済学部等）に対するコンサルティング支援

〔社会貢献〕

長野県上田高等学校における生徒対象の講演会（平成29年6月21日）

庄司 強 特任教授

〔専門分野〕 数学教育

〔業務活動〕

センター業務：

- ・ 本学主催の高校教員対象の入試説明会（5会場）を担当
- ・ 本学主催の高校生・保護者対象の進学説明会・相談会で、司会、進学相談等を担当
- ・ 業者主催の進学相談会で高校生・保護者の進学相談に対応
- ・ 高校訪問で、教員に東北大学の特徴を伝え、情報交換を行った。また、希望する高校では生徒対象の東北大学説明会・相談会を実施
- ・ 第26回東北大学高等教育フォーラムの企画・運営

〔社会貢献〕

学会活動：1) 日本テスト学会第15回大会の実行委員、2) 第12回全国大学入学者選抜研究連絡会で研究発表

社会教育活動：1) 平成29年度第1回東北地区大学進学六校連絡協議会（東北六県のトップ校の進路指導担当者が参加）で講演、
2) 依頼のあった高校で、生徒に大学の特徴や進路について講演

樫田 豪利 特任教授

〔専門分野〕 理科教育（化学）

〔業務活動〕

入試センター業務：

- 1) 広報活動：入試説明会（5回），進学説明会（4回），学校訪問（10校），大学説明会（2回）
- 2) 協議会等参加：全国大学入学者選抜研究連絡協議会（発表）など4回
- 3) フォーラムの運営
- 4) 入試企画広報委員会および同WGへオブザーバーとして出席
- 5) 高大接続に関わる種々の取り組みについて、情報の収集と分析

〔社会貢献〕

高等学校等への協力：

- 1) 高等学校1年生を対象とした進学オリエンテーションにて講師として参加（1件）
- 2) 東北大学進学志望者への大学紹介（5件）

秦野 進一 特任教授

〔専門分野〕 英語教育

〔教育活動〕

高等学校用英語科検定教科書（大修館 コミュニケーション英語Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ）執筆

〔研究活動〕

研究業績：1) (分担執筆)「大学入試で問われるべき英語力とは何か ―資格・検定試験導入の持つ意味―」, (東北大学出版会, 平成30年3月20日, 第3章, pp.163-182), 2) (単著)「大学入試改革の行方 ―資格・検定試験が高校・大学に与える影響」, (大修館, 平成30年4月1日, GCD 英語通信, pp.5-7)

〔業務活動〕

入試センター業務・入試広報活動：高校個別訪問, 入試説明会の実施(札幌, 盛岡, 仙台, 宇都宮, 東京), 進学説明会・相談会司会・進行(札幌, 静岡, 東京)

第26回東北大学高等教育フォーラム(会場・進行)

〔社会貢献〕

日本テスト学会第15回大会実行委員・公開企画司会

宮本 友弘 准教授

〔専門分野〕 教育心理学, 教育情報学

〔教育活動〕

授業担当：大学院教育(教育情報学教育部)「研究方法入門セミナー」, 「インターネット調査演習」

〔研究活動〕

研究業績：1) (共著)「国立大学における個別学力試験の解答形式の分類」『日本テスト学会誌』Vol.13, 2017, 69-84. 2) (共著)「児童期における知能の動揺性及び学力との関連性の検討―ある小学校の縦断データから―」『教育情報学研究』第16号, 2017, 61-68. 3) (共著)「国立大学の個別学力検査における記述式問題の出題状況の分析―80字以上の記述式問題に焦点を当てて―」『大学入試研究ジャーナル』No.28, 2018, 113-118. 4) (共著)「新共通テスト(イメージ例)が測定する資質・能力の分析―高校生対象のモニター調査から―」『大学入試研究ジャーナル』No.28, 2018, 1-6. 5) (共著)「女子高校生における親の期待と学力―3年間の縦断研究―」『聖徳大学研究紀要』第28号, 2018, 1-5. 6) (共著)「初年次教育としてのキャンプ体験が大学適応感に及ぼす影響についての探索的研究：Social Provisionに着目して」『野外教育研究』第21巻第2号, 2018, 1-13.

〔大学運営〕

全学委員会：1) 入試実施委員会委員, 2) 入試企画・広報委員会委員, 3) 大学入試センター試験気仙沼高等学校試験場本部員(総括班長)

部局内委員会：1) 高度教養教育・学生支援機構出版・図書・資料委員会委員, 2) 工学部入試検討委員会委員

〔業務活動〕

機構業務：1) 第26回東北大学高等教育フォーラムの運営, 2) 高等教育ライブラリ14の企画・編集

センター業務：1) 各学部のAO入試への助言, 2) 電算集計班班長(副), 3) 大学入試センター試験(気仙沼会場)の実施(副本部長, 総括班長), 4) 一般入試前期日程及び後期日程の実施(電話連絡担当), 5) 本学主催入試説明会7回担当, 6) 本学主催進学説明会・相談会4回担当, 7) 高校主催講演会7回担当, 8) 高校訪問10校, 9) 業者主催説明会5回担当, 10) 大学入試者選抜改革推進委託事業に係る全国規模調査の実施

〔社会貢献〕

各種委員等：1) 国立教育政策研究所国際数学・理科教育動向調査(TIMSS)国内専門委員, 2) 公益社団法人全国幼児教育研究協会平成29年度文部科学省委託「幼児教育の質を保障する全体的な計画の在り方に関する調査研究」調査研究実行委員

学会活動：1) 日本テスト学会第15回大会実行委員会事務局長, 2) 日本テスト学会理事, 3) 日本テスト学会編集出版委員

田中 光晴 講師

〔専門分野〕 比較教育学

吉本 啓 教授

〔専門分野〕 言語学

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「日本語A」「日本語B」「日本語C」「日本語D」「日本語G」「日本語H」「Basic Japanese 1, 2」、大学院教育(国際文化研究科)「意味論」「応用言語研究総合演習A, B」

学位論文指導：修士1名(副査)

留学生等受け入れ：1名

ポストクの指導：2名

〔研究活動〕

研究業績：1) (単著)「日本語複合的機能語中の名詞の「名詞性」について」, シンポジウム「言語の変化、言語の成長―複眼的視

点から」, Conference Handbook 35, pp. 267-272, 日本英語学会; 「イントロダクション」, パネルセッション「統語・意味解析情報をタグ付けした日本語コーパスの開発—アノテーションの方法と文法研究への応用—」『日本語文法学会第18回大会発表予稿集』pp. 113-121, 日本語文法学会; 2) (共著)「統語解析情報付きコーパス検索用インタフェースの開発」『言語処理学会第24回年次大会発表論文集』, pp. 1123-1126; 3) (学会発表) “Exploiting coreferential information in NPCMJ for L2 reading of Japanese texts”, NINJAL International Symposium `Exploiting Parsed Corpora: Applications in Research, Pedagogy, and Processing', National Institute for Japanese Language and Linguistics; 「統語・意味解析コーパス NPCMJ のアノテーション」第85回 NINJAL コロキウム

国際会議運営: NINJAL International Symposium `Exploiting Parsed Corpora: Applications in Research, Pedagogy, and Processing' 運営委員

外部資金: (科研費) 科研費基盤研究 (C) 「高度な統語・意味解析情報を持つコーパスの開発とその応用」, [研究代表者]., 平成 28-30 年度

その他: 国立国語研究所共同研究プロジェクト「統語・意味解析コーパスの開発と言語研究」サブリーダー

〔大学運営〕

全学委員会: 学務審議会外国語委員会専門委員 (日本語), 学術資源研究公開センター運営専門委員会委員

部局内委員会: 言語・文化教育センター副センター長

〔業務活動〕

センター業務: オープンキャンパスに言語・文化教育センターが参加するに当たって、企画、運営を行った。

〔社会貢献〕

学会活動:

1) Pacific Asia Conference on Language, Information and Computation の運営委員を担当している。同学会は、東アジア地域のコンピュータ言語学、形式文法の活性化および研究者間の交流に貢献している。同学会を支える国内組織である言語情報科学会の会長をつとめた。

2) 人工知能学会国際ワークショップ Logic and Engineering of Natural Language Semantics の実施委員会の一員として、形式意味論を中心とするワークショップを各年行っている。国際的な学術交流の核として貢献している。

3) 国立国語研究所共同研究プロジェクト「統語・意味解析コーパスの開発と言語研究」サブリーダーとして、同プロジェクトを運営している。

北原 良夫 教授

〔専門分野〕 英語学、言語学、英語教育、言語教育、高等教育論

〔教育活動〕

授業担当: 全学教育「英語 A1」(文教 1)、「英語 A2」(歯薬 1)、「英語 B1」(経 1、工 1)、「英語 C1」(全 1)、「英語 C2」(文教 1、農 1、全 1)、大学院教育(国際文化研究科)「言語データ解析論 I」×1、「応用言語研究総合演習 A 及び B」各 1、「応用言語研究特別演習 A 及び B」各 1、「応用言語研究特別研究 A 及び B」各 1、「応用言語研究特別講義 A 及び B」各 1

教育支援活動: 1) 新入生に配付する英語学習用ブックレット『Pathways to Academic English』を作成、2) 全学教育グローバルコミュニケーション科目「大学での英語学習のためのモチベーション&スキルアップ講座」の開講準備作業 (1、2 いずれも言語・文化教育センター英語担当教員による協働作業)

学位論文指導: 博士 2 名、修士 2 名、審査委員: 4 名 (博士: 副査 2、修士: 主査 1、副査 1)

留学生受け入れ: 2016 年度に国際文化研究科の修士学生として受け入れた中国人留学生 (1 名) を無事修了させた

〔研究活動〕

研究業績: 1) (共著)「東アジアの準英語圏・非英語圏における英語学習サポートシステムの実態調査—その経過と香港地域の大学の調査結果報告を中心に」、『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』、第 4 号、415-426 頁、2018 年 3 月、2) (単著)「第 1 部資料 第 1 章～第 3 章」、『平成 28 年度 TOEFL ITP®テスト実施報告書』、東北大学学務審議会外国語委員会英語教科部会、4-63 頁、2017 年 9 月

その他: 「建設的協働学習による企業・海外大学・全学参加型スキルアップ研修」(高度教養教育開発推進事業)、「新しい e ラーニングシステムを活用した高年次学部生に対する EGAP 教育の展開」(同)、「東アジアの非英語圏・準英語圏における特色ある英語教育システムの実態調査と英語学習サポートシステムの開発研究」(同)、「継続的学習に繋がる英語聴解力伸張を目指した集中講義プログラム開発」(同)、「語学学習における能力獲得分析と語学授業への活用」(高度教養教育・学生支援機構部局ビジョン推進経費)等の共同研究にメンバーとして参画

〔大学運営〕

全学委員会: 1) 学務審議会委員、2) 同外国語委員会委員、3) 同外国語委員会学習専門部会委員 (施設運用小委員会)、4) 同学務情報システム運営委員会委員、5) 同カレントトピックス委員会委員、6) 同高度教養教育内容開発検討ワーキンググループメンバー、7) 人文・社会科学系学生交流実施委員会委員、8) 入試実施委員会委員

部局内委員会：1) 高度教養教育・学生支援機構言語・文化教育開発室室長、2) 同人事委員会委員、3) 同出版・図書・資料委員会委員、4) 同総務委員会英語化ワーキンググループリーダー、5) 同言語・文化教育センター運営会議メンバー

〔業務活動〕

機構業務：総務委員会に設置された「英語化ワーキンググループ」のリーダーとして、機構の規程（新規制定、改定）等、業務センターのホームページをはじめ各種の文書等の英語化に主体的に従事した。

センター業務：言語・文化教育開発室室長として、言語・文化教育センターの運営業務、シンポジウムやセミナーの企画・実施などをはじめ、センターに関わるさまざまな業務に主体的に従事した。

部門業務：言語・文化教育開発室についてもセンター業務と同じ（実質的には言語・文化教育センターと同じ組織であるため）

上原 聡 教授

〔専門分野〕 日本語教育、認知言語学、言語類型論

〔教育活動〕

授業担当：国際共修クラス（全学教育カレントトピックス展開ゼミ）「歌に学ぶ日本の言葉と心—国際共修ゼミ」（前後期）、「日本語の文法を外から見て考える—国際共修ゼミ」（前期）、日本語特別課程クラス「日本語読解中級前期」（自然科学系短期留学プログラム）（前後期）、「日本語入門・初級前期応用（速習）」（日本語研修コース）（後期）、大学院教育「言語科学特別講義」「言語科学特別演習」「言語科学演習」（以上前後期）「認知言語学Ⅰ」（後期）

学位論文指導・審査：博士5名（副査1名）、修士7名（主査1名、副査3名）

教育支援活動：日本語研修コース（国費留学生予備教育課程）担任受入指導

留学生等受け入れ：大学院担当講座受入：留学生20名、専門研究員他2名

その他：国際言語総合科学大学院コース（国際文化研究科英語コース）参画・授業実施・学生受入

〔研究活動〕

研究業績：著作1）（単著）『国際共修クラスの設計と運営—歌に学ぶ日本の言葉と心—』PDブックレット Vol.11.（東北大学高度教養教育学生支援機構，2018年3月31日，全84頁）、論文1）（分担執筆）「Internal state predicates in Japanese and Thai」、『Handbook of Japanese Contrastive Linguistics』（Mouton De Gruyter, 2018年2月、651-676）、2）（単著）「日タイ語の聞き手領域への移動を表す「来る」表現に関する一考察」、『ことばのパスpekティブ』，開拓社，2018年3月、14-27）、3）（分担執筆）「日本語とタイ語の一人称代名詞使用に関する認知言語学的一考察—出現数の差に注目したケーススタディー」『日本認知言語学会論文集』第17巻，（2017年9月、258-270）

外部資金：（科研費）基盤研究(C)「主観性に基づく言語の類型化と他の言語類型との相関に関する認知類型論的実証研究」（代表）（2016-2019）、（科研費）基盤研究（B）「日本語と近隣言語における文法化の基礎的研究」（分担）（2016-2019）

〔大学運営〕

全学委員会：1) 国際連携推進機構 国際交流委員会 日本語研修教育運営実施委員会委員，2) 同日本語研修教育運営専門委員会委員，3) 同日韓共同理工学部留学生事業運営委員会委員

部局内委員会：1) 大学院国際文化研究科附属言語・脳・認知総合科学研究センター運営委員会委員，2) 言語・文化教育センター運営会議委員

各種支援活動：言語・文化教育センター日本語教育セクション HP 管理

〔業務活動〕

学生支援業務：日本語研修コースにおける学生受入指導（受入教員となり修了認定まで指導・問題や相談に対する対応）・日本語特別課程・理系短プロ日本語プログラムにおける学生支援（日本語オリエンテーションや履修相談会の開催など全学の留学生の履修上の問題や相談に対する対応）

センター業務：日本語研修コースコーディネーター・理系短プロ日本語プログラムコーディネーター（カリキュラム編成およびクラス編成などの運営業務）、センター日本語教育セクションのHP情報ネットワークの維持管理（日本語セクションHPリニューアルの補助も含む）

〔社会貢献〕

国際交流活動：特別訪問研修生受け入れ（1～2月）2名、タイ王国国費留学生大学院受入指導1名

社会教育活動：Journal of Letters（タイ王国チュラロンコン大学文学部発行）編集委員

佐藤 勢紀子 教授

〔専門分野〕 日本思想史、日本文学、日本語教育

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「日本文化を考える」、大学院教育（国際文化研究科）「日本文化基層論Ⅰ（『源氏物語』と伝典）」、「国際日本研究総合演習・特別演習」，「国際日本研究特別講義」，「国際日本研究特別研究」，「研究のための日本語スキル」，その他（外国人留学生等特別課程）「中上級日本文化演習（古文入門）（CJ500）」，「中上級日本文化演習（日本文化を考える）（JC530）」，「中上級研

究ゼミ（研究のための日本語スキル）（PA500）」、「上級日本文化演習（古典入門）（CL600）」、「上級研究ゼミ（RS 630）」、「超級研究ゼミ（RS730）」など

学位論文指導・審査：国際文化研究科にて、博士3名、修士4名を指導、博士1名の主査、博士1名および修士3名の副査

教育支援活動：日本語研修コースの入門～初級レベルで使用している文化読解教材を刊行に向けて改訂

留学生等受け入れ：国際文化研究科にて、留学生3名（博士1、修士1、特別研究学生1）を主指導教員として指導

〔研究活動〕

研究業績：著書：（単著）『源氏物語の思想史的研究—妄語と方便—』新典社、2017年5月、270頁

論文等：1）（単著）「古典を通じた中日言語・文化交流」『語言文化的交流与発展 国際学術研討会論文集』（吉林出版集团股份有限公司）、2017年10月、pp.121-133、2）（単著）「从古典文学中學習中日文化的根基（原題：古典から学ぶ中日の文化的基盤—源氏物語の漢籍撰取を例として—）」『中国東北与日本文化交流文化貿易研究』（中国商務出版社）、2017年10月、pp.305-314、3）（共著）「日本語初級学習者を対象とする文化教材の開発」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』4、2018年3月、pp.453-462

学会発表：1）（共同発表）「日本語文語文 e-learning 教材試作版の作成と利用」、2017年度日本語教育と日本学研究国際シンポジウム、同済大学、2017年5月13日、2）（共同発表）「非母語話者のための日本語文語文 e-learning 教材」、EAJS2017, Universidade Nova de Lisboa、2017年9月2日、3）（共同発表）「日本語非母語話者に対する古文・漢文・くずし字学習支援」、日本文学協会第72回大会（ラウンドテーブル）、相模女子大学、2017年11月19日

基調講演：『源氏物語』に見られる仏教思想—ジェンダーの視点から—、2017年度日本語教育と日本学研究国際シンポジウム、同済大学（中国）、2017年5月13日

外部資金：（科研費）基盤研究(C)「日本語学習者を対象とする文語文 e-learning 教材及び文語文教授法の開発」（代表）、2017年度～2019年度

〔大学運営〕

全学委員会：1）日本語研修教育運営委員会委員、2）日本語研修教育運営専門委員会委員長、3）人文・社会科学系学生交流実施委員会委員

部局内委員会：1）高度教養教育・学生支援機構人事委員会委員、2）同研究倫理委員会副委員長

各種支援活動：大学教育支援センターの大学教員養成プログラム PFFP・NFP に先達教員として協力（授業公開、模擬授業へのコメント付与、先達コンサルテーション等）

〔業務活動〕

学生支援業務：外国人留学生等特別課程受講者の相談への対応

機構業務：1）外国人留学生等特別課程の企画および運営、2）日本語研修教育プログラム教務システム導入に係る諸業務、3）冬季短期日本語・日本文化研修プログラム（KEYAKI）参加者の機構特別訪問研修生としての受け入れに関するコーディネーションおよび研修生指導

部門業務：言語・文化教育開発室の人事に関する諸業務

〔社会貢献〕

学会活動：1）日本語教育学会理事、2）日本語教育学会表彰委員会副委員長、3）日本文芸研究会代表委員、4）専門日本語教育学会編集幹事

国際交流活動：1）同済大学（中国）を訪問、教育・研究交流について協議（2017年5月）、2）日本文芸研究会代表委員として東亜大学校（韓国）を訪問、東アジア日本学会、東北アジア文化学会との合同国際学術大会に参加、関係者と研究交流について協議（2017年10月）、3）（一財）東北多文化アカデミー理事として冬季短期日本語・日本文化研修プログラムを企画・実施、参加学生を東北大学の特別訪問研修生として受け入れ（28名、うち機構受け入れ9名）（2018年1月～2月）

社会教育活動：学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパスにて講座『源氏物語』のエッセンス(1)、『源氏物語』のエッセンス(2)を開講（2017年9月、2017年10月）

その他：（一財）東北多文化アカデミー理事

橘 由加 教授

〔専門分野〕 英語教育、CALL 教授法、高等教育論

〔教育活動〕

授業担当：（全学教育）「英語 B 1」「英語 B 2」「英語 C 1」

竹林 修一 准教授

〔専門分野〕 アメリカ研究、英語教育

〔教育活動〕

授業担当（東北大学）：「英語 A2」「英語 B2」「英語 C2」

〔研究活動〕

研究業績：(共著)「ボイス・オブ・アメリカ(VOA)ニュースで学ぶ英語レベル2」、大学教育出版(執筆担当：第5章から第9章)、2017年4月。

学会等発表：1)「大学の英語教育の現場で何が起きているのか」関西日米交流フォーラム、大阪中之島公会堂、2017年4月28日。

2)「対抗文化としてのセクシュアリティを考える——第二次世界大戦後から1970年代のアメリカにおいて、性解放運動と社会変革思想を繋いだもの」関西アメリカ史研究会、2017年5月14日、キャンパスプラザ京都。3)「マルクスからフロイトへ——1960年代ラディカルズムと性解放運動」日本アメリカ史学会、2017年9月24日、愛知県立大学。4)「小中高大の連携について現場の教員で考える」英語教師学びの会、仙台メディアテーク、2018年2月10日。

〔業務活動〕

センター業務：平成30年度入学生に配布する英語学習ハンドブック「Pathways to Academic English」のプロジェクト・リーダーを務めた。

〔社会貢献〕

社会教育活動：Toastmasters International(米国非営利教育団体)の仙台市内2クラブにおいて、コミュニケーションとリーダーシップの向上を図るために活動した。

平塚 貴晶 准教授

〔専門分野〕 英語教育学・応用言語学

〔研究活動〕

研究業績：1)(単著)2017「Pair discussions for reflecting on action: Stimulated recall」In R. Barnard & J. Ryan (Eds), Reflective practice: Options for English language teachers and researchers (pp. 89-97). New York: Routledge., 2)(単著)2018「Narrative frames as a course evaluation instrument」The Language Teacher, 42(1), 3-7., 3)(単著)2018「An inside look at the process of qualitative data analysis」Studies in Japan Association of Language Education and Technology, 11, 1-22., 4)(単著)2017「Capitalizing on the strength and complementing the weaknesses of native and non-native English speaking teachers」Out of the Box, 8(1), 37-46., 5)(単著)2018「What we gain from ELT professional presentations」In P. Clements, A. Krause, & H. Brown (Eds.), Transformation in language education, 10-16. Tokyo: JALT.

〔社会貢献〕

東北大学高度教養教育・学生支援機構FDセミナー開催責任者及び講師(2018年3月)

カン ミンギョン 准教授

〔専門分野〕 ドイツ語学

〔教育活動〕

授業担当：1)基礎ドイツ語I・II(前期5コマ、後期3コマ)、2)展開ドイツ語I・II(前期1コマ、後期1コマ)

その他：1)FD活動の一環として、ドイツ語教育セミナー「ドイツ語教育とアクティブラーニング：どのような教材をどのように用いるか」を企画・開催した。

〔研究活動〕

研究業績：1)(分担執筆)「ドイツ語におけるコロケーション分析とその辞典記述の問題点」(2018年3月、三重大学教養教育機構研究紀要第3号、51-67)、2)(分担執筆)「アクティブラーニングを取り入れたドイツ語授業の試み(報告)」(2018年5月、東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要第4号、427-438)、3)(分担執筆)「学習者中心のドイツ語授業のために一大学ドイツ語教授法強化講座のワークショップを振りかえてー(報告)」(2018年3月、東北大学言語・文化教育センター年報第3号、9-16)、4)「コーパスに基づくコロケーション分析と語義記述」(2018年5月、機構PD口頭発表)

外部資金：1)科研費・基盤(C)「ドイツ語結果構文のコーパス分析と使役構文を含む結果表現の包括的研究」(研究代表者、2016年~2018年)、2)科研費・基盤(C)「ドイツ語基礎語彙のコロケーションに基づく意味分析とその独和辞典記述方法の検討」(研究分担者、2016年~2019年)

〔大学運営〕

全学委員会：1)ドイツ語部会・時間割係

部局内委員会：1)言語・文化教育センター運営委員会委員、2)施設整備委員会委員

〔業務活動〕

所属業務センターの業務：1)言語・文化教育センター、主にドイツ語セクションに関わる各種業務を担当した。

〔社会貢献〕

学会活動：1)日本独文学会語学ゼミナール実行委員会委員

深井 陽介 准教授

〔専門分野〕 フランス文学・フランス語教育学

〔教育活動〕

授業担当：「基礎フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「展開フランス語Ⅰ・Ⅱ」

その他：各種フランス語の授業に加えて、フランス語のみを使う空間、「エスパスフランコフォン」を毎週金曜日、実施した。また、フランス語検定対策・フランス教育省公認検定試験DELFの対策講座を週1回（水曜5限）実施した。更に、学生を東京・日仏会館が主催している「フランス語コンクール」に指導している出場させ、決勝進出に導いた。尚、フランス語検定の受験を奨励することで、計78名の受験者の増加につながった。

〔研究活動〕

招待講演：◆「大学で何を学ぶか?」、聖ウルスラ学院高等学校高大連携授業、於聖ウルスラ学院英智高等学校、2017年9月9日。

◆「SNSとフランス語教育の可能性—映画製作活動と学生のモチベーション向上」、東海大学国際教育センター語学教育法研究会、於東海大学、2017年4月22日。◆「ランボーと風景—自然と都市—」、連続シンポジウム「象徴主義とは何か」第1回象徴主義と「風景」—ボードレールからブルーストまで、2017年9月30日、於東北大学。◆「Apprendre le français en créant des vidéos sur YouTube」、国際フランス語教授連合・アジア太平洋地区大会、於京都大学、2017年9月22日。◆「Soirée « cinématographique », pédagogie innovante et création de courts-métrages, La traduction du savoir et ses méthodes, Journée d'études internationales, 国際共同シンポジウム、於東北大学、2018年2月21日。

外部資金：◆「創造—発信型フランス語教育システムの開発（分担）」、平成28年度～30年度、研究代表者惟村宣明（東海大学国際教育センター教授）

その他：◆教育関係共同利用拠点プログラム「いま、外国語をどう教えるか?—フランス語を例に—」企画・司会、及びクロード・ジェルマン名誉教授基調講演「文法のパラドックスと神経言語学アプローチ」通訳、2017年9月25日。

〔大学運営〕

全学委員会：フランス語委員会委員

部局内委員会：高度教養教育・学生支援機構 言語・文化教育センター運営委員

〔業務活動〕

部門業務：フランス語教育の運営。「東北大学とフランス語」というHPの作成。

〔社会貢献〕

学会活動：日本フランス語教育学会学会誌編集委員、国際フランス語教授連合アジア太平洋地区大会（京都大学）の実行委員（2017年9月まで）。東北大学フランス語フランス文学会役員。

その他：メディア

- ・大学生協新聞特集インタビュー
- ・TV5MONDE 番組 Destination francophonie 取材・インタビュー
- ・仙台放送ニュースアプリ「今、大学生に必要な力は何か」（前編・後編）連載
- ・第7回安達峰一郎記念弁論大会審査員（山形大学）

田林 洋一 准教授

〔専門分野〕 スペイン語学、言語学、スペイン語圏文化

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「基礎スペイン語Ⅰ」「基礎スペイン語Ⅱ」

教育支援活動：「スペイン語圏文化入門」リーフレットの執筆、作成。

その他特記すべき事項：次年度の新規講座（初修語としての外国語圏文化入門講座）の準備。

〔研究活動〕

研究業績：1) (単著)『スペイン語圏文化入門リーフレット』学生配布冊子、2017、総頁数24。2) (単著)「法案審議における「レッテル貼り」の認知言語学的分析試案—なぜ「食い違い」から発展した言い争いは起こるのか—」東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要第4号、2018年3月、285-298。3) (単著)「日本におけるイスパニア文化への意識の変遷—スペイン語初修者のアンケート分析—」東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要第4号、2018年3月、439-452。4) (単独発表)「スペイン語の与格の振る舞いに対する意図性-se le V構文の考察」東北大学正午PD会、2017年7月12日。

〔大学運営〕

全学委員会：1) 学習環境専門部会、スペイン語部会。

部局内委員会：1) 全学教育推進ワーキンググループ、2) 広報小委員会。

〔業務活動〕

センター業務：初修語としての外国語の新規ホームページ作成の取りまとめ

〔社会貢献〕

各種委員等：第 67 回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会運営（会計委員）

学会活動：北海道大学「メディアコミュニケーション研究」査読委員（スペイン語学分野）、東北大学外国語強化講座「Del Marco Comun Europeo de Referencia para las Lenguas y el Plan Curricular del Instituto Cervantes al aula Implicaciones de MCER y el PCIC en el diseno de pruebas evaluativas」主催兼主任コーディネーター（2018 年 1 月 20 日）

社会教育活動：みやぎ県民大学公開講座「ことばのひろがり」と仕組みに迫る」担当（2017 年 6 月 7 日～6 月 28 日）

西田 文信 准教授

〔専門分野〕 言語学、中国語学、地域研究

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「基礎中国語 I・II」（前期 5 コマ，後期 5 コマ）及び「展開中国語 I・II」（前期 1 コマ，後期 1 コマ）

教育支援活動：報告書の作成『東北大学中国語教授法強化講座 2017 年度課題レポート集』

その他：東北大学専門教育指導力育成プログラム：中国語を教える大学教員のためのスキルアップコース（海外研修）の企画・開催・引率

〔研究活動〕

論文：1) (単著)「却域語絨毯方言概況-基于四川省甘孜藏族自治州理塘县绒坝区的调查分析结果-『慶應義塾中国文学会報』第 2 号, pp.1-9, 2018 年 3 月, 2) (単著)「オレカ語の言語学的特徴について-音声・音韻・形態を中心に-」『ブータン学研究』第 1 号, pp.1-22, 2018 年 3 月, 3) (単著)「現代中国語における繫辞の意味と名詞句の解釈に関する覚書」『東北大学言語・文化教育センター年報』第 3 号, pp.27-31, 2018 年 3 月

招待講演：1)「ブータンにおける少数言語の現状-記録、継承、再活性化-」第 2 回ブータンフォーラム、早稲田大学、2017 年 5 月 20 日, 2)「ブータン王国の諸言語について-言語多様性の現状と課題-」第 43 回雲南懇話会、JICA 研究所、2017 年 12 月 23 日

学会発表：1) (単独)「オレカ語の言語学的特徴について」日本ブータン学会第 1 回大会、早稲田大学、2017 年 5 月 21 日, 2) (単独)「ブータン諸語の音声ドキュメンテーション」日本音声学会第 336 回研究例会、昭和女子大学、2017 年 12 月 2 日, 3) (単独)「East Bodish 諸語の系統分類」日本歴史言語学会 2017 年大会、大阪学院大学、2017 年 12 月 9 日

外部資金：(科研費) 基盤研究 (C)「ブムタン諸語の記述言語学的・歴史言語学的研究」(代表) (平成 26 年度～平成 29 年度)

共同研究：ベルン大学言語学研究所 Himalayan Languages Project 研究メンバー

〔大学運営〕

部局内委員会：言語・文化教育センター運営委員

〔業務活動〕

学生支援業務：中国語圏留学希望学生に対する指導・助言

センター業務：中国語・朝鮮語部会との連携による言語・文化教育センターのプレゼンス強化

〔社会貢献〕

学会活動：1) 日本ブータン学会出版委員会委員, 2) 日本南アジア学会 30 周年記念大会企画委員

その他：アジアフォーカス・福岡国際映画祭 2017 出品作品『蜜をあたえる女 (ひと) Honeygiver among the Dogs』のゾンカ語字幕監修

菅谷 奈津恵 准教授

〔専門分野〕 日本語教育

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「Basic Japanese 1、2」「日本語 E、F、I、J」、大学院教育「第二言語教授法 I」「応用言語研究特別講義 AB」

学位論文指導・審査：博士 1 名（主査 1 名）、修士 2 名（主査 1 名、副査 1 名）

教育支援活動：1)『東北大学レポート指南書』第 2 版の作成、2) 東北在住の留学生を対象とした日本語教材の開発とウェブサイトでの公開

その他：1) セミナー「学生の思考力を高めるレポート課題の設計」企画・実施（2017 年 6 月）、2) 事業報告会「大学図書館と教員の協働によるライティング支援」の企画・実施・講師（2018 年 3 月）、3) 全学教育 FD「学習・研究の倫理教育」講師（2018 年 3 月）

〔研究活動〕

研究業績：1) (共著)「漢字学習における空書の効果 - 非漢字圏日本語学習者を対象として」『第二言語としての日本語の習得研究』20 号, 2017 年 12 月, 98-155, 2) (単著)「全学教育におけるライティング課題の実施状況-東北大学教員への面接調査から-」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』4 号, 463-473, 3) (単著)「大学の教養科目におけるレポート指導の効果-引用の習得を中心に-」第 49 回日本語教育方法研究会, ポスター発表, 2017 年 9 月

招待講演：「言語教育から見た盗用問題」，第 99 回第 2 言語習得研究会（関東），2018 年 2 月

その他：高度教養教育開発推進事業「初年次のレポート作成とその指導を支援する共通教材の開発」（事業代表）

〔大学運営〕

部局内委員会：1) 総務委員会委員

各種支援活動：1) ロシア交流推進室室員、2) 東北大学学習支援委員会委員、3) 全学教育用図書選定部会委員

〔業務活動〕

機構業務：機構教養教育推進ワーキンググループにて学生向けの授業案内サイトの開発に取り組んだ。

センター業務：日本語教育実施推進ワーキンググループ/日本語カリキュラム検討ワーキンググループにて、新たな日本語プログラムの開発に取り組んだ。

〔社会貢献〕

学会活動：1) 第 2 言語習得研究会（関東）運営委員、2) 日本語教育学会・支部活動運営協力員、3) 東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会 準備委員会庶務委員、4) J-CLIL 東北支部開催校委員

副島 健作 准教授

〔専門分野〕 現代日本語文法，言語学，日本語教育

〔教育活動〕

授業担当：

a. 日本語教育

外国人留学生等特別課程日本語科目「JF500(中上級共修ゼミ)」＝全学教育科目「映像に見る日本語と日本文化」(基礎ゼミ)「LV500(中上級共修ゼミ)」＝全学教育科目「日本語の多様性を考える」(展開科目・カレントトピックス科目)

日本語研修コース日本語科目「B150E/B250E(入門日本語総合(速習)/初級日本語総合(速習))」

DEEp-Bridge 日本語科目「RS530(中上級研究ゼミ)」

b. 大学院教育

国際文化研究科大学院科目「日本語解析論 I」「言語科学研究総合演習 A, B」「言語科学研究特別講義 A, B」

学位論文指導・審査： 主指導：博士 2 名，修士 3 名，審査：博士 3 名（主査 1 名，副査 1 名），修士 3 名（主査 2 名，副査 1 名）

教育支援活動： 日本語プログラムコーディネータ（日本語研修コース，DEEp-Bridge，IPLA，DATEntre）

留学生等受け入れ：

- ・客員研究員 1 名（2017 年 10 月・2018 年 9 月）
- ・特別訪問研修生として中国からの留学生を 2 名受入れた（2018 年 1-2 月）

〔研究活動〕

論文等：1) (単著)「日本語学習者は「動作主が不特定の人為的事態」をどう捉え、どう表すか」『比較文化研究 久留米大学 比較文化研究所』第 63 号，2018 年 1 月，62-81. 2)「人為的事態の結果の「好まれる言い回し」—日本語と韓国語の自動詞表現と受動表現—」『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要』第 4 号，2018 年 3 月，177-190.

学会発表等：1) (単独)「人為的事態の結果の「好まれる言い回し」—日本語と韓国語の受動文とアスペクト—」，第 10 回 日本語実用言語学国際会議 (ICPLJ10) 発表 (2017 年 7 月 10 日，於国立国語研究所). 2) (単独)「日本語学習者は「動作主が不特定の人為的事態」をどう捉え、どう表すか」，『日本研究所』創設記念シンポジウム 非西欧社会の近代化再考:日本とアラブ(エジプト)の場合 発表 (2017 年 7 月 15 日，於カイロ大学)

科研費：1) 基盤研究 (c)「主要部後置型言語におけるアスペクトとヴォイスの「自然な言い回し」に関する研究」(2015～2018) (代表)

〔大学運営〕

全学委員会：1) 国際連携推進機構 国際交流委員会 教育国際交流運営委員会 人文・社会科学系学生交流実施委員会 委員，2) 東北イノベーション人材育成プログラム東北大学内運営・実施委員会 委員

その他の活動： ロシア交流推進室員

〔業務活動〕

機構業務：1) 出版・図書・資料委員会 委員，2) 電子ジャーナル編集委員会 委員

〔社会貢献〕

学会活動：1) 公益社団法人日本語教育学会 支部活動 運営協力員(2017 年度日本語教育学会研究集会第 8 回東北地区大会)，2) 日本語学習支援ネットワーク会議 2017 in 仙台 実行委員会 委員，3) 子どもの日本語教育研究会 第 2 回研究科 (2017) 実行委員会 委員. いずれの大会も 2017 年 12 月 10 日，本機構共催のもと東北大学川内キャンパスで開催された。

講演：「世界の言語の中の日本語」(2017 年 12 月 13 日，於上海海事大学)。

その他：東北学院大学において「日本語教育教材論 (通年)」の授業を担当し，地域の日本語教員の人材育成に貢献した。

中村 渉 准教授

〔専門分野〕 言語学

〔教育活動〕

授業担当：全学教育：29年度は共修授業（「映像に見る日本語と日本文化」）を前年に続いて担当した。日本人学生と留学生が半々のクラスで、小規模なグループでの議論・発表を行わせた。日本語教育では、春学期は中上級読解（R500）、中級後期会話（S400）、全学教育との共修科目（JM500）を、秋学期は中級後期会話（S400）、中級後期会話（S410）、中上級文法（G500）を担当した。大学院教育：グローバル30の言語総合科学プログラム（大学院国際文化研究科）の一環として、英語での講義を後期に担当した。また、応用言語研究総合演習・特別講義を前期・後期とも応用言語研究講座の他の教員と分担した。

学位論文指導・審査：協力教員を務める大学院国際文化研究科応用言語研究講座において、主指導教員・主査を務めた修士課程の大学院生は2名、論文審査の副査を務めた修士課程の大学院生は2名、博士課程の大学院生は2名である。

教育支援活動：日本語教育を担当する教職員向けのメーリングリストの運営を担当し続けると共に、日本語教育セクションのHPのリニューアルを中心になって担当した。

留学生等受け入れ：留学生2名を主指導教員として指導した。

〔研究活動〕

論文：分担執筆：Case (Cambridge University Press), 2018 April, Ch.12, pp.249-275

単著：中村 渉「日本語の可能構文における格付与」日本言語学会第154回大会予稿集、pp.260-265.

国際学会 Role and Reference Grammar2017を共同主催者として、アブストラクトの選定、プログラムの作成等を行った。

外部資金：研究代表者として、科研費 基盤研究(C)を3年間分獲得した（課題名：印欧諸語の代名詞及び接語代名詞のパラダイムの通言語的研究）課題番号：17K02672

〔大学運営〕

大学院国際文化研究科の部局内委員として、教務委員（応用言語研究講座）を1年間務めた。

〔業務活動〕

部門業務：日本語教育セクションのホームページのリニューアルを行った。具体的には、以前から使っていたホームページはプログラムの増加に伴って、アドホックな拡張を重ねたため、利用者にとって使いづらいとは到底言えない状況になっていたが、新しいホームページでは担当プログラム毎に記述を分離し、受講案内のダウンロードがしやすいように構成を工夫した。

〔社会貢献〕

学会活動：日本言語学会の大会運営委員を務め、春夏2回の大会運営（口頭発表の選定及び司会の担当）を担当した。

Daniel Eichhorst 講師

〔専門分野〕 ESL/EFL, Extensive Reading, Task-based Learning, Active Learning

〔教育活動〕

I use original materials in all of my classes based on input I receive from students. The goal is to have students develop specific abilities and become autonomous learners.

English A1/2

This is an extensive reading-based 4 skills class. This class is coordinated with the library and kyoumuka. Students are required to read a certain amount and given autonomy to choose what they want to read. In addition to reading books students do timed reading exercises, speaking/listening activities about books, and write book reports.

English B1/2

A discussion-based 4 skills course has been developed involving preparation about a topic, discussion of the topic, and writing a reflection about the topic. The input about a topic is an article of native level English with topics being chosen based on student recommendations. This has been an extremely successful activity and will continue to be developed.

English C1/C2

A discussion-based 4 skills format is used involving preparation about a topic, discussion of the topic, and writing a reflection about the topic. The input about a topic is a video with topics being chosen based on student recommendations. This has been an extremely successful activity and in particular has been positively received by international students.

〔研究活動〕

PUBLICATIONS

Eichhorst, D., Shearon, B. (Mar. 2016) Holistic Assessment: Devising a Range of Grading Criteria for Eigo A Reading Classes at Tohoku University, Bulletin of the Institute for Excellence in Higher Education No. 2, 2016, pp. 253-258.

Eichhorst, D., Enslin T., Shearon B. (Mar. 31, 2016) ディスカッションが英語授業を変える Preparation / Discussion / Reaction Method Handbook PDブックレット Vol. 7 Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University

〔大学運営〕

Interpreting for the Counseling Office

〔業務活動〕

Collaborated with colleagues on course design.

〔社会貢献〕

Assisted students preparing for international presentations.

Todd Enslen 講師

〔専門分野〕 Teaching English as a Second Language, English for Specific Purposes, Professional Development, Active Learning

〔教育活動〕

Liberal Education Courses Taught:

My teaching activities are mainly associated with required 1st and 2nd-year required English classes as part of the required Liberal Arts education. These classes consisted of B1/B2 English Communication classes for 1st-year students, C1/ C2 English Communication classes for 2nd-year students and an A1/A2 English reading classes. I work with a group of four colleagues on a continual basis to review and revise the curriculum for these classes each year. In addition, I cooperate in teaching an omnibus class on global university education systems by lecturing on higher education in the United States.

Education Support Activities:

I am a Research Development Fellow in the Center for Professional Development (CPD). In this role, I help design educational programs, such as study exchange trips and classroom observations, assist with educational events, and help visiting faculty. I also have another title within the CPD as a 先達教員. In this role, I consulted with new faculty and graduate students in the New Faculty Program (NFP)/Preparing Future Faculty Program (PFFP) to help them improve their teaching skills. These activities included observing the participants in practice teaching (microteaching) activities and giving them advice and comments about their performance and how it could be improved, conducting individual interviews with participants to answer questions they had about teaching, and having participants observe my teaching followed by a meeting to explain my teaching philosophy and how that philosophy is carried out in the classroom.

Other notable activities:

*On-campus Support of Educational Staff

Over the past two years, I have been a key members of a cross-departmental project to help non-native English speaking faculty to deliver classes in English. In this endeavor, I have developed a new series of workshops for the Global 30 program teachers in Chemistry, Engineering and Agriculture. A series of workshops were conducted on the various campuses this past year. In addition, I consolidated the content of the workshops in the handbook, “英語による授業実践ハンドブック/Active Learning Handbook for English-Medium Classes” that was published as a PD Booklet through the Center for Professional Development in March 2018.

〔研究活動〕

Publication of research achievements:

Enslen, T. (March 2018). 英語による授業実践ハンドブック/Active Learning Handbook for English-Medium Classes. Center for Professional Development Publication, Tohoku University.

Awards:

A Best of JALT (The Japan Association for Language Teaching) Yamagata Chapter 2016 Award for Changing to a discussion-based approach at Tohoku University. Awarded on November 18th, 2017.

Invitations to Speak:

- 1) “Teaching and learning in English-medium classes”, Soka University / 7/21/2017 - 7/22/2017 (10:00 - 5:00 each day)
- 2) “Engaging student in learning in English-medium classes”, Hiroshima University (Kasumi Campus) 9/5/2017 (4:00 - 6:30)
- 3) “Engaging student in learning in English-medium classes, Hiroshima University (Higashi Hiroshima Campus) 9/6/2017 (3:30 - 6:00)
- 4) “Classroom Management Techniques for Classes Conducted in English”, Hokkaido University 12/8/2017 (4:30 - 6:30)
- 5) “Actively engaging students with Interchange, Meiji Gakuin University 1/22/2018 (4:30 - 6:00)
- 6) “Engaging Students in learning in the English-medium classroom, Shibaura Kyogyo University 3/8/2018 (10:00 - 5:00)

Other notable activities:

a) A member of the joint project 英語で教育力・発表力向上支援プログラム開発事業

b) Workshops as part of the project

- 1) TiE Seminar (Engaging students in learning in English-medium classes) 9/27/2017 (4:00 - 5:00) 青葉山キャンパス

(工学部)

2) Classroom management techniques for classes conducted in English 11/27/2017 (3:30 - 6:30) 川内キャンパス

3) TiE Seminar (Engaging students in learning in the English-medium classroom) 2/21/2018 (3:30 - 5:00) 青葉山キャンパス (理学部)

〔大学運営〕

Facilities Committee member - Was appointed to this committee to work on campus improvements.

Research Development Fellow (研究開発員) in the Center for Professional Development since 2010 - In this role, I have helped to develop workshops for active learning, teaching in English, and Teaching English as a Second Language. In addition, I have helped to set up and maintain relationships with UC Berkeley for the PFFP/NFP study abroad program. Other duties include meeting and entertaining guest from abroad, acting as a mentor for teacher training participants and proofreading of a variety of related materials.

Assisted in the creation and proofreading of the English titles for the Writing Handbook published by our center.

〔業務活動〕

Faculty Mentor for the PFFP program - I work closely with the CPD staff to provide opportunities for participants to observe my classes and to provide them with an explanation of the reasons why I conduct the classes in the manner that I do. Participants all have a chance to ask questions about the lesson. In addition, I supplied advice regarding the students' microteaching efforts.

I serve as a proofreader for the department. In this capacity, I often receive documents that have been professionally translated by a service and check to make sure the accuracy of these documents is correct. In many cases, the translators do not understand the context of the document and therefore make errors regarding the meaning. In addition, I also assist IEHE faculty (and others) with their writing for presentation or publications.

I am also helping to promote the CPD mission of helping other universities by providing workshops on Teaching in English at other Universities such as Soka University, Hokkaido University, Hiroshima University, and Shibaura Kyogyo University.

〔社会貢献〕

Assumed the role of Secretary for the Tohoku Chapter of J-CLIL (Japan-Content and Language Integrated Learning)

I held a special lecture as part of a lecture series for a class. The topic of the lecture was "American Universities".

I help to put on cultural activities at the International Cooperation Association of Yamagata.

Ben Shearon 講師

〔専門分野〕 TEFL, Curriculum Design, Extensive Reading, Classroom Management, English in the Japanese School System

〔教育活動〕

Taught general education classes (A1, A2, B1, B2, C1, C1R, C2R).

Worked with colleagues to develop extensive reading and discussion curricula.

〔研究活動〕

Articles on extensive reading and presentations on extensive reading, teaching presentation skills, and teaching English in elementary school.

〔大学運営〕

Worked with 教務課 to administer extensive reading classrooms and cabinets.

Entrance test marking, working with the library to maintain and expand the extensive reading collection.

〔業務活動〕

I continued serving as a volunteer interpreter for the counselling services and worked with the Centre for Professional Development to provide lectures and work on materials for publication.

〔社会貢献〕

I continued serving as a school advisory board member for Nika High School. I also gave lectures to students at 2nd High School and Nika High School on English education and global society.

Vincent Scura 講師

〔専門分野〕 応用言語学, EFL/ESL, Communication Apprehension[CA], Language Anxiety[LA], Willingness to Communicate [WTC], Language Learning Motivation, 異文化コミュニケーション

〔教育活動〕

English A1 (Reading) - Implemented, modified, enhanced and expanded existing extensive reading program.

English A2 (Reading) - Implemented, modified, enhanced and expanded existing extensive reading program to a higher level

than English A1.

English B1 (Communication) Introduced fluency drills that motivated students to use already acquired language skills in natural communicative situations.

English B2 (TOEFL Preparation) Introduced TOEFL test taking techniques resulting in demonstratively higher TOEFL scores.

English B2 (CALL) Implemented and administered on-line learning system with a view to enhance listening skills and improve TOEFL scores.

English C2 (TOEFL Preparation) Introduced TOEFL test taking techniques resulting in demonstratively higher TOEFL scores.

English C1 (Communication) Introduced fluency drills that motivated students to use already acquired language skills in natural communicative situations.

〔研究活動〕

Presenter: Fukuoka Language and Culture Conference. (ICLMC 2018) "Spontaneous and Authentic" (S & A) Language production in a University Second Language Acquisition (SLA) classroom - an important new aspect and learning mechanism of SLA theory.

Participants were able to achieve greater understanding in how to promote and initiation S & A in the university SLA classroom by reviewing, discussing and interpreting a huge amount of quantitative data on the subject. The data included three corpora, which total 138,772 words and involves 132 transcripts of S & A from university (Kyushu Institute of Technology) SLA classrooms. This knowledge will be disseminated to this university Language and Culture Education staff through several planned Faculty Development (FD) seminars with a view to improving foreign language communication skills.

〔大学運営〕

Staff Interview Committee, Member

Assisted faculty and staff editing documents

〔社会貢献〕

Tohoku University ESS Student-Faculty Liaison. Speech editor and judge

Miyagi University of Education - Instructor for student Australian study abroad program

Joseph Stavoy 講師

〔専門分野〕 ESL, Communicative Language Teaching Techniques

〔教育活動〕

I have continued to provide my students with the best possible lessons to improve their English. I continue to try to improve my lessons and make them accessible to students of all levels and from all departments.

I have also made myself available to my students to help them with applying to overseas programs, colleges and internships.

〔研究活動〕

I have been working on a possible new textbook for Japanese college students learning English. I also continue to read the current journals and publications from JALT and TESOL.

〔大学運営〕

I have been available for all administration duties. I will continue to participate in any and all duties asked of me. I also expect to play a large part in the Curriculum Development Project slated for our department.

〔社会貢献〕

I have always been available to help students with English essays and application procedures when they want to go abroad for study or internships.

スプリング ライアン 講師

〔専門分野〕 英語教育、第二言語習得、認知言語学

〔教育活動〕

授業担当：平成 29 年度は東北大学の全学教育授業「英語 A1・2、B1・2、C1・2、PracticalEnglishSkills1・2」を合計、16 コマ担当した。その他に、国際文化研究科の修士課程 1 年生向けの「言語研究法」という 2 コマの授業を担当した。また、新たな教員引率プログラムを開発し、それに必要な授業や成績評価などを実施した。英語 C の授業内容を英語 B に移し、英語 C の授業内容を完全に作り直し、アカデミック 4 技能スキル向上に向けた授業デザインを開発した。また、宮城教育大学でアカデミック・ライティングの授業を担当した。

学位論文指導・審査：1 名の修士課程論文の研究を副担当者として指導した。

教育支援活動：ノースカロライナ大学シャーロット校との共修言語・文化交流プログラムである SkypePartnerProgram を担当し続けた。留学生と日本人学生の合同授業「InternationalTeamBuilding」も引き続きに担当した。GLC と協力し、教員引率留学プログラムを実施した。東北大学代表者として平成 29 年度国立大学教養教育実施組織会議に出席した。英語部会共通教材検討ワーキンググループ委員となった。

〔研究活動〕

研究業績<論文>

① Spring, R. (2018). 'Adding CLIL to a project based course: Creation of supplementary CLIL materials for PES classes'. 2016 年言語・文化教育センター年報第 3 号, pp.23-26 ② Spring, R. (2017). 'Applying Advances in Cognitive Linguistic Typology to Phrasal Verb Instruction'. Conference handbook of the 35th annual conference of the English Linguistic Society of Japan, 145-148 ③ Spring, R. (2017). 'Developing practical English skills through project based language learning'. 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要, Vol 3, pp 191-198. ④ Spring, R., Kato, F. & Mori, C. (2017). 'The possibilities and challenges of incorporating project based language learning into E-learning to improve Japanese language learning'. Proceedings of CASTEL / J 2017 in Waseda, pp. 218-223.

<学会発表等>

①パネルディスカッションのリーダー「映画英語教育におけるトップダウン・ボトムアップ手法の可能性－4技能の向上からクリティカル・シンキング、専門分野の講義まで－」映画英語教育研究会（ATEM）東日本支部春季例会、麗澤大学（東京）、2018 年 3 月 25 日 ②「ホームページ作成を目標としたプロジェクト型外国語学習－会話能力向上を目指したスカイプ交流－」日本第二言語習得学会 28 回全国大会、2017 年 12 月 16 日 ③“Applying Advances in Cognitive Linguistic Typology to Phrasal Verb Instruction”. 35th Annual Conference of the English Linguistic Society of Japan, November 18th, 2017 ④“Short animations as a tool for teaching phrasal verbs of motion and change from a cognitive linguistic perspective”. 第 23 回映画英語教育学会全国大会、2017 年 11 月 11 日 ⑤「認知言語学と句動詞の習得－事象合成の観点から－」外国語習得・脳科学融合セミナー、2017 年 9 月 7 日 ⑥“The Possibilities and Challenges of Incorporating Project Based Language Learning into E-learning to Improve Japanese Language Learning” at the 7th International Conference on Computer Assisted Systems For Teaching & Learning Japanese, 2017 年 8 月 6 日 ⑦「認知言語学の英語教育への適応：事象合成から句動詞の教育へ」第 6 回 IEHE 教育開発セミナー：言語学研究と外国語教育へ。東北大学、2017 年 7 月 6 日 ⑧「英語コミュニケーション能力向上のためのプロジェクト型外国語学習：短編映画作成の適用と妥当性」映画英語教育研究会（ATEM）東日本支部夏季例会、麗澤大学（東京）、2017 年 6 月 25 日 外部資金：日本学術振興会：若手（B）「英語句動詞習得を促進する認知類型論の応用研究」（代表）、平成 28 年度～平成 30 年度

〔大学運営〕

- 1) メリーランド州大学との交換留学締結 副担当者
- 2) ノースカロライナ大学シャーロット校との交換留学締結 副担当者

〔業務活動〕

学生支援業務：学生相談室の通訳、国際祭りの支援

機構業務：教員引率留学プログラムの説明会の担当、招待講演“Advice for Graduate Students Seeking Positions in Higher Education” Tohoku University Innovative Leaders Platform, 2017 年 5 月 16 日

センター業務：ホームページの翻訳

〔社会貢献〕

学会活動：マルチメディア英語教育学会東日本支部の企画委員

国際交流活動：スカイプ・パートナー・プログラム担当、留学生と日本人学生が共修する授業の担当、教員引率留学プログラムの実施

社会教育活動：September 18th, 2017 – Guest lecture “Using your Japanese degree and the field of linguistics” UNC Charlotte

Richard Meres 講師

〔専門分野〕 Communication, English Linguistics

〔教育活動〕

COURSES TAUGHT:

A1 and A2 English Reading

B1 and B2 Communication (Presentation and Discussion)

B1 and B2 English Communication (large-sized CALL classrooms)

B1 ADVANCED English Communication

C1 and C2 English Communication (large-sized CALL classrooms)

EFFORTS TOWARDS EDUCATIONAL IMPROVEMENT:

Focused educational classroom content on English 4-skills materials and activities

Helped build student English reading skills
Helped build student English academic writing skills
Helped build student English listening skills through all-English lessons
Helped build student English speaking skills
Helped build student English presentation and discussion skills
Helped increase student knowledge and interest in foreign culture
Used the CALL system to further improve student English speaking, listening, and reading skills

EDUCATIONAL ACTIVITIES:

Continued to develop and make improvements to the e-learning system (LINC English) including the further improvements to the online method of peer to peer on-line communication within the e-learning system

Continued to provide a comprehensive, system-wide analysis and report of the e-learning system including detailed analysis of student/user feedback, correction/fixes of outdated/inaccurate information and ideas for future improvements

Volunteered after-lesson English conversation time for students to use English to discuss current events, popular culture, and general conversation

[研究活動]

Theatrics in the classroom:

-An Introduction of Five Acting and Stage Techniques Used in B1 and B2 English Communication Lessons

Specific emphasis on:

- 1) Vocal Warm-ups
- 2) Movement and Blocking
- 3) Line Memorization
- 4) Improvisation
- 5) The Stanislavski System

[大学運営]

ON-CAMPUS / SUPPORT ACTIVITIES

Provided model lessons at the 2017 OPEN CAMPUS events July 25th and July 26th, 2017 on the Kawauchi Campus

Topic: "Using English e-learning to Open Doors"

Content: Introduced the e-learning system to prospective students and presented a model lesson of integrated learning methods

[業務活動]

Represented the Center for Culture and Language Education (CCLE) as a member of the team creating the English handbook: *Pathways to Academic English*

Content: Created original materials and edited various materials to several chapters of the handbook

Represented the Center for Culture and Language Education (CCLE) and presented English language presentation and discussion techniques to promote University-High School connections (高大連携) at the 科学者の卵養成講座 event Saturday, June 24th, 2017 on the Aoba Campus

Topic: "Natural English"

Content: Introduced natural English speaking, presentation and discussion skill models to high school students from around Japan

Represented the Center for Culture and Language Education (CCLE) by providing model lessons at the 2017 OPEN CAMPUS events July 25th and July 26th, 2017 on the Kawauchi Campus

Topic: "Using English e-learning to Open Doors"

Content: Introduced the e-learning system to prospective students and presented a model lesson of integrated learning methods

Working with the Global Learning Center and the University of Montana Maureen and Mike Mansfield Center, developed the University of Montana Summer Faculty-Led Program to be held in September, 2018

Content: Created a summer program to be held in September, 2018 which will focus on sustainability, the environment, and nature. Twenty Tohoku University students will do fieldwork and project-based learning activities, studying the environment and the effects of global warming. Students will interview and interact with sustainable companies and organizations throughout Montana.

Working with the Global Learning Center, represented the Center for Culture and Language Education (CCLE) and presented prosody and rhythm techniques to international exchange students on the Tohoku University Japanese Program (TUJP) July

11th, 2017

Topic: Part 1: Prosody, Isochrony, and Rhythm in Language

Part 2: "Cool Japan" an Introduction of Uniquely Japanese Cultures and Arts (Origami Paper Folding and the Song, *Furusato*)

Part 3: Special Guests: Members of the Tohoku IAIDO Martial Arts Group

Content: Lectured on cultural differences embedded in the rhythm of languages including the prosodic qualities of English versus Japanese

Introduced Japanese origami and the traditional song, *Furusato*

Organized a martial arts demonstration by a local IAIDO group

Working with the Global Learning Center, represented the Center for Culture and Language Education (CCLE) to welcome University of Montana students who were members of the Kakehashi Project

Content: Joined the group of 25 students on March 8th, 2018 and discussed relations between the University of Montana and Tohoku University, including previous exchanges with the University of Montana's journalism department, and the upcoming University of Montana Summer Faculty-Led Program

[社会貢献]

Attended the 6th Annual LearnLaunch Conference at the Hynes Convention Center in Boston, Massachusetts, USA from January 30th to February 4th, 2018

Title: "Across Boundaries"

Content: Attended and participated in sessions and symposiums such as "Using Design Thinking to Solve Pressing Problems in Education", "Instructional Design and Accessibility: Defining Quality in the Online Classroom", and "What is the Research Saying about Personalized Learning?" and through participation in these workshops and seminars I was able to understand the latest advancements in digital technology-use in classrooms

Volunteered in the local community and presented at the Oide Menkoi Festa on Saturday, November 18th, 2017 at the Oide Community Center (生出市民センター)

Content: Spent the day volunteering and presenting at the Oide Menkoi Festa. Introduced American and culture and games to local children and families.

Continued membership and participation in The Japan Association for Language Teaching (JALT) and attended various regional events

Continued membership and participation in JALT's Computer Assisted Language Learning Special Interest Group (SIG)

Continued membership and participation in the American Communication Association (ACA)

Continued certification as an EIKEN (Test in Practical English Proficiency) examiner

Content: Providing interviews for the EIKEN 二次試験 several times throughout the year

Continued membership and participation in the American Speech-Language-Hearing Association

Barry Kavanagh 講師

[専門分野] Sociolinguistic, English Linguistics, Applied Linguistics

[教育活動]

Courses taught

A1 reading, A2 reading, B1 Intercultural Communication and Academic Writing, B2 Intercultural Communication and Academic Writing 2, C1 CLIL themed Global issues 1, C2 CLIL themed Global issues 2, PES 1, PES 2, IPLA class. Karate and Japanese Culture 1, IPLA class. Karate and Japanese culture 2, Research methods in linguistics,

Educational activities

Created new CLIL based courses for B and C classes. Including, Intercultural communication, global issues courses. PES and IPLA Karate and Japanese communication courses.

Taught and developed a new course for post-graduate students in Research methods in linguistics.

Development of syllabi for the above courses.

Creation of assessment criteria.

Team teaching.

Peer review and discussion of teaching practice.

Awards

Received the Outstanding general education contribution award(平成 28 年度東北大学全学教育貢献賞)for my work on creating new CLIL classes, academic writing courses and the academic presentations and papers I have done in relation to these

classes. I was also elected president of the academic association J-CLIL Tohoku chapter and also an editor of its journal.

〔研究活動〕

Academic papers

1. 学術的英語論文記述講座について. 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要 3, 273-277
2. 日本人の母親は子どもをどのようにバイリンガルに育てるか — イギリス在住の国際児についての考察— *Proceedings of the 10th International conference on practical linguistics of Japanese.* 34-37.
3. Is the OPOL Approach an Effective Method in Raising a Bilingual Child in Japan? *The 35th Conference of the English Linguistic Society of Japan proceedings.* 35, 149-153.
4. The use of the Japanese epistemic markers *ne*, *kamo* and *kana* with emoticons in an online female Japanese blogging community. *First Monday.* 22(12)
5. Polite intention through emoticon usage in a cross-cultural examination of Japanese and American online discourse. In Y. Ono & M. Shimada (Eds.) *Data Science in Collaboration.* 1, 89-98.
6. CLIL: New and Innovative Ideas for the Classroom. 東北大学言語・文化教育センター年報. 3, 15-17
7. A Comparison of Cognitive Colour Processing in Bicultural Bilingual Elementary School Children Residing in the UK and Japan. *International Journal of Cultural Studies.* 24, 63-73.
8. 内容言語統一型学習を通じた国際的コラボレーション ~東北大学で行う留学生・日本人学生の空手と日本文化合同授業について~ 第67回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会研究集録. 54-58.
9. 教養教育における効果的な教授法. 曙光 大学全学教育広報. 45, 12-14

Academic Presentations at International Conferences

1. 日本人の母親は子どもをどのようにバイリンガルに育てるか — イギリス在住児についての考察—NINJAL 国際シンポジウム 「第10回日本語実用言語学国際会議 (ICPLJ)」 2017年07月10日
2. 内容言語統一型学習を通じた国際的コラボレーション ~東北大学で行う留学生日本人学生の空手と日本文化合同授業について~ 第67回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会・東北大学. 2017年08月24日—2017年08月25日.
3. Polite Intention through Emoticon Usage in a Cross-cultural Examination of Japanese and American Online Discourse. Tsukuba Global Science Week. つくば国際会議場. 2017年09月27日. 口頭(招待)
4. The role of emoticons, emoji and unorthodox orthography in the promotion of harmonious online social interaction. Visualizing in the New Media / University of Neuchatel, Switzerland. 2017年11月08日—2017年11月10日
5. Is the OPOL Approach an Effective Method in Raising a Bilingual Child in Japan? 英語学会 第35回大会・東北大学. 2017年11月18日—2017年11月19日

Grants-in-Aid for Scientific Research

Applied for and was accepted for the following grant:

基盤 C An examination into heritage language education through CLIL within Japan and the UK. 2018-04-01 _ 2022-03-31

〔大学運営〕

1. Marking of University entrance exam papers. End of February 2017.
2. Open campus demon lesson July 2017

〔業務活動〕

1. TUJP サマープログラムでの空手の授業 2017年08月07日講師
2. サマープログラムでの大学院紹介 (国際文化研究科) 2017年08月08日講師
3. 「CLIL の理論と実践 —ヨーロッパから日本へ発展する新しい学び—」 言語・文化教育センターワークショップ 2017年10月16日
4. 現代大学論. 講義. 2017年11月14日
5. Classroom management techniques for classes conducted in English. CPD ワークショップ. 2017年11月27日

〔社会貢献〕

学外の社会活動(公開講座、講演会) :

1. バイリンガルな子育てについて / 学部仙台コンソーシアム 2017年09月30日
2. 口頭(招待)アカデミック・ライティングについて探求~ファーストステップ 日本赤十字秋田看護大学 2018年03月14日
3. 口頭(招待) CLIL: Theory, Practice and the Teaching of the 4 Skills. JALT Yamagata Chapter. Yamagata University. 2018年03月18日

学会活動および外部機関における活動 :

1. Communication quarterly 査読者 2016年10月-現在
2. Journal of Cognitive Science 査読者 2018年01月-現在
3. Computers in Human behavior Journal 査読者 2018年01月-現在

4. First Monday Journal 査読者 2018 年 01 月-現在
5. 日本 CLIL 教育学会の J-CLIL Journal Editor 2018 年 01 月-現在
6. 日本 CLIL 教育学会の J-CLIL 東北支部長. 2017 年 10 月-現在
7. J-CLIL 東北支部第 1 回大会開催校委員

所属学会：

日本 CLIL 教育学会の J-CLIL 東北支部長, Pan-Pacific Association of Applied Linguistics (PAAL), The International Association for Intercultural Communication Studies (ICS), 言語科学会, 日本英語学会, 母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB) 学会

三上 傑 講師

〔専門分野〕 言語学、英語学

〔教育活動〕

授業担当：[全学教育]「英語 A1」, 「英語 A2」, 「英語 B1」, 「英語 B2」, 「英語 C1」, 「英語 C2」。

その他：①英語部会に設置された共通教材導入について検討するためのワーキンググループメンバー。②カレントトピックス科目「大学での英語学習のためのモチベーション&スキルアップ講座」の開設準備。③平成 29 年度「教育開発推進経費」(個人申請)の支援を受け、論理的思考力を養成する英語リーディング教材を開発。④英語学習ブックレット「Pathways to Academic English」の編集統括補佐及び執筆。⑤非常勤講師(筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター：春季休業期間に集中授業として)「英語基礎 I」。

〔研究活動〕

研究業績：[論文等] 1) (単著)「Two Types of Focus-Prominent Languages and Diachronic Change in Japanese Syntax」, Tsukuba English Studies 36, 筑波英語学会, 1-21 頁, 2017 年 10 月; 2) (単著)「The Passivization of the Gesture Expression Construction and the Formulation of Subjects in Terms of Aboutness」, JELS 35, 日本英語学会, 259-265 頁, 2018 年 2 月

[学会発表] 1) 「The Passivization of the Gesture Expression Construction and the Formulation of Subjects in Terms of Aboutness」, ELSJ 10th International Spring Forum 2017, 明治学院大学白金キャンパス, 2017 年 4 月 22 日; 2) 「焦点卓越言語の二分類と英語史における統語構造の段階的变化」, ワークショップ「コーパス・多人数質問調査からわかる言語変化・変異と現代言語理論」, 東北大学青葉山キャンパス, 2017 年 8 月 29 日; 3) 「焦点卓越言語としての日本語と主語導敬語化」, 日本英文学会東北支部第 72 回大会シンポジウム『形式と機能の両面から見た言語の姿：語・文・談話レベルの分析から日英語の言語的特徴を考える』, 東北大学川内キャンパス, 2017 年 12 月 2 日; 4) 「焦点卓越言語としての日本語における Phi 素性一致現象とその特異性」, 日本語文法学会第 18 回大会パネルセッション『重複表現の形態・統語的分析と語用論的機能』, 筑波大学, 2017 年 12 月 3 日

科研費：若手研究 (B)「素性継承システムのパラメータ化に基づく V2 現象の共時的・通時的研究」(代表：2015~2017); 基盤研究 (B)「Mirativity における「焦点」と「評価」の役割：日英語からのアプローチ」(分担：2016~2019) (研究代表者：島田雅晴 (筑波大学准教授))

〔社会貢献〕

学会活動：1) 日本英文学会東北支部, 大会準備委員 (英語学部門); 2) 日本英語学会, 開催校委員

シャハト・ベルント 講師

〔専門分野〕 ドイツ文学

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「基礎ドイツ語 I、II」(工学、医歯歯薬、法経、理農)、全学 2 年「展開ドイツ語 I、II」。

集中講座「ドイツ語の夏教室」(8 月 7 日~9 日)、「ドイツ語の冬教室」(2 月 6 日~9 日)をボランティアで開講。

その他：1) 平成 29 年のオープンキャンパスの体験授業「Guten Morgen! 日常生活の場面でドイツ語の基礎を学びましょう!」の担当者(7 月 25 日~26 日) 2) 2017 年度ドイツ語教育セミナー/教育関係共同利用拠点提供プログラム「ドイツ語教育とアクティブラーニング：どのような教材をどのように用いるか」のセミナー担当者(1 月 27 日)

〔研究活動〕

研究業績：1) (翻訳・共著)「Ol' Wobble and the Greenhorns: An English Translation of Karl May's Short Story "Der erste Elk" (1893)」, 『東北ドイツ文学研究』第 58 号(2017 年), 東北ドイツ文学会, 143-160 頁 2) (報告・共著)「学習者中心のドイツ語授業のために一大学ドイツ語教授法強化講座のワークショップを振り返って」, 『東北大学言語・文化教育センター年報』第 3 号(2018 年), 東北大学高度教養教育・学生支援機構, 9-14 頁

〔大学運営〕

東北大学亀岡住宅共益費管理組合の副班長 2017 年の上半期(4 月~9 月)

〔社会貢献〕

タイ北部のロイエット市の地元ボランティア団体と連携し、収入が少ない農家の子供たちに玩具やゴム製の小型プールを無償で配る

ボランティア活動の参加（3月9日～11日）

遠藤 スサンネ 講師

〔専門分野〕ドイツ語教育、北方史

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「基礎ドイツ語 I-1・I-2」〔理農学、法経学、医歯薬学、工学〕（前期7コマ）と「基礎ドイツ語 I I-1・I I-2」〔理農学、法経学、医歯薬学、工学〕（後期7コマ）を担当した。

全学教育「展開ドイツ語 I」〔文教学〕（前期1コマ）と「展開ドイツ語 II」〔文教学〕（後期1コマ）を担当した。

〔研究活動〕

研究業績：1）（共著）カン・ミンギョン、遠藤カラー・スサンネ「アクティブラーニングを取り入れたドイツ語授業の試み」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第4号、2018年3月、427-437。2）（共著）カン・ミンギョン、遠藤カラー・スサンネ、シャハト・ベルント「大学ドイツ語教授法強化講座：学習者中心のドイツ語教育のために」『東北大学言語・文化教育センター年報』第3号、2018年3月、9-14。

〔業務活動〕

機構業務：2017年度ドイツ語教育セミナー「ドイツ語教育とアクティブラーニング—どのような教材をどのように用いるか—」（教育関係共同利用拠点提供プログラム 学習指導法 S-01）（2018年1月27日）に協力した。

高橋 美穂 講師

〔専門分野〕ドイツ語学・言語学

〔教育活動〕

授業担当：「基礎ドイツ語 I」「基礎ドイツ語 II」

〔研究活動〕

研究業績：1）（単著）„Affiziertheit“ und „unabsichtliche Kausierung“: Lesarten der Dativkonstruktionen bei Bewegungs- und Zustandsveränderungsverben. *Deutsche Sprache — Zeitschrift für Theorie, Praxis, Dokumentation*. 45(4), 2017, pp.362-377. 2）（単著）「移動を表す不変化詞動詞と経路項との共起について—fahren の不変化詞動詞を対象に—」『DER KEIM (かいいむ)』第40号、2017、1-25. 3）（単独発表）Über Partikelverben mit *fahren*. Eine Korpus-Untersuchung zur Kombinatorik der Partikelverben der Fortbewegung mit *direktionalen* Wegargumenten. In: *Abteilungskolloquium der germanistischen Linguistik* (Eberhard Karls Universität Tübingen, Germany), 2017.06. 4）（単独発表）Zum Partikelverb *durchfahren*: konzeptuelle Erschließung der Lesarten von „Durchquerung“ und „andauernder Fahrt“. *日本独文学会第45回語学ゼミナール*, 2017年9月. 5）（単独発表）『モノの所在』に基づく意味の創発—ドイツ語移動動詞の自由与格構文の解釈—, ワークショップ: 「所有—文法・意味・状況の動態論—（東京外国語大学）, 2018年3月.

科研費：若手研究(B)「ドイツ語移動動詞と経路表現の共起に関するコーパスを用いた意味的・統語的分析」（2017～2019）（代表）

〔業務活動〕

センター業務：2017年度ドイツ語教育セミナー開催・運営の補佐、および同セミナーにおける事例報告（報告題目：「大学教育でのドイツ語教科書」）

SAUZEDDE Bertrand 講師

〔専門分野〕言語学（音声学）とフランス語教育学

〔教育活動〕

授業担当：基礎フランス語 前期6コマ、後期6コマ

私が作った教科書に基づいて、フランス語コミュニケーションと発音を教える。フランス語コミュニケーションルームの設置・仏検や DELF の対策勉強会、留学生向けの授業・全学部生を対象とした高レベルな授業の設置を試みた。

①仏検対策勉強会（火曜4限）

②エスパス・フランコフォン（フランス語のみを用いる空間）の設置（金曜15時30分～17時30分）

東北大生の仏検受験者数を増やして、15人（28年度）から97人（29年度）に上がった。

その他：全日本フランス語学生弁論大会出場学生（1名）指導

〔研究活動〕

【口頭発表】

- 「中間言語のリズムの分析について」、第6回 IEHE 教育開発セミナー「言語学研究から外国語教育へ」、東北大学、2017年7月。
- 国際学会「Manques et apories de l'enseignement de la phonétique dans les manuels utilisés au Japon」, IVe Congrès régional de la commission Asie-Pacifique, écologie du français & Diversité des langues, 京都大学、2017年9月。
- 「目標言語の自然な習得のための発音の授業の重要性」、専門教育指導力育成プログラム：大学フランス語教授法強化講座「いま、

外国語をどう教えるか？－フランス語を例に－，東北大学，2017年9月。

〔大学運営〕

フランスへの派遣交換留学面接委員

〔業務活動〕

学生支援業務：派遣交換留学説明会にて、「個別相談会」のブースに参加する。留学に興味ある学生をアドバイスして手伝う。

機構業務：フランスへの派遣交換留学面接委員

〔社会貢献〕

- ・ 学会活動：関西フランス語教育研究会開催委員・学会誌編集委員
- ・ 教育関係共同利用拠点プログラム「いま，外国語をどう教えるか？－フランス語を例に－」企画、2017年9月
- ・ 社会教育活動：東北大学宿舎の副会長

Cecilia Noemi Silva 講師

〔専門分野〕 Foreign Language Education (Spanish)

〔教育活動〕

During 2017 I was in charge of three Spanish courses in level A1 and two courses in level A2.

As regard development of educational material, in 2017 I made some necessary changes in the handbook I have been writing since 2012, developed videos for increasing listening skills, practicing grammar, and introducing conversational and cultural features.

Regarding extra-curricular activities, I organized, together with Cervantes Institute Tokyo and Spanish teachers of Tohoku University, the Spanish proficiency test (DELE), which was held for the first time in Sendai in November 2017. Moreover, I worked as examiner in the Spanish examination at Tohoku University (November 2017) and Cervantes Institute (May and July 2017).

As regards Spanish studies abroad, I joined the Faculty-Led program proposed by professor Kazuko Suematsu of Global Learning Center. In February 2018, I took a group of 15 students to Complutense University Madrid, Spain, where they attended Spanish language and culture courses and conducted intercultural field work. Moreover, I made special classes and went along with the students in their field work and cultural visits.

〔研究活動〕

Regarding introduction of cultural issues in the syllabus, I synthesized theory and practice, and participated in the following conferences:

- 1) *Teaching language from local culture from Literature (Jalt PanSIG, Akita International University, May 19-20, 2017).*
- 2) *Aplicación de un Modelo Integral de Competencia Intercultural (Application of an Integral Model of Intercultural Competence).* 28th International Conference of Teaching Spanish as a Foreign Language (ASELE) Universitat Rovira I Virgili, Tarragona, Spain 6-9 September 2017.
- 3) *A Scaffolding-based Portfolio in Language Teaching: a Visual Path to Speaking.* 24th International Conference on Teaching, Education & Learning (ICTEL), London Imperial College, UK, September 12-13, 2017.
- 4) *Portfolio of Oral Communication: Scaffolding in Foreign Language Learning.* JSET 日本教育工学会第33回全国大会 島根大学。Sep. 15-18, 2017.
- 5) *Cómo actuamos los docentes en el escenario educativo de las TICs. (How teachers use technology in the class)* AJH, 日本イスペインア学会第63回大会 神奈川大学 Oct. 7-8, 2017.
- 6) *Construyendo el camino hacia la comunicación oral (Building the path to oral communication).* (Workshop: Building and Shaping Students' Learning) 43rd Annual International Conference on Language Teaching and Learning & Educational Materials Exhibition Jalt2016, Tsukuba University, Nov. 17-20, 2017.

Developing a Short-term Model for Intercultural Practice and Assessment. Sixth International Conference on the Development and Assessment of Intercultural Competence. Intercultural Competence and Mobility: Virtual and Physical. University of Arizona, Tucson. January 25-28, 2018.

張 立波 講師

〔専門分野〕 中国語教育、日本文学、中国語文学

〔教育活動〕

授業担当：「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ」12コマ、「展開中国語Ⅰ・Ⅱ」2コマ、「展開中国語Ⅲ・Ⅳ」2コマ、現代大学論「中国の大学」1回

学位論文指導・審査：国際文化研究科 国際文化交流論専攻の博士論文の外部審査員

教育支援活動：日本人学生の留学関係の支援 1 名（推薦状の作成、大学の選定、申請書類の作成指導、申請大学への問い合わせ等の支援）

留学生等受け入れ：中国からの特別訪問研究生の受け入れ

その他：学生および社会人を対象として、定期的に「中国語と中国文化に関する勉強会」を実施した。

【研究活動】

研究業績：1) (単著)「中国の大学院における中国語国際教育の現状と課題—北京語言大学の中国語国際教育修士課程を中心に—」, (東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要,(4)(2018),299-306)。2) (共著)「東北大学初修中国語におけるブレンディッドラーニングの実践—開発した教科書『KOTOTOMO』の検証を中心として—」, (東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要,(4)(2018), 149-164)

その他：1) 東北大学 2017 年専門教育指導力育成プログラム大学中国語教授法強化講座の企画・開発・引率・実施に従事した。
2) 他教員と実践的中国語コミュニケーション能力を育成するためのブレンディッドラーニング用教科書用教授資料の開発および有効性評価実験を実施した。

【業務活動】

学生支援業務：留学生相談通訳支援者

【社会貢献】

社会教育活動：オープンキャンパスにおいて、ネイティブ教員による授業デモを行う。全日本中国語スピーチコンテスト宮城県大会審査員。

趙 秀敏 講師

【専門分野】 中国語教育, 教育学, e ラーニング

【教育活動】

授業担当：1) 全学教育「基礎中国語」I と II の各 7 コマ, 及び 2) 他大学「中国語コミュニケーション」I と II の各 1 コマを担当し, 効果的な教育の実現を目指して, ICT (情報通信技術) を活用したブレンディッドラーニングを実施した。3) 全学教育「展開中国語」I と II の各 1 コマを担当し, 中国語能力試験 (HSK) 2 級合格を目標に, 実践的中国語運用能力を養成する授業を実施した。

学位論文指導・審査：東北大学大学院 教育情報学教育部 博士課程前期の学生 1 名の指導補助, および審査 (副査) を実施。当該学生は優秀な成績で学位を取得した。

教育支援活動：1) 部局ビジョン推進経費事業として, 東北大学の初修中国語ブレンディッドラーニングの実証実験を行い, 有効性評価を行うとともに, 教授資料, 指導用パワーポイント資料を開発した。2) 科研費研究として, 開発したスマートフォン利用復習アプリ教材の有効性評価を行い, 教材改善を行った。

その他：1) 東北大学専門教育指導力育成プログラム：中国語を教える大学教員のためのスキルアップコース (海外研修) の開発・実施。2) 東北大学 大学教員準備プログラム/新任教員プログラム：担当授業への参観を提供。

【研究活動】

研究業績：1) (共著)「東北大学初修中国語におけるブレンディッドラーニングの実践—開発した教科書『KOTOTOMO』の検証を中心として—」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第 4 号, 2018, 149-164。2) (共著)「基於教學設計理論的日本大学初級華語 Blended Learning 的開發—利用智能手機的復習教材《KOTOTOMO》的設計手法及其教學實踐—」『第十六屆台灣華語文教學年會暨國際學術研討會論文集』, 2017, 26-37。3) (共著)「大学初修中国語ブレンディッドラーニングのためのスマートフォン利用復習教材の開発」『第 42 回教育システム情報学会全国大会講演論文集』, 2017, 459-460。4) (共著)「大学初修中国語ブレンディッドラーニングのためのスマートフォン利用復習教材の開発と実践」『教育システム情報学会 2017 年度特集論文研究会報告』, 2018, 1-8。5) (共著) A Study on UI Design of Smartphone App for Continuous Blended Language Learning, The 5th International Conference on Business and Industrial Research, 2018。

科研費：1) 基盤研究(C)「中国語ブレンディッドラーニングのためのスマートフォン利用復習教材の開発と評価」(2015-2018) (代表)。

2) 基盤研究(C)「持続的な 3 段階ブレンディッドラーニングを可能とする教授・学習支援システムの開発」(2017-2019) (分担)。

部局ビジョン推進経費：「実践的中国語コミュニケーション能力を育成するためのブレンディッドラーニング用教科書及びその指導法と評価法の開発」(2015~2017) (代表)。

TUMUG 支援事業 H29 研究スキルアップ経費

【業務活動】

機構業務：1) 東北大学専門教育指導力育成プログラム：中国語を教える大学教員のためのスキルアップコース (海外研修) の開発・実施に携わり, スキルアップを目指す大学教員の職能開発支援に従事。2) 東北大学専門性開発プログラム：大学教員準備プログラム/新任教員プログラム：担当授業への参観を提供し, 若手の授業運営能力開発支援に従事。3) 第 67 回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会：準備委員として, 本研究会に携わり, 研究会の準備と開催に従事。4) 交換留学候補者への面接補助：本学の協定校への派遣留学選考において, 面接官として, 中国に留学を希望する学生の中国語能力の選考に従事。

部門業務：東北多文化アカデミー財団と本機構の共催事業「TTA-短期留学 日本語冬季短期研修プログラム KEYAKI」で特別訪問研修生2名を受け入れ。

〔社会貢献〕

各種委員等：1) 日本中国語検定協会評議員、2) 日本中国語検定協会検定試験 仙台会場試験監督

社会教育活動：オープンキャンパスにおいて、言語・文化教育センターの初の試みとして、我々が開発し、現在東北大学の初修中国語教育において使用しているeラーニング教材を展示

王 其莉 講師

〔専門分野〕 日中対照言語学、中国語教育

〔教育活動〕

授業担当：基礎中国語、展開中国語

〔研究活動〕

研究業績：(単著)「モダリティ要件「話し手」「発話時」からみる日中語における判断のモダリティ形式の違い」、『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要』第四号、P.165～176、2018

受賞：『判断のモダリティに関する日中対照研究』（ひつじ書房、2016.3）、第四回「中青年漢日対比言語学優秀成果賞」、漢日対比言語学研究（協作）会（中国）、2017.8

学会発表：「モダリティ要件「話し手」「発話時」からみる日中語における判断のモダリティ形式の違い」、単独口頭発表、漢日対比言語学研究（協作）会（中国）、第九回大会、北方工業大学（北京）、2017.8

〔大学運営〕

運営担当：東北大学 専門教育指導力育成プログラム 大学中国語教授法強化講座 2017

〔業務活動〕

言語・文化教育センターの教員会議及び機構の教授会議に積極的に参加しました。

金 鉉哲 講師

〔専門分野〕 韓国公演芸術論、日韓比較文化論

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「基礎朝鮮語Ⅰ」「基礎朝鮮語Ⅱ」

この科目は韓国語の学習歴が殆ど無い学生が中心となっている。そのため、何よりも学生たちに韓国と韓国文化に対する興味を持たせることが大事である。興味を呼び起こす方法として一ヶ月に一回程度は日本と深く関わりがある韓国のニュース、最新話題などを中心に韓国文化・韓国人の考え方を紹介している。さらに学生の興味が高い歌・ドラマ・映画なども学習教材として積極的に取り入れている。

全学教育「展開朝鮮語Ⅰ」「展開朝鮮語Ⅱ」

この科目は中級レベルの受講者が中心となっている。そのため、学生の興味とレベルに合わせて日常会話で良く使われる慣用句を中心に、歌・TVドラマ・映画・最新ニュースなどを学習教材として使っている。特に、異文化理解も視野に入れて、韓国人の思考や哲学を把握できるテーマを中心に授業を展開している。

全学教育「展開朝鮮語Ⅲ」「展開朝鮮語Ⅳ」

この科目は中級・上級レベルの受講者が中心となっている。単なる韓国語の習得だけではなく、比較文化的な観点から異文化(韓国)についても理解を深める。特に、韓国人の感情表現、地域文化の特徴、料理と食文化、韓国大学生のキャンパスライフなどが中心的な授業内容である。

〔研究活動〕

研究業績：伊藤好英・金 鉉哲、「第8章 赤前地区（津軽石地区赤前）」『東日本大震災宮古市の記憶 第2巻(下) 《記憶伝承編》』、宮古市、2017年3月30日、365-382ページ。

招待講演：「グローバル時代における日韓文化交流の方向性」、日韓親善岩手県議会議員連盟、岩手県議会1階 大会議室、平成30年3月7日。

〔大学運営〕

全学委員会：既修得単位認定に係る審査委員（朝鮮語）、日韓共同理工系学部留学生事業運営委員会の委員、グローバル人材育成推進事業実施委員会の委員

〔業務活動〕

機構業務：機構教養教育推進ワーキンググループ(メンバー)

〔社会貢献〕

各種委員等：宮古市の「宮古市震災の記憶伝承事業」に東日本大震災記録調査会の調査員として参加している。

学会活動：海外では、韓国「パンソリ学会」（海外理事）、「韓国劇芸術学会」（編集委員）として活動しながら、日韓芸能及び公演開

係研究者の研究交流のために努力している。日本国内では、「日本韓国語教育学会」の東北理事を務めている。

国際交流活動：異文化理解プログラムとして国際交流の企画を行った。「K-POP で探る 日韓大衆文化の交流」（日韓の大衆文化コンテンツの相互交流とその未来に関する公演会、2017年12月1日）

林 雅子 講師

〔専門分野〕 日本語学、日本語教育

〔教育活動〕

授業担当：

（前期）全学教育：基礎ゼミ「マルチメディアを活用した日本語～マンガ・アニメを通して自国の言語・文化を伝え合おう～国際共修ゼミ」

留学生教育：短期留学生受入プログラム（理系留学生対象）「G410（中級日本語文法）」、日本語教育外国人留学生等特別課程日本語科目「K500（中上級日本語漢字・語彙）」、日本語教育外国人留学生等特別課程日本語科目「K400（中級日本語漢字・語彙）」、日本語研修コース（国費留学生対象）「A150/A250（入門日本語応用/初級日本語応用）」（速修型クラス）サブコーディネーター担当、日本語研修コース（国費留学生対象）「R150/R250（入門日本語読解/初級日本語読解）」（速修型クラス）

（後期）全学教育：展開ゼミ・カレントトピックス「マルチメディアを活用した日本語～応用マルチメディア・コーパス言語学：ドラマや映画を使って言葉を調べて教えてみよう～国際共修ゼミ」

留学生教育：日韓共同理工系学部留学生プログラム日本語必修科目「A460/A560（中級日本語応用/中上級日本語応用）」コーディネーター担当、短期留学生受入プログラム（理系留学生対象）「G410（中級日本語文法）」、短期留学生受入プログラム（文系留学生対象）「G440（中級日本語文法）」、日本語教育外国人留学生等特別課程日本語科目「K400（中級日本語漢字・語彙）」、日本語研修コース（国費留学生対象）「R150/R250（入門日本語読解/初級日本語読解）」（速修型クラス）

教育支援活動：日本語研修コースの入門～初級レベルで使用している文化読解教材を刊行に向けて改訂

留学生等受け入れ：日韓共同理工系学部留学生7名を受け入れ、プログラムのコーディネーターとして工学研究科の先生方と日本語教育担当教員に協力を要請して共同で「日韓プログラム 専門教育・日本語コラボ発表会」を開催し、その準備のために学生を指導した。

〔研究活動〕

研究業績：論文等

1) (単著) “A study of adverbs presented in textbooks for Japanese learners” 『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要』第4号 査読有 2018年3月 pp.307-314, 2) (単著) 「中級～中上級の文法クラスにおけるピア・ティーチングの実践例」 『東北大学言語・文化教育センター年報第3号』2018年3月 pp.1-4, 3) (単著) 「古典作品の視聴覚教材を活用した日本語・日本文化教育の実践例」 『東北大学言語・文化教育センター年報第3号』2018年3月 pp.5-8

口頭発表

4) (単独発表) 「マルチメディアを活用したピア・ティーチング (peer teaching) —東北大学留学生教育における実践例—」 日本語教育学会2017年度第4回支部集会【中部支部】 査読有 2017年7月7日, 5) (単独発表) "Survey on adverbs presented in textbooks for Japanese learners" The 14th International Conference on Japanese Language Education in Malaysia ポスター発表 2017年10月7日 査読有, 6) (単独発表) 「日本語の副詞研究と教育における現状と課題—「急いで」は副詞か動詞か形容詞か?—」 “Issues and problems in Japanese adverb research and education: Is “isoide” an adverb, verb or adjective?” 東北大学高度教養教育・学生支援機構 正午PD会第51回 口頭発表 2018年2月6日

その他：平成29年度 東北大学男女共同参画推進センター支援事業スタートアップ研究費、平成29年度「教育開発推進経費」、平成29年度「杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業」から研究費を受託し、教育開発・研究を推進

〔大学運営〕

全学委員会：国際連携推進機構 国際交流委員会 教育国際交流委員会 日韓共同理工系学部留学生事業運営委員会委員

〔業務活動〕

言語・文化教育センター業務：国際交流棟録音室の環境整備と先生方への使用説明会の実施

〔社会貢献〕

特別訪問研修生として中国からの留学生を受入れた。

「外国人の子ども・サポートの会」の会員として外国から来た子どもたちへの日本語や学校の勉強の支援をした。

粕壁 善隆 教授

〔専門分野〕 粒子線材料工学

〔教育活動〕

授業担当：「量子力学入門」（工学部生70名ほど）では、量子力学の学問体系の学修を第一としながら、量子力学の創世記の多くの研究者の国際交流、協定校のウィーン大学出身のシュレーディンガーが波動力学を確立したことなどを含めて、量子力学の創生の

意義、相補性を基礎とした世界観等についても興味を持つよう工夫した。大学院科目：「材料表面界面科学」、「先端マテリアル物理化学セミナー」および研究室での「金属フロンティア工学修士研修」などを担当し、物性物理学、材料工学の発展に寄与するよう工夫した。

教育支援活動：交換留学生同窓会の教員側代議員として現役学生中心の同会を指導・支援した。

留学生等受け入れ：理工系サマープログラムとしてワシントン大学生 16 名を特別訪問研修生として受入れて教育・指導を行った。

その他：以上の部局教員としての教育活動とは別に、大学全体としての短期留学生受け入れプログラム（JYPE 58 名）、短期共同研究留学生交流プログラム（COLABS 48 名）、などを担当し、研修による指導と発表会（審査会）による指導・評価を行った。また、COLABS 派遣学生の研修発表会（審査会）を行い、指導・評価した。COLABS ワシントン大学派遣特別プログラムを 7 名の学部・大学院生と材料系国際共同大学院プログラム関係学生 6 名の合計 13 名の学生を引率して実施した。

〔研究活動〕

研究業績：論文等：1) (共著) Atomistic Transformation Processes due to the Correlation of Implanted N-Ions with Ti Thin Films, QST Takasaki Annual Report 2015, 1 (2017) 48, 2) (共著) Formation Mechanism of (111)-oriented Ti_{1-x}Al_xN Thin Films on Monocrystalline AlN by Reactive CVD, QST Takasaki Annual Report 2016, 2(2018)41. 3) (共著) SYNTHESIS AND CHARACTERIZATION OF TITANIUM ALUMINIUM NITRIDE THIN FILMS DEPOSITED BY REACTIVE-CVD, Proc. 20th BIENNIAL European Conference on Chemical Vapor Deposition, Sempach, Switzerland, in press.

外部資金：原子力機構施設利用総合共同研究（一般共同研究）「イオン注入法によるアルミニウム・チタン・シリコン窒化不定比化合物薄膜の成長過程のその場観察」（代表）

〔大学運営〕

大学運営：国際共同大学院プログラム副部門長、国際共同教育実施委員会委員長、国際学士コース入試小委員会委員長、国際学位コース（学部担当）小委員会委員長

全学委員会：国際交流委員会委員、教育国際交流運営委員会委員、学術交流協定調査検討委員会委員、学務審議会委員、学生生活支援審議会委員、国際共同大学院プログラム部門教務委員会委員（副部門長）、安全保障輸出管理委員会委員、国際共同教育実施委員会委員長、自然科学系学生交流実施委員会委員長、国際学士コース入試小委員会委員長、国際学位コース（学部担当）小委員会等として、東北大学の国際交流、特に教育国際交流について立案、提言、実施などに寄与した。

部局内委員会：高度教養教育・学生支援機構では、出版・図書・資料委員会副委員長、人事委員会委員などとして、教養教育・学生支援などに寄与した。グローバルラーニングセンター副センター長として所掌する様々な案件について、センター長を補佐し、JYPE、COLABS、DEEP、TSSP、ダブルディグリープログラム、国際共同教育、国際共同大学院プログラム、国際学士コース等の確実な運営に寄与した。

〔業務活動〕

機構業務：総務委員会委員、出版・図書・資料委員会副委員長、人事委員会委員、安全保障輸出管理委員会委員等として、機構における教養教育・学生支援について、立案、提言、実施などに寄与した。

センター業務：グローバルラーニングセンター副センター長としてセンターが所掌する様々な案件について、センター長を補佐し、JYPE、COLABS、DEEP、TSSP、ダブルディグリープログラム、国際共同大学院プログラム、国際学士コース等の確実な運営に寄与した。COLABS ワシントン大学派遣プログラムを計画立案し実施した。これらの遂行のため、協定校訪問、日本留学フェア・協定校での東北大学留学説明会等を行った。東北大学 TGL の所掌委員会の委員として学部留学生、派遣学生関係業務を推進した。

〔社会貢献〕

各種委員等：独立行政法人日本学生支援機構海外留学支援制度（短期受け入れ・短期派遣）実施委員会委員として、国の留学生施策についての立案、提言、評価などを行い、国の積極的な留学生施策に寄与した。

国際交流活動：米国・ワシントン大学との協働授業を含む国際共同教育プログラムの計画・立案・実施に尽力した。具体的には東北大学における留学生と日本人学生の国際共修の学部高学年・大学院生用授業を立案し実施した。また、ワシントン大学派遣特別プログラムを開発し、学部・大学院生 7 名と材料系国際共同大学院プログラム関係学生 6 名の合計 13 名の学生を引率して実施した。ワシントン大学生 16 名を受け入れて自然科学系サマープログラムを立案・実施した。

社会教育活動：東北大学校友会の登録同窓会である、交換留学生同窓会の教員代議員として、交換留学生の本学国際交流への支援を促進した。

末松 和子 教授

〔専門分野〕 異文化間教育、留学生教育

〔教育活動〕

授業担当：以下の PBL 型国際共修科目（全学教育）を前・後期 2 科目ずつ担当。

1. キャンパス国際化への貢献：留学生との協働プロジェクトを通して国際性を身につけよう I、II（指導言語：英語）
2. 異文化コミュニケーションを通じて世界を知ろう（日本語・前期・後期）
3. 海外体験（短期集中・後期）ドイツでの 2 週間の PBL 研修を引率

教育支援活動：以下の支援活動を行った。

1. 東北大学グローバルリーダー育成プログラムの統括として指定科目の選定、制度設計、リーダーや修了認定審査を実施した。
2. 留学相談を毎週 2 時間、交換留学申請時期は週に 1 0 時間以上実施し、留学前研修、留学中および帰国後の教育・進路指導にあたった。文科省のトビタテ JAPAN 留学奨学金採択者数拡大を目的とした申請書作成指導を行った。
3. 学友会アカペラコーラス部、国際フットサルサークルの顧問として、東北大学留学生協会 (TUFSA)、文系交換留学生支援グループ IPLANET のアドバイザーとして学生の課外活動を支援した。

留学生等受け入れ：文系交換留学プログラム (英語、日本語) の責任者としてプログラムの統括、運営、カリキュラム開発にあたった。

その他：入学予定者向け海外短期留学プログラムを規模を拡大して実施し、合計 30 名の学生をカリフォルニア大学リバーサイド校とオークランド大学に派遣した。短期受入プログラム (東北大学日本語サマープログラム) を開発・実施するとともに、3 日程度の研修生を特別訪問研修生として受入れた。

【研究活動】

研究業績：1) (単著)「カリキュラム国際化と国際共修：留学生と国内学生の学び合いをデザインする-第 38 回研究会公開シンポジウムの報告を中心に-」、『異文化間教育』、47、68-84、査読無 2) (単著)「内なる国際化」でグローバル人材を育てる-国際共修を通じたカリキュラムの国際化-」、『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』、3、41-52、査読有 3) (共著)「留学生教育のエキスパートを育てる-専門性の確立と相互研修の取組」、『留学交流』、77、11-18。

学会発表等：1) (単独)「限りある資源に向き合う：Win-Win-WinWin の留学生支援と国際共修」、『留学生教育学会第 22 回年次大会』、2017 年 9 月 2) (共同)“Can Short-Term Program Really Enhance Students' Employability?” APAIE (Asia Pacific Association for International Educators) Annual Conference, March 2018, Singapore 3) (共同)“Give Youth the Skills Needed for the Jobs of Tomorrow” APAIE (Asia Pacific Association for International Educators) Annual Conference, March 2018, Singapore

講演等：1)「日本の大学における国際共修の取組とその展開：実践例と学習成果のアセスメント」、『異文化間教育学会第 38 回年次大会公開シンポジウム』、2017 年 6 月、東北大学 2)「異文化間理解セミナー」、工業系支援機関ネットワーク研修会、2017 年 11 月、東北経済産業局 3)「東北大学の留学生と就職支援の取組」、出入国管理行政懇談会、2017 年 12 月、仙台入国管理局

外部資金：(科研費) (基盤研究 C)「グローバル人材育成における国際共修：教授法の確立に向けて」(研究代表者)

その他：「高度教養教育開発推進事業」研究プロジェクト・リーダー

【大学運営】

全学委員会：

- 委員長 人文・社会科学系学生交流実施委員会、短期派遣留学実施委員会
- ◎副委員長 グローバル人材育成事業実施委員会
- 委員等 学務審議会、国際交流委員会、学務審議会教務委員会、国際交流委員会学術交流協定調査検討委員会、教育国際化運営委員会、キャリア支援連絡会議、文系オアシス運営委員会、日本語教育研修運営委員会、DATEentre 学内運営委員会、国際連携推進機構、国際連携推進室、ロシア交流支援室、東北大学基金企画推進室

部局内委員会：総務委員会、人事委員会、グローバルラーニングセンター副センター長、カリフォルニア大学リバーサイド校東北大学センター運営委員、ベトナム貿易大学東北大学センター運営委員、その他(国際戦略策定 WG、高度教養教育開発推進事業 WG、全学教育改革 WG)

各種支援活動：アドミニストレイティブ・アシスタントの選考、人文社会科学交換留学生オリエンテーション、日本学生支援機構奨学生オリエンテーション、交換留学説明会、短期海外研修オリエンテーション、留学生相談員、国際交流・留学生支援学生団体の取りまとめ、東北大学留学生協会 (TUFSA) アドバイザー、東北大学人文社会科学短期留学生受入プログラム学生支援団体 IPLANET アドバイザー、学友会顧問 (アカペラコーラス部 Del Mundo)、サークル顧問 International Football Team、言語文化学習支援活動 Global Café 運営指導

【業務活動】

学生支援業務：留学相談、留学後キャリア・進学相談

機構業務：総務委員会、人事委員会、全学教育改革 WG 等にて機構の運営を補佐、高度教養教育開発推進事業審査員、国立大学改革強化「部局ビジョン」事業審査員

センター業務：派遣留学 (交換・短期)、TGL ユニット長として派遣留学拡大、教育の国際化を牽引、人文社会科学系交換留学プログラム (IPLA、Deep-Bridge) 統括、東北大学サマープログラム統括、グローバルラーニングセンター副センター長として運営を補佐、各種成果報告会、説明会の統括・担当

【社会貢献】

各種委員等：宮城県多文化共生社会推進審議会 (副委員長)、宮城国際化協会評議員、仙台二華高等学校スーパーグローバル高校運営指導委員、東北大学地域産業支援アドバイザー

学会活動：留学生教育学会 理事、同学会留学生担当教職員分科会総括、異文化間教育学会研究大会実行委員長

国際交流活動：学術交流協定締結：欧米・アジアを中心に協定校の開拓・協定締結、協定校との関係構築、海外からの訪問者対応（年間約 40 名）

社会教育活動：会津高校、仙台白百合学園、盛岡第一高校

その他：仙台商工会議所青年部との連携促進（協働プロジェクト等）

渡邊 由美子 教授

〔専門分野〕 アストロバイオロジー、地球化学

〔教育活動〕

授業担当：

- ・全学教育科目「科学と情報：ビッグヒストリー」中村（教）教授らと分担担当（前・後期とも）。
- ・共通専門科目「Science, Technology and Industry in Japan（日本の産業と科学技術）」。
- ・理学研究科、地球惑星物質科学「セミナー」

教育支援活動：学友会準加盟団体、Sentinel 顧問

その他：キャリア支援センター、高度イノベーション博士人財育成ユニット、東北大学男女共同参画推進センター企画、第 4 回 2017 キャリアセミナー 講師（2017 年 9 月）； キャリア支援センター、女性大学院生向けキャリア相談 相談員（通年）

〔研究活動〕

研究業績：学会発表

1) Y. Watanabe, U. Graham, and H. Ohmoto. Syntheses of organic matter and Fe-oxides by aerobic Fe-oxidizing bacteria in deep ocean ~3.45 Ga ago. JpGU Conference, Chiba, Japan (oral, reviewed), 2) H. Ohmoto, U. Graham, and Y. Watanabe. Abiotic synthesis of organic matter and Fe-oxides in submarine hydrothermal plumes in a deep ocean ~3.45 Ga ago. JpGU Conference, Chiba, Japan (invited, oral, reviewed), 3) Y. Watanabe, U. Graham, and H. Ohmoto. Formation of organic matter and iron oxides by aerobic Fe-oxidizing bacteria in deep ocean 3.46 Ga ago. Goldschmidt Conference, Paris, France (poster, reviewed), 4) H. Ohmoto, U. Graham, and Y. Watanabe. Abiotic synthesis of organic matter and Fe-oxides in submarine hydrothermal plumes 3.46 Ga ago. Goldschmidt Conference, Paris, France (invited, oral, reviewed), 5) Y. Kunitake, T. Kakegawa, and Y. Watanabe. Microbial community associated with 2.7 Ga submarine hydrothermal activities: geochemical and STEM studies on kerogen from Canadian greenstone belts. Goldschmidt Conference, Paris, France (poster, reviewed)

その他：「英語での教育力・発表力向上支援プログラム」プロジェクト代表

〔大学運営〕

全学委員会：FGL 実施委員会・委員。

各種支援活動：英語での授業担当教員のための PD プログラム：TiE ワークショップ・セミナーの企画・実施。

〔業務活動〕

学生支援業務：留学生に対する英語での学習、生活相談支援（学生相談センターとの連携）。FGL 学生出身国の日経企業紹介セッション開催。日本人学部生・大学院生のキャリア、留学相談（キャリア支援センターとの連携）。

機構業務：E-journal: Higher Education Critical Review 編集委員。

センター業務：

広報、受け入れ及び FGL ユニットメンバーとしての業務。

FGL プログラムコーディネーターの諸活動：（1）教員間の交流促進・連携強化（月例 FGL 教員会議開催）；（2）学部、大学院の FGL プログラム実施状況把握・分析；（3）FGL プログラム・プロモーション及び学生リクルーティングのため、フェア参加・海外高校訪問。

〔社会貢献〕

学会活動：第 38 回異文化間教育学会準備・運営担当。第 67 回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会準備委員会庶務委員。

国際交流活動：国際共同大学院(地球科学系、joint/double degree コース)のためのペンシルヴァニア州立大学との共同実施、交流訪問。

社会教育活動：宮城県仙台第三高等学校 SSH 運営指導委員会委員。仙台第三高等学校生の英語での理科研究発表支援。東北地区 SGH 高校研究発表会・コメンテーター。

その他：地域連携。（1）仙台市青年商工会議所との連携強化。（2）台湾、インドネシア、アメリカなどからの高校生、高校関係者、大学生などの訪問団受け入れ。

Frank Hansen 特任教授

〔専門分野〕 Functional Analysis

〔教育活動〕

Courses taught

Foundations of linear algebra Foundations of calculus

Calculus C (ordinary differential equations)

Probability and statistics

Advanced calculus for functions of several variables (introductory seminar) Supplemental lessons of calculus

高橋 美能 准教授

〔専門分野〕 社会教育

〔研究活動〕

研究業績：(単著)「日本人学生の海外留学を促進する方策—東北大学の留学相談者と留学未経験者を対象とする調査結果を基に—」

『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第4号, 2017, 373-382.

〔社会貢献〕

学会活動：国立大学留学生指導研究協議会の投稿論文に対する査読

富田 真紀 准教授

〔専門分野〕 国際教育開発・教育評価

〔教育活動〕

授業担当：「グローバルゼミ」、「プレゼンテーション」、「国際課題について知り、考えよう」、「海外フィールドワーク」、「海外研修」

(プレゼンテーションは前期のみ、国際課題は後期のみ、他は前後期とも実施)

教育支援活動：TGL プログラムアカデミックアドバイザー、グローバルリーダーコースアカデミックアドバイザー (クラス担

当：一学年につき 40 名)

その他：本学学生サークル顧問 (たなぼた、AMO の 2 団体)

〔研究活動〕

研究業績：

・東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要 4 号、研究ノート「国際課題・途上国問題に関する学習活動のグローバル人材育成への有用性の検討—国際協力機構および東北大学のプログラムの事例から—」、pp259-267.

・高度教養教育学生支援機構・正午 PD 会発表「グローバル人材育成事業におけるアクティブラーニング形式の授業の導入による学習成果の検証」

その他：(共同研究) 国際協力機構主催のインターン参加者へのグローバルコンピテンシーアンケート調査 (2017 年 3 月～)

〔大学運営〕

全学委員会：グローバル人材育成推進委員会委員

部局内委員会：高度教養教育・学生支援機構 研究倫理委員会委員、GLC 幹事会オブザーバー

〔業務活動〕

学生支援業務：海外奨学金プログラムに応募した学生の CV やエッセイへのアドバイス、推薦状の作成。

センター業務：オープンキャンパスにおいて、グローバルラーニングセンター主催の課外英語講座 (TEA) を開設。

〔社会貢献〕

国際交流活動：国際協力機構から本学に派遣されている途上国出身の留学生を紹介してもらい、「国際課題を知り、考えよう」の授業に招聘し、履修者とのインタビュー・ディスカッションの機会を提供した。

社会教育活動：会津高校 SGH プロジェクト発表会、第 2 回 SGH フォーラム in 杜の都発表会、どちらも講評 (招聘)

その他：広島大学客員教員 (2016 年度～)

渡部 留美 准教授

〔専門分野〕 異文化間教育、国際教育交流

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「留学生と日本人学生の協働プロジェクト (博物館編)、全学教育「異文化理解実践」、海外研修(基礎) (ハワイ、シェフィールド、ヨーク)

教育支援活動：東北イノベーション人材育成プログラム「DATEntre」実施委員会委員、PBL 担当

留学生等受け入れ：東北大学サマープログラム (TUJP) 担当、交換留学 (DEEP-Bridge) 大学院生担当、サバイバル日本語担当

〔研究活動〕

研究業績：1) (単著)「グローバル人材育成に携わる国際教育交流担当者の現状と職能開発」、(日本学生支援機構、「留学交流」、2017 年 8 月号、pp.1-10)、2) (分担執筆)「課外・ボランティア活動の国際化—現状と課題—」、(東北大学高度教養教育・学生支援機構課外・ボランティア活動支援センター紀要, 2018 年 3 月, pp.13-16)

〔大学運営〕

全学委員会：人文・社会科学系学生交流実施委員会

〔業務活動〕

学生支援業務：チューターオリエンテーション講師、チューターミーティング運営

機構業務：第8回 IEHE 教育開発セミナー講師、学生生活支援審議会全学 FD 講師

センター業務：グローバルラーニングセンター受入ユニットサブリーダー

〔社会貢献〕

学会活動：国立大学留学生指導研究協議会：ジャーナル編集委員長、異文化間教育学会第38回大会運営事務局

社会教育活動：宮城県宮城野高校平成29年度特別講座「学問の世界」講師

その他：京阪神地域留学生・研究者の家族の支援団体での活動（ML管理、HP担当）

渡部 由紀 准教授

〔専門分野〕 比較・国際教育

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「海外研修」（前期集中・後期集中）、「グローバルゼミ」（前期・後期）「Comparative Higher Education」（後期）

教育支援活動：全学教育「海外研修」は各国の協定校での現地研修＋事前・事後研修で構成している。派遣先のプログラムごとに教員が異なり、6名の教員が本科目を担当している。多数の教員が関わる科目のため、事前・事後教育の教材を取りまとめ、オンライン上で共有できるシステムを構築した。また、本科目は海外派遣のため危機管理とその対応が非常に重要となっている。これまでも、定例会議で事例についての情報交換を行ってきたが、今年度より事例を記録し、取りまとめるシステムを導入した。

〔研究活動〕

研究業績：1) (分担執筆) Mapping Internationalization of Japanese Universities: Goals, Strategies, and Indicators, International Briefs for Higher Education Leaders, 7, 2018, 21-24, 2) (単著) 「留学の類型と特徴～3ヶ月以上の留学経験者データ分析に基づいて～」横田正弘・太田浩・新見有紀子編『海外留学とキャリアと人生に与えるインパクト：大規模調査による留学の効果測定』学文社, 2018, 80-112 (第5章), 3) (分担執筆) 「留学による意識と能力の変化～学部留学のインパクト～」横田正弘・太田浩・新見有紀子編『海外留学とキャリアと人生に与えるインパクト：大規模調査による留学の効果測定』学文社, 2018, 113-128, 4) (単独発表) Exploring the Potential Patterns of Internationalization for Universities in Japan, The 41st Annual Conference of Pacific Circle Consortium in Hiroshima, 2017.9.5

国際会合招待講演：(共同発表) Updates of the Study on the Indicators for Internationalization of Higher Education in Asia, Second Stakeholders Meeting on Indicators for Internationalization of Higher Education in Asia and the Pacific, 2017.11.9

外部資金：1) (科研費) 基盤 (B) 「急速に発展するアジアの高等教育における大学国際化評価に関する実証的研究」(分担),

2) (科研費) 基盤 (A) 「アジアにおける「知識外交」と高等教育の国際化に関する実証的研究」(分担)

〔大学運営〕

全学委員会：1) 短期派遣留学実施委員会, 2) グローバル人材育成推進事業実施委員会, 3) 学務審議会全学教育科目委員会専門委員及び部会等委員

1) 短期派遣留学実施委員会において、語学基準検討WGの座長を務めた。

〔業務活動〕

学生支援業務：1) 留学アドバイジング, 2) TGL アカデミックアドバイジング, 3) 留学説明会, 4) 派遣留学オリエンテーションの企画・実施

所属業務センターの業務：1) 派遣（短期）ユニットのサブリーダー業務、2) 派遣（交換）ユニットのサブリーダー業務、3) TGL ユニットメンバー業務

Nurbosyn ZHANPEISOV 准教授

〔専門分野〕 Theoretical Chemistry

〔教育活動〕

I have had my lecture courses on Chemistry A (Fundamentals of Chemical Bond Theory), Chemistry B (Fundamentals of Physical Chemistry), Chemistry C (Fundamentals of Basic Organic Chemistry), Mineralogy, Petrology, Geology & Crystallography (Fundamentals of Crystalline Structures of Solids) and Fundamental Chemistry Seminar for the FGL and other registered undergraduate students. In addition, I am continuing my interactions and discussions with Professors of Department of Chemistry of the School of Science, Tohoku University.

〔研究活動〕

The results of my study are presented in International Conferences and other meetings and workshops. They are as follows:

H.Alkindi, A. Mohamed, S. Kajimoto, N. Zhanpeisov, H. Horino, Y. Shibata, I. Rzeznicka, H. Fukumura. Single bovine serum albumin molecule can hold plural blue-emissive gold nanoclusters: A quantitative study with two-photon excitation.

J. Photochem. Photobiol. A: Chem. 357 (2018) 168-174.

N.U. Zhanpeisov, H. Fukumura. Organic Probe Molecule Adsorption on Extended Au (111) surface: A Theoretical DFT Study. *Res. Chem. Intermed.* 43 (2017) 5283-5292.

N.U. Zhanpeisov. Structure and Chemical Activity of Selected Metal Oxide Catalysts, Metal-Organic Frameworks and Gold Structures: Theoretical DFT Study. *The 12th Innovative Quantum Chemistry Symposium*, Kyoto Terrsa, Kyoto, Japan, April 21-22, 2018 (Invited talk).

N.U. Zhanpeisov. Theoretical DFT Study on Metal-Organic Frameworks and Gold Structures. *11th International Conference on Modern Methods in Quantum Chemistry (11th MMQC)*, Mariapfarr, Austria, February 25 – March 2, 2018 (Invited talk)

N.U. Zhanpeisov. Theoretical DFT Study on Small Gold Nanocluster and Extended Au(111) Surface. *The 12th General Meeting of Asian Consortium on Computational Materials Science – Virtual Organization (ACCMS-VO12)*, Sendai, Japan, December 17 - 19, 2017 (Invited talk).

N.U. Zhanpeisov. Mixed Metal Oxide Based Metal-Organic Framework Structures: A Theoretical DFT Study. *The 7th Conference of the Asian Consortium on Computational Materials Science (ACCMS-9)*, Berjaya Times Square Hotel, Kuala Lumpur, Malaysia, August 8 – 11, 2017 (Invited talk)

N.U. Zhanpeisov. Theoretical DFT Study on Mixed Metal Oxide Based Metal-Organic Framework Structures. *The 4th International Conference on Nanoscience and Nanotechnology (ICONN2017)*, SRM University, Chennai, India, August 9 – 11, 2017 (Oral)

N.U. Zhanpeisov. Theoretical DFT Study on Structure and Chemical Activity of Complex Catalytic Systems. *Xth Workshop on Modern Methods in Quantum Chemistry (10th MMQC)*, Mariapfarr, Austria, March 5-10, 2017 (Invited talk).

[大学運営]

I am a member of the Japan-Russia relations office of Tohoku University as well as FGL Implementation Committee member. I have been a Steering Committee Member at “2018 Annual Meeting of Excellent Graduate Schools for “Materials Integration Center” and “Materials Science Center” in conjunction with “2018 Russia-Japan Conference on Advanced Materials: Synthesis, Processing and Properties of Nanostructures” organized by “Re-inventing Japan Project” of JSPS and Japan-Russia Relations Office of Tohoku University.

[社会貢献]

I am an acting Reviewer in a number of Academic Scientific Journals (The Journal of Physical Chemistry (A, B, C, Letters), Organic Letters, Journal of Organic Chemistry, Chemical Physics Letters, International Journal of Quantum Chemistry and many others). I have been a local organizer of the “25th Anniversary Meeting of APAM” held at NICHe, Tohoku University, Sendai, Japan from April 9 to 12th, 2017. Also, I have participated in the Far-Eastern Economic Forum held in Vladivostok (September 2017) as well as in an official meeting of MEXT representative at Moscow State University (March 2017).

Igor TRUSHIN 准教授

[専門分野] Mathematical Analysis and Partial Differential Equation Theory

[教育活動]

Courses taught: Calculus A, Calculus B, Linear Algebra A, Linear Algebra B, Mathematics Seminar, Supplementary Lessons on Calculus

[研究活動]

Publications:

- (1) On conditional stability of inverse scattering problem on a lasso-shaped graph (with K.Mochizuki), “Proceedings of the 11th ISAAC 2017”, "Trends in Mathematics, Research Perspectives", Springer/Birkhäuser, to appear
- (2) Identification of four boundary conditions coefficients for infinite star graph by resonances, (with A. Akhtyamov) Mathematical modeling of processes and systems, 7th International Youth Sci-Practical Conference, Part 1, Ufa, 8-13, (2017)
- (3) On Inverse Scattering on a Sun-Type Graph (with K.Mochizuki), New Trends in Analysis and Interdisciplinary Applications, Trends in Mathematics Research Perspectives, Birkhauser, Springer, 307-313 (2017)
- (4) Identification of boundary conditions for infinite star graph, (with A. Akhtyamov) Modern Mathematics and its Applications, International Scientific-Practical Conference, Part 1, Ufa, 6-10, (2017)
- (5) On stability of inverse scattering problem on a lasso-shaped graph, (with K.Mochizuki), Modern Mathematics and its Applications, International Scientific-Practical Conference, Part 1, Ufa, 60-62 (2017)

〔社会貢献〕

Academic conferences organizer:

情報科学研究科重点プロジェクト「数学と諸分野の協働推進による学際的・総合的な新領域研究の開拓」第 18 回講演会(31.10.2017)

15th Aobayama seminar “PDEs and Inverse Problems”(2.2.2018)

Reviewing committees member: 7 committees

Martin ROBERT 准教授

〔専門分野〕 Life Science

〔教育活動〕

During Fiscal year 2017, I spent most of my time teaching and further developing five different courses part of the FGL undergraduate program at Tohoku University. In addition, I also taught one intensive course at Yamagata University.

Main courses (Undergraduate Liberal Education) - Tohoku University in 2017

1. Biology A - Essential Cell Biology (Fall, Tuesdays 10:30-12:00)
2. Biology B - Essential Biochemistry (Spring, Tuesdays 10:30-12:00)
3. Biology C - Integrative and engineering concepts in biology: Elements of Physiology and Systems biology (Spring, Wednesdays 14:40-16:10)
4. Life and Nature (Fall, Mondays 14:40-16:10)
5. Introductory seminar: Interactive short course in Marine Biology (August 17 -22)
6. 情報と科学。ビッグヒストリーで紡ぐ社会と自然科学 (Spring and Fall, Mondays 8:50-10:30)

Other course (Undergraduate and Graduate Education)

7. Introduction to Effective Scientific Communication (Intensive course, 15 hours over 3 days in June-July 2017). Yamagata University, Faculty of Agriculture (Summer 2017) – Part-time lecturer

Faculty-led program

In 2017, I led the development, planning, organization and execution of a two-week faculty-led study abroad program called CHaNGE (Canadian Heritage and Nature Group Experience). A total of 14 students joined a two-week academic and field exploration of history, culture, environment and climate change in Montreal and Ottawa in partnership with McGill University, Polytechnique-Montreal, Ouranos and the University of Ottawa.

Educational activities

- In all courses I implemented and used interactive and online resources to share course information with students. Tools are used to stimulate student interest and interactions inside and outside the classroom and also as a platform to distribute content provided by students themselves. This lead to increased interactions and discussions complementary to what happens in class.
- I also participated in Professional Development activities held both at Tohoku University and the University of Tokyo, that targeted activities to improve the international students experience as well as to improve the use of active-learning based methods in science education.
- Recruited and trained one second year FGL student for a research internship on a project on the bacterial metabolic function.

Professional development education

- Mentor in Professional Development (PD and NFP) workshops and activities for young faculty during the whole of F2017.

〔研究活動〕

Publication

1. M. Robert, Complexity and possible emerging intelligence in bacterial collectives. Commentary submitted to Journal of Cognitive Science.

Presentations at conferences/seminars

Invited (Oral)

1. Exploring spatiotemporal patterns of metabolic gene expression within *E. coli* biofilms and macro-colonies. Systems and synthetic *E. coli* biology: Annual meeting in Awaji. Awaji Yumebutai, Hyogo, Japan, March 12-14, 2018
2. Quantum biology at the cellular level. Workshop on Biological Mentality. Michigan Technological University, Ann Arbor, Michigan, USA, August 7-9, 2017

Contributed (Oral)

1. Robert M. Connecting bacterial metabolic dynamics with biofilm structure and colony pattern formation. The seventh Para Limes complexity conference. “Complexities of time”. Nanyang Technological University, Singapore, March 19-21,

2018

Acquired Research funds

Grant-in-Aid for Scientific Research, from the Japan Society for the Promotion of Science (JSPS). Basic research (Type C)

- Title: Visualization of metabolic dynamics during pattern formation in bacteria
- Amount: 4 940 000 JPY (about 45 000 USD) for 2016-2018 (3 years)
- As principal investigator

[大学運営]

Sitting on two GLC committees:

- Member of PR committee - 広報連携ユニット会員
- Member of short-term program committee - 短期ユニット会員

[業務活動]

- Participated in IEHE mission to Hong Kong Universities in March 2018 concerning the reform of Liberal education at TU
- Mentor in Professional Development (PD and NFP) workshops and multiple activities for young faculty during F2017.
- Career support seminar - an international (science) faculty perspective. Innovative Leaders Platform and Center Career Support, Tohoku University, May 16, 2017

[社会貢献]

In FY 2017, I continued activities in academic societies

Academic societies

Editorial boards

- Member of Editorial Board of Advances in Systems Biology, 2012-
- Member of Editorial Board of Frontiers in Plant Systems Biology, 2012-
- Referee. Frontiers in Microbiology, 2017

Contribution to International Affairs of Tohoku University and Academic exchanges

Continued to promote internationally our FGL educational programs as well as developing contacts, starting discussions and moving forward the development of mobility activities and agreements to expand Tohoku University's activities with existing and new international partners.

- Facilitated meetings and contributed to the development of a new agreement on student mobility with Polytechnique Montreal
- Promoted the participation of six Canadian students from partner universities (uOttawa and Polytechnique Montreal) in the TESP program (Summer 2017).
- Organized an information and social gathering for the Canadian participants in the TESP program to meet with my FL Study Abroad CHaNGE program participants prior to our visit to Canada

Others:

- Held discussions/meetings with GLC/TGL program staff members to improve internationalization through increased interactions between foreign and Japanese students
- Proposed ideas to facilitate and promote internationalization at various internal meetings (GLC, FGL, etc.)

Participated in International Students activities (festivals, FGL day trips, etc. both on and off campus)

小池 武志 准教授

[専門分野] 原子核物理

[教育活動]

担当授業：物理 A, 物理 B, 物理 C

学位論文：修士 (1名)

[研究活動]

研究業績：K. Starosta and T. Koike, Nuclear chirality, a model and the data, Physica Scripta, 92 093002, (2017).

招待講演："Gamma-Ray Spectroscopy with Strangeness: Recent Results from J-PARC", Gordon Research Conference, Colby-Sawyer College, New London, USA, June 18-23, 2017.

[業務活動]

学生支援業務：シドニー理数応援プログラム

部門業務：FGL ユニット、受け入れユニット、派遣 (短期) ユニット

〔社会貢献〕

その他：福島県三春町「実生プロジェクト」役員（草の根放射線モニター）

坂本 友香 特任准教授

〔専門分野〕 国際教育

〔教育活動〕

授業担当：

- ・前期・後期共に全学教育科目「海外研修」を担当し、カナダ、ベトナム、アメリカ研修プログラム（担当プログラム参加者約 60 名）の企画・運営、事前・事後研修（全 5 回）における学生指導を行った。また、海外研修時には、海外協定校、保健管理センターと連携し、異文化適応や危機管理面などにおいて学生を支援した。また、英語で開講する「宮城の伝統文化を通じた日本理解」（前期）、「日本の伝統文化を通じた日本理解」（後期）を担当し、外国人留学生向け科目及び国際共修授業科目開講にも貢献した。

教育支援活動：

- ・高校生向け海外短期留学プログラム「入学前海外研修」参加者（17 名）をカリフォルニア大学リバーサイド校へ引率し、学生支援を行った。
- ・留学希望者に対し、アドバイジングを実施。

〔大学運営〕

全学委員会：アニュアルレビュー2017 英語版編集ワーキンググループ委員会にオブザーバーとして参加。国際広報センター所属エディター、留学生課と連携し、アニュアルレビュー英語版に掲載する大学国際教育交流、学生支援活動状況について委員会に情報提供した。

部局内委員会：高度教養教育・学生支援機構広報小委員会メンバーとして活動した。

各種支援活動：国際交流オアシス（大学院文学研究科、大学院教育学研究科、大学院法学研究科、大学院経済学研究科で構成された組織）事業実施委員として活動。

〔業務活動〕

学生支援業務：留学希望者に対する留学アドバイジングの実施

機構業務：高度教養教育・学生支援機構広報小委員会メンバー

センター業務：

- ・派遣（交換）、派遣（短期）、広報連携ユニットメンバーとして活動
- ・交換留学希望者に向けた留学アドバイジング（週 1 日 2～3 時間程度）
- ・交換留学生に対する指導、交換留学審査・選考・説明会実施
- ・グローバルキャンパスサポーター（GCS）の採用・統括・アドバイジング
- ・新規海外研修 SAP 開発、新規海外協定校開拓・交渉
- ・特別訪問研修生受け入れ
- ・外国人留学生受け入れオリエンテーションにおける大学紹介、学生生活等のアドバイス、住環境に係る交換留学生向け情報提供
- ・大学の広報業務及び海外協定校来訪者対応

〔社会貢献〕

国際交流活動：学術交流協定締結に向けた広報活動及び交渉

その他：

- ・NPO 法人国際教育交流協議会主催「基礎から学ぶ国際教育交流」研修講師として国際教育交流初任者向け教育プログラム実施
- ・学外学生団体「米国大学院学生会」の学内での海外大学院留学説明会実施の調整

中島 美奈子 特任准教授

〔専門分野〕 社会心理学、異文化間心理学

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「グローバルな時代を生きる」「日本文化演習」「仙台国際化プロジェクト P B L」

〔業務活動〕

学生支援業務：留学生就職支援プロジェクト DATEntre 実施委員会委員

〔社会貢献〕

社会教育活動：1) 特定非営利活動法人 JAFSA 国際教育交流協議会における初任者研修担当 2) 千葉大学 ALPS プログラム「高等教育の国際化対応」コース担当

島崎 薫 講師

〔専門分野〕 日本語教育

〔教育活動〕

授業担当：全学教育科目「宮城の伝統文化を通じた日本理解」、「日本社会と文化」、「海外研修」（夏：ニューサウスウェールズ大学、春：インドネシア大学、ニューサウスウェールズ大学）、学部教育「日本語教育学各論」（文学部日本語教育学専修）、大学院教育「日本語教育論特論Ⅳ」（文学研究科日本語教育学専攻）

教育支援活動：TGL アカデミックアドバイザー（担当学生約 150 名）、留学生対象入学前準備プログラムの実施、国際交流系学生サークル@home 顧問、課外・ボランティア活動支援センターボランティア支援学生スタッフ SCRUM 国際部の活動支援

留学生等受け入れ：IPLA 学生（前期 16 名、後期 23 名）、DEE_p-Bridge 全体コーディネーター、レベル 4 アドバイザー、ペイラー大学・メリーランド大学・KAKEHASHI プログラムからの特別訪問研修生受け入れプログラム企画・運営

その他：サマープログラム TUJP コーディネーター、TUJP 教材開発、TSSP の日本語コーディネーター、入学前準備プログラム教材開発、チューター指導の整備、留学生就職支援プロジェクト DATEntre での日本語 3 科目のコーディネーター（JLPT N1 対策講座、JLPT N2 対策講座、ビジネス日本語）

〔研究活動〕

研究業績：1) (分担執筆) 「『実践コミュニティ』とは？：実践コミュニティの理論」, トムソン木下千尋 (編) 『外国語学習の実践コミュニティ：参加する学びを作るしかけ』(コ出版, 2017 年 7 月, 2 章, pp.14-28)、2) (分担執筆) Tohoku University Survival Japanese Program (東北大学出版, 2017 年, 40 ページ)、3) (分担執筆) 「課外・ボランティア活動の国際化—現状と課題—」, 『課外・ボランティア活動支援センター紀要』2018 年 3 月, pp.13-16

招待講演：「コミュニティを越えていく“しかけ”づくり」, アカデミックジャパニーズグループ研究会, 2018 年 2 月 18 日

外部資金：(科研費) 若手研究 B 「実践コミュニティ間の越境をともなった日本語学習者の学びに関する基礎的研究」(代表) 2017 年～2020 年

〔大学運営〕

全学委員会：1) 人文社会系学生交流委員会委員, 2) 日本語研修教育運営委員会委員, 3) 日本語研修教育運営専門委員会委員, 4) 国際交流オアシス事業実施委員会委員

部局内委員会：1) 東北イノベーション人材育成プログラム実施委員会委員

〔業務活動〕

機構業務：日本語教育実施検討ワーキンググループメンバー

〔社会貢献〕

その他：地域のイベントでの留学生のすすめ踊り演舞引率

水松 已奈 特任助教

〔専門分野〕 国際高等教育、異文化間教育

〔教育活動〕

授業担当状況：

全学教育「【展開ゼミ】グローバルゼミ」((カレントトピックス科目：前期・後期), 全学教育「世界に飛び立そう！留学のすすめ」(カレントトピックス科目：前期), 全学教育「仙台の国際化推進プロジェクト：留学生と共に地元百貨店に貢献しよう！」(カレントトピックス科目：後期), 全学教育「海外研修」(前期集中、後期集中)

教育支援活動：

「グローバルゼミ」担当教員として年間 40 名の学生をグローバルリーダー候補として育成 (個別面談実施)

TGL プログラム担当として約 200 名の登録学生のアドバイザー担当 (アカデミックアドバイジングの実施)

〔研究活動〕

論文等：[1] (単著) 「内なる国際化」によるグローバル市民育成に関する事例研究. 『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要』, 第 4 号 135-148 頁 [2] (単著) プロジェクト型「国際共修授業」が受講者の学びに与える影響: Kolb の経験学習モデルを用いてデザインした授業に関する一考察. 『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要』, 第 3 号 115-130 頁 [3] (単著) 大学入学前のギャップタムを生かした「海外研修」の効果とその可能性—参加者の大学入学後の学生生活へのモチベーションに焦点をあてて— 第 67 回 東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会 研究集録 58-62 2018 年 2 月 [4] (共著) 韓国における大学国際化への取り組み—旗艦大学における量的拡大と質的向上の観点から—, 『留学交流』, 日本学生支援機構, 第 70 巻 1 号 2-6 頁.

国際学会：[5] (個人) How Can We Enhance Students' Global Leadership Through On-campus Certificate Program? 19th Annual International Leadership Association Global Conference, ブリュッセル, 2017 年 10 月 14 日 [6] (共同) Challenges of Internationalizing Japanese Higher Education: Developing Trends and Innovative Best Practices, 41th Pacific Circle Consortium Conference, 広島, 2017 年 9 月 6 日 [7] (共同) Scholar-Practitioners and the Power of Data and Research to change a Story & Improve Campus Internationalization AIEA Annual Conference 2017, ワシントン DC, 2017 年 2 月 21 日

国内学会：[8] (個人) プロジェクト型「国際共修」における学生の異文化理解への意識と行動の変容—仙台市の国際化推進プロジェクトを事例として—異文化間教育学会第 38 回大会, 2017 年 6 月 17 日 [9] (個人) 大学入学前のギャップタームを生かした「海外研修」の効果とその可能性—参加者の大学入学後の学生生活へのモチベーションに焦点をあてて—, 第 67 回 東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会, 2018 年 8 月 24 日.

【大学運営】

TGL プログラムの実施・運営

部局連携：経済学部、法学部（部局でのプログラム説明、指定科目確認等）

「グローバルゼミ」の実施、選考など

TGL プログラムにかかわる各種ガイドライン作成

アカデミックアドバイザーの実施

目標設定シートの確認

【社会貢献】

学会活動：異文化間教育学会第 38 回大会準備委員会委員，高等教育学会第 20 回大会準備委員会委員

国際交流活動：

- ・PBL 型国際共修授業「仙台の国際化推進プロジェクト：留学生と共に地元百貨店に貢献しよう！」において、仙台市の百貨店と共に活動。
- ・SAP や入学前海外研修の事前課題として、カルフォルニア大学リバーサイド校の学生とメール交換プロジェクトを実施。現地研修の際の学生交流の円滑な運営に大きな成果があった。

中村 教博 教授

【専門分野】 地球電磁気学

【教育活動】

授業担当：平成 29 年度は新しく下記の 3 つを開発実施した：基幹科目「ビッグヒストリーで紡ぐ自然科学と社会」、カレントトピックス科目「遊学：ためして、つなげて、ふりかえる」、「みせる学び：大学で何を学んだの？ どう役に立つの？」。また、「アジアを知ろう感じよう」でアジアの地形と文化について分担講義した。平成 29 年度もこれまで通り、自然科学総合実験の運営を担当し、教員 TA の FD の実施、受講生へのレポートの書き方演習 I,II の実施や配慮を要する学生への対応をおこなった。地学専攻において、米国ロチェスター大学の John Tarduno 教授による「Crocodiles at the poles: viewing the past and future ice-free Arctic」の講義を開催した。

学位論文指導・審査：「博士」3 名の学位論文指導を指導教員としておこない、うち 2 名の学位論文審査を主査として担当した。さらに、副査として 1 名の学位審査に携わった。「修士」3 名の修士論文について、指導教員として研究および論文指導を担当し、うち 1 名は主査として論文審査委員を担当した。「学士」1 名の学生の研究指導を補助し、論文審査に副査として携わった。

留学生等受け入れ：学術振興会特別研究員(DC1)の受け入れ最終年度

【研究活動】

研究業績：1) (共著) Fukuzawa, T., Nakamura, N., Oda, H., Uehara, M., and Nagahama, H. (2017), Generation of billow-like wavy folds by fluidization at high temperature in Nojima fault gouge: microscopic and rock magnetic perspectives, *Earth, Planets and Space*, 69:54, 1-10, doi10.1186/s40623-017-0638-y. 2) (共著) Kon, S., Nakamura, N., Nishimura, Y., Goto, K., and Sugawara, D. (2017), Inverse magnetic fabric in unconsolidated sandy event deposits in Kiritappu Marsh, Hokkaido, Japan, *Sedimentary Geology*, 349, 112-119, doi 10.1016/j.sedgeo.2017.01.003.

招待講演：「初年次学生を対象とした理科実験プログラム「自然科学総合実験」実験レポート作成・評価のためのループリックの導入」, 第 23 回 FD フォーラム, 2017 年 3 月 5 日

外部資金：(科研費) 基盤研究 (B), 「地磁気を利用した津波性巨礫・断層破砕帯の運動履歴とその年代決定法の高度化」(代表), 平成 27 年度～29 年度

【大学運営】

全学委員会：1) 学務審議会委員, 2) 全学教育基幹科目委員会委員長, 3) 全学教育実験科目委員会委員

部局内委員会：1) 学際融合教育推進センター長, 2) 高教機構施設整備委員会委員長, 3) 高教機構教養教育推進委員

【業務活動】

学生支援業務：自然科学総合実験で履修が危ぶまれる学生を、各センターおよび教務課と連携して、支援した。

機構業務：教養教育改革ワーキンググループの一員として、東北大学の全学教育の現状と課題を取りまとめた。そのなかで、他大学や海外の大学における教養教育改革の現状をまとめた。施設整備委員長として、関根副機構長、岡田有二委員、工学研究科都市建築学専攻の本江研究室の皆さん、教務課の事務方と協力して、学生講義棟 A204 をグループ学習室に改修した。

センター業務：これからどうする？実践編として、学際連続セミナー「インフォグラフィックス」を 3 回実施し、のべ 90 名の学内外からの参加者を受け入れた。

部門業務：教育内容開発部門自然科学教育開発室として、学生のレポート作成演習、レポート達成度チェックシートの導入をおこなった。この導入に伴い、300名分のチェックシートを一括でISTUに登録し、各学生に返却できるシステムを自然科学教育開発室で開発した。

〔社会貢献〕

学会活動：地球電磁気・地球惑星圏学会の運営委員を3年連続で担当し、学会開催とアウトリーチ活動を主導した。

国際交流活動：ロチェスター大学のJohn Tarduno教授による大学院向け講義を地学専攻にて実施した。

社会教育活動：飛翔型科学者の卵プロジェクトにおいて、高校1、2年生に原始惑星系円盤の講義を実施した。

中川 学 准教授

〔専門分野〕 日本近世史

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「History of Tohoku University」、「東北大学を学ぶ」(2コマ)、「基礎ゼミ フィールドワークの日本史」、「アジアを知ろう、感じよう」(芳賀満教授と共同)、「遊学」(山内・中村教授と共同)、「東北大学のひとびと」(分担)。

教育支援活動：高度教養教育開発推進事業「初年次のレポート作成とその指導を支援する共通教材の開発」WG(菅谷奈津恵、佐藤智子、串本剛、吉植庄栄、中川学)により『東北大学レポート指南書 第2版』(2018)を執筆(第5章)・編集・刊行。

その他：東北大学サマープログラム(TUJP)「Time Travel, Tohoku University」(2017.7)を担当。

〔研究活動〕

研究業績：(学会発表)「近世上賀茂神社における神社内争論について—17世紀半ば、氏人の社職補任をめぐる問題」(近世の宗教と社会研究会、2017年7月2日)

外部資金：(科研費) 基盤研究(C)、「神社争論をめぐる紛争解決システムの研究」(代表)、2016-2018

〔大学運営〕

全学委員会：学務審議会委員、広報連絡委員、学務審議会基礎ゼミ委員、学術資源研究公開センター運営専門委員会・史料館部会委員

部局内委員会：総務委員会委員、広報小委員会委員長、自己評価委員会部会委員

各種支援活動：東北大学史料館兼務教員

〔業務活動〕

機構業務：正午PD会の企画・実施(計14回)。

センター業務：学際融合教育推進センター副センター長(運営業務、セミナーの企画・運営、Website制作責任者等)。

〔社会貢献〕

学会活動：東北史学会評議員、宮城歴史科学研究会委員

社会教育活動：第46回東北大学リベラルアーツサロン「江戸時代の死の文化—為政者の死をめぐる」

その他：NPO法人・宮城歴史資料保全ネットワーク理事

山内 保典 准教授

〔専門分野〕 認知心理学、科学技術社会論

〔教育活動〕

授業担当：「フィクションで正義を考える」(基礎ゼミ)、「社会の中の科学技術」(基幹)、「あなたの選択」(基幹・展開ゼミ)、汎用的技能ワークショップ(基幹・展開ゼミ)を継続。「遊学」(カレントトピックス科目；学内セミナー等の既存教育リソースの活用)、「みせる、学び」(カレントトピックス科目；高年次教養科目)の新規開設。

教育支援活動：「東北大学 学習・研究倫理教材 Part 1 あなたならどうする？：誠実な学びと研究を考えるための事例集」を改訂し、第2版を作成。

〔研究活動〕

研究業績：(単著)「オープンな科学コミュニケーションが公正な研究に資する可能性と役割」(玉川大学出版部、『科学技術社会論研究』14巻、2017年11月15日、63-76頁。)

外部資金：平成29年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)(基盤研究C)平成29年度採択「「個別支援×集団研修」のハイブリッド型小学校理科指導力向上プログラムの開発」(研究代表者：安積典子)研究分担者として参画

その他：1) 東北大学「社会にインパクトある研究」の「E1：心に豊かさを灯す社会の創造」に参画。

〔大学運営〕

全学委員会：1) 公正な研究活動推進室員、2) 軍事関係機関からの研究公募等に関する対応検討WG委員、3) 学務審議会教育情報・評価改善委員会委員 研究倫理教育の開発検討WG委員

部局内委員会：1) 学際融合教育推進センター副センター長、2) 研究倫理委員会委員

各種支援活動：1) H29 東北大学全学教育FD話題提供

〔業務活動〕

センター業務：1) 連続セミナー「これからどうする？：実践編 イラスト一枚で伝える技法」の企画・運営、2) 学際融合教育型授業の開発・実施、3) 正午PD会の運営

〔社会貢献〕

学会活動：1) 科学技術社会論研究 14 巻「研究公正と RRI」特集担当ゲストエディター

社会教育活動：1) 一般財団法人理数教育研究所の広報誌にて、科学技術と社会に関する連載、2) 平成 29 年度 八尾柏原藤井寺 3 市合同初任若手小学校教員研修「理科からはじめる学び合い」にて、ワークショップ設計・実施担当

野家 啓一 総長特命教授

〔専門分野〕 哲学、科学基礎論

〔教育活動〕

授業担当：

- ・全学教育 思想と倫理の世界 (1セメ、2セメ)、哲学・倫理学 (2セメ、3セメ)、基礎ゼミ (1セメ)、展開ゼミ (2セメ)
- ・東北大学リーディング大学院 グローバル安全学 I (前期集中)
- ・放送大学面接授業 「現代哲学への招待 (第 2 部)」(集中)

〔研究活動〕

発表論文 (すべて単著)：

1. "Phenomenology in Japan: Its Inception and Blossoming" in Michiko YUSA (ed.) Contemporary Japanese Philosophy, Bloomsbury, 2017, pp.23 - 39.
2. "Nishida Kitaro as a Philosopher of Science (enlarged version)" in Michiko YUSA (ed.) Contemporary Japanese Philosophy, Bloomsbury, 2017, pp.285 - 305.
3. 「科学の成り立ちと知の変貌」、JST 研究開発戦略センター (編)『科学をめざす君たちへ』慶應義塾大学出版会、2017 年 3 月、pp.90 - 115.
4. 「<分析哲学>私論」、『現代思想』第 45 巻 21 号、2017 年 12 月臨時増刊号、pp.169 - 179.
5. 「カント歴史哲学と物語り論」、牧野英二 (編)『新・カント読本』法政大学出版局、2018 年 2 月、pp.321 - 324.
6. 「人文学のための弁明 (アポロギア)」、社会技術研究開発センター (編)『科学技術と知の精神文化Ⅶ』丸善プラネット、2018 年 2 月、pp.49 - 76.
7. 「<教養>のための弁明」、山脇直司 (編)『教養教育と統合知』東京大学出版会、2018 年 3 月、pp.3 - 18.
8. 「3.11 以後の科学・教育・物語り」、東北大学教養教育院 (編)『震災からの問い』東北大学出版会、2018 年 3 月、pp.55 - 71.
9. 「現代を生きる柳田國男、鈴木岩弓・小林隆 (編)『柳田國男と東北大学』東北大学出版会、2018 年 4 月、pp.3 - 28.

学会発表・講演：

1. 招待講演「科学哲学への招待」、2017 年 4 月 17 日、日本産学フォーラム第 10 回リベラルアーツ研究会、霞山会館
 2. 招待講演「リベラルアーツとしての科学哲学」、2017 年 5 月 29 日、名古屋工業大学
 3. 招待講演 "ELSI (Ethical, Legal and Social Issues) after 3.11"、2017 年 10 月 5 日、French-Japanese Week on Disaster Risk Reduction, 東北大学災害科学国際研究所
 4. 特別講演「科学哲学から見た精神病理学」、2017 年 10 月 21 日、第 40 回日本精神病理学会大会、仙台国際センター
 5. シンポジウム提題講演「<ポスト真実>時代における知と哲学」、2017 年 11 月 5 日、日本社会学会シンポジウム「公共性の危機と知の再創造」、東京大学本郷キャンパス
 6. 特別講演「科学とサイエンスのあいだ」、2017 年 11 月 25 日、ゴールドドラットコンサルティング研修会、京都楽月庵
 7. シンポジウム提題講演「自己のゆらぎ：人称の迷路のなかで」、2017 年 12 月 10 日、第 17 回河合臨床哲学シンポジウム、東京大学弥生講堂一条ホール
 8. 基調講演「科学的真理と哲学的真理」、2017 年 12 月 17 日、統合学術国際研究所第 15 回合同研究会、KKR ホテル熱海
 9. 招待講演「<ポスト真実>時代の知と公共圏」、2018 年 2 月 23 日、第 10 回規範経済学研究会、一橋大学経済研究所
- 科学研究費補助金：基盤研究 (B)「感情の媒介的機能に定位した、よき共同的な生の機能」研究代表者

〔大学運営〕

全学委員会：東北大学リーディング大学院プログラム外部アドバイス委員、学務審議会指名委員 (前期)、基礎ゼミ委員会委員 (前期)、東北大学校友会理事

部局内委員会：高度教養教育開発ワーキンググループ委員、理学部・理学研究科「青葉理学振興会」理事

〔業務活動〕

教養教育院「教養教育特別セミナー」パネリスト、教養教育院「合同講義」司会

〔社会貢献〕

各種委員等：日本学術会議連携会員 科学技術分科会委員、日本哲学系諸学会連合 (JFPS) 委員長、大学共同利用機関「人間文化

研究機構 評議員 機構長選考会議議長、総合地球環境学研究所運営委員、裁判官指名仙台地域委員会委員、學士會選挙区委員会（東北大学）委員、統合学術国際研究所常任理事、博士課程教育リーディングプログラム「オールラウンド型」評価委員、JST「科学技術と知の精神文化」企画委員、コスモス国際賞選考専門委員会委員、和辻哲郎文化賞選考委員、日本アスペン研究所「アスペン・セミナー」リソースパーソン

学会活動：東北哲学学会会長、日本哲学会理事・評議員、日本現象学会委員

その他：東北医科薬科大学倫理委員会委員、独立行政法人国立病院機構西多賀病院倫理委員会委員、地域医療機能推進機構理事、東京大学「科哲の会」理事、宮城県仙台第一高等学校評議員

吉野 博 総長特命教授

〔専門分野〕 建築環境工学

〔教育活動〕

授業担当：1) 全学教育 ・自然と環境：前期 2 コマ、後期 2 コマ ・基礎ゼミ：前期 1 コマ ・展開ゼミ：後期 1 コマ

2) 東北大学にて、大学院講義「建築環境性能評価論」6/1 を非常勤講師として実施

3) 前橋工科大学にて集中講義「脱炭素社会におけるサステナブルな建築環境の設計理念」(12/21)を客員教授として実施

4) 秋田県立大学にて集中講義「温暖化防止とゼロエネルギー建築への道」(11/30)を客員教授として実施

5) 浙江大学にて集中講義” Green Buildings” を 10 回(10/19,26,27,28(2 回),11/4(2 回),9,10,11)実施

〔研究活動〕

研究業績：1) (共著) Environmental conditions in homes with healthy and unhealthy schoolchildren in Beijing, China, Building and Environment 112 (2017) 270-284 2) (共著) Correlation between health discomforts and temperature steps in winter of China, Building and Environment 114 (2017) 387-396 3) (共著) Investigation of indoor thermal environment in the homes with elderly people during heating season in Beijing, China, Building and Environment 126 (2017) 288-303 4) (共著) Field study on indoor health risk factors in households with schoolchildren in south-central China, Building and Environment 117 (2017) 260-273 5) (共著) Practical moisture buffering effect of three hygroscopic materials in real-world conditions, Energy and Buildings 139 (2017) 214-223 6) (共著) IEA EBC annex 53: Total energy use in buildings—Analysis and evaluation methods, Energy and Buildings 152 (2017) 124-136 7) (共著) 仙台市を中心とする応急仮設住宅を対象とした屋内外環境の健康影響に関するアンケート調査、日本建築学会環境系論文集、第 741 巻、967-975、2017 年 11 月 8) (共著) 中国における脳血管疾患死亡率に対する環境要因の分析、日本建築学会技術報告集、第 24 巻、第 56 号、285-288、2018 年 2 月

招待講演：1) DEVELOPMENT OF SUSTAINABLE BUILT ENVIRONMENT IN JAPAN, IEHB 2017 & SuDBE2017 conferences, Chongqing, China Nov. 4-7, 2017 2) 健康に暮らすための住まいと住まい方のエビデンス、健康住宅の理論と実践フォーラム、2017 年 11 月 16、17 日 中国、杭州

外部資金：1) (科研費) 基盤研究 (B)、「原発事故後の建築のための居住空間内 γ線空間線量率予測法の確立」(分担)、2016~2018 2) (科研費) 基盤研究 (B)、「中国における循環器系疾患の死亡に対する住環境要因の関連性評価と防止対策の提案」(代表)、2016~2018

その他特記すべき事項：ISO/TC163/SC1/WG10 の Convenor として「建物の気密性能試験法」などの ISO を取りまとめ

〔社会貢献〕

各種委員等：1) 一般社団法人 日本サステナブル建築協会の会長を務め、CASBEE 戸建認証委員会委員長などとして活動した。

2) 国立保健医療科学院評価委員を務める。

3) 任意団体「住まいと環境 東北フォーラム」の理事長として、シンポジウム、講習会、見学会などの社会貢献活動に従事した。

学会活動：1) 日本学術会議の三部の会員であり、土木工学建築学委員会の委員長、低炭素社会健康分科会の委員長を務めた。また、他の三つの分科会の委員として活動した。

2) 臨床環境医学会副理事長を務めており、その関連で年次大会、理事会等にて役目を果たした。

国際交流活動：アジア学術会議の事務局長（日本学術会議が事務局）を務め、2017 年 6 月にフィリピンのマニラで開催された年次会議に貢献した。

社会教育活動：低炭素社会推進会議の議長として、シンポジウムの開催、提言案の作成に貢献した。

座小田 豊 総長特命教授

〔専門分野〕 哲学

〔教育活動〕

授業担当：教養教育院における

哲学・倫理学 1・2 セメスター 各 1 コマ担当

基礎ゼミ 1 セメスター 1 コマ担当

思想と倫理の世界 1・2 セメスター 各 1 コマ担当

展開ゼミ 2 セメスター 1 コマ担当

〔研究活動〕

研究業績：1) 論文(単著)「哲学によって、哲学を通して生きることを学ぶ」とはどのようなことなのか(『ヘーゲル哲学研究』23号、2017年、4-8頁)、2) 論文(単著)「ふるさと考—「とどまる今」と、「臍の緒」がつなぐ心の世界—(『震災からの問い』東北大学教養教育院叢書、第2巻、2018年、東北大学出版会、159-184頁)、3) シンポジウム提題：第25回日本ヘーゲル学会同志社大学大会(2017年6月17日：「絶対的なものを意識に対して構成する」とはどのようなことか?」、4) シンポジウム提題：第26回日本シェリング協会大会・九州大学：2017年7月2日：「学問の役割について—シェリングの『学問論』を手がかりに」

〔大学運営〕

大学運営：「社会にインパクトある研究」研究推進室アドバイザー

〔社会貢献〕

1) 東北大学出版会理事、2) 大成学術財団評議員

宮岡 礼子 総長特命教授

〔専門分野〕 数学

〔教育活動〕

授業担当：全学教育：「基礎ゼミ」空間の幾何 受講学生数 21名、「基礎ゼミ」今更ですが「もしドラ」を見てみよう、読んでみよう 受講学生数 23名、展開科目(自然科学)「数学」解析学 A 工学部 受講学生数 70名、展開科目(自然科学)「数学」数学概論 B 医学部(保) 受講学生数 57名、展開科目(総合科学(カレントトピックス))「展開ゼミ」統計学とその応用 受講学生数 15名、展開科目(総合科学(カレントトピックス))「展開ゼミ」数学と諸分野の最先端連携 受講学生数 6名

学部教育・専門科目(数学)幾何学序論 B：理学部 受講学生数 64名

学位論文指導・審査：D2 院生指導

教育支援活動：啓蒙書(ブルーバックス)執筆

その他：東京大学大学院数理学研究科にて集中講義を担当。

〔研究活動〕

研究業績：Hamiltonian non-displaceability of the Gauss images of isopropetric hypersurfaces (a survey) Reiko Miyaoka 単著, Springer Proceedings in Math. Grassmannian Submanifolds 2017年06月

国際会議 proceedings：曲がった空間の幾何学 宮岡 礼子 単著, 講談社 2017年07月 238ページ

招待講演：

- ・ Hamiltonian non-displaceability of certain Lagrangian submanifolds (招待・特別) The third Japanese-Spanish workshop on Differential Geometry (Madrid, Spain) 2017/9/21
- ・ ラグランジュ交叉のフレアホモロジーに対する部分多様体論からのアプローチ (招待・特別) トポロジー&リー群論・表現論合同セミナー(東京大学) 2017/10/24
- ・ Approach from the hypersurface geometry to the Lagrangian intersection Floer theory (招待・特別) 2017 Chongqing Workshop on Differential Geometry (重慶, 中国) 2017/11/16
- ・ Approach from hypersurface geometry to the Floer theory on Lagrangian intersections I (早稲田大学)(招待・特別) Differential Geometry and Differential Equations: the influence of Mirror Symmetry and Physics 2017/12/13
- ・ Exceptional values of the Gauss map of complete minimal surfaces I,II (清華大学 Yau MSC, 中国)(招待・特別) Geometric Analysis Seminar 2017/3/17

外部資金：1) 科学研究費基盤研究(B)「可積分幾何の新展開」代表 2015年04月—2020年03月 2) 挑戦的萌芽研究「幾何学的値分布論」代表 2014年04月—2018年03月

〔業務活動〕

高度教養教育・学生支援機構の業務：特別セミナー パネラー, 合同講義パネラー

〔社会貢献〕

各種委員等：日本学術会議第三部会連携会員, 科学技術振興機構領域アドバイザー(2領域), 明治大学数理学先端インスティテュート共同利用・共同研究拠点 運営副委員長, 女性科学者に明るい未来をの会評議員, Kyushu Journal of Mathematics 編集委員, Journal of the Korean Mathematical Society 編集委員

国際交流活動：第3回日中幾何学研究集会主催(東北大学)中国人研究者20名招聘うち4名滞在費支援

社会教育活動：明治大学“現象数理学コロキウム”講演：「社会と様々な数学の関わり」2018/1/12

米倉 等 総長特命教授

〔専門分野〕 開発経済学、地域研究、農業経済学

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「歴史と人間社会」(1Q、4Q)、「経済と社会」(1Q、2Q)、「基礎ゼミ」(2Q)、「展開ゼミ」(4Q)、受講登録が

なく実施しなかった)、農学部授業「開発経済学」

学位論文指導：農学研究科の副指導教員として中国人留学生の博士論文指導、インドネシア人留学生の修士論文指導を行った。

〔研究活動〕

招待講演：1) "Architecture, Organization, and Policies of the Agricultural Mutual Relief Insurance Scheme in Japan," Keynote speaker at the International Conference and Congress of Indonesian Society of Agricultural Economics (ICC-ISAE、インドネシア農業経済学会) in Bali, Indonesia, August 24, 2017. 2) "Architecture, Organization, and Policies of the Agricultural Mutual Relief Insurance Scheme in Japan," Keynote speaker at the International Seminar held by the Rural Development Research Center (PSPDesa), Brawijaya University in Malang, Indonesia, September 11, 2017. 3) "Human Security Study," Special Seminar held by Faculty of Administrative Science, Brawijaya University in Malang, Indonesia, March 5, 2018

〔大学運営〕

部局内委員会：1) 高度教養教育・学生支援機構 出版・図書・資料委員会委員

〔社会貢献〕

学会活動：日本農業経済学会・国際委員会委員

国際交流活動：ガジャマダ大学、ボゴール農科大学、ブラウィジャヤ大学、インドネシア政府、JICA インドネシア事務所等を訪問、国際交流について情報・意見交換。

社会教育活動：仙台中華高校において、高校教育の国際化(SGH プログラム)の支援活動。

鈴木 岩弓 総長特命教授

〔専門分野〕 宗教民俗学、死生学

〔教育活動〕

授業担当：全学教育

- ・展開科目 (人文科学) 「宗教学」生老病死の宗教文化 1セメ・2セメ
- ・共通科目 (基礎ゼミ) 「まつりの宗教民俗学Ⅰ-第33回「仙台・青葉まつり」を事例として-」 1Q
- ・共通科目 (基礎ゼミ) 「まつりの宗教民俗学Ⅱ-第38回「一番町三社まつり」を事例として-」 2Q
- ・基幹科目 (文学の世界) 【展開ゼミ】「文学者の見た『死』-日本人の死生観-」 2セメ
- ・展開科目 (カレントトピックス) 「現代日本における『死』の変化」 2セメ

文学研究科 人文社会科学総合「実践宗教学試論-宗教者によるケア実践-」 4セメ (分担)

MOOC 「memento mori—死を想え-」(開講期間：2017.10.05～12.05、授業コマ数：34、対面授業：東京と仙台で各一回)

東北大学 SAC (Smart Ageing College) 「日本人の死生観-過去・現在・未来-」 SAC 東京第3期 (2017.11.22)

他大学 宮城学院女子大学学芸学部「習俗文化論」前期・後期、東北学院大学大学院人間情報学研究科「宗教と科学・文化」前期、放送大学 面接授業「死の宗教民俗学」(2017.10.28,29)

学習相談：放送大学 原則毎週金曜日 10:00-14:00

〔研究活動〕

編著書：『(死者/生者)論—傾聴・鎮魂・翻訳—』(鈴木岩弓・磯前順一・佐藤弘夫編著)ペリカン社、総頁398、2018

論文：1) 「比叡山延暦寺大霊園にみる永代供養墓」『論文集-冠婚編・葬祭編-』冠婚葬祭総合研究所、2017年5月

2) 「祖先崇拝」月本昭男編『宗教の誕生-宗教の起源-古代の宗教- (宗教の世界史1)』山川出版社、2017年8月

3) 「子どもの死を考える」『グリーンケアを身近に—大切な子どもを失った哀しみを抱いて』勉誠社、2018年2月

4) 「2・5人称の死者-“死者の記憶”のメカニズム-」『(死者/生者)論—傾聴・鎮魂・翻訳—』ペリカン社、2018年3月

学会発表：「Mooc からみた現代人の死生観」印度学宗教学会第57回学術大会、東北大学 (2017.05.28)

招待発表：1) 「死者を忘れない」生と死を考える連続講座：寄り添いと看取り。真宗大谷派大垣別院 (2017.05.10)

2) 上智大学 2017年度春期グリーンケア公開講座「『悲嘆』について学ぶ」講師「“死者の記憶”」(2017.06.22)

3) 「日本における半跏趺坐地蔵に対する信仰の実態」第一届中国曹洞宗禅学研究国際研討会、曹山宝積寺 (2017.07.10)

4) 「死後世界と宗教-臨床宗教師の誕生と展開-」第4回西本願寺医師の会、築地本願寺第二伝道会館 (2017.07.30)

5) 「死生観はいま」真如苑世界宗教セミナー、友心院 (2017.10.01)

6) 「日本人の民間信仰」西本願寺ビハラー僧養成研修会、西本願寺伝道院 (2017.10.11)

7) 鶴見大学生涯学習センター開設20周年記念「死生学入門」講師「死者と生者の接点:現代日本の『死の文化』」(2017.11.17)

8) 「日本における『臨床宗教師』の誕生と展開」国立台湾大学醫學院付設醫院緩和医療病房講演会 (2018.01.18)

9) 「イェウキ時代の死者のゆくえ」曹洞宗遊行会記念講演会、東京グランドホテル (2018.02.16)

外部資金：

- ・科研 挑戦的萌芽研究 現代日本における「死のケア」のための異分野融合研究 (代表) H26-29
- ・科研 基盤研究 (B) 現代日本における死者儀礼のゆくえ-生者と死者の共同性の構築をめざして (分担) H28-31
- ・受託研究 冠婚葬祭総合研究所研究助成 少子高齢化や無縁社会など現代の課題が儀式文化にあたる影響や将来の動向につ

いて (分担) H27-29

〔大学運営〕

文学研究科実践宗教学寄附講座顧問

〔業務活動〕

教養教育院総長特命教授合同講義講師

〔社会貢献〕

学会活動：日本宗教学会常務理事、印度学宗教学会常任委員、日本臨床宗教師会理事

各種委員：人間文化研究機構国立歴史民俗博物館運営会議委員、同共同研究委員会委員長、岩沼市史編集専門部会（民俗部会）調査執筆員、みやぎ県南中核病院倫理委員、一般財団法人東北開発記念財団監事

講演：1) 「memento mori-現代日本人の死生観-」 東北大学 110 周年関東交流会講演会、サピアタワー（2017.07.23）

2) 『臨床宗教師』の誕生と展開 甲寅会特別講演会、江陽グランドホテル（2017.11.03）

3) 「暮らしの中の伝統と現代」 相馬市歴史文化トークセッション、相馬市民会館（2018.02.10）

4) 「memento mori ー現代日本人の死生観ー」 東北大学 111 周年関西交流会記念講演、グランヴィア大阪（2018.03.04）

執筆活動：1) 「メメント・モリ」『すいとく』第 753 号、竹駒神社、2017 年 4 月

2) 「臨床宗教師の誕生とこれから」『全国公立病院連盟会報』第 68 号、全国公立病院連盟、2017 年 8 月

3) 「饗養」『すいとく』第 757 号、竹駒神社、2017 年 8 月

4) 『イエ』が崩れてきた、この時代からの新たな『家族葬』『墓じまい』『終活』とは『教育ジャーナル』第 56 巻第 8 号、学研教育みらい、2017 年 9 月

5) 「死後世界と宗教者-臨床宗教師の誕生と展開-」『無量寿』第 4 号、西本願寺医師の会事務局、2018 年 1 月

6) 「望年会」『すいとく』第 763 号、竹駒神社、2018 年 2 月

7) 「死生観はいま」『歓喜世界』254、真如苑教学部、2018 年 2 月

8) 「臨床宗教師の役割と期待」『シンポジウムご縁記録誌』（仏教の可能性-震災後の日本と仏教）浄土真宗本願寺派、2018 年 3 月

TV コメントイーター：1) 「“超高齢多死社会” にどう向き合うべきか」BS フジ LIVE 「PRIME NEWS」2017.06.30 20:00-22:00

2) 「新藤兼人 95 歳 人生との格闘果てず」NHK-BS プレミアムカフェ「生と死を考える」2017.10.30 9:00-10:40

3) 「百万回の永訣 柳原和子がんを生き抜く」NHK-BS プレミアムカフェ「生と死を考える」2017.10.31 9:00-11:00

4) 「千の風になって」NHK-BS プレミアムカフェ「生と死を考える」2017.11.01 9:00-11:00

高木 泉 総長特命教授

〔専門分野〕 数学, 数理生物学

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「展開ゼミ」, 「生命と自然」

〔研究活動〕

研究業績：1) (共編著)「改定新編：数学解析第一編微分積分学第 2 巻」, (内田老鶴圃, 2017 年 5 月 1 日), 2) (共著論文)「Bifurcation analysis of a diffusion-ODE model with Turing instability and hysteresis」, (Hiroshima Mathematical Journal, 第 47 巻, 2017 年 7 月, 217-247), 3) (共著論文) Locator function for concentration points in a spatially heterogeneous semilinear Neumann problem, Indiana University Mathematics Journal (掲載予定)

招待講演：「Patterns generated by FitzHugh-Nagumo equations with nondiffusive activator and diffusive inhibitor」, Stepping Stone Symposium on Theoretical and Numerical Analysis of PDEs 2017, 2017 年 8 月 30 日

外部資金：(科研費) 基盤研究(C), 「ベシクルの変形の物理と数理」(代表), 2016-2018

〔大学運営〕

全学委員会：1) 学務審議会委員, 2) 同基礎ゼミ委員会委員

〔社会貢献〕

各種委員等：1) 公益財団法人川井数理科学財団監事, 2) 公益財団法人アジア生命保険振興センター理事

芳賀 満 教授

〔専門分野〕 古代ユーラシア大陸考古学

〔教育活動〕

授業担当：全学教育

- ・ 共通科目一転換・少人数科目一基礎ゼミ「自らの眼で確かめ、議論し、発表しようー「復興」を学際的に考えようー」
- ・ 展開科目一人文学科一歴史学「History of Art in Ancient Eurasia~Diffusion of Classical Greek Art into Central Asia」
- ・ 基幹科目一人間論一人間と文化一展開ゼミ「自らの眼で確かめ、議論し、発表しようー「復興」を学際的に考えようー」
- ・ 基幹科目一人間論一芸術の世界「Japanese Art History」

- ・展開科目ーカレントトピックス科目ー展開ゼミ「ギリシア・ローマ美術と仏教美術ー神々の変容を追うー」
- ・展開科目ーカレントトピックス科目「自らの眼で確かめ、議論し、発表しようー「復興」を学際的に考えようー」

〔研究活動〕

研究業績：

- ・(共著)『21世紀の博物館・美術館のあるべき姿ー博物館法の改正へ向けて』(日本学術会議史学委員会博物館・美術館の組織運営に関する分科会提言、2017年7月20日)
- ・(共著)『持続的な文化財保護のためにー特に埋蔵文化財における喫緊の課題ー』(日本学術会議史学委員会文化財の保護と活用に関する分科会提言、2017年8月31日)
- ・芳賀満「復興と歴史：災害と向き合う」(Ⅱ授業科目の狙いと内容・成果(A)講義②)『高度教養教育開発事業報告書』、2018年3月)
- ・芳賀満「教養としてのユーラシア大陸史ーグローバル社会における日本の実学ー」、羽田貴史編『グローバル社会における高度教養教育を求めて』(東北大学出版会、2018年3月27日、pp.161-196.)

招待講演：

- ・Mitsuru HAGA, "Implementation of the UNESCO Recommendation on the Documentary Heritage in Japan"(“ASEAN consultation for the implementation of UNESCO Recommendation concerning the Preservation of, and Access to, Documentary Heritage, including in the Digital Form”, Kuala Lumpur, Malaysia, 9th May 2017)
- ・Mitsuru HAGA, "Memory of the World in Japan" (MOWCAP BUREAU MEETING, Tokyo, Japan, 19th July 2017)
- ・芳賀満「復興と歴史ー過去から未来へー」(復興大学県民公開講座、於東北工業大学、2017年10月21日)
- ・芳賀満「提言『21世紀の博物館・美術館のあるべき姿ー博物館法の改正へ向けて』の内容と今後の課題」(日本学術会議・日本博物館協会共催シンポジウム「これからの博物館の在るべき姿ー博物館法をはじめとする関連法等の改正に向けてー」、於国立文化財機構東京文化財研究所、2018年1月20日)

〔大学運営〕

全学委員会：学務審議会 委員、学務審議会 全学教育科目委員会 基礎ゼミ委員会 委員長、学務審議会 全学教育科目委員会 基幹科目委員会 委員、学務審議会 全学教育科目委員会 人文科学委員会 委員、人文社会科学系学生交流実施委員会 委員、高度教養教育開発検討ワーキング・グループ 委員

部局内委員会：機構内 補佐会議委員、機構内 教育内容開発部門 部門長、機構内 学習支援センター センター長、機構内 総務委員会 委員

各種支援活動：日本学国際共同大学院プログラム構想委員会「日本学国際共同大学院検討WG」委員、東北大学生命科学研究科 浅虫海洋生物学教育研究センター 運営委員会委員、東北大学生命科学研究科 浅虫海洋生物学教育研究センター 共同利用協議会委員

〔業務活動〕

センター業務：学習支援センター・センター長

部門業務：教育内容開発部門・部門長

〔社会貢献〕

各種委員等：1) 文科省日本ユネスコ国内委員会ユネスコ記憶遺産選考委員会委員、2) 文科省「日本/ユネスコパートナーシップ事業」の事業審査委員会委員、3) 内閣府日本学術会議連携会員史学委員会「博物館・美術館等の組織運営に関する分科会」幹事、4) 内閣府日本学術会議連携会員史学委員会「文化財の保護と活用に関する分科会」委員、5) 内閣府日本学術会議連携会員史学委員会「アジア研究・対アジア関係に関する分科会」委員、6) 内閣府日本学術会議連携会員哲学委員会「古典精神と未来社会分科会」委員

学会活動：1) 国際博物館会議 (International Council of Museums) 京都大会運営委員会 委員

その他：1) 京都ギリシアローマ美術館・理事

葛生 政則 准教授

〔専門分野〕 農業経済学

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「経済と社会」、 「経済学」

その他：1) 「第11回東北大学「基礎ゼミ」「展開ゼミ」FD・ワークショップ」(2017年11月)の企画・運営に参加、全大会司会を担当、2) 「平成29年度基礎ゼミ成果発表会」(2017年9月)の企画・運営に参加、3) 「第12回東北大学全学教育FD」(2018年3月)の企画・運営に参加

〔研究活動〕

研究業績：1) (単著)「1980年代、90年代前半のニーダーザクセン州農業の状況」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第4号(2018年3月)121-133頁、2) (編集)東北大学学務審議会・東北大学高度教養教育・学生支援機構『第11回東北大学全学教育FDー報告書ー』(2017年9月)を編集、3) (編集)東北大学学務審議会・東北大学高度教養教育・学生支援機構『第11回東

北大学「基礎ゼミ」「展開ゼミ」FD・ワークショップ―報告書―(2018年2月)を編集

〔大学運営〕

全学委員会：1) 学務審議会教育情報・評価改善委員会推薦委員，2) 基礎ゼミ委員会専門委員，3) 基幹科目委員会専門委員

田嶋 玄一 准教授

〔専門分野〕 動物生理学，科学教育

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「文科系のための自然科学総合実験」(担当代表)，「自然科学総合実験」(課題担当，曜日責任者)，「生命科学A」(医学部保健学科，工学部)，「生命と自然」

教育支援活動：『自然科学総合実験2018』(編集委員，編集実務担当，“はじめに”，第10，11章，Appendixなどの改訂)，FGLクラス用『Introductory Science Experiments 2018』(編集担当)，「H29年度自然科学総合実験アンケート報告書」理系の自然科学総合実験および文科系のための自然科学総合実験のアンケート結果の解析，およびレポート達成度チェックシートの実施結果について分析を行い，報告書を作成した。「自然科学総合実験」学習支援動画教材「エクセルによるデータ処理」を作成した。

〔大学運営〕

全学委員会：全学委員会：1) 情報システム部局実施責任者，2) 環境保全センター業務委員会委員，3) 学務審議会実験科目委員会実施委員会委員，4) 同 計画委員会委員，5) 遺伝子組換え実験安全主任者

部局内委員会：1) 高度教養教育・学生支援機構研究倫理審査委員

各種支援活動：技術職員研修講師

〔業務活動〕

機構業務：情報システムのセキュリティについて情報基盤運用室からの情報を随時機構内にアナウンスし注意喚起している

部門業務：自然科学総合実験の実施・運営(定例ミーティング，実験棟および実験機器類の維持管理，担当教員・TAへのFDの実施など)

藤本 敏彦 准教授

〔専門分野〕 運動学，運動生理学，体育授業設計

〔教育活動〕

授業担当：(全学教育) スポーツA「ソフトボール」7コマ，スポーツB「ソフトボール」1コマ，スポーツB「フィジカルトレーニング」2コマ 企画・運営，スポーツB「武道」2コマ 企画・運営，体と健康「身体の文化と科学」(2/15担当)，生命と自然「身体運動のしくみ」1コマ，基礎ゼミ「運動とこころ」1コマ，展開ゼミ「こころと体の健康をつなぐ」1コマ

教育支援活動：高度教養教育開発推進事業参加

その他：教養教育特任教員(兼任)，大学教育支援センター・プログラム研究開発員

〔研究活動〕

原著論文：(共著)「体育系と福祉系の大学生における身体活動量と精神的健康度の比較」，福岡県立大学人間社会学部紀要，2017年6月，pp49-56.

著書：(共著)「グローバル社会における高度教養教育を求めて」，第7章「身体教育と教養」執筆，東北大学出版会，2018年3月，pp123-146.

特集論文：(共著)「高等教育における身体論」，東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要，第4号，2018年3月，pp57-72.

基調講演：第9回宮城県「柔道整復学」構築学会，「運動脳守」～脳も身体も綺麗に年を重ねよう～，2017年6月，仙台市.

シンポジウム：第72回日本体力医学会大会，「大学生のメンタルヘルスへの身体運動の効用」，2017年9月，松山市.

外部資金：1) (科研費) 基盤研究(A)「グローバル社会におけるコンピテンシーを具体化する高度教養教育の開発研究」(分担)，研究期間2014-2017，2) (科研費) 基盤研究(B)「運動が認知機能を高める機序の解明：PET ドーパミンの神経伝達からの検証」(分担)，研究期間2016-2018

共同研究：フィンランド Turku PET Center. 「INCREASING EXERCISE INTENSITY INCREASES GLUCOSE UPTAKE IN HUMAN BONE MARROW」.

〔大学運営〕

全学委員会：1) 基礎ゼミ委員会

部局内委員会：1) 機構研究論理委員会

各種支援活動：1) 大学教育支援センター・プログラム研究開発員

〔業務活動〕

部門業務：学際融合ビジョン経費における授業開発

〔社会貢献〕

各種委員等：仙台市指定管理者選定委員会委員

学会活動：日本体力医学会評議員、東北体育・スポーツ学会理事

社会教育活動：1) 多賀モリ会10周年イベント「さよなら認知症！広げよう健幸体操！」において「ボケたくないなら動くことです!!」と題し基調講演。

高橋 禎雄 助教

〔専門分野〕 日本思想史・日本近代大学史

〔教育活動〕

授業担当：全学教育科目基幹科目「人間と文化 概説東北大学史—制度と思想—」(2コマ)

全学教育科目展開科目「歴史学 日本近世政治思想の歴史的展開」(1コマ)

〔研究活動〕

研究業績：1)「文献学 村岡典嗣と日本思想史学」,(中野目徹編『日本近代思想史の方法—史料を読む15の視角—』吉川弘文館, 2018年12月出版)

〔大学運営〕

全学委員会：1) 学務審議会委員基礎ゼミ委員会委員, 2) 学術資源研究公開センター史料館兼務教員

〔社会貢献〕

学会活動：日本文芸研究会常任委員・総務委員会委員

社会教育活動：東北大学文学部同窓会監事

太田 宏 助教

〔専門分野〕 動物生態学、両生爬虫類学

〔教育活動〕

授業担当：全学教育：自然科学総合実験、文科系のための自然科学総合実験、学部専門教育：生態学実習、進化学実習

教育支援活動：文科系のための自然科学総合実験の新テーマの開発。

(分担執筆)『自然科学総合実験2018』, 東北大学出版会

アニメーション研究会 顧問、園芸部 顧問

〔業務活動〕

部門業務：自然科学総合実験の運営に関する業務を行った。

〔社会貢献〕

各種委員等：宮城県希少野生動植物保護対策検討会委員(両生・爬虫類分科会長)、国土交通省河川水辺の国勢調査アドバイザー、環境省希少野生動植物種保存推進員、宮城県環境影響評価技術審査会委員、仙台市自然環境基礎調査検討会委員

学会活動：日本爬虫両棲類学会 標準と名選定委員会委員

社会教育活動：カジカガエルが誘う、里地里山の魅力発見！アドバイザー

岡 壽崇 助教

〔専門分野〕 放射線化学, 放射線生物影響, 放射化学, 陽電子科学

〔教育活動〕

授業担当：

・全学教育 文科系のための自然科学総合実験(文, 教育, 法, 経済, 1セメスタ), 自然科学総合実験(医歯, 1セメスタ), 自然科学総合実験(工, 2セメスタ)

・学部専門教育 課題研究I(6セメスタ), 課題研究II(7, 8セメスタ)

・大学院教育/修士課程 課題研究(MC1, MC2年通年), セミナー(MC1, MC2年通年)

・大学院教育/博士課程 先端理化学特別研究(DC1, DC2, DC3年通年), 先端理化学特別セミナー(DC1, DC2, DC3年通年)

学位論文指導：東北大学大学院理学研究科化学専攻放射化学研究室・環境放射化学研究室の修士3名, 修士3名および博士2名の指導を行った。

教育支援活動：「自然科学総合実験2017」(分担執筆), 自然科学総合実験 日本語・英語・文系ホームページの作成

その他：指導学生が優秀講演賞などの発表賞を国内会議で1件受賞した。

〔研究活動〕

研究業績：1) (共著)「90Sr specific activity of teeth of abandoned cattle after the Fukushima T accident - teeth as an indicator of environmental pollution」, Journal of Environmental Radioactivity, 183, 1 (2018), 2) (共著)「福島第一原発事故被災ウシの歯と骨に含まれるSr-90測定」, Proceedings of the 17th Workshop on Environmental Radioactivity (2017) 196, 3) (共著)「ウシの歯の放射能測定による福島第一原発事故後の環境汚染評価」, Proceedings of the 18th Workshop on Environmental Radioactivity (2017) 202, 4) (共著)「Degradation of electron-irradiated polyethylene studied by positron annihilation lifetime

spectroscopy, Journal of Physics: Conference Series, 791, 012026 (2017)

受賞: 1) (指導学生) 第19回「環境放射能」研究会 研究会奨励賞, 「福島第一原発事故被災サル硬組織中の放射能濃度」, 2018/3/10, 2) (指導学生) Student award for best oral presentations of International Conference on Environmental Radioactivity (ENVIRA2017), Assessment of 90Sr pollution from the Fukushima-Daiichi Nuclear Power Plant accident by measurement of cattle teeth, 2017/6/2

講演等: 1) Toshitaka Oka, Degradation of radiation-damaged polyethylene studied by positron annihilation lifetime spectroscopy", 3rd Japan-China Joint Workshop on Positron Science, 2017/6/8-11, Hefei, China (招待講演), 2) 岡 壽崇, 「ヒト乳歯の ESR 測定による外部被ばく線量の評価」, 日本放射線影響学会 第60回大会, 2017/10/25-28 (シンポジウム講演), 3) 岡 壽崇, 「陽電子消滅法を用いた高分子材料の空孔・空隙測定」, 第10回陽電子科学研究交流会, 逗子, 2017/9/11 (講義)

外部研究資金:

- ・文科省, 英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業, 「福島原発事故による生物影響の解明に向けた学際共同研究」, 研究分担者
- ・文科省, 英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業, 「放射線影響モデル動物を利用した生物影響解明のための多面的アプローチ」, 研究分担者
- ・科研費, 基盤研究 (B), 「歯を用いた内部被曝量のスクリーニング」, 研究分担者
- ・科研費, 基盤研究 (B), 「クラスターDNA 損傷に対する細胞内修復動態と損傷の局在化メカニズム」, 研究分担者
- ・科研費, 基盤研究 (C), 「量子ビーム処理した多糖類のゲル化メカニズムの解明」, 研究分担者
- ・科研費, 基盤研究 (C), 「陽電子寿命測定による高分子材料の変形・ひずみのオペランド分析」, 研究分担者
- ・科研費, 挑戦的萌芽研究, 「放射線 DNA 損傷を増感させるアンテナ分子の探索」, 研究分担者
- ・科研費, 挑戦的萌芽研究, 「歯を用いた環境放射能汚染評価」, 研究分担者

〔大学運営〕

部局内委員会: 東北大学自然科学総合実験 実施委員会 委員, 計画委員会 委員

〔業務活動〕

部門業務: 理系・文系向けの自然科学総合実験の実施・運営

〔社会貢献〕

各種委員等: 公益社団法人日本アイソトープ協会 アイソトープ・放射線研究発表会 幹事, 公益社団法人日本アイソトープ協会 第26期理工学部会 放射線利用若手理解促進専門委員会委員

学会活動: 日本放射線化学会 理事, 編集委員会委員, 日本陽電子科学会 会報刊行委員会副委員長, International Electrotechnical Commission TC 112 国内委員会 WG2 委員・国際エキスパート・アシスタントプロジェクトリーダー

小俣 乾二 助教

〔専門分野〕 有機化学

〔教育活動〕

授業担当: 「自然科学総合実験」, 「文科系のための自然科学総合実験」

〔業務活動〕

自然科学教育開発室業務: 自然科学総合実験の運営 (ミーティング, 実験装置の管理)

永尾 翔 助教

〔専門分野〕 素粒子・原子核分野

〔教育活動〕

授業担当: 全学教育「自然科学総合実験」, 「文科系のための自然科学総合実験」

学位論文指導・審査: 学士1名 (指導), 修士3名 (指導)

その他: 指導学生の受賞1件

〔研究活動〕

研究業績:

- ・(共著) 「The Recent Results of Strangeness Photoproduction in the Threshold Region at ELPH-Tohoku」 (JPS Conf. Proc. 17, 062006)
- ・(共著) 「High-Resolution Decay-Pion Spectroscopy of 4ΛH Hypernuclei」 (JPS Conf. Proc. 17, 011001)
- ・(共著) 「Beam helicity asymmetries in K+Λ electroproduction off the proton at low Q²」 (EPJA53 198, 2017/10/17)
- ・(共著) 「Direct measurements of the lifetime of medium-heavy hypernuclei」 (NPA973 116, 2018/3/4)
- ・(単著) 「電磁生成したハイパー核の崩壊 π 中間子分光」 (原子核研究, Vol.62 No.1, 2017/9)

受賞: 泉荻会奨励賞 (東北大学泉荻会, 2017/10/6)

招待講演：「Progress of few-body hypernuclear measurements with electro-photo production」 HNP2017, 理研, 2017/12/20

〔大学運営〕

センター試験監督者（タイムキーパー）

〔業務活動〕

部門業務：自然科学教育開発室の運営（定例ミーティング等）理系・文系向けの自然科学総合実験の実施・運営

〔社会貢献〕

学会活動：「第2回ストレンジネス核物理を考える会」企画・議長, 「第4回ストレンジネス核物理を考える会」企画・議長

石田 章純 助教

〔専門分野〕 アストロバイオロジー

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「自然科学総合実験」「文系のための自然科学総合実験」「地球の科学」.

教育支援活動：自然科学総合実験のテキストの改定と編集.

その他：所属研究室（兼務先：理学部地学専攻）における留学生1名や博士課程学生1名, 修士学生5名の指導

〔研究活動〕

研究業績：(共著・主著) 1) Microbial nitrogen cycle enhanced by continental input recorded in the Gunflint Formation. *Geochemical Perspective Letters*, 4, 2017, pp.13-18. 2) Simultaneous In situ analysis of carbon and nitrogen isotope ratios in organic matter by secondary ion mass spectrometry. *Geostandards and Geoanalytical Research*, 2018, accepted.

(共著) 3) Chamber formation and trace element distribution in the calcite walls of laboratory cultured planktonic foraminifera (*Globogerina bullies* and *Globigerinoides ruber*). *Marine Micropaleontology*, 140, 2018, pp.46-55. 4) Searching for the great oxidation event in North America: A reappraisal of the Huronian Supergroup by SIMS sulfur four-isotope analysis. *Astrobiology*, 18(5), 2018. 5) SIMS Bias on Isotope Ratios in Ca - Mg - Fe Carbonates (Part III): $\delta^{18}\text{O}$ and $\delta^{13}\text{C}$ Matrix Effects Along the Magnesite-Siderite Solid - Solution Series. *Geostandards and Geoanalytical Research*, 2017. pp.49-76. 6) Early trace of life from 3.95 Ga sedimentary rocks in Labrador, Canada. *Nature*, 549, 2017, pp.516-518. 7) Minute co-variations of Sr/Ca ratios and microstructures in the aragonitic shell of *Cerastoderma edule* (Bivalvia) – Are geochemical variations at the ultra-scale masking potential environmental signals?. *Geochimica et Cosmochimica Acta*, 205, 2017, pp.256-271.

科研費：1) 若手研究「初期原生代生命圏の高解像度復元を目指した酵素金属微小領域分析の地質試料への応用」(H30-H32)(代表),

2) 基盤研究B「学問に根ざした大学教育の学修成果向上のための教授法・人材・組織の一体的な開発研究」(H30-H32)(分担)

〔大学運営〕

全学委員会：1) 自然科学総合実験実施委員会委員, 2) 同 計画委員会委員

〔業務活動〕

部門業務：自然科学教育開発室運営(定例ミーティング, 学生実験棟および理科実験のための維持管理, ティーチングアシスタントの業務管理等), 理系・文系向けの自然科学総合実験の実施・運営

長嶺 忠 助教

〔専門分野〕 素粒子実験

中野 元善 助教

〔専門分野〕 物理化学

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「自然科学総合実験 1」「自然科学総合実験 2」「文科系のための自然科学総合実験 1」「文科系のための自然科学総合実験 2」

教育支援活動：「自然科学総合実験」のテキスト改訂作業

〔研究活動〕

研究業績：1)(分担執筆)「Development of a linear-type double reflectron for focused imaging of photofragment ions from mass-selected complex ions」*Rev. Sci. Instrum.*, 88, 053105 (2017). 2)(分担執筆)「Anomalous photoelectron angular distribution in ionization of Kr in intense ultraviolet laser fields」*Phys. Rev. A*, 95, 063404 (2017). 3)(分担執筆)「Mass spectrometric study of N₂-adsorption on copper cluster cations formed by modulated pulsed power magnetron sputtering in aggregation cell」*Chem. Phys. Lett.*, 682, 60 (2017). 4)(分担執筆)「Geometrical structures of gas phase chromium oxide cluster anions studied by ion mobility mass spectrometry」*J. Phys. Chem. A*, 121, 5605 (2017). 5)(分担執筆)「Compositions and structures of niobium oxide cluster ions, Nb_mO_n, (m = 2-12), revealed by ion mobility mass spectrometry」*Phys. Chem. Chem.*

Phys., 19, 24903 (2017). 6)(分担執筆)「Small Carbon Nano-Onions: An Ion Mobility Mass Spectrometric Study」J. Phys. Chem. C, 122, 5195 (2018). 7)(分担執筆)「Correlation between Electronic Shell Structure and Inertness of Cun+ toward O2 Adsorption at n = 15, 21, 41, and 49」J. Phys. Chem. A, 122, 2927 (2018).

〔大学運営〕

部局内委員会：1) 自然科学総合実験 計画委員会委員・実施委員会委員、2) 理学研究科化学専攻 安全管理委員

〔業務活動〕

センター業務：自然科学総合実験の運営補助

〔社会貢献〕

学会活動：第 11 回分子科学討論会の実行委員

佐藤 智子 准教授

〔専門分野〕 社会教育・生涯学習論、教育行政学

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「基礎ゼミ」、「人間と文化」（前・後期）、「社会の構造」

〔研究活動〕

研究業績：1) 「都市における公民館活動の現状と課題：西宮市公民館推進員活動を事例として」日本社会教育学会第 64 回研究大会、2017 年 9 月。 2) 「中核市における公民館再編の現状と課題：西宮市・尼崎市を事例として」日本公民館学会第 16 回研究大会、2017 年 12 月。

外部資金：(科研費) 若手 B, 「都市公民館再編の実態とコミュニティ・ガバナンスへのインパクト」(代表), 2015-2017 年。

〔大学運営〕

全学委員会：附属図書館学習支援委員会委員

部局内委員会：1) 学習支援センター副センター長、2) 出版・図書・資料委員会委員、3) 高度教養教育・学生支援機構教養教育推進ワーキング・グループ委員

〔業務活動〕

センター業務：学習支援センター副センター長として SLA サポート事業等のセンター業務を推進

〔社会貢献〕

各種委員等：1) 西宮市社会教育委員、2) 尼崎市公民館運営審議会委員、3) 尼崎市総合計画審議会委員、4) 仙台市社会教育委員、5) 株式会社学研プラス「ICT を活用した『生涯学習プラットフォーム (仮称)』の構築に関する調査研究」(平成 29 年度) 評価委員

学会活動：日本教育行政学会研究推進委員

社会教育活動：1) 仙台市生涯学習支援センター「生涯学習基礎研修会」講師、2017 年 6 月 30 日

頼 弉廷 助教

〔専門分野〕 教育学／教職員人事管理、教員評価 (小・中学校、高校を中心に)

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「自分」×「学問」－《はじめの一步》サポートゼミ (基礎ゼミ)

〔研究活動〕

研究実績：(学会発表) 「日本教員評価制度における成果主義人事管理観の意義と課題」、東北教育学会、2018 年 3 月 3 日

科研費：(研究活動スタート支援) 「目標管理手法による教職員人事評価制度の実態調査研究—資質向上と人事処遇との関係性」(2017～2018) (代表)

〔業務活動〕

所属業務センターの業務：初年次・2 年次学生を中心に教育支援。留学生支援、ライティング支援、SLA の育成プログラムなどの開発と試行実施。

足立 佳菜 助手

〔専門分野〕 道德教育史、学習支援 (高等教育)

〔教育活動〕

授業担当：全学教育 基礎ゼミ『自分』×『学問』～《はじめの一步》サポートゼミ～を担当 (前期開講・2 単位)。業務センターとの連関の下、学生参画型授業を企画・開発。

〔研究活動〕

図書：1) (分担執筆) 尾崎博美・井藤元編『ワークで学ぶ 教育課程論』ナカニシヤ出版、2018 年、174-187 頁。2) (分担執筆) 東北文教大学幼稚園教育研究会 大桃伸一・佐東治・奥山優佳編著『幼児教育の探究』東北文教大学出版会、2018 年、241-245 頁。

3) (分担執筆) 羽田貴史編著『グローバル社会における高度教養教育を求めて』東北大学出版会、2018年、293-311頁。

論文：1) (単著)「学習支援と協働学習—東北大学 Student Learning Adviser の事例を踏まえて—」『高度教養教育・学生支援機構紀要』3、2017年、27-40頁。2)「現代日本道徳教育史研究における平野武夫および価値葛藤論の意義に関する考察」東北大学大学院教育学研究科『研究年報』第66集第1号、2017年、133-158頁。3)「平野武夫価値葛藤論形成過程に関する考察—道徳性内面化論との呼応—」日本道徳教育学会『道徳と教育』第336号、2018年、5-16頁。

科研費：1) 基盤研究(A)「グローバル社会におけるコンピテンシーを具体化する高度教養教育の開発研究」(分担)

〔業務活動〕

センター業務：学習支援センターセンター員として SLA 採用・育成と事業の企画・運営全般に従事。平成 29 年度教育開発推進経費の助成を受け、『学習支援ハンドブック—理系チュータリング Tips とチューター育成』を作成。

猪股 歳之 准教授

〔専門分野〕 教育社会学・高等教育論・キャリア教育

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「ライフ・キャリアデザイン C」、「ライフ・キャリアデザイン D」、「フィールドワーク実践：地域とビジネス」、「(展開ゼミ) 新聞から見た現代社会論」、「(展開ゼミ) 東北のくみらい」を創る新聞論、「社会学(現代大学論)」

〔研究活動〕

研究業績：1) (共著)「地域連携学習(コミュニティー・ベースト・ラーニング)の設計・運営・評価とその担い手のあり方について考える」、大学教育学会誌、第39巻第2号、110-114頁、2017年11月、2) (単著)「高度教養教育としてのキャリア教育科目」、羽田貴史編『グローバル社会における高度教養教育を求めて』、197-205頁、2018年3月、3) (共著)「東北大学キャリア支援センターにおける留学生キャリア支援の現状と課題」、東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要、第4号、73-79頁、2018年3月

科研費：1) 基盤研究(A)「グローバル社会におけるコンピテンシーを具体化する高度教養教育の開発研究」(分担)、2) 基盤研究(C)「伝統的技術職者の技術継承における現代的課題：学校教育・行政・同業者団体に着目して」(分担)、3) 基盤研究(C)「大学教育のグローバル化と潜在的キャリア教育に関する研究」(分担)、4) 基盤研究(C)「高等教育における地域人材養成プログラムの現状と発展可能性に関する研究」(代表)、5) 基盤研究(C)「地域・社会連携を通じた高等教育の多様なイノベーションとその成立要因に関する研究」(分担)、6) 基盤研究(C)「大学におけるキャリア教育等が卒業後の就業に与える影響に関するコホート研究」(分担)

〔大学運営〕

全学委員会：1) キャリア支援連絡会議委員、2) 第12回東北大学学生生活調査ワーキンググループ副委員長、3) ユニバーシティ・ハウス青葉山入居者を対象とした教育効果検討ワーキンググループ委員、4) 東北大学卒業生・雇用者調査ワーキング・グループ委員

部局内委員会：1) キャリア支援センター副センター長、2) 高度教養教育・学生支援機構 キャリア開発室室長、3) 同 出版・図書・資料委員会委員

〔業務活動〕

学生支援業務：1) キャリア支援センターにおける各種支援プログラムの企画・実施、2) 同 キャリア・就職に関する個別相談(310件、約250時間)

センター業務：1) 生命科学研究科「新入生オリエンテーション」講師、2) 入試センターFD講師、3) 法学部「キャリアガイダンス」講師、4) 入試センター「進学説明会・相談会(東京)」、5) 教育学部同窓会「キャリア支援セミナー」講師

〔社会貢献〕

学会活動：1) 日本高等教育学会第20回大会実行委員会事務局長、2) 第67回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会会計委員

田中 泰光 特任教授

〔専門分野〕 イノベーション創出、マネジメント、再生可能エネルギー・電子デバイス、環境教育

高橋 修 准教授

〔専門分野〕 経営学(人的資源管理論)

〔教育活動〕

授業担当：1) 全学教育「ライフ・キャリアデザインA」「ライフ・キャリアデザインB」「ライフ・キャリアデザインD」「フィールドワーク実践：地域とビジネス」

2) 学部教育：キャリアデザイン講座(文学部)、キャリア・ポートフォリオ(宮城学院女子大学)

3) 大学院教育(経済学研究科)「Global Company Research」

その他：1) 第4回学生生活支援審議会FDの講師「外国人留学生に対するキャリア支援」

〔研究活動〕

研究業績：1) (共著)「東北大学キャリア支援センターにおける留学生キャリア支援の現状と課題」東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要, 4, 2018, 査読有り, 73-79 頁

2) (単独発表)「改善効果が得られる職場環境改善の介入策に関する考察 ―系統的レビュー論文の精査を通して―」人材育成学会第 15 回年次大会, 2017 年 12 月 10 日, 法政大学

3) (招待講演)「ストレスチェックを活用した職場環境改善」NEC 職場環境改善研究会, 2018 年 2 月 16 日, NEC 本社ビル
外部資金：(科研費) 基盤研究(C), 「職場環境改善の効果と改善活動継続の規定因に関する研究」(代表者), 2016 年 4 月—2019 年 3 月

〔大学運営〕

大学運営：1) 学生生活支援審議会キャリア支援連絡会議委員, 2) 学務審議会卒業生・雇用者調査ワーキンググループ委員, 3) 機構総務委員会委員

各種の支援活動：全学教職員を対象とした「キャリア支援スキル向上研修」の企画・実施

〔業務活動〕

学生支援業務：1) キャリアに関する個別相談の実施(年間延べ 612 名), 2) キャリア支援センター主催ガイダンスの講師(将来を考えるセミナー、就職活動スタートアップセミナー), 3) 部局主催キャリアガイダンスの講師(国際文化研究科、多元物質科学研究所、農学部・農学研究科)

〔社会貢献〕

各種委員等：1) 大阪商工会議所：メンタルヘルス・マネジメント検定試験 テキスト編集委員, 2) キャリア・コンサルティング協議会：キャリア・コンサルティング技能検定委員

学会活動：1) 人材育成学会常任理事, 2) 日本産業ストレス学会編集委員

社会教育活動：1) 大阪商工会議所からの依頼による、メンタルヘルス・マネジメント検定試験Ⅰ種(9月)及びⅡ種(9月、2月)の受験対策講座の講師

富田 京子 特任准教授

〔専門分野〕 キャリア教育・支援

〔教育活動〕

授業担当：

◎全学教育：「ライフ・キャリアデザイン C」、「フィールドワーク実践：地域とビジネス」

◎他大学での担当授業：弘前大学大学院農学生命科学研究科集中講義「キャリア開発セミナー」、宮城学院女子大学全学部 学部生に対する専門教育科目(必須科目)「キャリア・ポートフォリオⅠ」、「キャリア・ポートフォリオⅡ」

◎授業科目開発：全学教育科目「ライフ・キャリアデザイン D」、キャリアパス教育科目「キャリアデザインセミナー(生命科学研究所)」、「キャリアデザイン講座(文学部)」各学部研究科と連携し授業科目を開設。

〔業務活動〕

学生支援業務：学生相談所・特別支援室協働での学生相談、学生支援

センター業務：

◎キャリア支援年間プログラム設計・策定業務・・・年間キャリア支援プログラムを策定し、体系化。学部 1 年生から博士後期課程、ポスドクまでの進路・就職に係るプログラムを設計、提示し、正課(授業科目)と正課外事業との相補的組み合わせで構成した。セミナー、ワークショップ、個別相談など目的に応じた多様な実施形態を有する設計を行った。

◎キャリア支援セミナー及びワークショップ企画・立案、実施運営、広報(チラシ、ポスター広報物作成含む)業務及び講師選択、講師打ち合わせ、講師対応業務・・・センター内で実施するセミナー、ワークショップ全体設計を実施。また自ら講師担当。

◎学生個別相談(保護者・卒業生相談含む)

◎外部講師(非常勤講師)への情報共有、情報提供業務・・・相談業務を行う非常勤講師に対し、スーパーバイジングを含めた関係情報提供を定期的実施。

個別相談業務連絡会議の開催・・・年間 2 回から 3 回情報共有のための連絡会議を実施。

池田 忠義 教授

〔専門分野〕 臨床心理学, 学生相談

〔教育活動〕

授業担当：全学教育科目「学生生活概論」、大学院教育(教育学研究科)「投影法特論Ⅰ」・「投影法特論Ⅱ」、会津大学短期大学部「コミュニケーション学」

その他：①学部新入生を対象とした新入生特別セミナーにおいて「安心・安全なキャンパスライフ」のテーマで講演, ②部局新入生オリエンテーションにおいて学生生活に関する説明および学生相談・特別支援に関する利用案内(1回)

〔研究活動〕

研究業績：1) (共著) 学生相談における親・家族からの相談の特徴，東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要，第4号，475-483，2018，2) (共同発表) 大学における障害学生支援の体制整備と実践の充実化に関する一考察，日本学生相談学会第35回大会，2017，3) (共同発表) 障害学生支援サポーター養成講座の実践とその意義，日本学生相談学会第35回大会，2017，4) (共同発表) 現代の大学生が抱える悩みから見えてくるもの，第55回全国大学保健管理研究集会，2017，5) (共同発表) 初心者セラピストが面接過程において体験する『つまずき』の特徴，日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会第19回大会，2017，6) (共同発表) 臨床事例における『つまずき』について考える(8)——他職種との関係性が面接に及ぼす影響，日本心理臨床学会第36回大会，2017，7) (共同発表) 学生相談プログラム評価に資する分類軸の検討—過去3年間の学生相談プログラム分析—，日本学生相談学会第35回大会，2017，8) (共同発表) エンパワーメント評価を用いた学生相談活動の自己評価の試み，日本学生相談学会第35回大会，2017，9) (共同発表) 自由記述から見る大学生の「成長」と「充実」，日本学生相談学会第35回大会，2017，10) (共同発表) 東日本大震災において多様な被災をした福島における被災者の心理的状況と今後の課題，日本発達心理学会第29回大会，2018

外部資金：1) 科研費・基盤研究(C)「評価することで『元気が出る』学生相談活動の新しい自己評価法の開発」(分担)(2015～2017)，2) 科研費・基盤研究(C)「学生相談におけるカウンセリングの効果に関する評価方法の開発」(分担)(2015～2017)，3) 科研費・基盤研究(C)「学生相談におけるカウンセリングの効果に関する評価方法の開発」(分担)(2015～2017) 4) 科研費・基盤研究(C)「学生相談カウンセラーの成長支援としてのOJTに関する研究」(分担)(2017-2019)

その他：東日本大震災の心理的影響と支援のあり方に関する継続的研究(神戸大学・和歌山大学・奈良女子大学等の研究者との共同研究)

〔大学運営〕

全学委員会：1) 学生生活支援審議会委員・同審議会第12回学生生活調査ワーキンググループ委員・同審議会ユニバーシティ・ハウス青葉山入居者を対象とした教育効果検討ワーキンググループ委員，学務審議会委員，2) 障害者差別解消推進委員会委員，3) 学生相談・特別支援連絡会議委員，4) 学生ボランティア支援委員会委員

部局内委員会：1) 学生相談・特別支援センター副センター長，2) 高度教養教育・学生支援機構総務委員会委員，3) 高度教養教育・学生支援機構人事委員会委員

各種支援活動：1) 学生生活支援審議会委員や学生相談・特別支援連絡会議委員，部局の学生相談・学生支援の担当教職員等を対象とした「学生生活支援審議会FD」の企画・実施(計4回)，2) 部局FDにおける講師(学生対応，ハラスメント等に関するテーマ)(計3回)

〔業務活動〕

学生支援業務：1) 学生相談・特別支援センターにおける学生相談および特別支援：相談人数103名，のべ相談回数700回，2) ハラスメント全学学生相談窓口におけるハラスメント相談：のべ対応回数：14回

センター業務：1) 学生の心身の健康，大学への適応状態等を把握するための全学生対象調査の実施，その結果に基づく学生への個別支援，2) 修学上の合理的配慮の提供に関する流れの検討，片平キャンパスのバリアフリーマップの作成および全教職員への配付

〔社会貢献〕

学会活動：日本学生相談学会理事，第55回全国学生相談研修会分科会講師

その他：1) 「みやぎ学生相談連絡協議会」(年2回開催)に参加，宮城県県内の大学の学生相談機関との情報の共有や相互支援，2) 全国の高等教育機関等においてハラスメントや学生支援に関する講演1回

吉武 清實 特任教授

〔専門分野〕 学生相談，臨床心理学

〔教育活動〕

授業担当：「学生生活概論」，「障害と社会、大学」各1回分

学位論文指導・審査：学生相談特別支援センター内の4名の相談員の学位論文に向けての指導を教育学研究科教授と共に月1回程度実施した。

教育支援活動：予防教育として、文学部学生へのメンタルヘルス講話、また教育学研究科新生へのハラスメント防止講演を行った。

〔研究活動〕

研究業績：1) (単著) 大学における学生相談の現状と課題—学生相談機関の整備・充実化の視点から—，東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要，第4号，19-28，2018． 2) (共著) 学生相談における親・家族からの相談の特徴，東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要，第4号，475-483，2018． 3) (共同発表) 大学における障害学生支援の体制整備と実践の充実化に関する一考察，日本学生相談学会第35回大会，2017． 4) (共同発表) 現代の大学生が抱える悩みから見えてくるもの，第55回全国大学保健管理研究集会，2017．

外部資金：科研費・基盤研究(C)「学生相談カウンセラーの成長支援としてのOJTに関する研究」(分担)(2017-2019)

〔大学運営〕

全学委員会：学生生活支援審議会キャリア支援連絡会議委員

各種支援活動（教職員支援）：学生相談・特別支援センタースーパーバイザーとして、同センターならびに工学部カウンセリングルーム、理学部キャンパスライフ支援室の相談員（カウンセラー）計 12 名に対して、年間に計 361 回のスーパービジョン（内、面接への同席 131 回、研究指導 43 回）を行い、専門性の成長支援に取り組んだ。また、ハラスメント防止あるいは学生指導をテーマに、全学の新任教員研修（4 月）において講師、工学系新規採用等教職員研修（4 月、10 月）において講師、学部等主催のFDにおいて講師（5 件）を務めた。そのほか研究科執行部への助言 2 件を実施。

〔業務活動〕

学生支援業務：1)学生相談 54 人 160 回、研究室対応 84 回、2)ハラスメント全学学生相談窓口相談 6 時間 6 回、3)学生相談・特別支援センターおよびハラスメント全学学生相談窓口のスーパーバイザーおよび相談員として、同センター学生相談所、特別支援室ならびに工学部カウンセリングの相談員とともに重大な危機事例（4 件）の支援にあたった。

〔社会貢献〕

各種委員等：日本学生支援機構有識者会議委員

学会活動：日本学生相談学会理事、同学会研修委員会委員

社会教育活動：石巻地区高校教頭・副校長会講演会講師

その他：社会福祉法人「みんなの輪」顧問

中島 正雄 准教授

〔専門分野〕 臨床心理学、学生相談

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「学生生活概論」（共同で担当）、全学教育「相談心理学Ⅱ」、大学院教育（教育学研究科）「心理療法特論Ⅰ」・「基礎臨床心理学特論」

〔研究活動〕

研究業績：1)（共著）学生相談における親・家族からの相談の特徴、東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要、第 4 号、475-483、2018 2)（共同発表）大学における障害学生支援の体制整備と実践の充実化に関する一考察、日本学生相談学会第 35 回大会、2017 3)（共同発表）現代の大学生が抱える悩みから見えてくるもの、第 55 回全国大学保健管理研究集会、2017

外部資金：科研費・基盤研究（C）学生相談カウンセラーの成長支援としての OJT に関する研究（代表）、2017-2019.

〔大学運営〕

部局内委員会：高度教養教育・学生支援機構出版・図書・資料委員会委員

各種支援活動：学生生活支援審議会 FD（年 4 回）の実施、環境科学研究科主催学生対象のメンタルヘルス講習会における講師、自然科学総合実験教員・TA ガイダンス講師

〔業務活動〕

学生支援業務：1)学生相談・特別支援センターにおける学生相談所相談員として学生、教職員、家族への相談を行った。相談人数 78 名、のべ相談回数 750 回。2)ハラスメント全学相談学生相談窓口相談員として、ハラスメント相談への対応を行った。のべ対応回数：5 回。

学生相談・特別支援センター業務：1)東日本大震災後の学生の生活や心身状態、大学への適応状態等を把握するための全学生対象調査の実施、その結果に基づく学生への個別支援。2)スーパービジョン研修の企画・実施。3)「学生相談・特別支援センター年報」の編集。4)各部局における新入生オリエンテーションにおける学生相談・特別支援センターの利用案内。

〔社会貢献〕

学会活動：「学生相談研究」査読担当

小島 奈々恵 講師

〔専門分野〕 社会臨床心理学、学生相談

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「学生生活概論」（共同で担当）、大学院教育（教育学研究科）「コミュニティ心理学特論」「コミュニティ心理学実践特論」

〔研究活動〕

研究業績：1)（共著）海外勤務者の母国適応とホスト国適応—適応プロセスを追って—、東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要、第 4 号、191-202、2018、 2)（シンポジウム話題提供）高等教育における学生支援(2)：国際化をめぐる諸問題、日本心理学会第 81 回大会、 3)（共同発表）大学における障害学生支援の体制整備と実践の充実化に関する一考察—連携・働き掛け・協働という視点から—、日本学生相談学会第 35 回大会、 4)（共同発表）学生が困っていること及び関連する心理学的要因(4)—外国人留学生の問題について—、日本心理臨床学会第 36 回大会、 5)（共同発表）現代の大学生が抱える悩みから見えてくるもの—A 大学の場合—、第

55 回全国大学保健管理研究集会

科研費：1) 基盤研究 (C) 「学生の苦境を生き抜く力を涵養する心理教育プログラムの開発」(分担) (2016-2018) , 2) 基盤研究 (C) 「学生相談カウンセラーの成長支援としての OJT に関する研究」(分担) (2017-2019)

〔大学運営〕

各種支援活動：学生生活支援審議会 FD (年 4 回) の企画・実施

〔業務活動〕

学生支援業務：1) 学生相談・特別支援センターにおける学生相談および特別支援：相談人数 99 名、のべ相談件数 1106 回、2) ハラスメント全学学生相談窓口におけるハラスメント相談：のべ対応回数 1 回

学生相談・特別支援センター業務：1) 全学生対象の「大学生の心身の健康に関する調査 (第 7 回東日本大震災後の大学生活に関する調査)」結果に基づく支援、2) 各部局オリエンテーション等での大学生活ガイダンスおよびセンター利用案内、3) 新入学外国人留学生や日本人留学生を対象とした大学生活や異文化適応に関する心理教育

中岡 千幸 講師

〔専門分野〕 臨床心理学, 学生相談

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「学生生活概論」(共同で担当)

その他：部局新入生オリエンテーションにおいて学生生活に関する説明および学生相談・特別支援に関する利用案内

〔研究活動〕

研究業績：1)(共著) 学生相談における親・家族からの相談の特徴, 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要, 4 号, 475-483, 2018 2)(共同発表)大学における障害学生支援の体制整備と実践の充実化に関する一考察: 連携・働きかけ・協働という視点から, 日本学生相談学会 35 回大会 (愛知), 5 月, 2017 3)(学会発表) キャリア成熟度が大学適応に及ぼす影響, 日本心理学会第 81 回大会 (福岡), 9 月, 2017 4)(学会発表) 初年次におけるキャリア教育の意義について, 第 55 回全国大学保健管理研究集会 (沖縄), 11 月, 2017 5)(共同発表) 現代の大学生が抱える悩みから見えてくるもの: A 大学の場合, 第 55 回全国大学保健管理研究集会 (沖縄), 11 月, 2017

外部資金：(科研費) 若手研究 (B), 「教職員向け休・復学者支援マニュアルの作成のための研究」(代表), 平成 28 年度～平成 31 年度

〔大学運営〕

部局内委員会：高度教養教育・学生支援機構 電子ジャーナル編集委員

各種支援活動：学生生活支援審議会 FD (年 4 回) の実施

〔業務活動〕

学生支援業務：1) 学生相談所相談員として, 学生 (留学生を含む), 教職員, 学生の家族に対して相談援助活動を行った。相談人数は 100 名, のべ相談回数は 678 回。2) ハラスメント全学学生相談窓口相談員として, ハラスメント相談への対応を行った。延べ対応回数は 10 回。

センター業務：1) 全学学生対象の「東日本大震災後の大学生活に関する調査」結果に基づく個別支援, 2) 各部局における新入生オリエンテーション等での学生生活のガイダンスおよび学生相談所の利用案内, 3) 学生相談・特別支援センターご利用案内のパンフレットの改定, 4) 学生相談所の利用案内や申込票の改定

〔社会貢献〕

その他：「みやぎ学生相談連絡協議会」への参加による県内の大学の学生相談機関との連携

佐藤 静香 助手

〔専門分野〕 臨床心理学, 学生相談

〔教育活動〕

授業担当：全学教育科目「学生生活概論」(共同で担当)

その他：1) 部局新入生オリエンテーションにおける学生生活のガイダンスおよび学生相談・特別支援・ハラスメント相談に関する利用案内 (2017 年 4 月に複数部局で実施), 2) 教育学部学生対象ハラスメント防止講習会講師 (2017 年 9 月), 3) 医学部保健学科学生対象キャンパスハラスメント講習会講師 (2017 年 9 月), 4) 文学部・文学研究科卒業・進学・就職を控えた皆さんへの生活ガイダンス講師 (2017 年 11 月)

〔研究活動〕

研究業績：1) (共著) 学生相談における親・家族からの相談の特徴, 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要, 4, 475-483, 2018, 2) (共同発表) 大学における障害学生支援の体制整備と実践の充実化に関する一考察, 日本学生相談学会第 35 回大会, 2017 年 5 月, 3) (共同発表) 現代の大学生が抱える悩みから見えてくるもの: A 大学の場合, 第 55 回全国大学保健管理研究集会, 2017 年 11 月

その他：全新生を対象とする「新入生意識調査」の実施と学生相談・特別支援センター年報への結果の公表

〔大学運営〕

全学委員会：男女共同参画委員会委員

部局内委員会：高度教養教育・学生支援機構 施設整備委員会委員

各種支援活動：学生生活支援審議会 FD（年4回）の企画・実施

〔業務活動〕

学生支援業務：1) 学生相談・特別支援センターにおける学生相談および特別支援：相談人数 135 人、のべ相談回数 749 回、2) ハラスメント全学学生相談窓口におけるハラスメント相談：のべ対応回数 6 回

センター業務：1) 全学生対象の「東日本大震災後の学生生活に関する調査」の実施と結果に基づく個別支援、2) 「学生相談・特別支援センター年報」の編集

〔社会貢献〕

放送大学宮城学習センター客員講師

松川 春樹 助教

〔専門分野〕 臨床心理学，学生相談

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「学生生活概論」を共同で担当

〔研究活動〕

研究業績：1) (共同発表) 大学における障害学生支援の体制整備と実践の充実化に関する一考察—連携・働き掛け・協働という視点から，日本学生相談学会第 35 回大会，2017 年 5 月．2) (学会発表) 初心者セラピストが面接過程において体験する『つまずき』の特徴，日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会第 19 回大会，2017 年 10 月．3) (共同発表) 臨床事例における『つまずき』について考える(8)—他職種との関係性が面接に及ぼす影響，日本心理臨床学会第 36 回大会，2017 年 11 月．4) (共同発表) 現代の大学生が抱える悩みから見えてくるもの—A 大学の場合，第 55 回全国大学保健管理研究集会，2017 年 11 月．5) (共著) 自閉症スペクトラム障害のロールシャッハ・プロトコルにおける運動反応の検討，駒澤大学心理学論集，第 20 号，2018，13-19．6) (共著) 学生相談における親・家族からの相談の特徴，東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要，第 4 号，475-483，2018

〔大学運営〕

各種支援活動：学生生活支援審議会 FD の企画・実施（計 4 回）

〔業務活動〕

学生支援業務：1) 学生相談・特別支援センターにおける学生相談：相談人数 146 名、のべ相談回数 937 回、2) ハラスメント全学学生相談窓口におけるハラスメント相談：のべ対応回数 1 回

学生相談・特別支援センター業務：全学生対象の「大学生の心身の健康に関する調査（東日本大震災後の大学生活に関する調査）」の実施，および，その結果に基づく個別支援

長友 周悟 講師

〔専門分野〕 障害学生支援

〔教育活動〕

学生生活支援審議会 FD において，障害者差別解消法に基づく障害学生への合理的配慮提供の具体的な手続きについて講話を提供した。

全学教育科目である「学生生活概論」のなかで，障害理解を促すための授業を行い，「障害と社会，大学」では障害と社会的障壁，具体的な配慮・支援の内容について学ぶ授業を行った。また教職科目の「相談心理学Ⅱ」を担当した。

〔研究活動〕

1) (共同発表) 障害学生支援サポーター養成講座の実践とその意義，日本学生相談学会第 35 回大会，2017

2) (共同発表) 大学における障害学生支援の体制整備と実践の充実化に関する一考察，日本学生相談学会第 35 回大会，2017

〔大学運営〕

高度教養教育・学生支援機構研究倫理審査委員会委員，学生相談・特別支援連絡会議委員，障害者差別解消法に基づく部局相談窓口相談員，学生生活支援審議会 FD 講師 1 件

〔業務活動〕

所属業務センター業務：業務センターの業務として，障害のある学生への相談支援を行った。加えて，支援の充実を図るうえで必要な部署，教職員との連携や，学生への対応に困難を抱える教員，家族への支援を行い，支援体制の充実を図るため学生サポーター養成を授業を通じて実施した。診断が確定していないが障害（主に発達障害）の疑いのある学生についても，学生相談所との連携により相談支援を行った。

〔社会貢献〕

NPO 法人ソイプラム理事，社会福祉法人みんなの輪評議員，社会福祉法人あおぞら評議員

その他：2017年12月20日に「大学等における障害学生支援の相互協力をめざす研究協議会」を企画・実施し、主に宮城県にある13大学（現在は14大学）や仙台市等と協働して障害学生支援のネットワークを今後作っていくこととなった。

榊原 佐和子 特任講師

〔専門分野〕 コミュニティ心理学・臨床心理学

〔教育活動〕

授業担当：「学生生活概論」において、現在殆どの学生が長い時間利用しているインターネットにまつわる危機について最新の事情を鑑みた授業を行い、学生生活で生じうる危機の予防のための授業を行った。

「障害と社会・大学」において、障害当事者の先生方を授業に招いたり、障害模擬体験を実施する等体験に基づいた授業を行い、受講学生の大学における障害者支援、および障害の理解の促進を行った。

その他：学生相談・特別支援センター特別支援室の相談員として、聴覚障害・視覚障害・内部障害・発達障害・精神障害等障害のある学生に対する修学上の支援を行う中で、当該学生及び当該学生を支援する学生サポーターに対して教育的視点を持ちながら関わりを行った。

〔研究活動〕

研究業績：「基礎から学ぶ心理療法」ナカニシヤ書店 第10章フォーカシング（2018年）執筆

日本コミュニティ心理学会第20回大会 大会企画ワークショップ「コンサルテーション教育のあり方について考える」企画者

〔大学運営〕

2017年9月5日に学務審議会と共催で実施された29年度第2回学生生活支援審議会FDにおいて、講師として本学における修学上の合理的配慮に関する講師を行った。

〔業務活動〕

センター業務：学生相談・特別支援センター 特別支援室相談員として、視覚障害・聴覚障害・内部障害・発達障害・精神障害等さまざまな障害のある（またはあると疑われる）学生への修学上の支援を行った。

また、さまざまな障害のある学生の支援の補助を行う「学生サポーター」養成を授業を通して行った。

〔社会貢献〕

各種委員等：仙台市健康福祉局障害企画課による「障害理解促進に向けた汎用性のある研修プログラムの検討に係るワーキンググループ」に参加し、仙台市民の障害理解促進にむけたプログラムの開発を行った。

学会活動：日本コミュニティ心理学会の理事・常任理事として活動を行い、倫理委員長・副編集委員長としての業務を行った。

その他：2017年12月20日に「大学等における障害学生支援の相互協力をめざす研究協議会」を企画・実施し、主に宮城県にある13大学（現在は14大学）や仙台市等と協働して障害学生支援のネットワークを今後作っていくこととなった。

高橋 真理 助手

〔専門分野〕 特別支援教育、言語・聴覚障害児・者教育

〔教育活動〕

授業担当：障害と社会・大学（カレントトピックス）授業を新たに開講し、2・4Qで実施した。

教育支援活動：ピアサポート学生組織の管理・運営を担当した。

〔研究活動〕

1) (共同発表) 障害学生支援サポーター養成講座の実践とその意義，日本学生相談学会第35回大会，2017

2) (共同発表) 大学における障害学生支援の体制整備と実践の充実化に関する一考察，日本学生相談学会第35回大会，2017

〔大学運営〕

各種支援活動：学生生活支援審議会主催の年4回FDを企画・実施（うち第2回目は講師）。

〔業務活動〕

学生支援業務：障害のある学生及び家族、部局関係者への個別相談・支援活動を行った。その他、肢体不自由・聴覚障害・視覚障害のほか身体障害に関する修学上の助言やアクセシビリティに関する指摘・助言を行った。

〔社会貢献〕

仙台市健康福祉局障害企画課主催のワーキンググループメンバーとして、仙台市民を対象とした障害者差別解消を推進する「市民サポーター」の養成プログラムの開発・実施に携わった。

2017年12月20日に「大学等における障害学生支援の相互協力をめざす研究協議会」を企画・実施し、主に宮城県にある13大学（現在は14大学）や仙台市等と協働して障害学生支援のネットワークを今後作っていくこととなった。

木内 喜孝 教授

〔専門分野〕 学生の保健

〔教育活動〕

授業担当：全学教育「体と健康 I X」、医学部医学科「消化器ブロック」、情報科学大学院「生体情報科学」

学位論文指導・審査：博士取得 1 名（その他博士課程 14 名指導）、学位審査副査 4 名

〔研究活動〕

研究業績：1) (共著) 「Allele-specific DNA methylation of disease susceptibility genes in Japanese patients with inflammatory bowel disease」『PLoS One』第 13 号, 2018, e0194036. 2) (共著) 「Tacrolimus Dose Optimization Strategy for Refractory Ulcerative Colitis Based on the Cytochrome P450 3A5 Polymorphism Prediction Using Trough Concentration after 24 Hours.」『Digestion』第 97 号, 2018, 90-96. 3) (共著) 「Increased expression of IL12B mRNA transcribed from the risk haplotype for Crohn's disease is a risk factor for disease relapse in Japanese patients」『J Gastroenterol』第 32 号, 2017, 1562-1569. 4) (共著) 「The relationship between the renal reabsorption of cysteine and the lowered urinary pH in diabetics.」『Clin Exp Nephrol』第 21 号, 2017, 1044-1052.

外部研究資金：基盤研究(B)(2015-2017) (分担)、日本医療研究開発機構 (AMED)委託研究開発費・ゲノム創薬基盤推進研究事業 (2017-2018) (分担)

〔大学運営〕

全学委員会：1) 学生生活支援審議会副委員長 2) 学務審議会委員 3) 入試実施委員会 4) 環境・安全委員会委員 5) 東北大学出版会評議員 6) 特別健康管理専門部会委員長 7) 災害対策推進室推進室会議 8) サイクロトロンラジオアイソトープセンター運営専門委員会委員

部局内委員会：1) ハラスメント相談窓口 2) 研究費の不正使用に関する通報を受け付ける窓口 3) 機構研究倫理委員会委員長 4) 機構研究倫理教育責任者 5) 保健管理センター長 6) 機構長補佐会議メンバー 7) 情報科学大学院倫理審査委員

〔業務活動〕

医療業務：保健管理センターの医師・センター長としての責務を果たした。

学生支援業務：保健管理センターの医師・センター長としての責務を果たした。

機構業務：機構研究倫理審査委員長として機構の研究倫理審査を 2 3 件行った。

センター業務：保健管理センターの医師・センター長としての責務を果たした。

部門業務：臨床医学開発室の運営。各教員の研究の方向性について相談した。

〔社会貢献〕

各種委員等：1) 宮城県生活習慣病検診管理指導協議会大腸がん部会委員：宮城県大腸癌検診が適切に行われているか審査を実施 2) 宮城県対がん協会大腸癌検診診断委員長：宮城県大腸癌検診の診断が適切に行われるように指導した 3) 宮城県社会保険診療報酬請求書審査委員会：保険診療報酬が適切に請求されているか審査した 4) 厚生労働科学研究費補助金特定疾患対策研究事業一難治性炎症性腸管障害に関する調査研究 班友

学会活動：1) 日本消化器病学会評議員 2) 日本消化器内視鏡学会東北支部評議員 3) 日本内科学会東北支部評議員 4) 日本消化器がん検診学会地方評議員 5) 全国大学保健管理協会評議員 6) 東北学校保健学会世話人 7) 第 42 回東北大腸疾患研究会開催事務局 8) 第 53 回全国大学保健管理研究集会東北地方研究会当番大学 9) 日本消化器病学会英文誌 editorial board、他多数の雑誌査読委員

伊藤 千裕 教授

〔専門分野〕 精神医学

〔教育活動〕

授業担当：1) 全学教育「体と健康」(健康科学講演会)、「障害と社会・大学」(精神障害)、2) 医学部教育「精神・心理・行動ブロック」(薬物身体療法)、(精神作用物質使用による精神および行動の障害)、3) 情報科学研究科大学院教育「健康情報学」(こころの健康と異常 1, 2, 3)

教育支援活動：1) 薬学研究科ハラスメント防止対策講習会 (FD) 講師 (2017 年 6 月)、2) 健康科学セミナー講師 (2017 年 11 月)

その他：1) 臨床研修指導医、2) 精神科専門医制度指導医、3) 臨床精神神経薬理学指導医

〔研究活動〕

研究業績：1) (単著) 「高等教育におけるメンタルヘルス支援の現代的課題」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第 4 号, 2018, 53-56. 2) (共同発表) 「学生の大麻乱用に関する新聞報道」, 第 55 回全国大学保健管理研究集会東北地方研究会, 2017 年 7 月.

外部資金：(寄付金) メンタルヘルス研究助成金

〔大学運営〕

部局内委員会：1) 保健管理センター副センター長、2) 総務委員会委員、3) 病院ハラスメント相談窓口

〔業務活動〕

医療業務：1) メンタルヘルス相談、2) 新入生および学生定期健康診断、3) 診断書作成

〔社会貢献〕

学会活動：1) 日本神経精神薬理学会評議員、2) 日本臨床精神神経薬理学会評議員

その他：医療法人小島慈恵会小島病院非常勤医師としての地域精神保健活動

小川 晋 准教授

〔専門分野〕代謝・糖尿病学、腎臓病学

〔教育活動〕

授業担当：健康情報学講座「代謝疾患と情報科学その1-その3」

教育支援活動：全学教育「体と健康」、健康科学セミナー講演「糖新生臓器としての腎臓の役割」

その他：東北大学「コンダクター型総合診療医」養成プログラム（第3回、第4回 生活習慣病ゼミ「糖尿病 ①基礎編 ②実践編」）

〔研究活動〕

論文：1) Ogawa S, et al. The relationship between the renal reabsorption of cysteine and the lowered urinary pH in diabetics. Clin Exp Nephrol 21:1044-1052, 2017. 2) Ogawa S, et al. Decreased Glycaemia with Renal Failure in Diabetes Betides in Relation to the Change in Renal Glutamate Metabolism. Journal of Clinical & Experimental Nephrology 3:55, 2018 (DOI: 10.21767/2472-5056.100055).

学会発表：1) 小川 晋, 伊藤 貞嘉. SPRING-DM 研究 group.2 型糖尿病における spironolactone 治療のアルブミン尿寛解・退縮効果の検討. 第60回日本腎臓学会学術総会. 2017年5月27日(口演) 2) 小川 晋, 清水 麻那美, 岡村 将史, 他. 糖尿病における腎機能低下と血中 gamma-butyrobetaine(gBB)濃度の関連の検討. 第60回日本腎臓学会学術総会. 2017年5月27日(口演)

招待講演：小川 晋, 伊藤 貞嘉. 腎アミノ酸代謝と腎糖新生. 第60回日本腎臓学会学術総会. 2017年5月26日(総会長主導企画1)

外部資金：共同研究費「電解水素水によるインスリン抵抗性改善効果検証のための臨床試験」(代表者)H27.11.1-H31.3.31

〔大学運営〕

部局内委員会：1) 出版・図書・資料委員会委員、2) 研究倫理委員会委員

各種支援活動：講師「東北大学の肥満学生健診から学んだこと」

〔業務活動〕

医療業務：大学病院外来診療

センター業務：救護班班長

〔社会貢献〕

学会活動：1) 日本腎臓学会 評議員、2) 日本内分泌学会 評議員、3) 日本高血圧学会 評議員、国内交流委員会(糖尿病系担当)、プログラム委員、4) 日本肥満症治療学会 評議員、5) 日本内科学会(支部評議員)、6) 日本糖尿病性腎症研究会 幹事

佐藤 公雄 准教授

〔専門分野〕循環器内科

〔教育活動〕

下記の教育活動を行った。主に循環器内科へ海外からの留学生（博士課程、JSPS 研究員）2名、JSPS 特別研究員2名、大学院生（博士課程）8名の学位研究の指導に注力した。

授業担当状況：大学院生向けの心血管疾患に関する講義担当。開業医向けの生涯教育講座の講義担当。

学位論文（博士/修士/学士）の指導：循環器内科の大学院生の学位論文指導、泌尿器科からの大学院生の学位論文指導。

教育支援活動：保健管理センターの業務の一環として、精神的不調を訴える学生の診療および相談に応じた。

留学生等の受け入れ：海外留学生1名、海外からの JSPS 研究員1名の受け入れと指導を行っている。

〔研究活動〕

【研究業績】英文原著論文13件（全て査読あり）、日本語著書1件、学会シンポジウム発表多数、特許 PCT 出願5件

【受賞】

2017年（平29）第2回 日本肺高血圧・肺循環学会 八巻賞

2017年（平29）第42回 日本循環器学会・日本心臓財団 佐藤賞

2017年（平29）Top Reviewers for Circulation Research (Gold Reviewers) (AHA)

2017年（平29）Top 10 Reviewers Award of Arteriosclerosis, Thrombosis and Vascular Biology (ATVB, AHA)

【外部研究資金】

文部科学省 H26-28 橋渡し研究（シーズA、シーズB）

H27-29 基盤研究 (B)、H27-29 挑戦的萌芽研究、日本医療研究開発機構 (AMED) H27-29 創薬基盤推進研究事業、日本医療研究開発機構 (AMED) H28-30 難治性疾患実用化研究事業、日本医療研究開発機構 (AMED) H29-31 難治性疾患実用化研究事業

〔大学運営〕

東北大学医学部・医学系研究科・遺伝子組換え実験安全主任者として、遺伝子組み換え実験の申請書の審査および実験施設の視察等を行った。

東北大学高度教養教育・学生支援機構・遺伝子組換え実験安全主任者・動物実験安全主任者として、申請書の審査等を行った。

〔業務活動〕

医療業務：大学病院の循環器内科外来

学生支援業務：健康相談を行っており、健康相談班長として、学医からの相談を受けている。

〔社会貢献〕

【学会活動】

12 の国内外の学会に所属し、日本酸化ストレス学会および日本 NO 学会の評議員を務めている。また、日本 NO 学会の事務局を担当している。

日本循環器学会 禁煙推進委員会 委員、日本循環器学会 予防委員会 委員、日本循環器学会 第 80 回日本循環器学会学術集会 事務局局長、日本 NO 学会 評議員 (事務局担当)、第 9 回国際 NO 学会・第 16 回日本 NO 学会学術集会 事務局局長、日本酸化ストレス学会 評議員、日本心脈管作動物質学会 評議員

【学術活動】

文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術動向研究センター 専門調査員

【国際学術誌 編集委員会 委員 Editorial Board】

Circulation Research (AHA)

Arteriosclerosis, Thrombosis, and Vascular Biology (ATVB) (AHA)

Circulation Journal (日本循環器学会)

二宮 匡史 助教

〔専門分野〕 内科・消化器内科学

〔教育活動〕

授業担当状況：医学部 4 年次講義 消化器ブロック「肝腫瘍の診断と治療」、歯学部隣接医学「肝腫瘍の診断と治療」、保健学科臨床医学総論 I「肝硬変・肝腫瘍」、医学部 5 年 SGT 教育、医学部 6 年高次医療修練教育

〔研究活動〕

研究業績：Inoue J, Ninomiya M, et al. Identification of Genotype 2 HCV in Serotype-1 Hepatitis C Patients Unresponsive to Daclatasvir plus Asunaprevir Treatment. *Tohoku J Exp Med.* 2017; 241(1): 21-28.

外部資金：AMED 肝炎等克服実用化研究事業「C 型肝炎の新たな治療関連因子及び治療後の病態進展・改善に関連する宿主因子等の同定を目指したゲノムワイド研究」分担

〔大学運営〕

化学療法プロトコール審査委員会プロトコール査読医師

〔業務活動〕

保健管理センターでの健康相談、健康診断、大学病院での診療

〔社会貢献〕

H29 年度肝がん撲滅運動 市民公開講座

高館 達之 助教

〔専門分野〕 消化器外科学

〔教育活動〕

SGT 教育、宮城大学での看護学講義、大学院生 (博士) の学位論文指導

〔研究活動〕

H28-29 若手研究 B「FFPE 組織の腫瘍間質プロテオミクスによる新規転移因子の探索」

「腹腔鏡下膵体尾部切除術：合併症ゼロを目指した最新の低侵襲内視鏡外科手術」手術 72: 537-54. 2017

〔大学運営〕

大学病院：①教室員会診療問題対策部部長、②外来防災部会

〔業務活動〕

保健管理センターでの健康相談、健康診断、大学病院での診療

〔社会貢献〕

各種学会活動

北 浩樹 助教

〔専門分野〕 歯科矯正学

〔教育活動〕

授業担当：情報科学研究科大学院教育（健康情報学）「歯科疾患と情報科学Ⅰ，Ⅱ」

教育支援活動：デジタルサイネージ（電子看板）を用いた学生向け健康情報供覧システムの開発と運用

その他：日本矯正歯科学会認定医

〔研究活動〕

研究業績：1）（共著）「ゲノムワイド関連解析（GWAS）」，プリンシプル消化器疾患の臨床2 腸疾患診療の現在，（中山書店，2017年8月10日，ミニレクチャー，292-293）. 2）（単著）「保健のしおり 大学生生活と健康情報」，（保健管理センター，2017年5月），3）（代表発表者）「学生の大麻乱用に関する新聞報道」，（第54回全国大学保健管理研究集会東北地方研究集会（青森），2017年7月13-14日）

外部資金：（科研費）基盤研究（C），「メディア上における潰瘍性大腸炎に関する医療情報の質の評価」（代表），平成27-29年度.

その他：「The Cleft Palate-Craniofacial Journal」査読

〔大学運営〕

部局内委員会：施設整備委員

各種支援活動：学部等主催の講師，以下の2件. 1）平成29年度学生生活支援審議会FD（第4回）「学生支援の今日的諸問題 大学における薬物乱用」，2）高度教養教育・学生支援機構PDプログラム 健康教育W-4【PDP】健康科学セミナー「頭蓋顎顔面の形態異常と歯科矯正治療」.

〔業務活動〕

医療業務：1）歯科外来診療，2）禁煙外来診療，3）学生定期・特別健康診断，4）診断書の作成.

〔社会貢献〕

学会活動：全国大学保健管理協会「大学における健康診断・健康関連情報の標準化と利活用に関わる調査研究班」

社会教育活動：仙台市自分づくり教育「職場体験」

その他：市内外の3つの歯科医院の非常勤歯科医師（矯正歯科専門医）

玉井 ときわ 助教

〔専門分野〕 呼吸器内科学

原 康之 助教

〔専門分野〕 外科学

山本 沙織 助教

〔専門分野〕 内科・循環器病学

〔教育活動〕

医学部5年生、6年生の臨床実習の指導をおこなっている。

〔研究活動〕

1. Saori Yamamoto, Koichiro Sugimura, Tatsuo Aoki, Shunsuke Tatebe, Nobuhiro Yaoita, Haruka Sato, Katsuya Kozu, Ryo Konno, Kotaro Nochioka, Kimio Sato, Hiroaki Shimokawa. Diagnostic significance of plasma globotriaosylsphingosine in female patients with Anderson-Fabry Disease. International society for gender medicine 2017.9.14-16. Miyagi
2. Saori Yamamoto, Koichiro Sugimura, Hideaki Suzuki, Tatsuo Aoki, Shunsuke Tatebe, Haruka Sato, Katsuya Kozu, Ryo Konno, Kotaro Nochioka, Kimio Sato, Kentaro Takanami, Hideki Ota, Kei Takase, Hiroaki Shimokawa. Usefulness of Cardiac 123I-Meta-iodobenzylguanidine Uptake for Early Detection of Cardiac Involvement in Patients with Anderson-Fabry Disease. American heart association, 2017.11.11-15 Anaheim, California
3. 山本沙織 杉村宏一朗 下川宏明 当科における Fabry 病診療 心臓病学会 ランチョンセミナー 2017年9月29日-10月1日 大阪
4. 山本沙織 杉村宏一郎 青木竜男 建部俊介 佐藤遥 神津克也 紺野亮 下川宏明 大動脈基部置換後の妊娠出産の1例 循環器地方会 2017年12月2日 仙台

5. Saori Yamamoto, Koichiro Sugimura, Hideaki Suzuki, Tatsuo Aoki, Shunsuke Tatebe, Haruka Sato, Katsuya Kozu, Ryo Konno, Kotaro Nochioka, Kimio Sato, Kentaro Takanami, Hideki Ota, Kei Takase, Hiroaki Shimokawa. Assessment of Cardiac Autonomic Nerve Functions by 123I-Meta-Iodobenzylguanidine Imaging in Patients with Anderson-Fabry Disease. 日本循環器学会 2018年3月23日～25日 大阪

〔業務活動〕

医療業務：保健管理センター、大学病院の循環器内科病棟、外来など

学生支援業務：学生からの健康相談を週に2回行っている。

藤室 玲治 特任准教授

〔専門分野〕 学生ボランティア活動支援

江口 伶 特任助教

〔専門分野〕 教育学（日本教育史、人権教育）

〔教育活動〕

授業担当：①基礎ゼミ「共生社会に向けたボランティア活動—人権・多様性・エンパワメント」、②展開ゼミ「福島における人権保障と共生の課題—原発事故後を生きる人々に寄り添う」、③基幹科目「社会の構造（東日本大震災からみる現代日本社会）。これらは、高度教養教育開発推進事業の採択を受けた「多様な他者との共生に向けた 現代的教養の育成に資する 人権教育プログラムの開発事業」の一環として取り組んだ。

教育支援活動：上記事業の一環で、課外での教育プログラム（被災地ボランティアツアー、子どもの貧困問題等の人権課題に取り組むボランティア体験プログラム）を実験的に開発実施した。

その他：課外・ボランティア活動支援センターの学生スタッフ組織 SCRUM 及びボランティア登録団体の学生を対象とする研修会の実施等、課外での教育活動を通年を通して実施した。

〔研究活動〕

研究業績：

1) (分担執筆) ①「(社会的なもの)と教育—政治的可能性に向けて」教育思想史学会『近代教育フォーラム』26号、2017年9月、pp.130-136、②「第3部：多様な他者との共生に向けた現代的教養の育成に資する人権教育プログラムの開発事業」東北大学高度教養教育・学生支援機構『東日本大震災から学び、ポスト 3.11 の社会を構想する科目群開発事業報告書』2018年3月、pp.115-149
2) (単著) ①「夜間中学の成立と再編—「あってはならない」と「なくてはならない」の狭間で」木村元編集・発行『日本における学校化社会成立の諸相—学校システム「周辺」部に着目して』2018年3月26日、pp.52-91、②「課外・ボランティア活動支援と正課教育の連携事例とその可能性」東北大学高度教養教育・学生支援機構課外・ボランティア活動支援センター『2017年度課外・ボランティア活動支援センター紀要』2018年3月、pp.6-12

3) (学会発表) ①「戦後夜間中学における教師の言説の変容—塚原雄太に着目して」（日本教育学会第76回大会、2017年8月25日@桜美林大学）、②「1950～60年代前半における夜間中学生の生活世界—作文と聞き取りを手がかりに」（基礎教育保障学会第2回研究大会、2017年9月3日@大阪教育大学）、③「1950～60年代における漁村の長期欠席と夜間中学」（教育史学会第61回大会、2017年10月7日@岡山大学）

招待講演：①「教育学における「共生・共育」の問いへの応答」（日本科学史学会生物学史分科会、2017年7月22日@東京大学）、②「学生団体とサービス・ラーニング科目の連携—SCRUM と基礎ゼミ・展開ゼミ」（第8回 IEHE 教育開発セミナー、2017年11月9日@東北大学）、③「公立夜間中学校設立の動向と課題—「あってはならない」と「なくてはならない」の狭間で—」（仙台に夜間中学をつくり育てる会研修会、2018年3月24日@仙台市生涯学習支援センター）

外部資金：(科研費) 研究活動スタート支援「戦後日本の社会変動とマイノリティ教育の研究—1970年代以降の夜間中学に着目して」(代表)、H28年9月～H30年3月

〔大学運営〕

全学委員会：学生ボランティア活動支援委員会委員

〔業務活動〕

学生支援業務：ボランティア活動支援室にて、学生ボランティア団体及びボランティア活動を希望する学生個人からの相談に関して適宜相談支援を行った。

センター業務：①ボランティアツアーの企画運営、引率、学生への指導助言、②ボランティア保険登録等、学生のボランティア活動における安全確保、③学内外のボランティア団体・NPO 等による連絡会議の開催、④本学学生へのボランティア斡旋ニーズに対するマッチング、⑤ボランティア活動推進のための外部資金の獲得、⑥課外・ボランティア活動におけるハラスメント防止や人権啓発を目的とする研修会の開催、⑦ボランティア合同説明会の開催・広報誌の作成・配布、⑧熊本地震等の緊急災害時の支援活動実施、⑨留学生対象の被災地ボランティアツアー実施、⑩国内外の高校・大学との交流。

部門業務：高等教育開発部門会議の世話役（H29年度後期）

〔社会貢献〕

各種委員等：夜間中学設置に係る宮城県教委・仙台市教委共同調査研究会専門部会委員

社会教育活動：仙台自主夜間中学における研修、全国夜間中学校研究会に対する知見提供

その他：福島県いわき市、富岡町、浪江町、川内村を中心に、東日本大震災及び福島第一原発事故の被害を受けた地域の復興に関するボランティア活動を行った。

IV 資 料 編

1. 統計データ

(1) グローバル時代における人材像と高度教養教育システムの総合的研究の推進

- 「第12回 東北大学学生生活調査」(平成29年11月)
 - ・東北大学の学部・大学院に在籍し、調査可能であるすべての学生を対象に、平成29年11月1日現在の状況について調査を実施(専用Webページによる回答)
 - ・有効回答数3,482名、有効回答率19.9%
- 「第3回 東北大学の教育に関する卒業・修了生調査」(平成30年1-2月)
 - ・平成24年度学部卒業生・大学院修了生の3,372名(学部卒業生1,816名・大学院修了生556名)を対象に調査を実施(郵送・Webによる回答)
 - ・有効回答数513名、有効回答率15.2%
- 「東北大学の教育に関する雇用者調査」(平成30年3月)
 - ・東北大学キャリア就職フェア(平成30年3月1日～6日開催@東北大学川内北キャンパス 川内体育館)の参加企業250社を対象に調査を実施(紙媒体による回答)
 - ・有効回答数90社、有効回答率36.0%

(2) 実践的英語運用能力を高める体系的英語教育プログラムの開発・推進

- 多読法による英語教育プログラムの授業実践(1年次「英語A」の場合)
 - ・開講クラス数:前期後期計48クラス(全体の16.7%)
- PDR法(Preparation / Discussion / Reaction Method)による英語教育プログラムの授業実践(1年次「英語B」の場合)
 - ・開講クラス数:前期後期計48クラス(全体の16.8%)
- 高度な英語能力養成を目指す全学教育科目「プラクティカル・イングリッシュスキルズ」開講
 - ・開講クラス数:前期3クラス、後期3クラス、計6クラス
 - ・受講者数:前期後期計119名
- 英会話支援プログラムの開発・推進
 - ・学習支援センターでの「英会話カフェ」「1on1英会話」の実施
- 国際的な教育・研究環境で必要とされる英語運用能力の養成を目指す「TEA's English 学期内プログラム」及び「TEA's English 集中プログラム」

表2-1 「英語A」における多読法を取り入れた授業実践(H25～H29)

	H25	H26	H27	H28	H29
開講クラス数	22	30	44	34	48
全体に占める割合	15.9%	21.7%	31.9%	23.3%	16.7%

表2-2 「プラクティカル・イングリッシュスキルズ」開講実績(H25～H29)

	H25	H26	H27	H28	H29
開講クラス数	4	6	6	6	6
受講者数(人)	45	69	68	70	119

表 2-3 「英会話カフェ」「1on1 英会話」利用者数 (H25~H29) (単位: 人)

	H25	H26	H27	H28	H29
延べ利用者数	336	698	651	518	472

表 2-4 「TEA's English 学期内プログラム」及び「TEA's English 集中プログラム」開講実績 (H27~H29)

			H27	H28	H29
開講クラス数			各プログラム 2	各プログラム 2	各プログラム 2
受講者数 (学期内) (人)			計 380	計 306	計 312
受講者数 (集中) (人)			計 15	計 126	計 127

(3) 現代社会の多様な「知」に対応した高度教養教育の開発・推進

○全学教育科目「自然科学総合実験」「文科系のための自然科学総合実験」「英語による自然科学総合実験 (国際学士コース) の充実

- ・受講者数: 計 1,623 名
- ・自然科学総合実験実施委員会: 年 4 回程度開催
- ・理科実験スタッフミーティング: 毎週開催
- ・自然科学総合実験教員 TA ガイダンス: セメスター開始前に開催
- ・自然科学総合実験受講学生ガイダンス及びレポート作成演習: 第 1・8 回の授業時に開催

○全学教育科目・学部 3~4 年生対象の高年次教養教育科目「みせる学び: 大学で何を学んだの? どう役に立つの?」の実施 (受講者 8 名)

表 3-1 自然科学総合実験受講者数 (H27~H29) (単位: 人)

	H27	H28	H29
理科系クラス	1,643	1,567	1,544
文科系クラス	49	49	49
国際学士コース	23	26	30
計	1,715	1,642	1,623

(4) 多様な価値観と文化を学ぶ国際共修・異文化理解プログラムの開発・推進

○国際共修ゼミ (日本語クラス/英語クラス) の充実

- ・日本語クラス: 32 クラス, 延べ受講者数: 854 名 (内訳: 日本人学生 433 名, 留学生 421 名)

表 4-1 国際共修ゼミ開講クラス数 (H25~H29)

	H25	H26	H27	H28	H29
日本語クラス	19	25	24	28	32

表 4-2 国際共修ゼミ (日本語) 受講者数 (H25~H29) (単位: 人)

	H25	H26	H27	H28	H29
日本人学生	224	486	286	362	433
外国人留学生	291	319	359	413	421
計	515	805	645	775	854

○短期国際交流活動の推進

- ・東北大学サマープログラムにおける学生ボランティア

表4-3 東北大学サマープログラムボランティア学生数（H25～H29）（単位：人）

	H25	H26	H27	H28	H29
TUJP	47	44	53	55 ※効率的運営 のため共通化	51（採用数） TSSP 実施せず
TSSP	39	21	17		
計	86	65	70		

（5）留学生の戦略的受入れの推進と海外研鑽プログラムの充実

①戦略的受入れの推進

○中国清華大学，国立応用科学院リヨン校，フランス国立中央理工科大学院，スウェーデン王立工科大学とのダブル・ディグリープログラム

・受入学生数：3名，派遣学生数：2名

○国際学士コース（理学部先端物質科学コース，工学部国際機械工学コース，農学部国際海洋生物科学コース）の継続実施

・志願者数：124名，合格者数：35名，入学者数：28名

○交換留学生の受入れ促進

・JYPE（自然科学系短期留学生受入プログラム），IPLA（人文社会科学系短期留学生受入プログラム），COLABS（研究型短期留学生受入プログラム），DEEP（直接配置型受入プログラム）の実施

○短期研修プログラムの整備

・東北大学サマープログラム，夏季・冬季短期日本語・日本文化研修プログラムの実施

○外国人留学生日本語研修コース（国費留学生対象短期集中プログラム）の継続実施

・日本語研修コース（大学院・教員研修予備教育）の研修生数：前期19名，後期8名
・日韓共同理工系学部留学生プログラムの研修生数：7名

○外国人留学生等特別課程（日本語）の継続実施

・受講者数：前期366名，後期513名

表5-1 ダブル・ディグリープログラム交流実績（H25～H29）（単位：人）

	H25	H26	H27	H28	H29
受入学生数	6	8	6	6	3
派遣学生数	2	2	3	0	2

表5-2 JYPE, IPLA, COLABS, DEEP 受入学生数（H25～H29）（単位：人）

	H25	H26	H27	H28	H29
JYPE	56	72	80	78	56
IPLA	33	46	58	74	62
COLABS	27	33	43	54	35
DEEP	51	49	51	36	17
DEEP-Bridge	—	—	—	40	53

表5-3 TUJP, TSSP, 日本語・日本文化研修プログラム受入学生数 (H25~H29) (単位:人)

	H25	H26	H27	H28	H29
TUJP	23	18	55	56	58
TSSP	23	24	31	23	実施せず
日本語・日本文化研修プログラム	23	23	17	11	11

*H29年度はワシントン大学学生16名を対象とした理工学特別サマープログラムを実施。

表5-4 外国人留学生日本語研修コース (国費留学生対象短期集中プログラム) 研修生数 (H25~H29) (単位:人)

	H25	H26	H27	H28	H29
日本語研修コース (前期)	18	21	16	30	19
日本語研修コース (後期)	4	8	8	4	8
日韓共同理工系学部留学生プログラム	8	7	7	7	7

表5-5 外国人留学生等特別課程 (日本語) の受講者数 (H25~H29) (単位:人)

	H25	H26	H27	H28	H29
外国人留学生等特別課程 (前期)	257	281	324	390	366
外国人留学生等特別課程 (後期)	385	423	532	481	513

②戦略的派遣の推進

○スタディアブロードプログラム (SAP), ファカルティレッドプログラム (FL) の開発・実施

- ・SAP: プログラム数17, 派遣者数288名
- ・FL: プログラム数: 5, 派遣者数74名

○多様な派遣プログラムの開発・実施

- ・研究型海外研鑽プログラム: 派遣者数35名, 入学前海外派遣プログラム: 派遣者数33名

○東北大学グローバルリーダー (TGL) 育成プログラムの推進

- ・登録者数: 2,873名, 指定科目: 323科目, TGL修了者: 43名, グローバルリーダー認定者: 17名

表5-6 SAP, FL実施状況 (H25~H29)

		H25	H26	H27	H28	H29
SAP	プログラム数	17	18	18	18	17
	派遣者数 (単位:人)	275	285	297	330	288
FL	プログラム数				3	5
	派遣者数 (単位:人)				44	74

表5-7 TGLプログラム実施状況 (H25~H29)

	H25	H26	H27	H28	H29
登録者数 (単位:人)	642	1,322	2,091	2,562	2,873
指定科目数	200	224	329	391	323
TGLプログラム修了者数 (単位:人)	0	3	13	19	43
グローバルリーダー認定者数 (単位:人)	2	6	16	14	17

(6) 自己発展力のある主体的学生を育成する総合的學生支援の推進

①学習支援（学習支援センター）

○SLA サポートシステムによる学習支援活動

- ・理系支援担当 SLA（前期 31 名・後期 26 名）による個別対応型学習支援：延べ 800 名
- ・英会話支援担当 SLA（前期 11 名・後期 8 名）による個別対応・企画発信型学習支援：延べ 472 名
- ・ライティング支援担当 SLA（前期 4 名・後期 5 名）による個別対応型学習支援：延べ 103 名
- ・企画発信型支援担当 SLA（前期・後期共に 6 名）による学習企画実施：30 回，参加者延べ 62 名
- ・自主ゼミ支援：登録ゼミ数 3，名簿登録学生数 115 名

表 6-1 理系支援担当 SLA による個別対応型学習支援実績（H25～H29）（単位：人）

	H25	H26	H27	H28	H29
延べ人数	1,337	2,803	2,331	1,767	800
実数	350	583	517	356	240

表 6-2 英会話支援担当 SLA による個別対応・企画発信型学習支援実績（H25～H29）（単位：人）

	H25	H26	H27	H28	H29
延べ人数	336	698	651	518	472
実数	94	196	150	130	108

②学生相談・援助活動（学生相談・特別支援センター）

○相談・援助・予防活動及び全学的支援体制の構築

- ・学生相談所における個別支援（出張カウンセリング含む）：来談者数 744 名，対応回数 5,415 回
- ・ハラスメント全学学生相談窓口における相談・援助活動：相談件数 13 件，対応回数 36 回
- ・特別支援室（H26.4 設置）での障害のある学生，学生と関わる教職員等への専門的支援
：来談者 100 名，対応回数 2,265 回
- ・特別支援室学生サポーター：登録人数 29 名
- ・学生相談・特別支援等に関する FD：16 回（学生生活支援審議会 FD：4 回，部局 FD：12 回）
- ・星陵キャンパスでの出張相談：来談者数 11 名，相談回数 49 回

表 6-3 学生相談における来談者数（H25～H29）（単位：人）

		H25	H26	H27	H28	H29
学生相談・特別支援センター		—	748	677	775	813
内訳 (重複あり)	学生相談所 (出張カウンセリング含む)	760	743	665	729	744
	特別支援室	—	39	43	81	100
ハラスメント全学学生相談窓口としての相談		19	10	20	24	13
計		779	758	697	799	826

表 6-4 学生相談における相談回数（H25～H29）（単位：回）

		H25	H26	H27	H28	H29
学生相談・特別支援センター		—	3,929	4,461	6,144	7,328
内訳 (重複あり)	学生相談所 (出張カウンセリング含む)	3,761	3,913	2,992	4,370	5,415
	特別支援室	—	446	1,618	1,997	2,265
ハラスメント全学学生相談窓口としての相談		153	97	107	95	36
計		3,914	4,026	4,568	6,239	7,364

表6-5 FD等の実施回数（H25～H29）（単位：回）

	H25	H26	H27	H28	H29
FD・SD（学生支援審議会FD、部局FDを含む）	11	18	14	17	16
部局と連携した学生対象の講演	5	5	6	8	8
部局新生オリエンテーション等	18	19	18	17	19
計	34	42	38	42	43

○新入生を含む全学生を対象とした、大学生活への適応状態や震災の心身への影響を把握するための調査の実施と個別支援

表6-6 全学生対象調査（震災の心身への影響）の概要（H25～H29）

	H25	H26	H27	H28	H29
回答者数（人）	10,617	10,713	10,488	10,979	11,108
回収率	59.0%	59.5%	58.3%	61.0%	61.7%
PTSDハイリスク群（人）	494	415	346	393	315
PTSDハイリスク群の割合	5.0%	4.0%	3.4%	3.9%	3.2%
個別働き掛けに基づく来談者（人）	2	3	1	39	16

※H27までは、メールでの情報提供（注意喚起と相談窓口案内）のみ。H28以降は、スタッフ増員に伴い、個別支援を充実させ、相談の呼びかけを実施。

表6-7 全学生対象調査（学部新生の大学生活への不適応ハイリスク者）の概要（H26～H29）

	H25	H26	H27	H28	H29
回答者数（人）	—	2,346	2,325	2,239	2,292
適応ハイリスク群（人）	—	140	151	169	168
個別面接実施者数（人）	—	32	27	31	29

表6-8 全学生対象調査（学部2年生以上の大学生活への不適応ハイリスク者）の概要（H26～H29）

	H25	H26	H27	H28	H29
回答者数（人）	—	8,181	8,005	8,488	8,816
適応ハイリスク群（人）	—	351	382	338	376
個別面接実施者数（人）	—	—	—	43	34

※H27までは、新生の不適応ハイリスク群に対してのみ個別働き掛けを実施。H28以降はスタッフ増員に伴い、学部2年生以上の不適応ハイリスク群へも個別の働きかけを実施。

③健康に関する支援活動（保健管理センター）

- 各種健康診断事業、診療及び日常の健康相談
 - ・学生定期健康診断：受診者数 13,769 名（受診率 75.5%）
 - ・学生特殊健康診断：受診者数 6,783 名
 - ・秋胸部レントゲン検診：受診者数 351 名
 - ・診療及び日常の健康相談：受診者数 4,721 名

表6-9 学生定期健康診断受診者数および受診率（H25～H29）

	H25	H26	H27	H28	H29
受診者数（人）	13,490	13,447	13,443	13,640	13,769
受診率	75.4%	75.3%	75.2%	75.4%	75.5%

表6-10 各種健康診断、診療及び日常の健康相談受診者数（H25～H29）

	H25	H26	H27	H28	H29
学生特殊健康診断（人）	7,164	7,110	7,145	6,946	6,823
結核健診（学生ツベルクリン反応検査） →秋季胸部X線検診（H28より変更）（人）	468	636	544	244	351
診療及び日常の健康相談 （学生及び職員）（人）	5,254	4,323	4,170	4,236	4,721
診断書・証明書等の発行（枚）	2,348	2,200	2,353	1,992	2,147

○健康に関する講演会等の開催

- ・健康科学講演会（学生対象）：年1回
- ・健康科学セミナー（教職員対象）：年5回

④キャリア支援活動（キャリア支援センター）

○全学教育科目でキャリア教育科目開講

- ・開講科目数：7科目，受講者数：133名

○進路形成のための各種支援プログラム実施

- ・事業件数：28件，開催回数：57回
- ・参加者数：学部学生延べ3,226名，大学院学生延べ5,915名，その他既卒者等延べ390名，計9,531名

○進路や就職に関する個別相談

- ・対応件数（川内）：学部学生1,544件，大学院学生1,714件，その他既卒者等30件，計3,288件
- ・対応件数（青葉山）：大学院学生274件，その他既卒者等38件，計312件

表6-11 全学教育におけるキャリア教育科目の開講科目数および受講者数（H25～H29）

	H25	H26	H27	H28	H29
開講科目数	6	4	6	6	7
受講者数（人）	202	91	103	91	133

表6-12 進路形成のための各種支援プログラム事業件数，開催回数および延べ参加者数（H25～H29）

	H25	H26	H27	H28	H29
事業件数	28	33	36	31	28
開催回数	67	67	106	60	57
延べ参加者数（人）	9,618	10,326	12,865	11,813	9,531

表6-13 進路や就職に関する個別相談対応件数（H25～H29）

	H25	H26	H27	H28	H29
対応件数	1,685	1,832	3,179	3,672	3,600

⑤課外活動支援（課外・ボランティア活動支援センター）

○東日本大震災およびボランティア関連の授業の提供

- ・実施授業数・受講学生および評価：8科目・9コマ（18単位），受講学生125名，全授業の評価平均4.58

○東日本大震災の被災地復興支援ボランティア活動の支援

- ・ボランティアツアー等の実施：41回開催，本学学生参加者数433名
- ・学生ボランティア団体の被災地での活動：62回実施，本学学生参加者数518名
- ・留学生対象の被災地ツアーの実施：5回開催，本学学生参加者数111名，内留学生54名

表6-14 ボランティアツアーや被災地での学生ボランティア活動回数及び延べ参加学生数（H25～H29）

	H25	H26	H27	H28	H29
開催回数	31	42	49	66	108
延べ参加学生数（人）	451	550	713	664	1,062

○ボランティア活動紹介イベントの開催

- ・ボランティア・フェアの実施：3シーズン・13日間開催，本学学生参加者数282名

表6-15 ボランティア・フェア（旧スタートアップ・フェア）の開催日数及び参加学生数（H25～H29）

	H25	H26	H27	H28	H29
開催日数	11	13	11	16	13
延べ参加学生数（人）	175	297	297	290	282

○震災関係以外のボランティア体験プログラムの実施

- ・地域課題・人権課題に取り組むボランティア体験プログラムの実施：3回開催，本学学生参加者数38名

○東日本大震災以外の被災地ボランティア活動の支援

- ・熊本地震被災地での支援活動の実施：4回開催，本学学生参加者数23名
- ・秋田豪雨災害被災地での支援活動の実施：1回開催，本学学生参加者数2名

○学内にて東日本大震災の経験や教訓を学ぶ機会の提供

- ・震災語り部講演会の開催：1回開催，本学学生参加者数15名
- ・震災パネル展の開催：29日間開催

○学生スタッフの育成・支援

- ・ボランティア支援学生スタッフの登録者数：64名
- ・学生スタッフ説明会の開催：3回開催，本学学生参加者数20名
- ・学生スタッフ対象の研修合宿等の開催：研修合宿3回，震災・人権学習会37回，被災地フィールドワーク3回

○学生ボランティア登録団体の支援

- ・登録団体数：9団体
- ・ボランティア団体連絡会議の開催：10回開催
- ・ボランティア団体交流会の開催：1回開催，本学学生参加者数30名
- ・ボランティア団体の助成金取得数：6件

○ボランティア団体に所属する学生への研修会の実施

- ・課外・ボランティア活動研修会の開催：4回開催，本学学生参加者数124名

○学生ボランティアの学内外での成果報告機会の提供

- ・各種イベント・シンポジウム等での報告機会の提供：5回，本学学生報告者数27名

○課外活動団体の支援

- ・課外活動団体リーダー層対象の合同研修会の開催：1回，参加団体数4団体，本学学生参加者数13名
- ・学友会登録団体数：187団体（約10,000名登録）

○国内外の大学・高校との課外・ボランティア活動における交流・連携

- ・国外大学生の受け入れ：3回・3大学
- ・国内大学生の受け入れ：2回・2大学
- ・国内高校生の受け入れ：4回・7高校，高校生113名，交流に参加した本学学生数22名
- ・オープンキャンパスでの高校生対象の被災地ボランティア展示：参加高校生数167名

○TGLポイント制度との連携

- ・課外活動スペシャルポイント対象企画の実施：2回開催，ポイント付与学生数15名

(7) 東北大学型AO入試の一層の深化と拡大のためのイニシアチブ

○入試広報活動の推進

- ・オープンキャンパス：7月25/26日の2日間実施，参加者数65,958名
- ・高校生対象の進学説明会：参加者数（札幌）428名，（静岡）273名，（東京）823名，（大阪）209名
- ・高校教員対象の入試説明会の開催：21会場，552名参加
- ・高校及び民間業者主催の入試説明会・相談会への参加：17会場

表7-1 オープンキャンパス参加者数（H25～H29）（単位：人）

	H25	H26	H27	H28	H29
参加者数	61,631	55,147	60,411	64,448	65,958

表7-2 高校生対象の進学説明会参加者数（H25～H29）（単位：人）

	H25	H26	H27	H28	H29
札幌会場	280	317	369	291	428
静岡会場				285	273
東京会場	563	697	778	732	823
大阪会場	212	133	173	232	209

表7-3 高校教員対象の入試説明会の開催実績（H25～H29）

	H25	H26	H27	H28	H29
会場数	18	18	20	20	21
参加者数（人）	436	480	526	498	552

(8) 教職員個人の能力開発と高等教育機関のマネジメント開発支援

○専門性開発セミナーの開催

- ・提供セミナー数：59回，参加者数：2,742名，受講満足度（全体）：3.65/4.00

○セミナー動画のオンライン配信

- ・提供動画数：76，動画閲覧数：21,823件（動画アクセス数：90,833件）

○海外大学と連携したプログラム開発

- ・メルボルン大学の教員による外部評価：CPD提供プログラムについて説明を行い，メルボルン大学の教員

2名から助言を得た

- ・客員研究員等の受入れとセミナー実施：カナダのクィーンズ大学より共同研究員1名、オーストラリアのメルボルン大学より客員研究員1名を受け入れ、大学教育開発に関するセミナーを計3件実施した。

○大学マネジメント力開発プログラム

- ・提供セミナー数：4回，参加機関：36大学，参加者数：東北大学職員43名，他大学93名

表8-1 専門性開発セミナー開催実績（H25～H29）

	H25	H26	H27	H28	H29
提供セミナー数	35	49	52	51	59
内，高等教育のリテラシー形成関連	9	16	10	11	9
専門教育での指導力形成関連	3	3	10	6	15
学生支援力形成関連	3	2	1	2	2
マネジメント力形成関連	10	7	11	10	14
その他	8	18	20	22	19
参加者数（人）	1,941	1,888	2,237	2,284	2,742

表8-2 セミナー動画のオンライン配信動画数及び閲覧数（H25～H29）

	H25	H26	H27	H28	H29
提供動画数	19	26	36	49	76
内，高等教育のリテラシー形成関連	8	14	18	21	22
専門教育での指導力形成関連	4	4	4	7	14
学生支援力形成関連	—	1	4	4	11
マネジメント力形成関連	5	5	10	17	23
その他	2	2	0	0	6
動画閲覧数 （アクセス数）	—	11,854	14,533 (25,702)	13,973 (41,570)	21,823 (90,833)

2. 外部資金獲得状況

(単位: 千円)

受入年度	科学研究費補助金		受託研究		共同研究		寄附金	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
平成29年度	82	91,218	6	39,108	0	0	5	354

※科学研究費補助金, 受託研究, 共同研究は, 直接経費と間接経費の合計額である。また, 他大学からの分担金を含めている。

3. 共同研究員受入状況

氏名	研究課題	研究期間	本務先の所属・職	受入教員
鳥居 朋子	大学教育マネジメントにおけるIR活用に基づく教育改善に関する調査研究	平成29年4月1日～平成30年3月31日	立命館大学教育開発推進機構・教授	羽田教授
中島 夏子	ジュニア・ファカルティ・プログラムの開発	平成29年4月1日～平成30年3月31日	東北工業大学教職課程センター・講師	羽田教授
丸山 和昭	大学教員のキャリアと専門性開発に関する研究	平成29年4月1日～平成30年3月31日	名古屋大学高等教育研究センター・准教授	羽田教授
川井 一枝	ジュニア・ファカルティ・プログラムおよび専門教育指導力育成プログラムの開発	平成29年4月1日～平成30年3月31日	宮城大学基盤教育群・准教授	羽田教授
鈴木 学	ジュニア・ファカルティ・プログラムの開発	平成29年4月1日～平成30年3月31日	福島大学総合教育研究センター・特任准教授	羽田教授
佐俣 紀仁	ジュニア・ファカルティ・プログラムの開発	平成29年4月1日～平成30年3月31日	東北医科薬科大学教養教育センター・講師	羽田教授
Sophie Arkoudis (ソフィー アークウディス)	Cross-Cultural Understanding and the Internationalization of Curriculum and Teaching in Higher Education	平成29年4月1日～平成30年3月31日	Associate Professor in Higher Education, Centre for the Study of Higher Education, the University of Melbourne	羽田教授
Chi Baik (チ バック)	The Professional Development of Faculty for Academic Excellence	平成29年4月1日～平成30年3月31日	Lecturer in Higher Education, Centre for the Study of Higher Education, the University of Melbourne	羽田教授
Linda von Hoene (リンダ ヴォンヘーネ)	Developing of PFFP, and review and assess the program developed by the Center for Professional Development	平成29年4月1日～平成30年3月31日	Director, GSI Teaching and Resource Center, University of California, Berkeley	羽田教授
Andy Leger (アンディー リージャー)	東北大学における教育開発プログラムの評価と改善	平成29年4月1日～平成30年3月31日	Associate Professor, Center for Teaching and Learning, Queen's University, Canada	羽田教授

4. 研究業績による受賞

氏名	概要
王 其莉 講師	『判断のモダリティに関する日中対照研究』(ひつじ書房, 2016.3), 第四回「中青年漢日対比語文学優秀成果賞」, 漢日対比語文学研究(協作)会(中国), 2017.8
永尾 翔 助教	泉萩会奨励賞(東北大学泉萩会, 2017/10/6)
佐藤 公雄 准教授	2017年 第2回 日本肺高血圧・肺循環学会 八巻賞
佐藤 公雄 准教授	2017年 第42回 日本循環器学会・日本心臓財団 佐藤賞
佐藤 公雄 准教授	2017年 Top Reviewers for Circulation Research (Gold Reviewers) (AHA)
佐藤 公雄 准教授	2017年 Top 10 Reviewers Award of Arteriosclerosis, Thrombosis and Vascular Biology (ATVB, AHA)

5. 規程類

(1) 東北大学高度教養教育・学生支援機構規程

平成26年3月25日

規 第 26 号

(趣旨)

第1条 この規程は、東北大学高度教養教育・学生支援機構（以下「本機構」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

(目的)

第2条 本機構は、高度教養教育及び学生支援に関する調査研究、企画及び提言並びにそれらの方法の開発及び実施を関係部局との連携の下、一体的に行うことにより、東北大学（以下「本学」という。）の教育の質の向上に寄与することを目的とする。

(職及び職員)

第3条 本機構に、次の職及び職員を置く。

機構長

副機構長

部門長

院長

教授

准教授

講師

助教

助手

総長特命教授

技術職員

その他の職員

2 前項に定めるもののうち、別に定めるものは、学校保健安全法（昭和33年法律第56号）第23条第1項に規定する学校医とする。

(機構長)

第4条 機構長は、機構の業務を掌理する。

2 機構長は、総長が指名する理事又は副学長をもって充てる。

(副機構長)

第5条 副機構長は2人とし、機構長の職務を補佐する。

2 副機構長は、本学の専任の教授をもって充てる。

3 副機構長の任期は、機構長の任期の範囲内とし、再任を妨げない。

(部門長)

第6条 部門長は、第8条に規定する部門の業務を掌理する。

2 部門長は、本機構の専任の教授をもって充てる。

3 部門長の任期は、機構長の任期の範囲内とし、再任を妨げない。

(院長)

第7条 院長は、次条に規定する教養教育院の業務を掌理する。

2 院長は、総長が指名する理事又は副学長をもって充てる。

(部門、教養教育院等)

第8条 本機構に、高等教育開発部門、教育内容開発部門及び学生支援開発部門並びに教養教育院を置く。

2 高等教育開発部門に、次に掲げる室を置く。

入試開発室

高等教育開発室
国際化教育開発室
キャリア開発室

3 教育内容開発部門に、次に掲げる室を置く。

人間総合科学教育開発室
自然科学教育開発室
言語・文化教育開発室

4 学生支援開発部門に、次に掲げる室を置く。

臨床教育開発室
臨床医学開発室
(業務センター)

第9条 本機構に、業務組織として、次に掲げる業務センターを置く。

教育評価分析センター
大学教育支援センター
入試センター
言語・文化教育センター
グローバルラーニングセンター
学際融合教育推進センター
学習支援センター
キャリア支援センター
学生相談・特別支援センター
保健管理センター
課外・ボランティア活動支援センター

2 保健管理センターに、別に定めるところにより、学校保健安全法第7条に規定する保健室を置く。

3 前二項に定めるもののほか、業務センターの組織及び運営については、別に定める。

(教授会議)

第10条 本機構に、その組織、人事、予算その他運営に関する重要事項を審議するため、教授会議を置く。

2 教授会議の組織及び運営については、別に定める。

(運営会議)

第11条 本機構に、本機構の組織及び運営について企画し、及び調整するため、運営会議を置く。

2 運営会議の組織及び運営については、別に定める。

(高度教養教育諮問会議)

第12条 本機構に、機構長の諮問に応じて本機構の組織及び運営について協議し、並びに機構長に対して助言及び提言を行うため、高度教養教育諮問会議を置く。

2 高度教養教育諮問会議の組織及び運営については、別に定める。

(事務)

第13条 本機構の事務については、国立大学法人東北大学事務組織規程(平成16年規第151号)の定めるところによる。

(雑則)

第14条 この規程に定めるもののほか、本機構の組織及び運営に関し必要な事項は、機構長が定める。

附 則

1 この規程は、平成26年4月1日から施行する。

2 東北大学高等教育開発推進センター規程(平成16年規第311号)及び国立大学法人東北大学国際交流センター規程(平成17年規第93号)は、廃止する。

附 則(平成29年3月28日規第29号改正)

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

(2) 東北大学高度教養教育・学生支援機構業務センター内規

平成26年4月1日
制定

(趣旨)

第1条 この内規は、東北大学高度教養教育・学生支援機構規程（平成26年規第26号）第9条第3項の規定に基づき、東北大学高度教養教育・学生支援機構に置く業務センターの組織及び運営について定めるものとする。

(業務センターの設置)

第2条 業務センターとして、別表の左欄に掲げる分野に応じ、同表の中欄に掲げるセンターを置き、その所掌業務は、それぞれ同表の右欄に掲げるとおりとする。

(業務センターの職及び職員)

第3条 業務センターとして置かれるセンターに、それぞれ次の職及び職員を置く。

- 一 センター長
- 二 副センター長
- 三 その他の職員

(センター長及び副センター長)

第4条 センター長は、当該センターの業務を掌理する。

2 副センター長は、2人以内とし、センター長の職務を補佐する。

3 センター長は、機構長が指名する本学の専任の教授（任期又は期間を定めて雇用される者を除く。）をもって充て、副センター長は、本学の専任の教授又は准教授をもって充てる。

4 センター長の任期は、機構長の任期の範囲内とし、再任を妨げない。

5 副センター長の任期は、センター長の任期の範囲内とし、再任を妨げない。

(雑則)

第5条 この内規に定めるもののほか、業務センターの組織及び運営に関し必要な事項は、機構長が定める。

附 則

この内規は、平成26年4月1日から施行する。

附 則（平成29年1月19日改正）

この内規は、平成29年1月19日から施行する。

附 則（平成29年3月23日改正）

この内規は、平成29年4月1日から施行する。

別表

分野	センター名	所掌業務
教育マネジメント	教育評価分析センター	本学の教育学習活動に関する関連情報・データの収集・分析・提供を行うことを通して、本学における教育改革・改善や教育マネジメントを支援。
	大学教育支援センター	大学関係共同利用拠点の中核組織として、本学及び国内の高等教育機関に対する各種専門開発プログラム（大学院生向け大学教員準備プログラム・新任教員研修プログラムなど）を実施。
	入試センター	現在の入試センターの業務を引き継ぎ、中長期的な本学入試の企画・改善検討（入試設計・分析、追跡調査等）、入試業務（センター試験、一般入試等）、入試広報（各種説明会、高校訪問、メディア対応、講演、執筆等）、高大接続事業（オープンキャンパス支援、講演会／シンポジウム／フォーラム、アウトリーチプログラム等）を実施。
教育開発・実施	言語・文化教育センター	全学教育および高年次教育における語学教育のプログラム開発と実践、多文化理解教育の実施。
	グローバルラーニングセンター	教育国際戦略の提言、国際交流活動の推進とともに、留学生の受け入れ・教育・支援プログラムの開発・充実を図る。学生の海外派遣プログラムの開発・実施等によりグローバル人材育成を推進する。

	学際融合教育推進センター	学部・大学院における学際融合教育の開発と実施。
学習・学生支援	学習支援センター	高校教育から大学教育へのスムーズな移行のため、大学での自律的な学習方法について、相談・指導を実施。
	キャリア支援センター	学部・大学院におけるキャリア開発プログラムの実施、及び就職支援。現在の高度イノベーション博士人財育成センターの機能を統合。
	学生相談・特別支援センター	学生の発達に関する調査研究と学生相談に加え、発達障害学生への支援、教員に対する学生指導への支援・助言を強化。学生相談および障害学生への支援と学生支援に関わる調査研究、教職員の学生支援力向上のための支援
	保健管理センター	学生の健康保持、増進を図るための保健管理に関する専門的業務を実施
	課外・ボランティア活動支援センター	学生の自主的な課外活動、文化やスポーツ、ボランティア活動の総合的な支援と、社会貢献型の体験学習の企画と実施。

(3) 東北大学高度教養教育・学生支援機構教授会議内規

平成26年4月1日
制定

(趣旨)

第1条 この内規は、東北大学高度教養教育・学生支援機構規程（平成26年規第26号）第10条第2項の規定に基づき、東北大学高度教養教育・学生支援機構教授会議（以下「教授会議」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(構成)

第2条 教授会議は、機構長、副機構長及び東北大学高度教養教育・学生支援機構（以下「本機構」という。）の専任の教授、准教授及び講師並びに業務センターの各センター長（以下「各センター長」という。）をもって構成する。

(審議事項)

第3条 教授会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 本機構の組織に関する事項
- 二 教員の人事に関する事項
- 三 予算に関する事項
- 四 その他運営に関する重要事項

(議長)

第4条 教授会議の議長は、機構長をもって充て、教授会議を主宰する。

2 機構長が欠けたとき、又は事故があるときは、副機構長が前項の職務を代行する。

(開催)

第5条 教授会議は、原則として毎月1回開催するものとする。

2 機構長が必要と認める場合は、臨時に教授会議を開催することができる。

3 機構長は、構成員3人以上から議題を付して要求があったときは、教授会議を開催しなければならない。

(定足数)

第6条 教授会議は、構成員（休職者及び外国出張中の者等を除く。）の過半数の出席がなければ、会議を開き、議決することができない。

(議案)

第7条 機構長は、教授会議の議案を定め、あらかじめ構成員に通知しなければならない。ただし、緊急を要する場合は、この限りでない。

2 構成員は、議案を發議することができる。

(議決)

第8条 教授会議の議事は、出席した構成員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところ

ろによる。ただし、別に定めがある場合は、出席した構成員の3分の2以上の同意を要するものとする。

(人事委員会)

第9条 教授会議に、第3条第2号に規定する事項を審議するため、機構長、副機構長、本機構の専任の教授（特定期雇用職員を除く。）及び各センター長をもって構成する人事委員会を置く。

2 人事委員会は、構成員（退職者及び外国出張中の者等を除く。）の過半数の出席がなければ、会議を開き、議決することができない。

3 教授会議は、人事委員会の議決をもって、教授会議の議決とすることができる。

(専門委員会)

第10条 教授会議に、第3条に規定する事項に関する専門的事項を調査審議（前条に掲げる部分を除く。）させるため、専門委員会を設置することができる。

2 専門委員会の委員は、機構長が委嘱する。

(構成員以外の者の出席)

第11条 機構長は、必要があると認めるときは、教授会議の同意を得て、構成員以外の者を教授会議に出席させることができる。

(議事録)

第12条 機構長は、教授会議の議事録を作成し、次回以後の教授会議に提出してその承認を得なければならない。

(雑則)

第13条 この内規に定めるもののほか、教授会議の組織及び運営に関し必要な事項は、教授会議の議に基づき、機構長が定める。

附 則

この内規は、平成26年4月1日から施行する。

(4)東北大学高度教養教育・学生支援機構運営会議内規

平成26年4月1日

制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、東北大学高度教養教育・学生支援機構規程（平成26年規第26号）第11条第2項の規定に基づき、東北大学高度教養教育・学生支援機構運営会議（以下「運営会議」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

(組織)

第2条 運営会議は、委員長、副委員長及び次の各号に掲げる委員をもって組織する。

一 教育研究評議会評議員

二 各部門長

三 教養教育院長

四 業務センターの各センター長

五 その他委員長が必要と認めた者若干人

(委員長及び副委員長)

第3条 委員長は機構長をもって、副委員長は1人とし、機構長が指名する副機構長をもって充てる。

2 委員長は、会務を掌理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。

(開催)

第4条 運営会議は、必要に応じて開催するものとする。

(委嘱)

第5条 第2条第5号に掲げる委員は、機構長が委嘱する。

(任期)

第6条 第2条第5号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は前任者の残任期間とする。

2 前項の委員は、再任されることができる。

(雑則)

第7条 この内規に定めるもののほか、運営会議の組織及び運営に関し必要な事項は、機構長が定める。

附 則

この内規は、平成26年4月1日から施行する。

(5) 東北大学高度教養教育・学生支援機構高度教養教育諮問会議内規

平成26年4月1日

制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、東北大学高度教養教育・学生支援機構規程(平成26年規第26号)第12条第2項の規定に基づき、東北大学高度教養教育・学生支援機構高度教養教育諮問会議(以下「高度教養教育諮問会議」という。)の組織及び運営について定める。

(組織)

第2条 高度教養教育諮問会議は、委員二十人以内をもって組織する。

(委員の範囲)

第3条 委員は、本学の学部学生、大学院学生及び外国人学生(以下「学生」という。)並びに本学の学生の保護者、企業の関係者、地域の関係者、高等学校の関係者等のうちから、機構長が選考する。

(議長及び副議長)

第4条 高度教養教育諮問会議に、議長及び副議長1人を置き、それぞれ委員の互選によって定める。

2 議長は、高度教養教育諮問会議の会務を総理する。

3 副議長は、議長の職務を補佐する。

(開催)

第5条 高度教養教育諮問会議は、原則として年1回開催する。

(委嘱)

第6条 委員は、機構長が委嘱する。

(任期)

第7条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(雑則)

第8条 この内規に定めるもののほか、高度教養教育諮問会議の組織及び運営に関し必要な事項は、機構長が定める。

附 則

この内規は、平成26年4月1日から施行する。

(6) 高度教養教育・学生支援機構専門研究員内規

平成26年4月24日

制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、高度教養教育・学生支援機構(以下「機構」という。)の学術の発展に寄与するため、東北大学及び機構の諸規則に定める身分を有しない者が、機構において一定期間研究活動に従事できるよう、必要な事項を定めるものとする。

(資格及び呼称)

第2条 研究活動ができる者は、博士の学位を有する者又は博士と同等以上の学識を有すると認められる者で、機構の専任教員(以下「受入れ教員」という。)から受入れの承諾を得た者とし、「専門研究員」の呼称を付与する。

(受入れ等)

第3条 専門研究員の受入れは、受入れを希望する者の申請に基づき、機構長補佐会議で審査し、機構教授会議の議を経て、機構長が決定する。

2 専門研究員の受入れ期間中の諸事項については、受入れ教員が全面的に責任をもつものとする。

(受入期間)

第4条 専門研究員の受入れ期間は1年以内とし、年度を超えないものとする。

なお、必要な場合は更新を認めることとし、更新は2回を限度とする。

(遵守遂行)

第5条 専門研究員は、東北大学及び機構の諸規則を遵守しなければならない。

(待遇)

第6条 専門研究員は機構の管理運営には関与できない。

2 専門研究員には、給与を支給しない。

3 専門研究員の健康診断、災害補償等については各自の責任で対応する。

4 専門研究員は受入れ教員の責任のもと、施設・設備等を利用することができる。

5 専門研究員の機構内の居所については、受入れ教員の責任において手当てする。

(雑則)

第7条 専門研究員に研究活動上必要な事項が生じた場合は、受入れ教員の申し出に基づき、機構長補佐会議の議を経て、機構長が決定する。

附 則

この内規は、平成26年4月24日から施行し、平成26年4月1日から適用する。

附 則 (平成27年3月19日改正)

この内規は、平成27年4月1日から施行する。

(7)高度教養教育・学生支援機構共同研究員内規

平成26年4月24日

制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、高度教養教育・学生支援機構（以下「機構」という。）において共同研究に参画する国内外の研究者が一定期間研究活動に従事できるよう、必要な事項を定めるものとする。

(資格及び呼称)

第2条 研究活動ができる者は、共同研究に参加する国内外の大学、高等専門学校、公的研究機関及び民間企業、団体等に所属する研究者とし、「高度教養教育・学生支援機構共同研究員」（以下、「機構共同研究員」という。）の呼称を付与する。

(受入れ等)

第3条 機構共同研究員の受入れは、受入れを希望する者の申請に基づき、機構長補佐会議で審査し、機構長が決定する。

2 機構共同研究員の受入れ期間中の諸事項については、受入れ教員が全面的に責任をもつものとする。

(受入期間)

第4条 機構共同研究員の受入れ期間は1年以内とし、年度を超えないものとする。

なお、必要な場合は更新を認めることとする。

(遵守遂行)

第5条 機構共同研究員は、東北大学及び機構の諸規則を遵守しなければならない。

(待遇)

第6条 機構共同研究員は機構の管理運営には関与できない。

2 機構共同研究員には、給与を支給しない。

3 機構共同研究員の健康診断、災害補償等については各自の責任で対応する。

- 4 機構共同研究員は受入れ教員の責任のもと、施設・設備等を利用することができる。
- 5 機構共同研究員の機構内の居所については、受入れ教員の責任において手当とする。

(雑則)

第7条 機構共同研究員に研究活動上必要な事項が生じた場合は、受入れ教員の申し出に基づき、機構長補佐会議の議を経て、機構長が決定する。

附 則

この内規は、平成26年4月24日から施行し、平成26年4月1日から適用する。

附 則 (平成27年3月19日改正)

この内規は、平成27年4月1日から施行する。

東北大学高度教養教育・学生支援機構要覧2017

発行 2018年8月

発行所 東北大学高度教養教育・学生支援機構

Institute for Excellence in Higher Education,

Tohoku University

〒980-8576 仙台市青葉区川内41

TEL (022) 795-3819

e-mail: gaku-kikaku@grp.tohoku.ac.jp



Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University